

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第233集

延岡市北方町所在

だ ご や
駄 小 屋 遺 跡

一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(10)

2014

宮崎県埋蔵文化財センター



駄小屋遺跡遠景（北より五ヶ瀬川方向を望む）



駄小屋遺跡全景（西より）

序

宮崎県教育委員会では、一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を平成 14 年度から実施してまいりました。本書は、平成 24 年度に実施した延岡市北方町に所在する駄小屋遺跡の発掘調査報告書です。

駄小屋遺跡では、旧石器時代の遺物や縄文時代早期の建物跡、炉跡、さらに 76 基の集石遺構が検出され、多種の型式に属する土器や石鏃、石斧などの石器や土器が数多く出土しました。縄文時代早期の居住関連遺構群の確認は重要な成果であり、その立地は宮崎県北地域に特徴的な在り方を示しています。それらは当該期に生きた人々の生活の解明を進めていく上で、大きな意味を有するものです。

この成果を学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などでより多くの方々に御活用いただき、埋蔵文化財保護に対する理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって御協力を賜りました関係諸機関をはじめ、地元の皆様方に心より厚くお礼申し上げます。

2014 年 8 月

宮崎県埋蔵文化財センター
所 長 岩 切 隆 志

例 言

- 1 本書は一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴い、平成 24 年度に宮崎県教育委員会が実施した宮崎県延岡市北方町蔵田に所在する駄小屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の依頼を受け、宮崎県教育委員会を主体として宮崎県埋蔵文化財センター（以下「当センター」と表記）が 2012（平成 24）年 5 月 10 日から 2012（平成 24）年 12 月 19 日まで実施した。
- 3 現地調査に関する実測及び写真撮影は、当センター調査第二課調査第四担当野崎一人主査、同二宮満夫主査、同木場正浩主査が行い、当センター職員の補助を得た。（所属は平成 25 年度時点。以下同じ。）
- 4 整理作業は当センター本館で行った。また、石器の石材同定については当センター普及資料課松田清孝主査、調査第二課調査第三担当松本茂主査の協力を得た。なお、本書で使用した遺物写真は、野崎が撮影した。
- 5 空中写真撮影業務は有限会社スカイサーベイ九州に、基準点測量・グリッド杭設置等の測量業務は、株式会社エースコンサルタントに委託した。
- 6 石器実測は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、年代測定分析は株式会社古環境研究所に委託した。
- 7 本書で使用した地図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 図（延岡）（諸塚）、国土地理院の承認助言を得て旧北方町役場が作成した 2 千 5 百分の 1 図をもとに作成した。
- 8 本書で使用した方位は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）の座標北、標高については海拔絶対高を示す。
- 9 本書で使用した土色は、小山正忠・竹原秀雄編 2007『新版 標準土色帖』29 版に準じた。
- 10 本書で使用したソフトウェアは、デジタルトレースについては Adobe 社製 Illustrator(CS6)、遺物写真の加工については Adobe 社製 Photoshop(CS6)、原稿の編集については Adobe 社製 InDesign(CS6) を使用した。
- 11 遺構番号については、遺構毎に整数の通し番号を付した。
- 12 挿図のうち、遺物の縮小率は原寸の 2 / 3、1 / 3 である。
- 13 本書の執筆・編集は、野崎一人が行った。
- 14 発掘調査中から報告書作成の過程で、多くの方々から有益な助言を得た。特に、延岡市教育委員会文化課小野信彦氏より調査方法や遺物等について多くの御教示を得た。
- 15 発掘調査で出土した遺物、その他の諸記録は、当センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	2
第3節	遺跡の位置と環境	2

第Ⅱ章 調査の概要

第1節	発掘調査の概要	7
第2節	整理作業の概要	8
第3節	基本層序	9

第Ⅲ章 調査の記録

第1節	旧石器時代の遺物	11
第2節	縄文時代早期の遺構と遺物	12
第3節	放射性炭素年代測定の結果	121

第Ⅳ章 総括

第1節	後期旧石器時代について	125
第2節	縄文時代早期について	125

報告書抄録	173
-------	-----

挿図目次

第1図	北方延岡道路整備図	1
第2図	周辺の遺跡分布図	5
第3図	周辺地形図	7
第4図	グリッド及びトレンチ配置図	8
第5図	土層断面図(1)	9
第6図	土層断面図(2)	10
第7図	旧石器時代石器実測図	11
第8図	駄小屋遺跡遺構分布図	13
第9図	駄小屋遺跡北西側遺構分布図	15
第10図	駄小屋遺跡南東側遺構分布図	16
第11図	駄小屋遺跡 M4Gr. 周辺遺構分布図	17
第12図	駄小屋遺跡 I 7Gr. 周辺遺構分布図	19
第13図	1号竪穴建物跡実測図	21
第14図	1号竪穴建物跡出土遺物実測図	22
第15図	2号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図	23
第16図	2号竪穴建物跡出土遺物実測図	24
第17図	1号平地式建物跡実測図及び出土遺物実測図	25
第18図	集石遺構実測図(1)(分類Ⅰ)	28
第19図	集石遺構実測図(2)(分類Ⅱ)	29
第20図	集石遺構実測図(3)(分類Ⅱ)	30
第21図	集石遺構実測図(4)(分類Ⅱ・ⅢAa)	31
第22図	集石遺構実測図(5)(分類ⅢAa)	32
第23図	集石遺構実測図(6)(分類ⅢAa)	33
第24図	集石遺構実測図(7)(分類ⅢAa)	34
第25図	集石遺構実測図(8)(分類ⅢAa)	35
第26図	集石遺構実測図(9)(分類ⅢAb)	36
第27図	集石遺構実測図(10)(分類ⅢAb)	34
第28図	集石遺構実測図(11)(分類ⅢAb・ⅢAc・ⅢBa)	38
第29図	集石遺構実測図(12)(分類ⅢBa)	39
第30図	集石遺構実測図(13)(分類ⅢBa・ⅢBb・ⅢBc)	40
第31図	集石遺構出土遺物実測図(1)	41
第32図	集石遺構出土遺物実測図(2)	42
第33図	炉穴実測図(1)	46
第34図	炉穴実測図(2)	47
第35図	炉穴実測図(3)	48
第36図	炉穴実測図(4)	49
第37図	炉穴実測図(5)	50
第38図	炉穴出土遺物実測図	50

第 39 図	土坑実測図 (1)	52
第 40 図	土坑実測図 (2)	53
第 41 図	土坑実測図 (3)	54
第 42 図	土坑実測図 (4)	55
第 43 図	土坑実測図 (5)	56
第 44 図	土坑実測図 (6)	57
第 45 図	土坑実測図 (7)	58
第 46 図	土坑出土遺物実測図 (1)	58
第 47 図	土坑出土遺物実測図 (2)	59
第 48 図	土器実測図 (1)	66
第 49 図	土器実測図 (2)	67
第 50 図	土器実測図 (3)	68
第 51 図	土器実測図 (4)	69
第 52 図	土器実測図 (5)	70
第 53 図	土器実測図 (6)	71
第 54 図	土器実測図 (7)	72
第 55 図	土器実測図 (8)	73
第 56 図	土器実測図 (9)	74
第 57 図	土器実測図 (10)	75
第 58 図	土器実測図 (11)	76
第 59 図	土器実測図 (12)	77
第 60 図	土器実測図 (13)	78
第 61 図	土器実測図 (14)	79
第 62 図	土器実測図 (15)	80
第 63 図	土器実測図 (16)	81
第 64 図	土器実測図 (17)	82
第 65 図	土器実測図 (18)	83
第 66 図	石鏃分類模式図	96
第 67 図	石器実測図 (1)	102
第 68 図	石器実測図 (2)	103
第 69 図	石器実測図 (3)	104
第 70 図	石器実測図 (4)	105
第 71 図	石器実測図 (5)	106
第 72 図	石器実測図 (6)	107
第 73 図	石器実測図 (7)	108
第 74 図	石器実測図 (8)	109
第 75 図	石器実測図 (9)	110
第 76 図	石器実測図 (10)	111
第 77 図	石器実測図 (11)	112
第 78 図	石器実測図 (12)	113
第 79 図	石器実測図 (13)	114
第 80 図	暦年較正結果 (1)	123
第 81 図	暦年較正結果 (2)	124
第 82 図	土器重量割合図	125
第 83 図	押型文系土器重量割合図	125

表 目 次

第 1 表	北方延岡道路事業関連遺跡	4
第 2 表	延岡道路事業関連遺跡	4
第 3 表	旧石器時代石器計測表	11
第 4 表	竪穴建物跡出土土器観察表①	25
第 5 表	竪穴建物跡出土土器観察表②	26
第 6 表	竪穴建物跡及び平地式建物跡出土石器計測表	26
第 7 表	集石遺構一覽表①	43
第 8 表	集石遺構一覽表②	44
第 9 表	集石遺構一覽表③	45
第 10 表	集石遺構出土土器観察表	45
第 11 表	集石遺構出土石器計測表	45
第 12 表	炉穴一覽表	51
第 13 表	炉穴出土土器観察表	51
第 14 表	炉穴出土石器計測表	51
第 15 表	土坑一覽表①	60
第 16 表	土坑一覽表②	61
第 17 表	土坑出土土器観察表	61
第 18 表	土坑出土石器計測表	61

第 19 表	縄文時代早期土器観察表①	84
第 20 表	縄文時代早期土器観察表②	85
第 21 表	縄文時代早期土器観察表③	86
第 22 表	縄文時代早期土器観察表④	87
第 23 表	縄文時代早期土器観察表⑤	88
第 24 表	縄文時代早期土器観察表⑥	89
第 25 表	縄文時代早期土器観察表⑦	90
第 26 表	縄文時代早期土器観察表⑧	91
第 27 表	縄文時代早期土器観察表⑨	92
第 28 表	縄文時代早期土器観察表⑩	93
第 29 表	縄文時代早期土器観察表⑪	94
第 30 表	縄文時代早期土器観察表⑫	95
第 31 表	石器計測表①	115
第 32 表	石器計測表②	116
第 33 表	石器計測表③	117
第 34 表	石器計測表④	118
第 35 表	石器計測表⑤	119
第 36 表	石器計測表⑥	120
第 37 表	石器計測表⑦	121
第 38 表	測定資料の詳細と前処理・調整法	122
第 39 表	放射性炭素年代測定結果	124
第 40 表	縄文時代早期石器器種組成表	126

図 版 目 次

巻頭図版 1	駄小屋遺跡遠景 (北より五ヶ瀬川方向を望む)	
巻頭図版 2	駄小屋遺跡全景 (西より)	
図版 1	調査区全景 (A 区上空から)	129
	調査区全景 (B 区北北東から)	
図版 2	調査区全景 (C 西区東から)	130
	調査区全景 (C 東区上空から)	
図版 3	調査区全景 (D 区上空から)	131
	調査区全景 (A 区上空から)	
図版 4	1号竪穴建物跡 1号竪穴建物跡 立地状況	132
図版 5	2号竪穴建物跡 2号竪穴建物跡 立地状況	133
図版 6	1号平地式建物跡 土層堆積状況 (A 区北東壁)	134
図版 7・8	1～6号集石遺構 7～15号集石遺構	135
図版 9・10	16～22号集石遺構 22～27号集石遺構	137
図版 11・12	28～35号集石遺構 36～45号集石遺構	139
図版 13・14	46～53号集石遺構 54～62号集石遺構	141
図版 15	63～73号集石遺構	143
図版 16	74～76号集石遺構 1～6号炉穴	144
図版 17	7～18号炉穴 1～3号土坑	145
図版 18	4～7・12・13・15・16号土坑	146
図版 19	31・32・36～38号土坑 42・43号土坑	147
	B 区作業風景	
図版 20	旧石器時代の遺物	148
	1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物 (1)	
図版 21	1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物 (2)	149
	1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物 (3)	
図版 22	集石遺構出土遺物 (1) 集石遺構出土遺物 (2)	150
図版 23	炉穴及び土坑出土遺物 (1)	151
	炉穴及び土坑出土遺物 (2)	
図版 24～36	縄文時代早期土器 (1)～(26)	152
図版 37・38	石鏃 (1)・石鏃 (2)	165
図版 39	石鏃 (3)・異形石器	167
図版 40	尖頭状石器・石鏃・楔形石器・石核	168
図版 41	打製石斧・スクレイパー・礫器 (1)・礫器 (2)	169
図版 42	礫器 (3)・横刃形石器	170
	半月形刃器・両面加工剥片・二次加工剥片	
図版 43	磨石 (1)・磨石 (2)	171
図版 44	磨石 (3)・敲石	172
	石棒・石錘・磨製石斧・凹石・有孔石製品	

第 I 章 はじめに

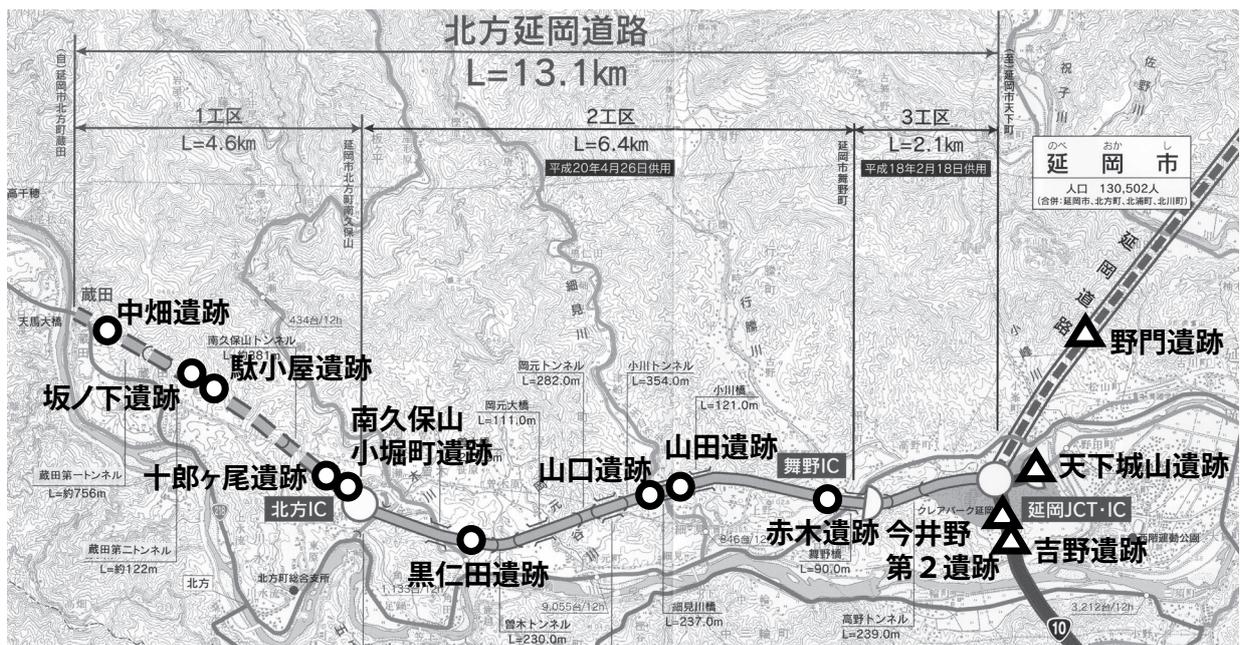
第 1 節 調査に至る経緯

一般国道 218 号北方延岡道路は、現在の国道 218 号に並行して、延岡市北方町蔵田から延岡市天下町までを結ぶ延長 13.1km の高規格幹線道路であり、建設省九州地方整備局延岡工事事務所（現国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所、以下「延岡河川国道事務所」と表記）が 1996（平成 8）年度に事業化し、2001（平成 13）年度より工事着手している。

同事業は 1～3 工区に分割して延岡側から順次実施されているが、路線内における埋蔵文化財に関する協議を継続中であり、必要に応じて発掘調査等を実施してきた。このうち 3 工区（舞野～延岡、延長 2.1km）が 2006（平成 18）年 2 月 18 日に、2 工区（北方～舞野、延長 6.4km）が 2008（平成 20）年 4 月 26 日に供用開始となり、残る 1 工区（蔵田～北方、延長 4.6km）については同年 3 月に実施した分布調査の結果に基づき、路線内の 15 箇所を対象として協議を重ねてきた。

駄小屋遺跡は当初丘陵頂部を中心とした 2,200㎡を協議対象としていたが、2010（平成 22）年 3 月 23 日～24 日に宮崎県文化財課が確認調査を実施したところ、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の下位より多数の縄文土器・剥片・碎片・焼礫が出土し、その分布は南東側に隣接する緩斜面へ広がっている可能性が想定された。そのため、延岡河川国道事務所と協議を行い、当初協議対象とした 2,200㎡については発掘調査が必要であること、さらに隣接地の確認調査も実施した上で発掘調査面積を確定する必要があることを説明し、了承を得た。隣接地の確認調査は同年 8 月 3 日～5 日に実施し、やはり鬼界アカホヤ火山灰の下位において縄文土器・石器が出土したため、2,300㎡を追加した 4,500㎡について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査の契約は 2012（平成 24）年 4 月 20 日付で延岡河川国道事務所長と宮崎県知事の間で交わされた。調査は当センターが担当し、2012（平成 24）年 5 月 10 日から同年 12 月 19 日まで実施した。



九州中央自動車道建設促進協議会発行 九州中央自動車道（九州横断自動車道延岡線）を改変
第 1 図 北方延岡道路整備計画図

第2節 調査の組織

発掘調査および整理作業・報告書作成は以下の組織で実施した。

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 北郷 泰道 (平成24年度) 向井 大蔵 (平成25年度)

岩切 隆志 (平成26年度)

副所長 佐々木 真司 (平成24年度)

副所長兼調査第一課長 長津 宗重 (平成25年度)

副所長兼総務課長 長津 宗重 (平成26年度)

総務課長 坂上 恒俊 (平成24・25年度)

総務担当リーダー 高園 寿恵 (平成24・25年度) 安藤 忠洋 (平成26年度)

調査第二課長 永友 良典 (平成24年度) 菅付 和樹 (平成25年度)

調査課長 菅付 和樹 (平成26年度)

調査第二課調査第四担当リーダー 松林 豊樹 (平成24・25年度)

調査課調査第二担当リーダー 吉本 正典 (平成26年度)

現地調査担当

調査第二課調査第四担当 主査 野崎 一人 主査 二宮 満夫

主査 木場 正浩

整理作業担当

調査第二課調査第四担当 主査 野崎 一人 (平成24・25年度)

調査課調査第二担当 主査 野崎 一人 (平成26年度)

第3節 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

駄小屋遺跡は、延岡市北方町蔵田に所在する。延岡市は宮崎県の北部に位置し、東は日向灘に面する。大崩・祖母・傾山系や九州山地に源を発する五ヶ瀬川、北川、祝子川の下流域に広がる沖積平野に市街が形成され、周辺は山地や丘陵地となる。五ヶ瀬川流域及びその支流には、河成段丘や阿蘇火砕流堆積物からなる段丘が見られる。その阿蘇火砕流堆積物は約12万年前の阿蘇3と約9万年前の阿蘇4が五ヶ瀬川流域に分布する。阿蘇3は谷沿いの低地部分に見られるのみで、段丘は大部分が溶結した阿蘇4からなる。火砕流堆積物からなる段丘は、五ヶ瀬川やその支流により深く浸食され、その高所は比較的緩やかな傾斜の台地や丘陵となっているが、川に面した端部は急崖をなし起伏に富んだ地形を形成している。

本遺跡が立地する北方町は、市の西部に位置し、町の南部を五ヶ瀬川が流れている。五ヶ瀬川は水量が豊富で水質清澄で、幹川流路延長106km、流域面積1,820km²の一級河川である。そして、町域面積のほぼ89%は山林で占められ、北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が、東は400～800m級の行膝山・霧子山などが、南西は速日峰(二子山)が、西は比叡山などの山々が連なり、平地はわず

かに南部の五ヶ瀬川流域やその支流である曾木川流域にみられるほどである。北方町の遺跡は、前述した五ヶ瀬川流域及び曾木川流域に発達した阿蘇火砕流堆積物からなる段丘上に集中している。

駄小屋遺跡は、五ヶ瀬川中流域左岸の北東から南西方向にのびる狭小な尾根上に立地する。尾根頂部付近の平坦部から北西側の緩斜面を埋めて水田にしていた部分と、南東側の尾根裾まで広がる斜面部分（中腹にやや平坦な部分を含む）に調査区を設定した。標高は 99 ～ 115 m である。北西約 500 m には同一事業で調査を行った坂ノ下遺跡がある。

2 歴史的環境

遺跡の位置する延岡市には多くの遺跡が分布しており、北方町における人類の生活痕跡は旧石器時代までさかのぼることができる。

旧石器時代の遺跡としては、矢野原遺跡、岩土原遺跡等が挙げられる。矢野原遺跡では、始良 T n 火山灰（以下 A T）層上下において旧石器時代に帰属する 2 つの文化層が確認された。A T 層下の第 I 文化層からは削器・石核・剥片類が、A T 層上の第 II 文化層からは遺構として礫群、遺物としてナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・角錐状石器・搔器・削器・石錐・石核・剥片類など約 3,000 点に上る遺物が出土している。蔵田遺跡では、A T 層上からナイフ形石器や剥片尖頭器等、666 点の石器類が出土した。黒仁田遺跡では、A T 層上位から狸谷型のナイフ形石器や剥片尖頭器を含む 70 数点からなる石器群、更にその上層から細石刃石器群が確認された。特に細石刃石器文化層では複数の石器ブロックが確認されており石器製作作業場としての可能性が報告されている。

縄文時代早期の遺跡としては、矢野原遺跡、上崎地区遺跡、笠下遺跡、早日渡遺跡、曾木原遺跡、坂ノ下遺跡などが挙げられる。矢野原遺跡では押型文土器・集石遺構 15 基が、上崎地区遺跡では集石遺構 13 基・土坑 2 基が、曾木原遺跡で連結土坑（炉穴）が検出されている。また、坂ノ下遺跡では実掘面積 86㎡という狭い範囲内に 19 基の集石遺構が検出されている。笠下遺跡では鬼界アカホヤ火山灰層下位より 150 基を超える集石遺構が検出され、集石遺構からは、押型文土器・貝殻文円筒土器・撚糸文土器などが出土している。前期では笠下下原遺跡で轟 B 式土器・曾畑式土器が、中期では笠下遺跡で船元式土器が出土している。後期では菅原洞穴で鐘崎式土器などが出土した。晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研系土器や打製石斧が、中畑遺跡で無刻目突帯文土器や石鏃、打製・磨製石斧、石錘、敲石、十字形石器などが出土している。

弥生時代に関しては、昭和 28 年に北方町から板付Ⅱ式に相当する土器片が採集されている。後期初頭では、採集品ではあるが瀬戸内系の土器の流入が見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴建物跡が、笠下遺跡、蔵田遺跡、打扇遺跡、早日渡遺跡などで検出されている。遺物には、甕・壺・高坏・ミニチュア土器・石包丁等がある。蔵田遺跡では、竪穴建物跡 1 軒が傾斜地で検出された。また、その住居跡の一角から磨製石鏃の未製品が 45 点ほど確認され、石器製作の工房の可能性が指摘されている。近年、五ヶ瀬川流域、特に山間部における弥生時代～古墳時代の竪穴建物跡の調査例が増加しているが、その中には急傾斜地や狭小な尾根の端部などから検出された調査例もあり、山間部における集落形態を考える上で注目される。

古墳時代に関しては、後期の箱式石棺が矢野原地区・駄小屋地区・後曾木地区で発見されている。昭和 12 年に県指定史跡となった「北方村古墳」も後期箱式石棺群の一つである。延岡市教育委員会が新

最終処分場建設に伴って平成 21 年度に調査した上田下遺跡では、前期に想定される竪穴建物跡が 10 軒検出され、壺・甕・高坏・打製石包丁・管玉・鉄鏃などが出土している。終末期では中畑遺跡で竪穴建物跡が検出されている。

古代・中世については、南久保山小堀町遺跡で須恵器・土師器・陶磁器等が出土している。中世になると北方地区各地で六地蔵や五輪塔が散見される。中世山城跡として、蔵田城や仲畑城がある。笠下遺跡では祭祀遺構が検出され、備前焼の播鉢や明銭などが出土している。

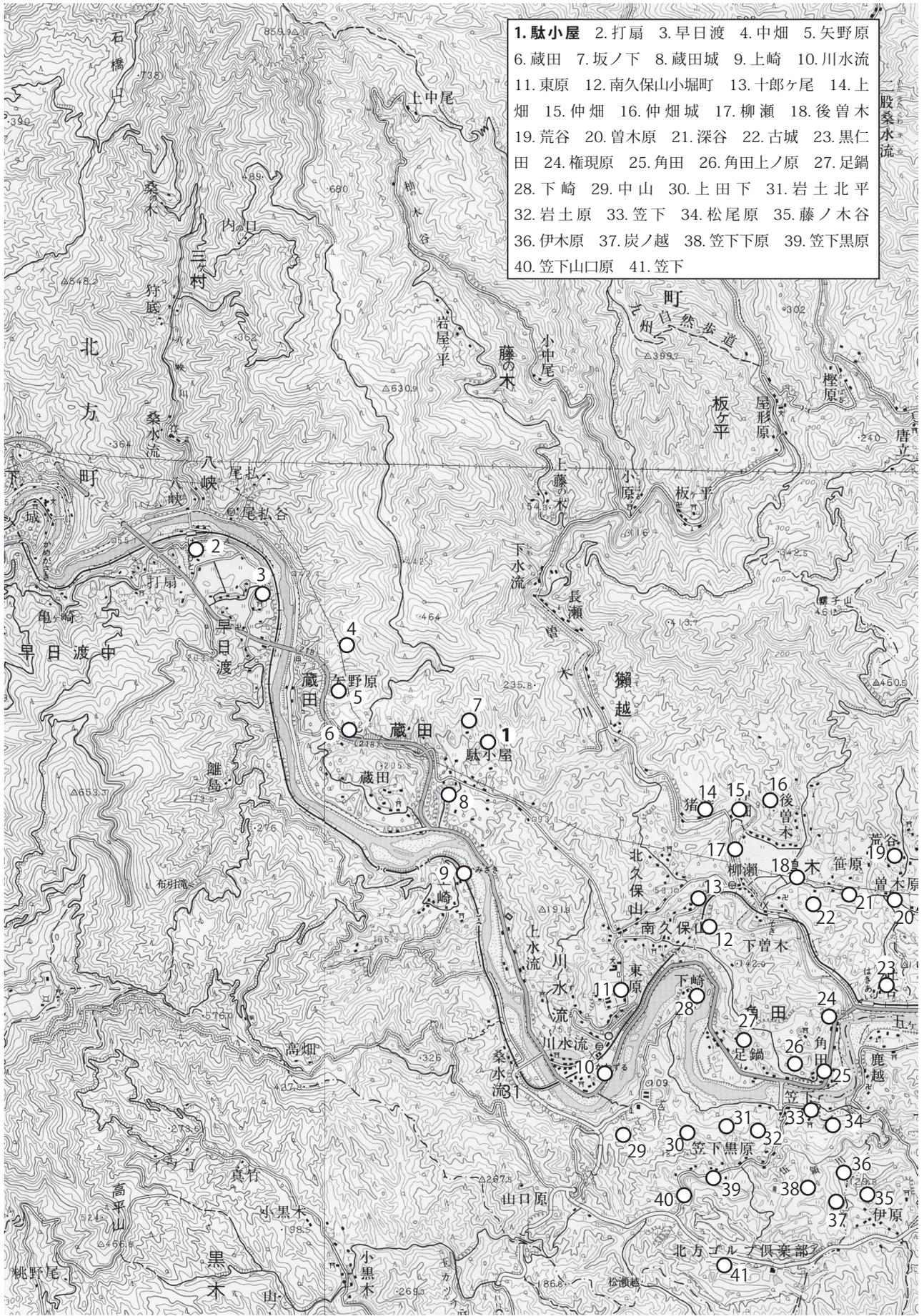
近世は延岡藩領となり、内藤氏時代に木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。北方地区では江戸時代から明治時代にかけて、日平鉱山をはじめ猿渡鉱山、槇峰鉱山等の鉱山開発が盛んに行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの槇峰鉱山は明治 33 年以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは北方地区の生産基盤になるなど、経済的効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあった。平成 18 年の旧延岡市との合併に伴う交流圏の拡大とともに交通網も着々と整備されつつある。

第 1 表 北方延岡道路事業関連遺跡

遺跡名(調査年度)(主な時代)	主な遺構	主な遺物
坂ノ下遺跡 (H 23) (縄文早期)	集石遺構 19	貝殻条痕文土器・石鏃・磨石
中畑遺跡 (H 23) (縄文晩期・古墳終末期)	竪穴建物跡 1・土坑 8 配石遺構 1	縄文土器・石鏃・異形石器・石斧・石錘・十字形石器・円盤状石器・須恵器・土師器
十郎ヶ尾遺跡 (H 22) (旧石器・縄文・弥生・古墳)	集石遺構 1・竪穴建物跡 1	角錐状石器・縄文土器・石鏃・剥片・弥生土器・土師器
南久保山小堀町遺跡 (H 21) (縄文早期)	集石遺構 6・土坑 4	縄文土器・石器・剥片・弥生土器
黒仁田遺跡 (H 18) (旧石器・縄文・弥生・古墳)	集石遺構 1・竪穴建物跡 12 土坑 5	ナイフ形石器・細石刃核・細石刃・縄文土器・石鏃・剥片尖頭器・石匙・弥生土器・土師器・鉄器
山口遺跡第 2 地点 (H 14) (弥生後期・古墳中後期)	竪穴建物跡 38・土墳墓 1 土坑 7	弥生土器・土師器・須恵器・土錘・陶磁器・台石・敲石・磨石・鉄製品・管玉・勾玉
山田遺跡 (H 14-16) (旧石器・縄文・弥生・中世)	礫群 1・陥し穴状遺構 7・炉穴 135 竪穴建物跡 1・周溝墓 2・土墳墓 5 集石遺構 44・掘立柱建物跡 1	礫器・剥片尖頭器・縄文土器・石鏃・削器・搔器・組織痕土器・弥生土器・鉄鏃・陶磁器・土錘・石臼・傘状石製品
赤木遺跡第 8 地点 (H 15-17) (旧石器・縄文・弥生後終末期)	礫群 31・集石遺構 58・土坑 5 竪穴建物跡 1・炉穴 9	ナイフ形石器・剥片尖頭器・角錐状石器・細石刃核・細石刃・石核・縄文土器・台形石器・削器・搔器・礫器・敲石・磨石・台石・石鏃石斧・弥生土器

第 2 表 延岡道路事業関連遺跡

遺跡名(調査年度・主な時代)	主な遺構	主な遺物
野門遺跡 (H 16) (旧石器・縄文・弥生・古墳・古代)	竪穴建物跡 2 土坑 1 基	剥片尖頭器・縦長剥片・石核・石錘・石斧・砥石・縄文土器・石鏃・石匙・弥生土器・土師器・須恵器
天下城山遺跡 (H 14-15) (中世・近代)	溝状遺構 1・虎口状遺構 1	弥生土器・土師器・須恵器・土錘・洪武通宝・砥石・火打石・管玉
今井野第 2 遺跡 (H 14) (縄文早期)	集石遺構 35	無文土器・コブ文土器・押型文土器・石鏃
吉野第 2 遺跡 (H 12-13-15) (旧石器・縄文・古墳・古代・近世)	礫群 5・平地式建物跡 1・炉穴 55 集石遺構 28・炉穴 55・溝状遺構 1 土坑 24・竪穴建物跡 3・近世墓 1 道路状遺構 1・掘立柱建物跡 2	ナイフ形石器・剥片尖頭器・角錐状石器・石鏃・石錘・縄文土器・突帯文土器・磨製石斧・土師器・須恵器・土師皿・白磁・青磁・陶磁器・鉄製釘・煙管・火打石
林遺跡 (H 9-12) (旧石器・縄文・古墳・古代～近世)	礫群 29・竪穴建物跡 6・溝状遺構 7 竪穴状遺構 4・井戸状遺構 1 近世墓 2・土墳墓 1・五輪塔基壇 2 掘立柱建物跡 32	ナイフ形石器・剥片尖頭器・台形石器・細石核・角錐状石器・石鏃・押型文土器・突帯文土器・粗製浅鉢・土師器・刻目突帯文土器・須恵器・白磁青磁・鉄短刀・洪武通寶・寛永通寶・鉄鍋・湖州六花鏡・五輪塔群・草葉胡蝶鏡



1. 駄小屋
2. 打扇
3. 早日渡
4. 中畑
5. 矢野原
6. 蔵田
7. 坂ノ下
8. 蔵田城
9. 上崎
10. 川水流
11. 東原
12. 南久保山小堀町
13. 十郎ヶ尾
14. 上畑
15. 仲畑
16. 仲畑城
17. 柳瀬
18. 後曾木
19. 荒谷
20. 曾木原
21. 深谷
22. 古城
23. 黒仁田
24. 権現原
25. 角田
26. 角田上ノ原
27. 足鍋
28. 下崎
29. 中山
30. 上田下
31. 岩土北平
32. 岩土原
33. 笠下
34. 松尾原
35. 藤ノ木谷
36. 伊木原
37. 炭ノ越
38. 笠下下原
39. 笠下黒原
40. 笠下山口原
41. 笠下

国土地理院発行 1/25,000 図をもとに作成

第2図 周辺の遺跡分布図



【参考文献・引用文献】

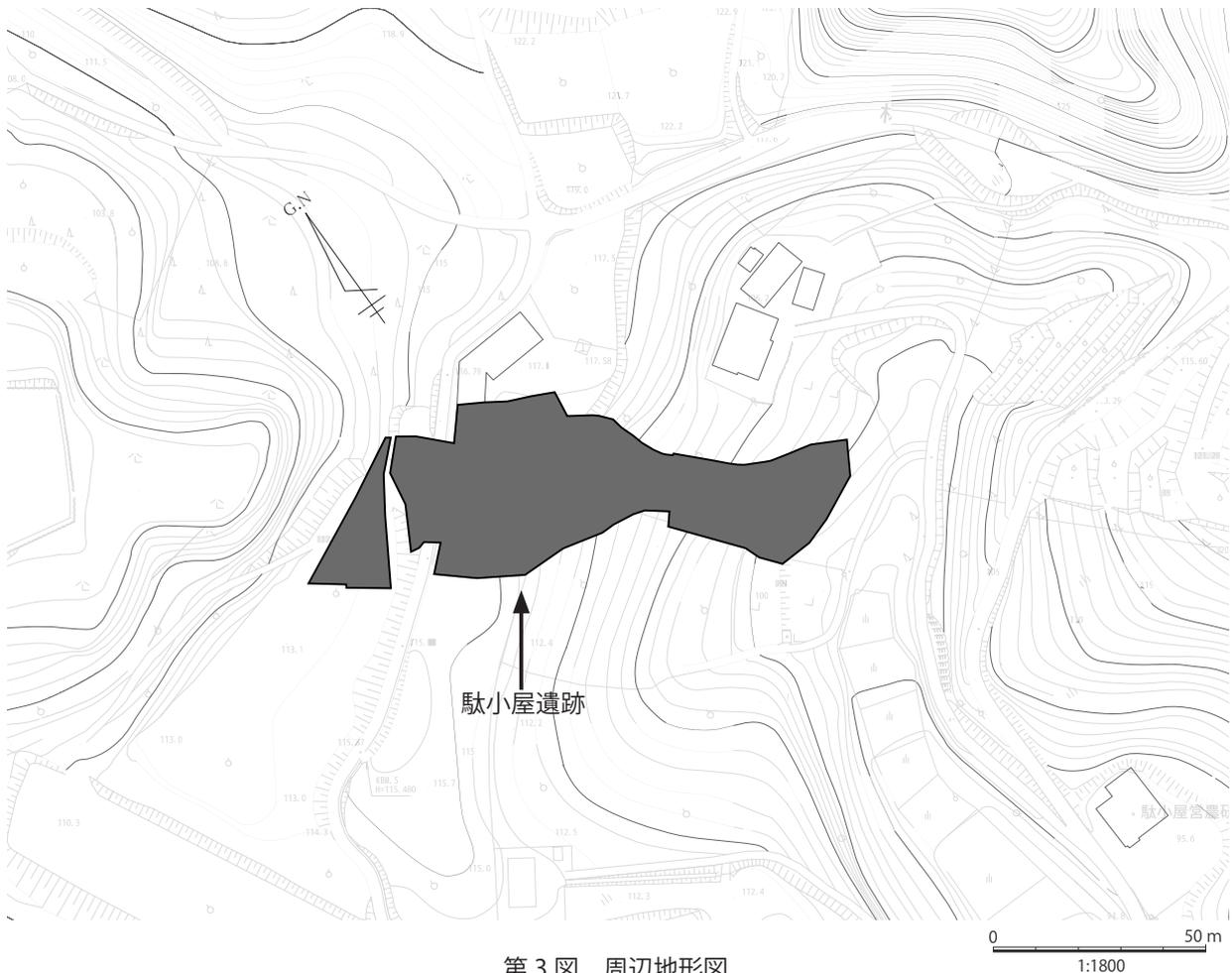
- 北方町史編纂委員会 1972「北方町史」北方町
- 北方町教育委員会 1990「笠下遺跡」『北方町文化財報告書第1集』
- 北方町教育委員会 1991「速日峰地区遺跡」『北方町文化財報告書第2集』
- 北方町教育委員会 1992「速日峰地区遺跡Ⅱ」『北方町文化財報告書第3集』
- 北方町教育委員会 1992「笠下下原遺跡」『北方町文化財報告書第4集』
- 北方町教育委員会 1992「南久保山小堀町遺跡」『北方町文化財報告書第5集』
- 北方町教育委員会 1993「速日峰地区遺跡Ⅲ」『北方町文化財報告書第6集』
- 北方町教育委員会 1995「速日峰地区遺跡Ⅳ」『北方町文化財報告書第7集』
- 北方町教育委員会 1999「速日峰地区遺跡Ⅶ」『北方町文化財報告書第13集』
- 北方町教育委員会 2004「町内遺跡詳細分布調査報告書」『北方町文化財報告書第23集』
- 北方町教育委員会 2005「打扇上ノ原遺跡」『北方町文化財報告書第24集』
- 北方町教育委員会 2005「上崎地区遺跡5」『北方町文化財報告書第25集』
- 北方町教育委員会 2006「北方町内遺跡6」『北方町文化財報告書第27集』
- 北方町教育委員会 2006「上崎地区遺跡6」『北方町文化財報告書第28集』
- 鈴木重治 1973「宮崎県岩土原遺跡の調査—土器伴出石器文化の一例—」『石器時代』第10号 石器時代文化研究会
- 田中茂 1962『東臼杵郡 北方村の古墳』北方村教育委員会
- 延岡市教育委員会 1996「市内遺跡詳細分布調査報告書」『延岡市文化財調査報告書第16集』
- 延岡市教育委員会 2001「吉野遺跡（第4次） 吉野遺跡（第6次） 延岡古墳群第16号墳 多々良第1遺跡 新宮遺跡 吉野遺跡（第7次）」『延岡市文化財調査報告書第24集』
- 延岡市教育委員会 2008「上崎地区遺跡」『延岡市文化財調査報告書第36集』
- 延岡市教育委員会 2010「東原遺跡（第7次）北久保山遺跡（第2次）」『延岡市文化財調査報告書第41集』
- 宮崎県 1989「宮崎県史」資料編 考古1
- 宮崎県教育委員会 1995「打扇遺跡 早日渡遺跡 矢野原遺跡 蔵田遺跡」『一般国道218号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 宮崎県教育委員会 1990「林遺跡」『一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005「山口遺跡第2地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第99集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2006「今井野第2遺跡 天下城山遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第135集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2006「野門遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第136集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007「赤木遺跡第8地点（第二次調査）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第145集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007「山田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007「吉野第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第155集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007「赤木遺跡第8地点（第三次調査）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第166集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008「林遺跡Ⅱ」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第174集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2009「黒仁田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第181集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2009「赤木遺跡第8地点（第一次調査）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第182集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011「南久保山小堀町遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第206集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2012「十郎ヶ尾遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第218集』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2013「坂ノ下遺跡 中畑遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第225集』

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 発掘調査の概要

宮崎県文化財課の確認調査では、基本土層Ⅲ層（鬼界アカホヤ火山灰層）下位に縄文早期の遺物が確認されたことから、本調査対象区として4,500㎡の範囲を設定した。ただし、この中には先行トレンチ調査による調査不要部分が含まれる。北方延岡道路建設工事や排土置き場等の関係で、調査区をA区：南東側斜面の中腹から裾までの部分、B区：尾根付近から南東側斜面の中腹（A区との境界）までの部分、C区：農道際から北側部分、D区：農道及びその周辺部分の4区に分け、C区と平行してA区及びB区、D区の順に調査を進めることにした。また、委託により調査対象地全域に対して国土座標（新測地系）に基づいた10m×10mのグリッドを設定し、南北方向のグリッドに算用数字、東西方向のグリッドにアルファベットを付してグリッド名とした。

調査は平成24年5月10日より開始した。除草作業や現場事務所の建て込み等の環境整備を行った後、5月15日よりA区南西側（A区の1/2）及びC区南西側（C区の2/3）の重機による表土剥ぎに着手した。Ⅲ層上面まで重機で掘削し、地形に沿ってⅢ層以下を人力で掘り下げた。同様に6月6日よりA区北東側（A区の1/2）、7月26日より北側農道周辺部分を除くB区及びC区北側（C区の1/3）、10月15日よりB区の北側農道周辺部分のⅢ層上面まで重機で掘削し、Ⅲ層以下を人力で掘り下げた。



第3図 周辺地形図

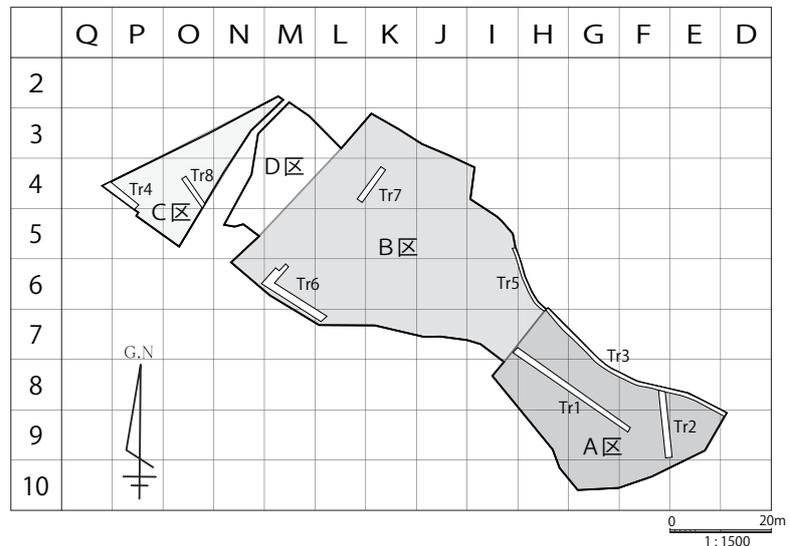
また、11月12日からD区での重機による農道の付け替え作業及びⅢ層上面までの掘削を開始した。農道については、国土交通省及び北方町総合支所農林課と協議を行い、B区の調査終了部分に付け替えた。

トレンチをA区では3箇所、B・C区ではそれぞれ2箇所、D区では1箇所設定し、土層堆積状況を確認しながら掘削を進めた。平面的な調査は、集石遺構などの集落の一角を検出した縄文時代早期の生活面（Ⅵ層）まで行った。Ⅵ層以下については、各区の比較的平坦で遺構・遺物が出土したグリッドを中心に25～50%の面積の掘削を行った。A区では、南端及び東端に先行トレンチを設置し掘削したが土層の堆積状況が悪く、これより南側の急斜面部分に遺構・遺物は存在しないと判断し、調査範囲から除外した（前述の「調査不要部分」）。北西端の比較的平坦な部分から北東壁にかけてⅢ層の残存状況がよく、その下位層から集石遺構や土器などを確認した。B区では、中央の斜面東裾からA区との境界の平坦部にかけてⅢ層の残存状況がよく、Ⅵ層上面に赤変した礫を含む散礫が広がっていた。散礫を取り上げ、精査したところ、竪穴建物跡1軒、集石遺構や土坑などを検出した。また、北西端尾根付近の平坦部で竪穴建物跡1軒、平地式建物跡1軒、斜面上部北側に炉穴や土坑などを検出した。C区では、埋設された用水パイプ付近（幅2m程）を避けて掘削した。西壁付近のⅥ層上面に散礫が広がり、その下部を中心に集石遺構を検出した。D区では、Ⅵ層から集石遺構や土坑などを検出した。

調査区全体を通して、遺構は竪穴建物跡2軒、平地式建物跡1軒、集石遺構76基、炉穴18基、土坑47基を検出し、遺物は多量の縄文時代早期の土器や石鏃等の石器類が出土した。遺構・遺物は大部分がⅥ層で確認された。遺物の取り上げについては、トータルステーションを用いて位置を記録した後に行ったほか、グリッドごと一括して取り上げた。適宜、実測図化作業・写真撮影による記録作業を行った。各区、縄文時代早期の生活面において空中写真撮影を実施した。12月19日に現地調査に係る記録作業を終了し、すべての現地作業を完了した。

第2節 整理作業の概要

現地での調査終了後、出土品及び図面・写真などの記録物を宮崎県埋蔵文化財センター本館に持ち帰り、記録物の整理を行うとともに、1期目の整理作業として、2013（平成25）年1月7日から出土品の洗浄作業を開始し、一部注記作業、一部遺構のデジタルトレースを実施して同年3月31日に終了した。2期目の整理作業は同年8月1日より開始し、遺構のデジタルトレース、出



第4図 グリッド及びトレンチ配置図

土品の注記作業及び接合作業を実施した後、実測作業に入った。出土品については、外部委託も利用しながら656点を図化し、写真撮影を行った。また、遺構出土の炭化物についてAMS法放射性炭素C14年代測定を委託により実施した。そして、翌年3月までに報告書刊行に係わる製図及び執筆の全てを完了させ、同年6月から8月にかけて印刷・製本作業を行った。なお、2014（平成26）年1月26日には、遺跡発掘速報会において一般向けに成果報告を行った。

第3節 基本層序

本調査区は尾根部を境に北西と南東に向けて傾斜する斜面に位置する。場所によっては、比較的平坦な部分も見られ、平坦部のVI層から竪穴建物跡や集石遺構等が検出されている。調査前の状況は、大部分が畑として利用されており、一部に家屋の基礎や農道、樹木があるなどして、削平が広範囲に及んでいた。そのような状況において、包含層であるV・VI層は比較的安定している部分が多く、鍵層となる鬼界アカホヤ火山灰層（Ⅲ層）も一部認められる。A区東端は、B区側からの傾斜と調査区北東側からの傾斜とが交差し、堆積が不安定であった。B区からA区にかけての北側壁は比較的Ⅱ～Ⅵ層の残存状況が良好であったため、これを基準とした。

I層は表土もしくは造成土である。

Ⅱ層は黒色（7.5YR2/1）土である。やわらかくしまりが無い。

Ⅲ層は鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の堆積層である。橙色（10YR7/8）を呈する。

Ⅳ層は黒褐色（10YR2/2）土である。粘性があり、やや固くしまる。5mm以下の礫を3%含む。

V層は暗褐色（10YR3/3）土である。粘性があり、やや固くしまる。2mm以下の礫を2%含む。Ⅵ層への漸移層であり、一部縄文時代早期の遺物を含む。

Ⅵa層は褐色（7.5YR4/4）土である。粘性が強く、固くしまる。2mm以下の礫を5%含む。縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅵb層は褐色（7.5YR4/6）土である。粘性があり、しまりがある。縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅶ層は明黄褐色（10YR6/6）の砂質土である。粘性があり、しまりがある。

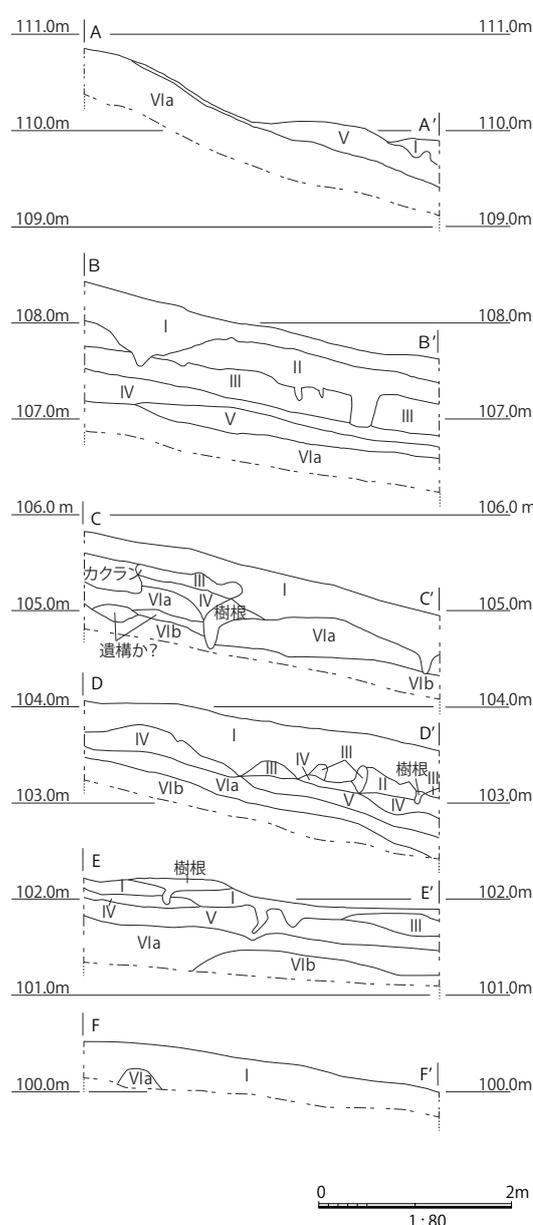
Ⅷ層は暗褐色（7.5YR3/4）土である。粘性が強く、始良Tn火山灰（AT）が混じる。

Ⅸ層は始良Tn火山灰（AT）（10YR6/6）の堆積層である。細礫、砂質土が混じる。

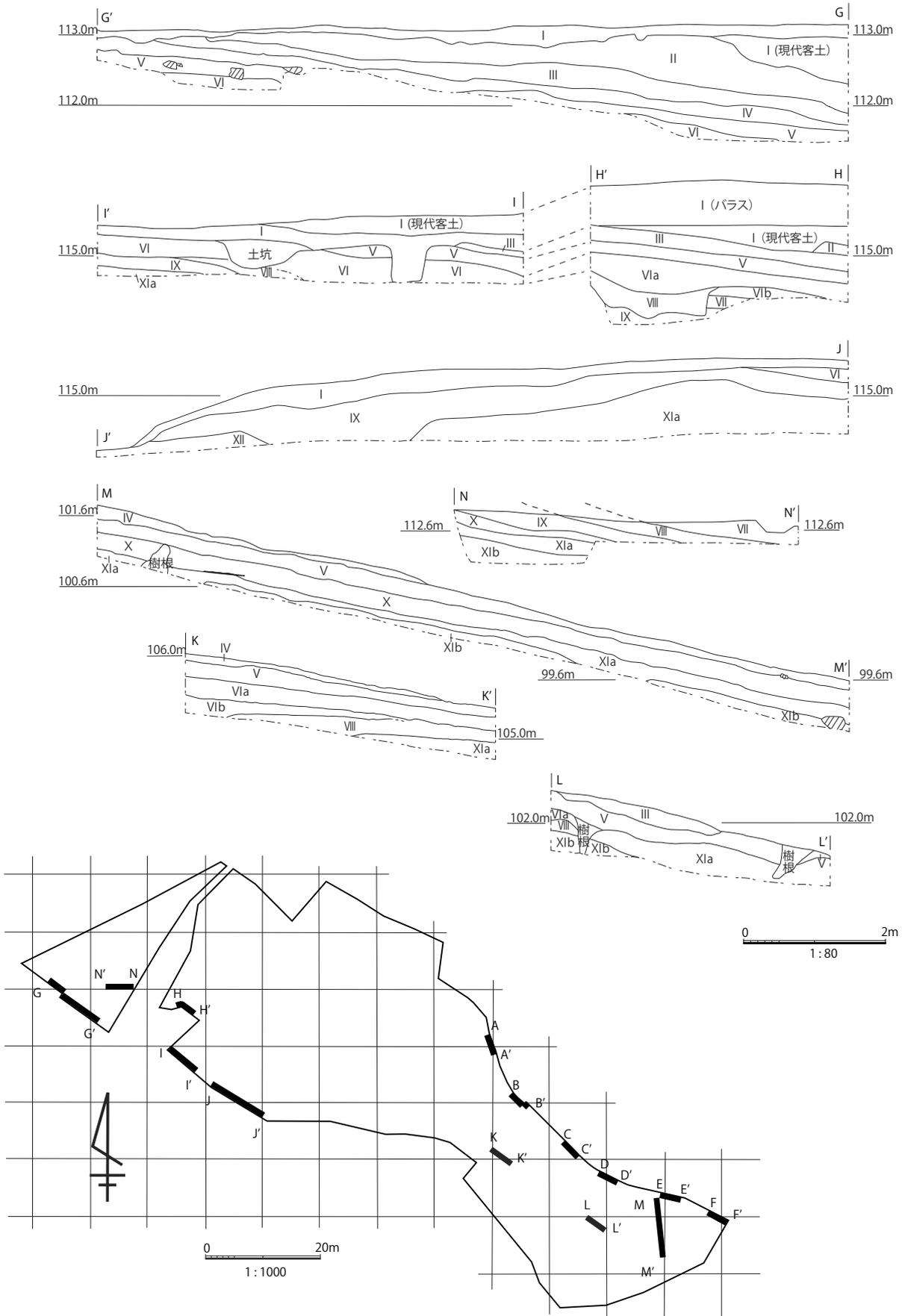
X層は黒褐色（7.5YR3/2）土である。ローム層で固くしまる。

XI層は黄褐色（10YR5/6）土である。上位のXIa層と灰白色の粘質土を含むXIb層に分層した。ローム層で固くしまる。

XII層は灰白色（7.5YR2/1）土である。角閃石を含み、粘性が強く、砂質土が多く混じる。



第5図 土層断面図(1)



第6図 土層断面図 (2)

第三章 調査の記録

第1節 旧石器時代の遺物

1 概要

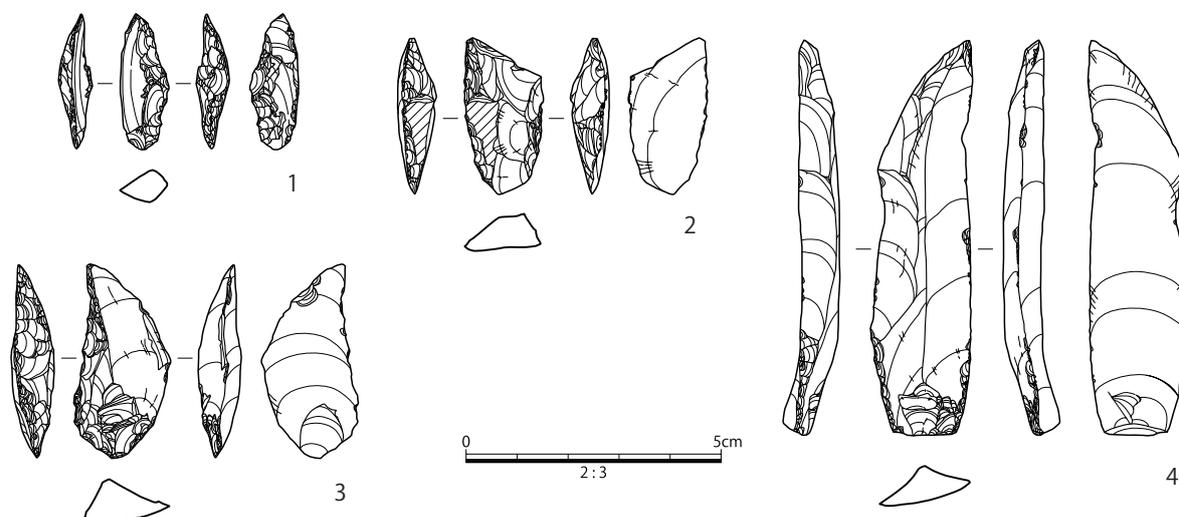
Ⅶ層下位の調査は比較的堆積状況のよい平坦部を中心に、分割した5×5mのグリッド毎に行った。しかし、Ⅵb層下位からの遺物の出土はなく、出土した旧石器時代の遺物は縄文時代早期以降の土層中からのものであり、再堆積の可能性がある。したがって、本節で取り扱う旧石器時代の遺物については、出土した層ではなく、形態的な特徴や使用される石材との関係から判断し、旧石器時代の遺物として抽出したものである。

2 遺物

ナイフ形石器が4点認められる。これらの遺物は、調査区中央の平坦部で多く確認されている。特徴は下記のとおりである。

ナイフ形石器（第7図1～4）

計4点出土し全て図化した。1は西北九州産黒曜石製の可能性がある。石核のポジ面を取り込んだ横長剥片である。2～4は流紋岩製のナイフ形石器である。2は小形の幅広剥片を素材とし、両側縁に角度の浅い調整が施されている。刃部には微細な剥離痕が観察される。3、4は素材打面を基部に設定した縦長剥片素材のナイフ形石器である。3の背面には、石核のポジ面が残される。4は基部に浅い加工を施している。



第7図 旧石器時代石器実測図

第3表 旧石器時代石器計測表

遺物番号	器種	石材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1	ナイフ形石器	黒曜石	L5	Ⅵ	2.7	0.9	0.7	1.1	
2	ナイフ形石器	流紋岩	I7	Ⅵ	3.1	1.6	0.8	3.3	
3	ナイフ形石器	流紋岩	H7	Ⅴ	3.9	1.9	0.8	5.1	
4	ナイフ形石器	流紋岩	K6	Ⅵ	7.8	2	1.1	11.8	

第2節 縄文時代早期の遺構と遺物

1 概要

縄文時代早期の遺構は、竪穴建物跡2軒、平地式建物跡1軒、集石遺構76基、炉穴18基、土坑47基が検出された。遺物は、押型文系・貝殻文系・無文などの土器が出土しているが、その多くは小片であり、完形に復元できるものはなかった。石器は、石鏃、石斧、礫器、磨石、敲石などが出土している。

本遺跡において、縄文時代早期の包含層は、鬼界アカホヤ火山灰層(Ⅲ層)下位のⅤ層及びⅥ層である。前述のとおり、本調査区は大部分が斜面地であるが、その中でも比較的平坦な尾根付近や農道より南側の斜面の中腹に遺構及び遺物が多く出土する傾向が見られた。

2 遺構

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡(第13、14図:5~13)

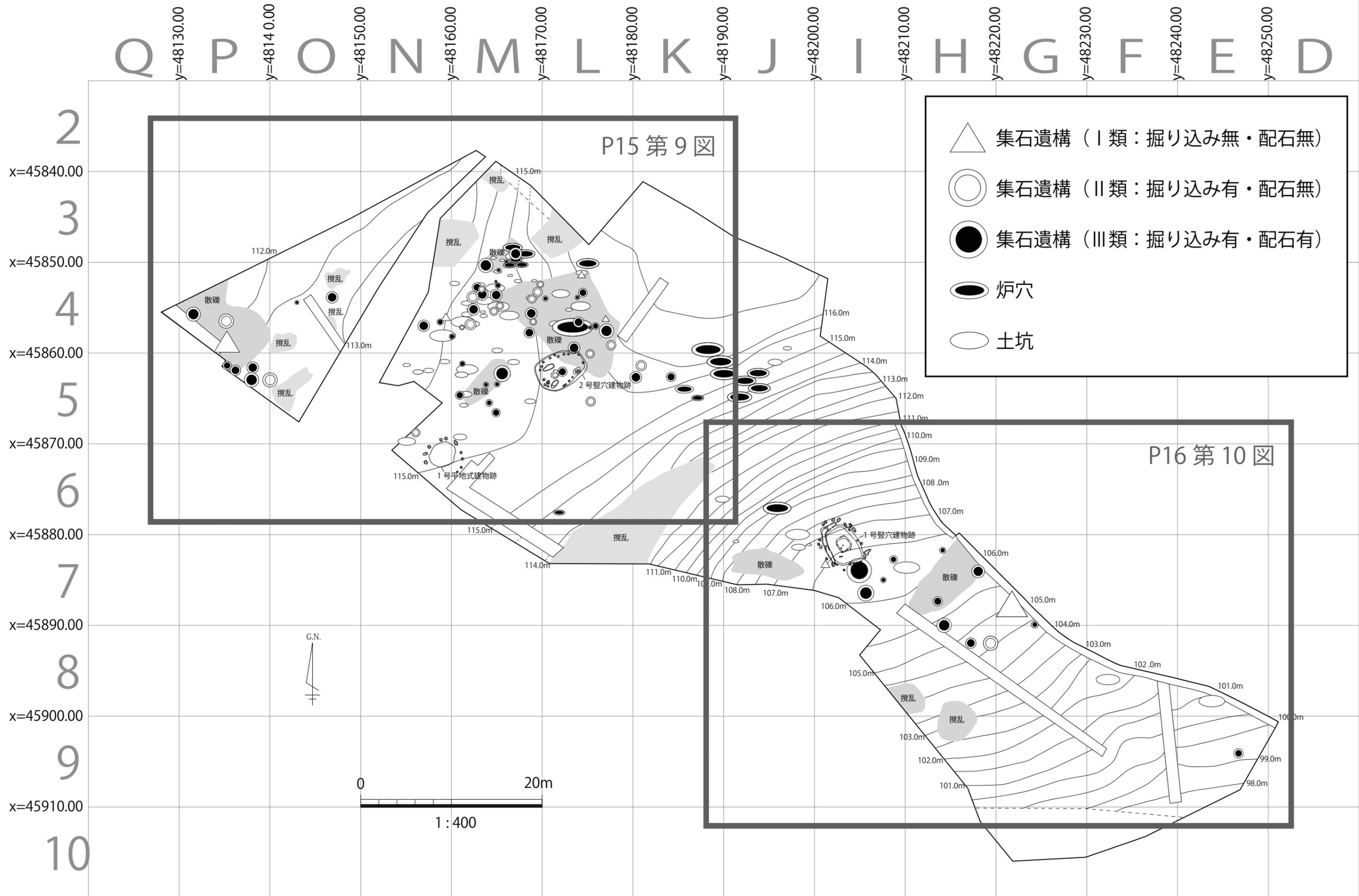
L7グリッドで検出された。Ⅵ層面で精査したところ、暗褐色の埋土のプランが不整隅丸長方形を呈し、主軸方向は座標北から西へ約40度振れている。規模は長軸で約4.0m、短軸で約2.8m、床面積は約11.2㎡である。検出面から床面までの深さは約8cmであるが、実際の掘り込み面はさらに上部にあったものと考えられる。床面は緩い傾斜となっている。竪穴の外周にはピットが22基めぐる。遺存状況がよくないため、ほとんどのピットが3~10cmと浅く、配列にも明確な規則性は見られないため、柱穴であるか否かは不明である。また、中央に土坑1基、外周西半分に排水施設の可能性がある溝1条が確認された。埋土は、上部に暗褐色土で焼土粒と極少量の炭化物が含まれ、下部には褐色土で焼土粒が少量含まれる。褐色土を生活面とし、後に暗褐色土が堆積していると考えられる。

遺構内の遺物は、多数の縄文時代早期に属する土器片、石鏃などが出土している。このうち土器4点、石器5点を図化した。5~8はいずれも深鉢の口縁部である。5は外面に網目撚糸文、内面の口縁端部に小粒の楕円押型文が施されている。6は無文土器である。7は外面、内面に山形押型文、内面の口縁端部には原体条痕が施されている。8は外面に縦位、内面に横位の楕円押型文が施されている。9~11はチャート製の石鏃である。11は基部に極めて深い抉りを有する。12は流紋岩製の石核で、1枚の作業面から小形の不定形剥片を数枚剥離している。13は剥片を素材とした頁岩製のラウンドスクレイパーである。表面全体に自然面を残し、裏面下部以外の周縁に二次加工を施している。

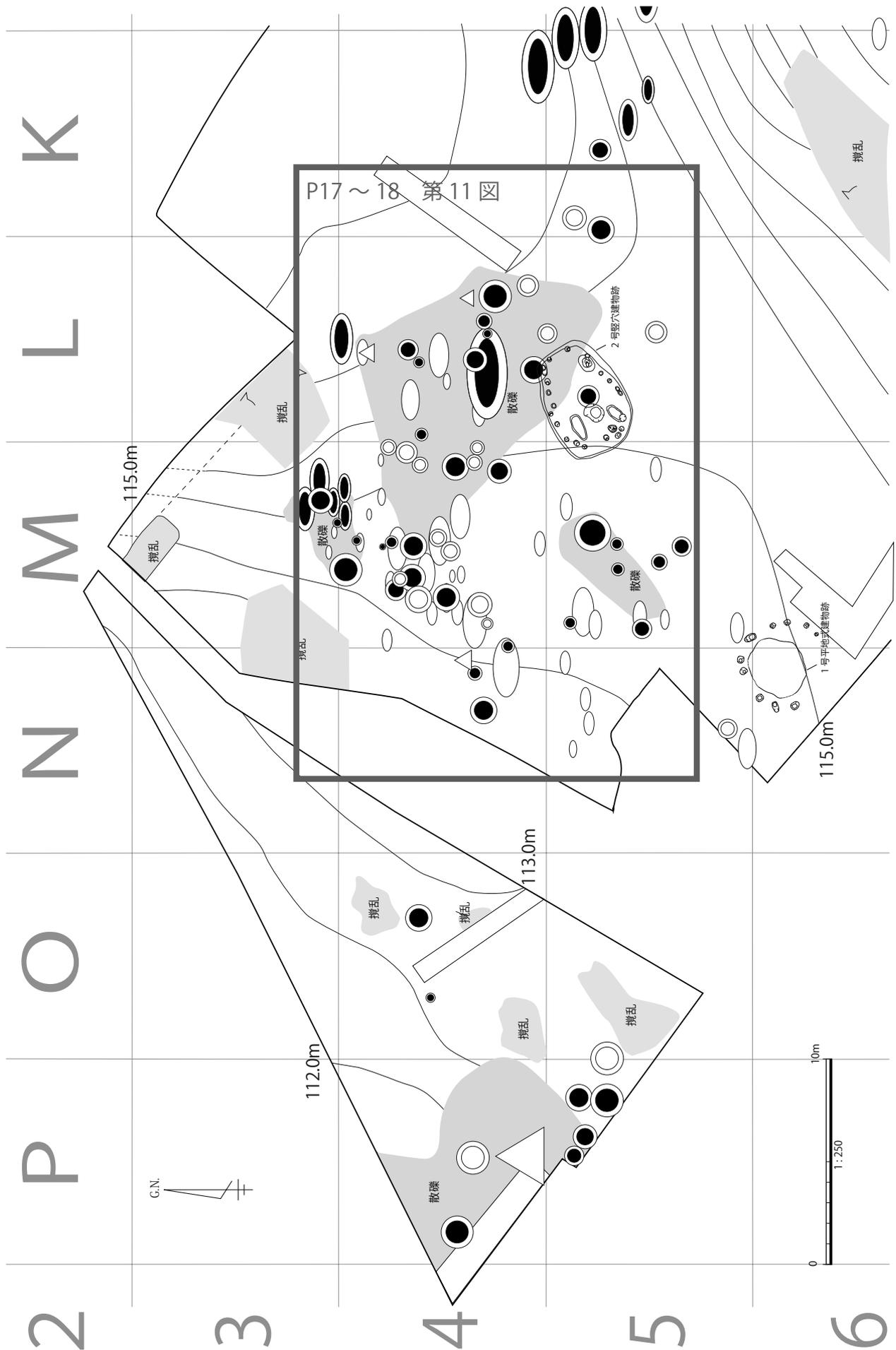
2号竪穴建物跡(第15、16図:14~26)

L5グリッドで検出された。プランは隅丸長方形を呈し、主軸方向は座標北から西へ約45度振っている。規模は長軸で約5.3m、短軸で約3.6m、床面積は約16.9㎡を測る。検出面から床面までの深さは約12cmである。床面に柱穴の可能性のある18基のピットを確認した。埋土は粘性のある暗褐色土で、焼土粒と少量の炭化物が含まれている。また、中央やや南西部に土坑1基、東部に焼礫を伴う掘り込みと焼土集中部、南西部に炉が検出された。炉は楕円形のプランで長軸1.0m、短軸0.4m。断面の深さは20cmほどである。多量の焼土を埋土とし、炉から南側の埋土にも焼土及び炭化物が含まれている。発掘時の所見としては、1層掘削中に検出されたものであり、この竪穴に伴う炉であったと考えられる。

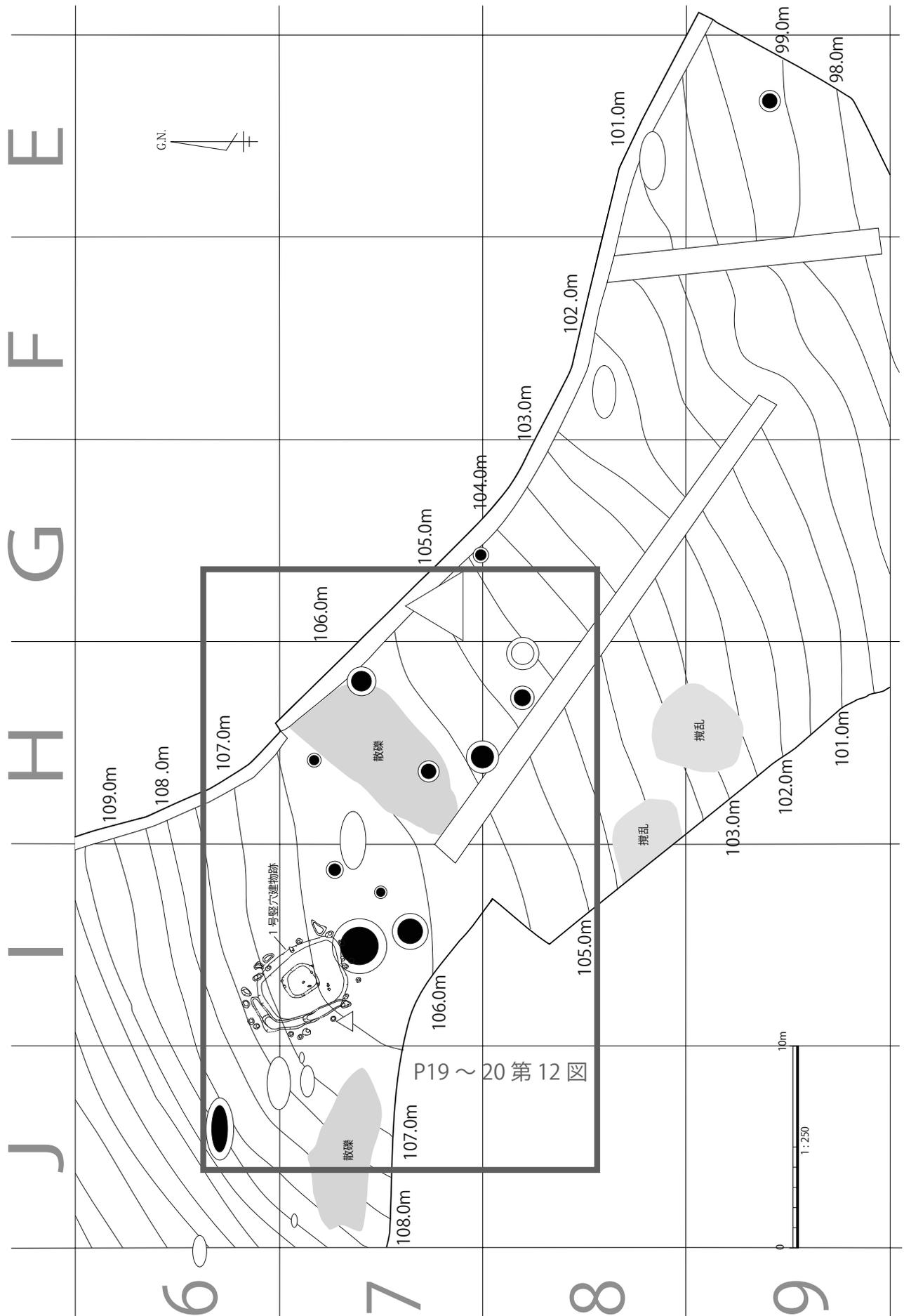
遺構内の遺物は、多数の縄文時代早期に属する土器片、石鏃、異形石器などが出土している。このうち土器7点、石器6点を図化した。14は外面、内面に山形押型文が施された口縁部~胴部片である。



第8図 駄小屋遺跡遺構分布図 (S=1/400)



第9図 駄小屋遺跡北西側遺構分布図 (S=1/250)



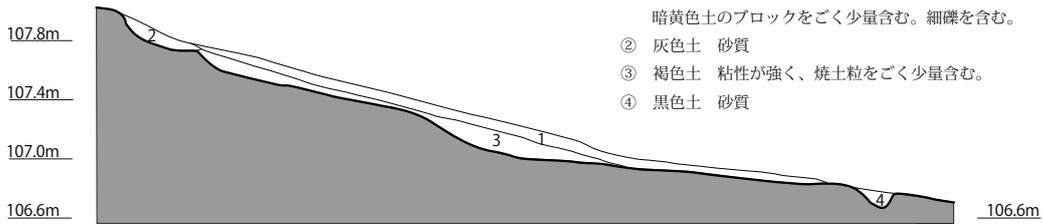
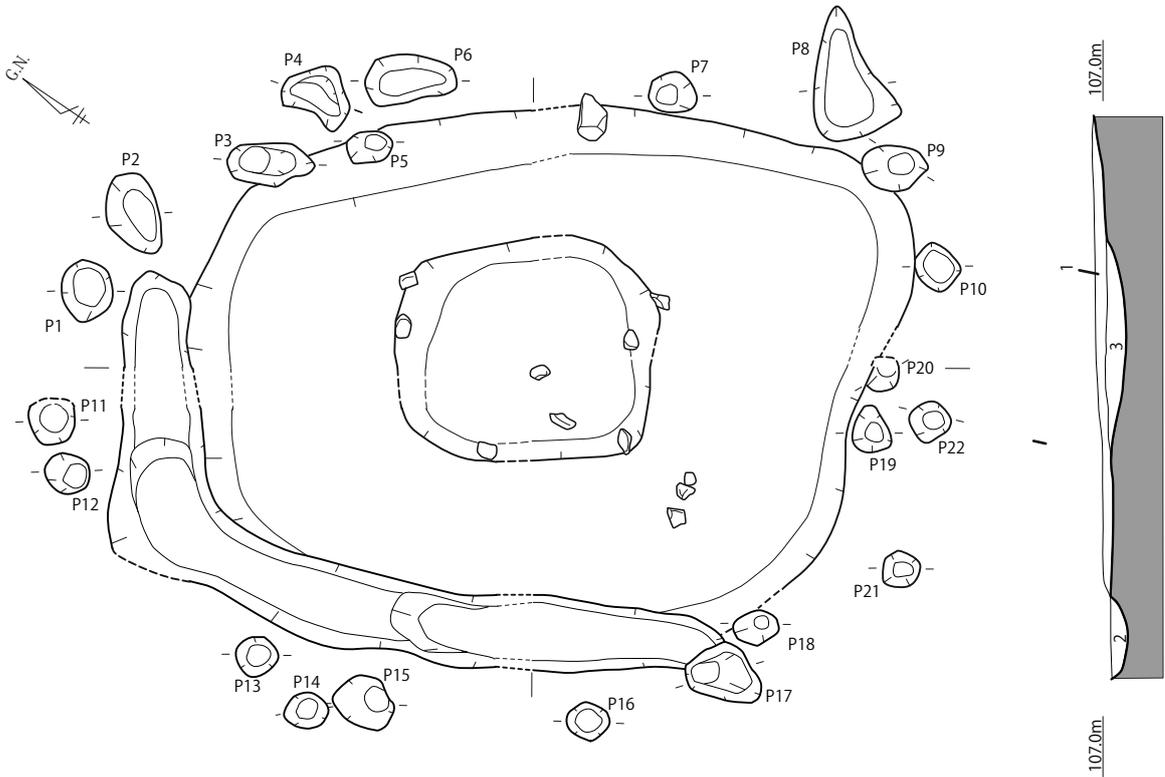
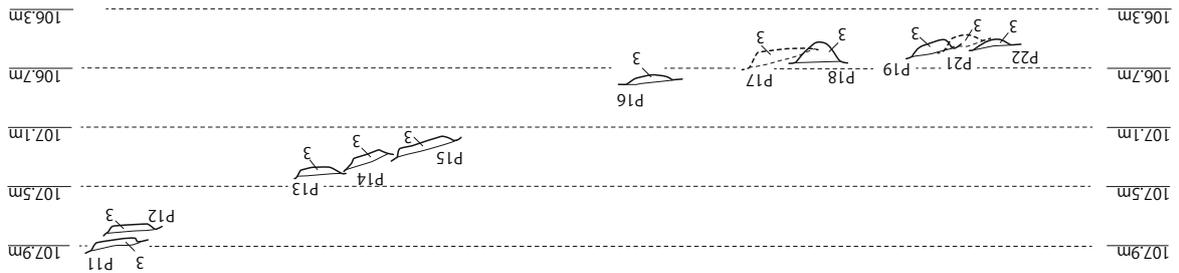
第10図 駄小屋遺跡南東側遺構分布図(S=1/250)



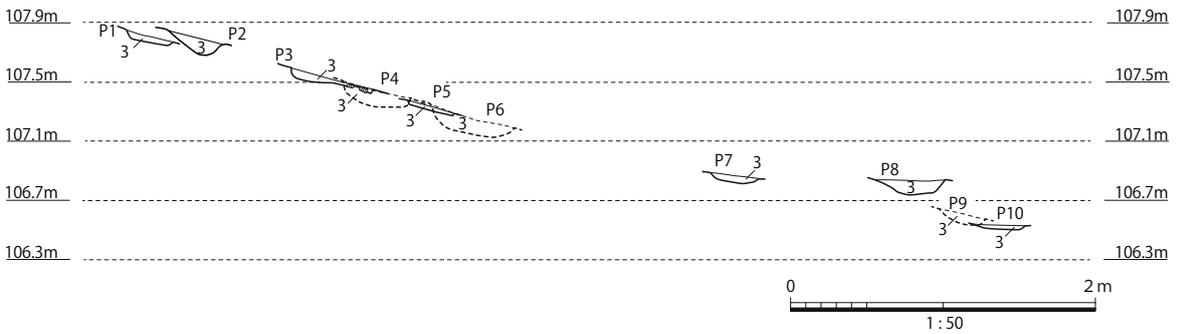
第 11 图 駄小屋遺跡 M4Gr. 周辺遺構分布図 (S=1/80)



第12图 馱小屋遺跡 I7Gr. 周辺遺構分布図 (S=1/80)

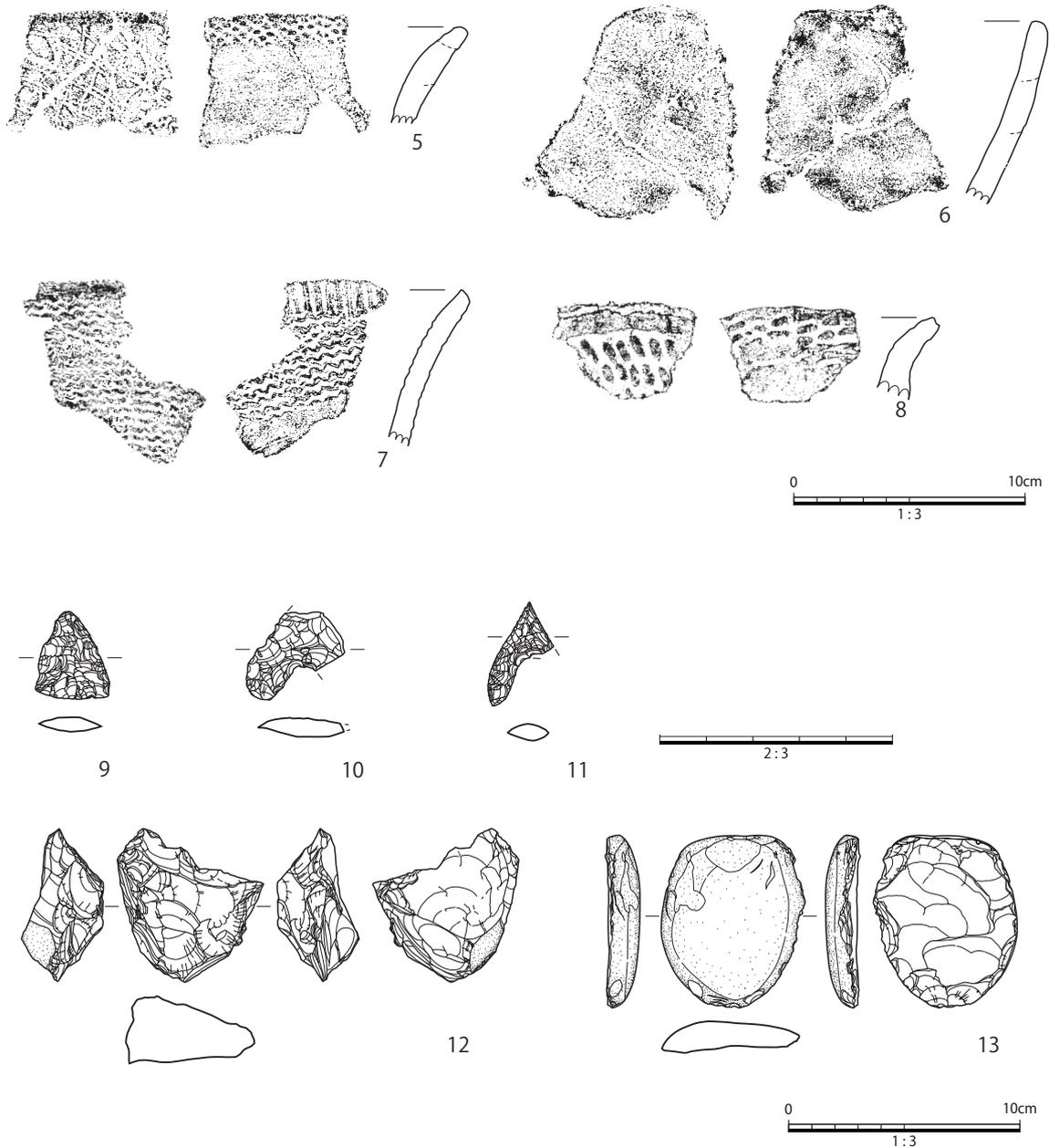


- ① 黒色味の強い暗褐色土 焼土粒と炭化物をごく少量含む。
暗黄色土のブロックをごく少量含む。細礫を含む。
- ② 灰色土 砂質
- ③ 褐色土 粘性が強く、焼土粒をごく少量含む。
- ④ 黒色土 砂質

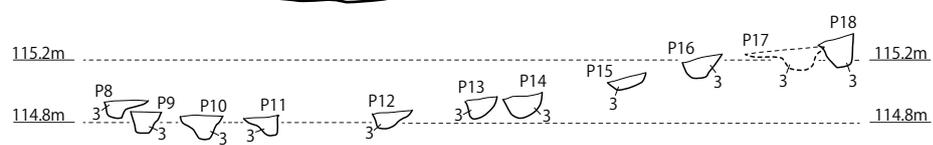
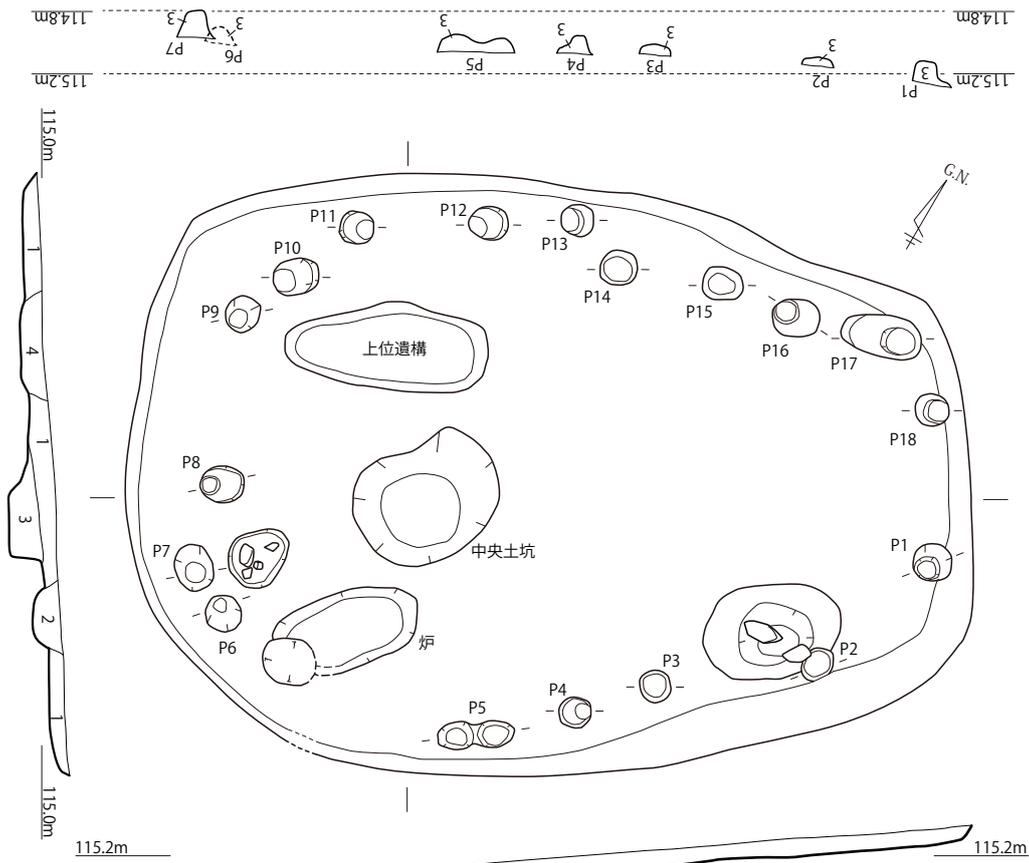


第 13 図 1 号竪穴建物跡実測図

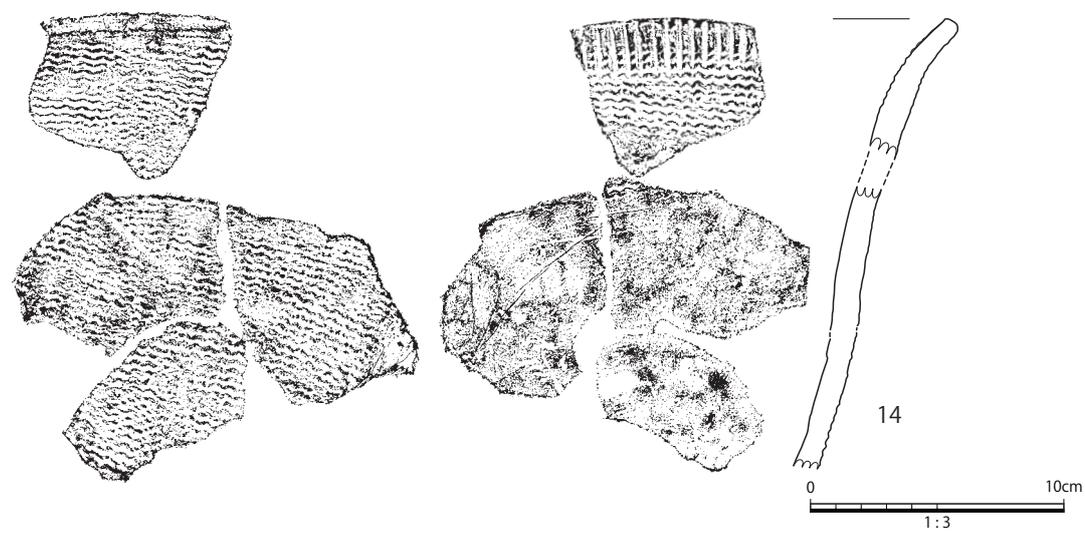
内面の口縁部に山形押型文の上から原体条痕を施文している。15は胴部にわずかなふくらみをもつ口縁部から底部付近で、外面、内面には楕円押型文が施されている。16は繊維痕の施された口縁部で穿孔をもつ。17、18は外面に楕円押型文、内面の口縁部に原体条痕、口縁下部に楕円押型文を施す。19はこぶ状の突起を付す。20は無文でいずれも口縁部である。21～25は石鏃である。21は中央の断面形が凸レンズ状となる。22はホルンフェルス製で側縁の輪郭が歪である。24、25はいわゆる鋤形鏃である。24は姫島産ガラス質安山岩製で、側縁が鋸歯状を呈している。26は半月形の異形石器で、右側縁部が緩やかな弧を形成する。なお、遺構内より出土した炭化材についてAMS法による放射性炭素年代測定を行ったところ cal-BC7585-7505(95.4%)の暦年代が得られている。



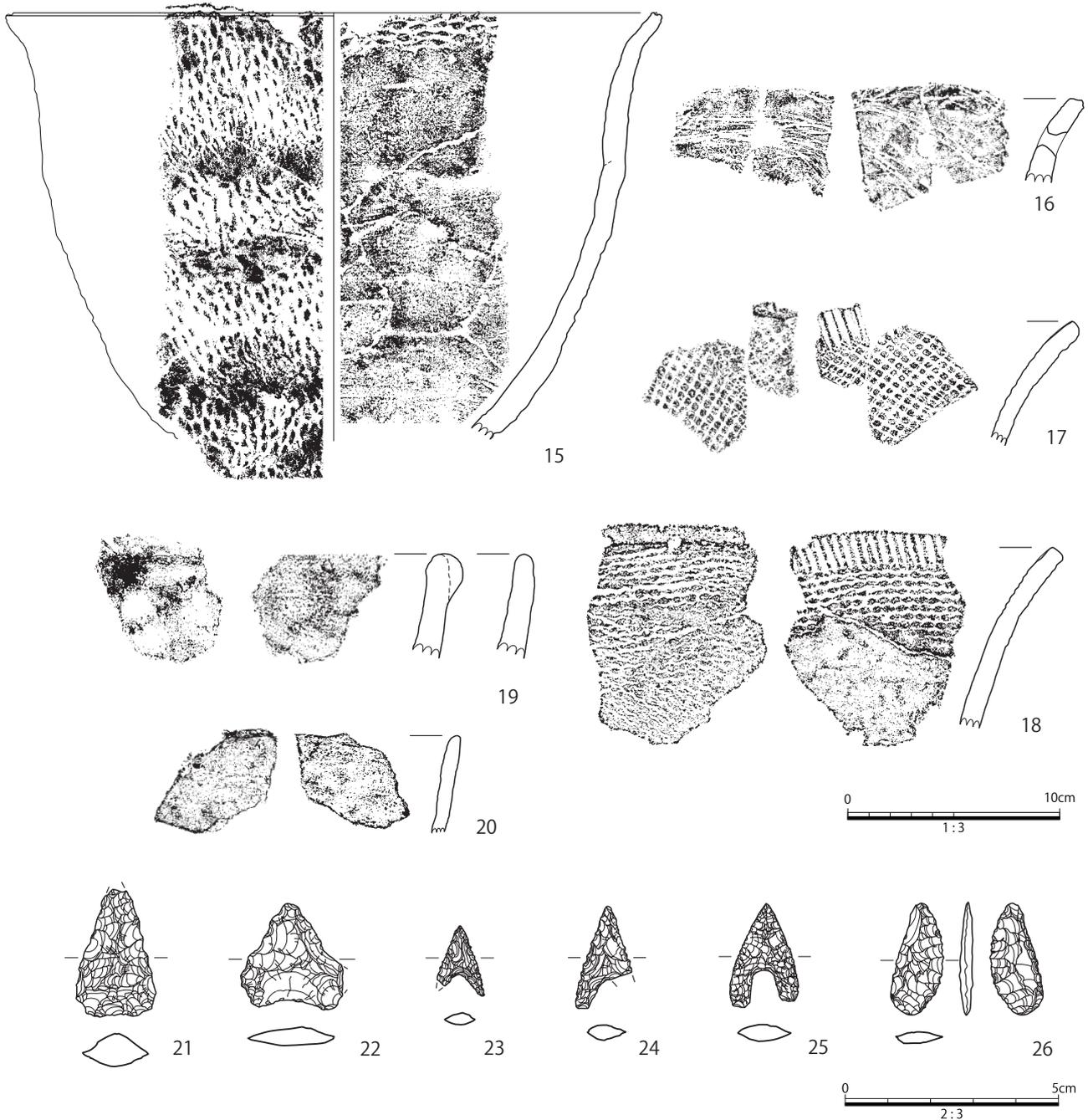
第14図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図



- ① 暗褐色粘質土 局所的に焼土粒と炭化物を含む。
- ② 焼土
- ③ 暗褐色粘質土 暗黄色土のブロックを含む。
- ④ 褐色土 粘性がやや強く、焼土粒をごく少量含む。



第 15 図 2号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図



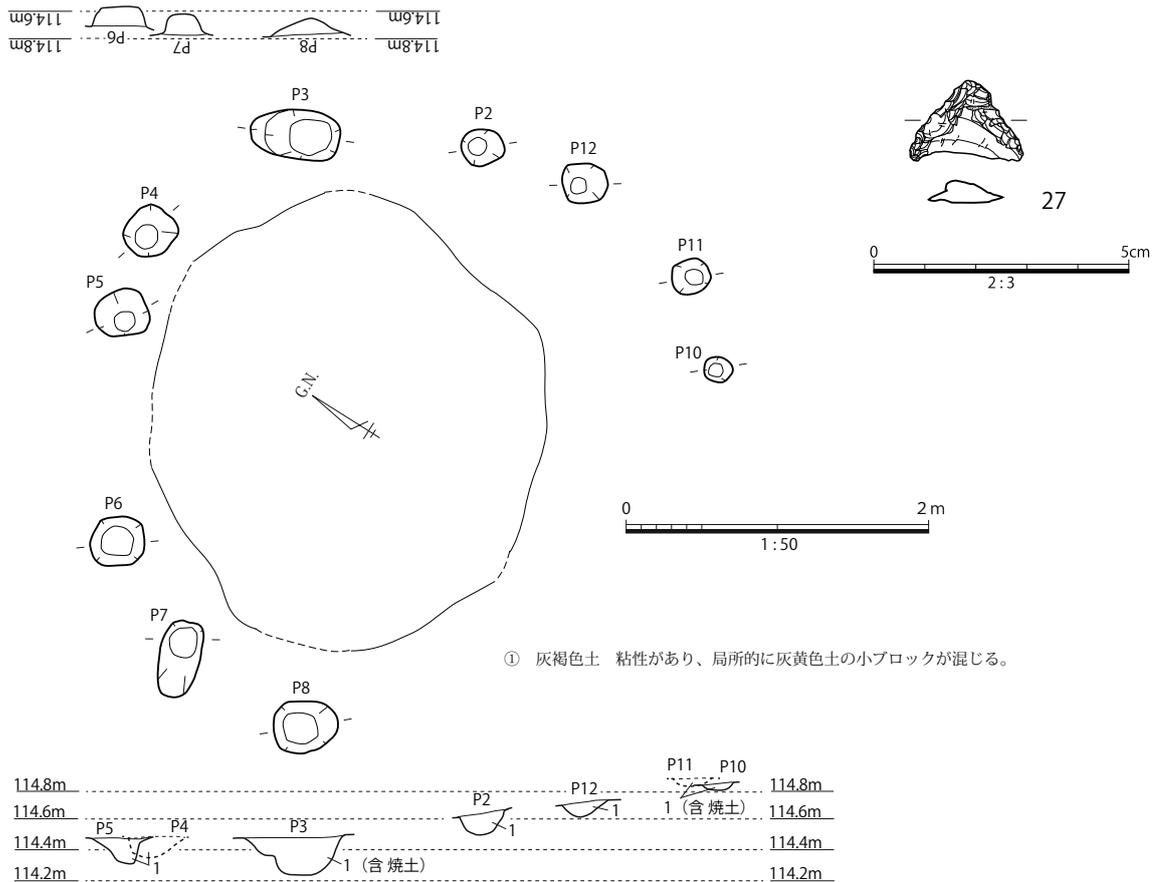
第16図 2号竪穴建物跡出土遺物実測図

(2) 平地式建物跡

1号平地式建物跡 (第17図:27)

N6グリッドで検出された。周りの土壌と異なる直径約3.8mの不正円形の硬化面が確認された。その周囲に弧状にめぐるピット10基が検出されており、柱穴と推定している。本来の正確なプランは確認できないが、竪穴建物であった可能性がある。埋土の状況としては、周辺部よりやや暗い褐色土で、周囲のピットは灰黄色土の小ブロックを含む粘性のある灰褐色土である。

遺構の範囲内からは、多数の縄文時代早期に属する土器片、石鏃が出土している。このうち石鏃1点を図化した。27がそれであり、表面に自然面と剥離面を大きく残す。



第 17 図 1 号平地式建物跡実測図及び出土遺物実測図

第 4 表 竪穴建物跡出土土器観察表①

掲載 番号	器 種	部 位	出土地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備考
				外面	内面	外面	内面			
5	深鉢	口縁部	I7 [1号竪穴建物]	網目捺糸文、 ナデ	楕円押型文、 ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	4.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。2.5mm以下の角閃石、2mm以下の褐灰色粒を少し含む。	I Eb	
6	深鉢	口縁部	I7 [1号竪穴建物]	ナデ	工具ナデ、ナデ	赤褐 5YR4/6	明赤褐 5YR5/6	7mm以下の赤褐色粒を少し含む。8mm以下のにぶい黄褐色粒、3mm以下の角閃石を含む。4mm大の黒色粒を1つ含む。	III a	
7	深鉢	口縁部	I7 [1号竪穴建物]	山形押型文、 ナデ	原体条痕、山形 押型文、ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、黒色粒、明褐色粒、角閃石を少し含む。	I Bb	
8	深鉢	口縁部	I7 [1号竪穴建物]	楕円押型文、 工具ナデ、 ナデ	楕円押型文、 ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	6mm以下のにぶい黄褐色粒をごくわずかに含む。5mm以下の褐色粒、灰褐色粒、灰黄褐色粒、赤褐色粒、灰白色粒、黒色粒を多く含む。	I Ab	
14	深鉢	口縁～ 胴部	L5 [2号竪穴建物]	山形押型文、 ナデ	原体条痕、 山形押型文、 ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6 にぶい黄橙 10YR7/3	5mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒色光沢粒、明赤褐色粒、浅黄褐色粒を含む。	I Bb	風化 気味
15	深鉢	口縁～底 部付近	L5 [2号竪穴建物]	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/8	3mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を多く含む。2mm以下の黒色光沢粒、6mm以下のにぶい赤褐色粒を少し含む。	I Ab	黒斑 あり
16	深鉢	口縁部	L5 [2号竪穴建物]	繊維痕、ナデ、 押圧刻み	繊維痕、ナデ	明褐 7.5YR5/6	橙5YR6/8	5mm以下のにぶい赤褐色粒、1mm以下の角閃石を多く含む。2mm以下の黒色粒、微細な透明光沢粒を少し含む。	III b	穿孔 あり
17	深鉢	口縁部	L5 [2号竪穴建物]	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 楕円押型文	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒、にぶい赤褐色粒、浅黄褐色粒、橙色粒を含む。	I Ab	黒斑 あり
18	深鉢	口縁～ 胴部	L5 [2号竪穴建物]	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、原 体条痕、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	明褐 7.5YR5/6	7mm以下の灰白色粒、橙色粒、黒褐色粒を多く含む。2mm以下の黄褐色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を少し含む。	I Ab	
19	深鉢	口縁部	L5 [2号竪穴建物]	こぶ状突起、 ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	橙5YR6/6	6mm以下の明黄褐色粒を少し含む。10mm以下のにぶい褐色粒、2mm以下の褐灰色粒、角閃石、1mm以下の透明光沢粒を含む。	III a	

第5表 竪穴建物跡出土土器観察表②

掲載 番号	器 種	部 位	出土地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
20	深鉢	口縁部	L5 [2号竪穴建物]	ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6 明赤褐 2.5YR5/8	4mm以下の明黄褐色粒、3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の明赤褐色粒を少し含む。	IIIa	

第6表 竪穴建物跡及び平地式建物跡出土土器計測表

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
9	石鏃	チャート	1号竪穴建物	VI	1.9	1.6	0.3	1.1	I B
10	石鏃	チャート	1号竪穴建物	VI	1.9	2.1	0.4	1.4	IVAb
11	石鏃	チャート	1号竪穴建物	VI	2.3	1.4	0.4	0.6	IVBa
12	石核	流紋岩	1号竪穴建物	VI	6.7	5.3	3.5	97.1	
13	スクレイパー	頁岩	1号竪穴建物	VI	7.5	6.2	1.5	79.7	
21	石鏃	チャート	2号竪穴建物	VI	3	1.9	0.8	3.8	I B
22	石鏃	流紋岩	2号竪穴建物	VI	2.5	2.4	0.5	2.8	II A
23	石鏃	チャート	2号竪穴建物	VI	1.7	1.1	0.3	0.3	IVBa
24	石鏃	安山岩	2号竪穴建物	VI	2.4	-1.3	0.4	0.7	IVBc
25	石鏃	チャート	2号竪穴建物	VI	2.5	1.6	0.4	1	IVBc
26	異形石器	チャート	2号竪穴建物	VI	2.6	1.2	0.3	0.9	
27	石鏃	チャート	平地式建物	VI	1.6	2.2	0.4	1	II A

(3) 集石遺構

本遺跡では、礫が散漫に分布している範囲を散礫、礫が密集している箇所を集石遺構とした。散礫は調査区西端、尾根付近、農道から南側斜面の中腹周辺で確認され、その礫を除去したことにより礫の集中域を確認し、集石遺構と認定できたものも多く存在した。また、集石遺構を掘り進めるにあたり、構成礫とは異なる形状と大きさを持ち、人為的に配置したと認識できる礫を配石とした。切り合いのある集石遺構に関しては、掘り込みの数で遺構数を判断した。

こうした基準を設けた結果、集石遺構と認定できるものは71基に上る。その多くは掘り込みを有する。配石を有するものは53基確認できた。そこで、掘り込み・配石の有無で大分類を行った。

I類：掘り込み・配石を持たないもの

II類：掘り込みを持ち、配石を持たないもの

III類：掘り込みを持ち、配石を持つもの

また、配石の残存状態にも差が見られたため、「配石の配置」の観点から以下を中分類とした。

A類：配石の置き方が疎らなもの

B類：配石の置き方が整然としているもの

さらに、配石と掘り込みの床面にレベル差のあるものが21基確認されたため、以下を小分類とした。

a類：配石と掘り込みの床面にレベル差のないもの

b類：配石と掘り込みの床面にレベル差のあるもの

c類：配石と掘り込みの床面の間に構成礫を有するもの

その結果、各類基数は次の通りとなった。()内は集石遺構全基数に対する割合を示す。

I類…6基(約7.9%)、II類…19基(約25.0%)

III Aa類…24基(約31.6%)、III Ab類…13基(約17.1%)、III Ac類…4基(約5.3%)

III Ba類…6基(約7.9%)、III Bb類…2基(約2.6%)、III Bc類…2基(約2.6%)

配石のあるものの多くは円形、もしくは楕円形の掘り込みを有する。掘り込みの深さは、残存する配石の最上部から底部までとし、配石のないものについては、上端と下端の距離を深さとした。石材は、砂岩や千枚岩、千枚岩質の頁岩、溶結凝灰岩が用いられていた。集石遺構の大きさについては礫の広がりを示すために、その直径は構成礫の両端間とした。また、掘り込みの直径については配石のあるものは配石の両端間、配石のないもの又は配石が疎らなものは掘り込みの上端の両端間とした。これらの測定値は、一覧として集石遺構観察表（第7～9表）に示した。ここでは、Ⅲ Bc類と命名した配石の置き方が整然としており、配石と掘り込みの床面の間に構成礫を有するものを取り上げ、以下に述べる。

Ⅲ Bc類

18号集石はI7グリッドに位置する。全て赤化した配石の下部に10cm～15cm程度の小礫が入る。配石はほぼ溶結凝灰岩であるのに対し、下部の小礫は様々な石材の角礫が使用されており、円礫は極めて少ない。配石下部に炭化物を多く含むことから、同一遺構内で2層構造をとると考えられる。遺構内より出土した炭化物に対し、AMS法による放射性炭素年代測定を行ったところ cal-BC7380-7180(84.0%)の暦年代が得られている。

46号集石はMグリッドに位置する。構成礫は極めて密度が高く、下部まで存在する。配石はほとんど溶結凝灰岩であるが、上部の配石は中央を囲むように並んでおり、その直上及び直下から炭化物が確認された。また、下部の配石の北側下に炭化物、南側下には礫が確認され、本遺構は複数回にわたって、再構築された可能性がある。遺構内より出土した炭化材について、AMS法放射性炭素年代測定を行ったところ、上部構成礫付近で cal-BC7960-7720(95.4%)、下部配石直上で cal-BC7960-7740(95.4%)の暦年代が得られている。

集石遺構に伴う遺物（第31、32図：28～45）

集石遺構（2号、4～12号、15～17号、18号、19号、23号、33号、41号、48号49号、51号52号、54号、55号、63号、67号、70号72号、76号）内より縄文時代早期の土器片、石鏃、敲石等が多数出土した。土器片の多くは押型文土器であった。土器14点、石器3点を図化した。

28～32は9号集石より出土した。28～30は口縁部で、28は外面に山形押型文、内面は口縁端部に原体条痕、口縁下部に山形押型文が施されている。29、30は無文土器で、30は外面に繊維痕を残す。31は楕円押型文、32は貝殻条痕文の胴部である。

33は12号集石より出土した口縁～胴部で、縄文が施されている。

34、35は15号集石より出土した。34は口縁～胴部で、外面は撚糸文、内面は横位の楕円押型文が施され、穿孔をもつ。35は外面に縄文の施された口縁部である。

36は18号集石より出土した胴部片である。外面に山形押型文が施される。内面に繊維痕が見られる。

37は51号集石より出土した。外面に楕円押型文が施されている。

38は55号集石より出土した口縁部で、口唇部に斜方向の押圧刻目が施されている。

39は58号集石より出土した口縁部である。外面に山形押型文、内面は口縁端部に原体条痕、口縁下部に山形押型文が施されている。

40、42は76号集石より出土した。40は胴部で、外面上部に綾杉状の短沈線文、下部に横位の貝殻腹縁刺突文、内面はミガキが施されている。41は比較的大きな口縁～胴部片で、外面、内面に山形押型文が施されている。内面の口縁端部に原体条痕が施されている。42は胴部である。41は76号集石

より出土したものではないが、同一個体であるためにここに掲載している。

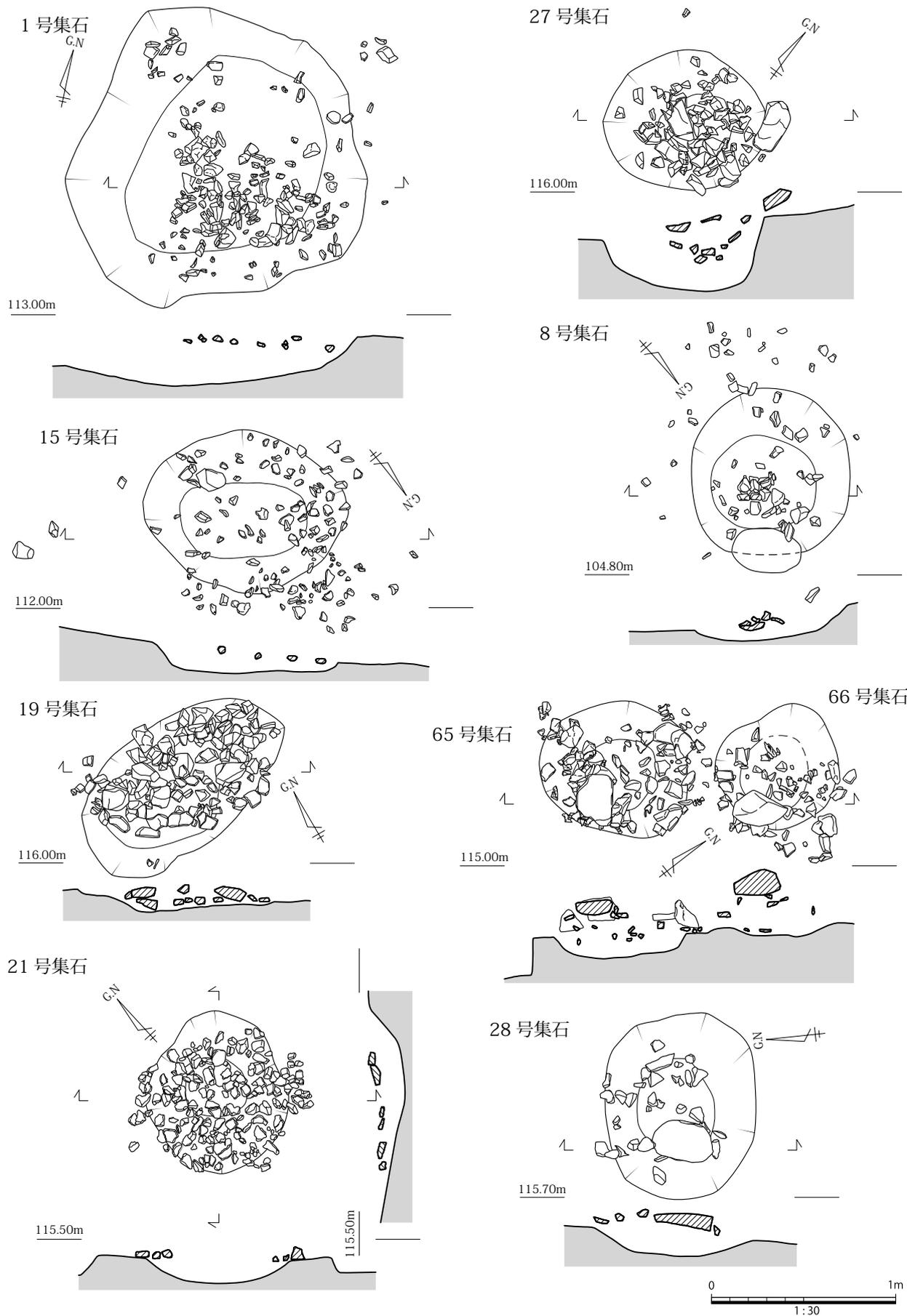
43は12号集石より出土した石鏃で、いわゆる鍬形鏃である。

44、45は58号集石より出土した。44は石鏃で、断面形が薄く、表裏両面に素材剥片の主要剥離面を残す。45は砂岩製の敲石である。

第10表 集石遺構出土土器観察表

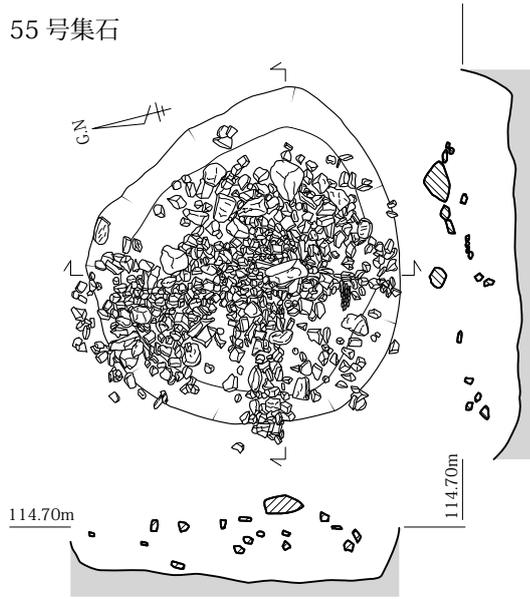


第18図 集石遺構実測図(1) (分類I)



第19図 集石遺構実測図(2) (分類II)

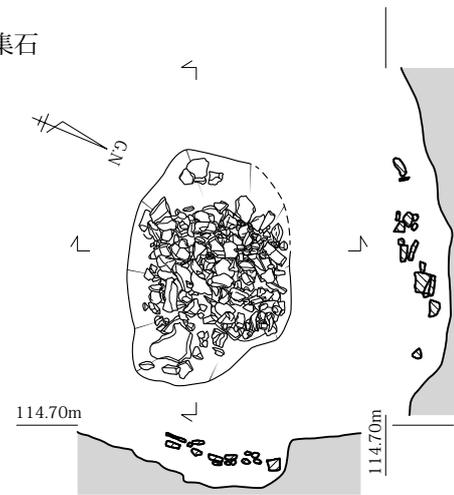
55号集石



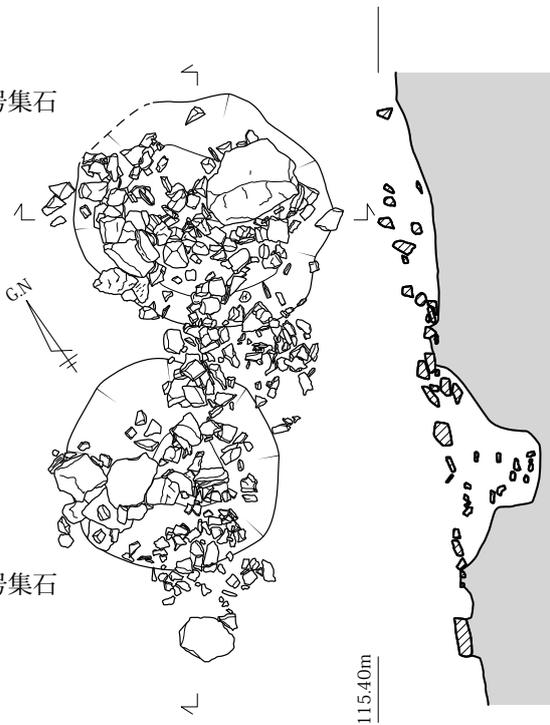
72号集石



74号集石



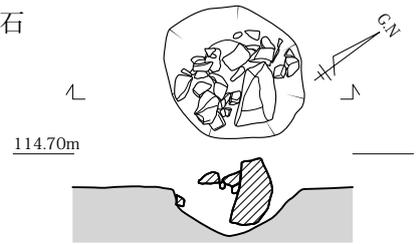
63号集石



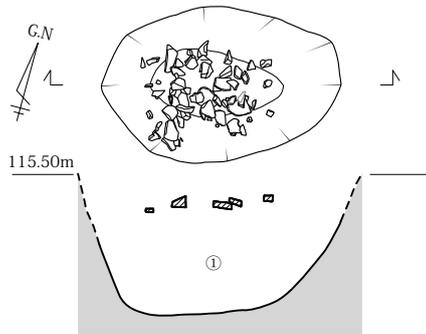
64号集石



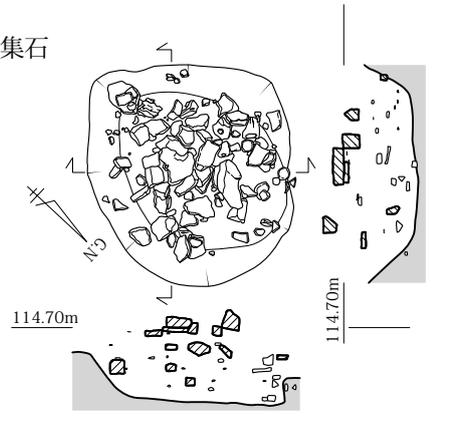
71号集石



62号集石



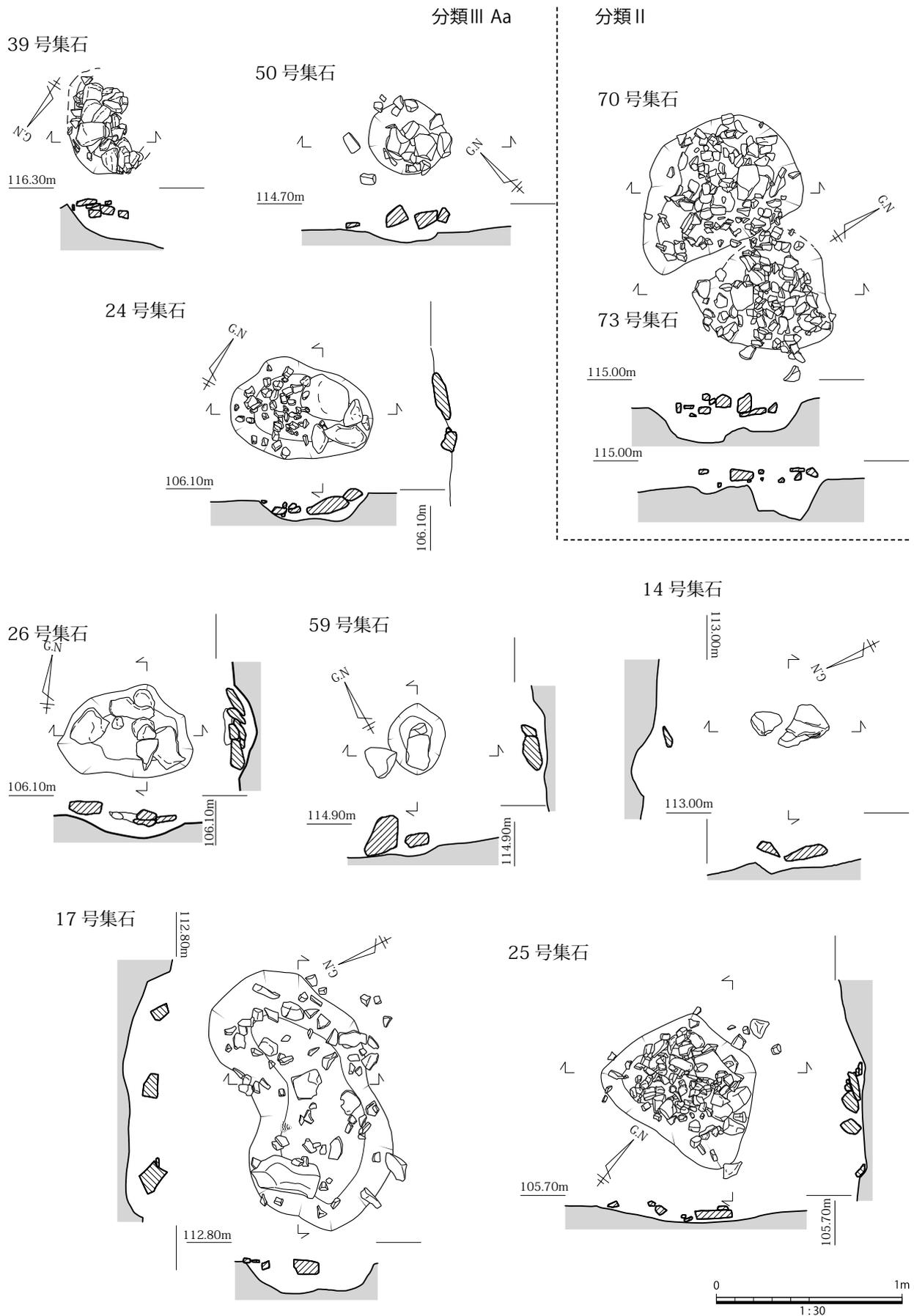
48号集石



① 黒褐色土 炭化物を少量含む。

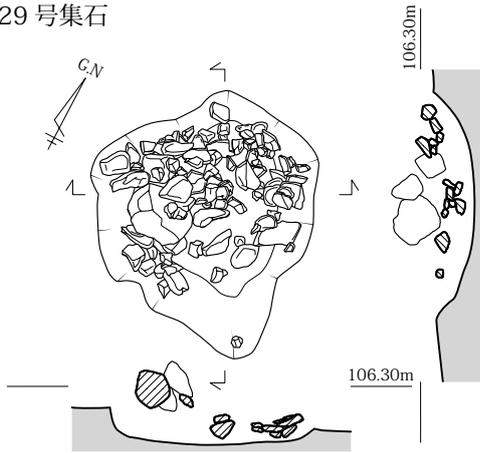


第 20 図 集石遺構実測図 (3) (分類Ⅱ)

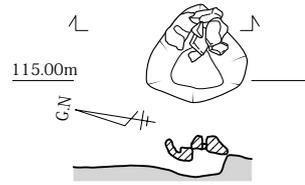


第 21 図 集石遺構実測図 (4) (分類 II・III Aa)

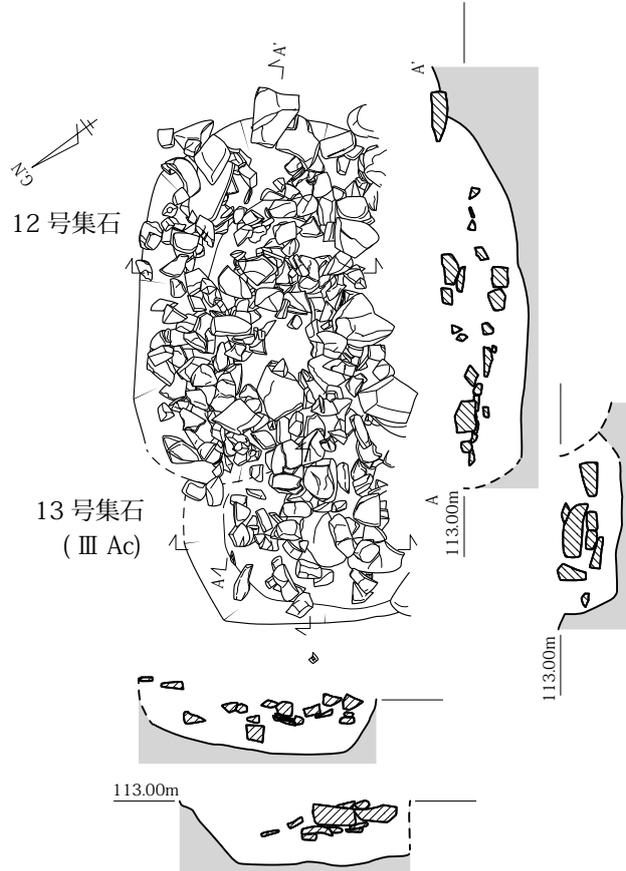
29号集石



69号集石

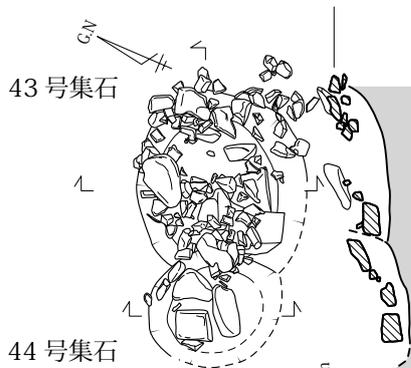


12号集石

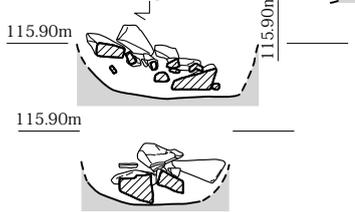


13号集石
(Ⅲ Ac)

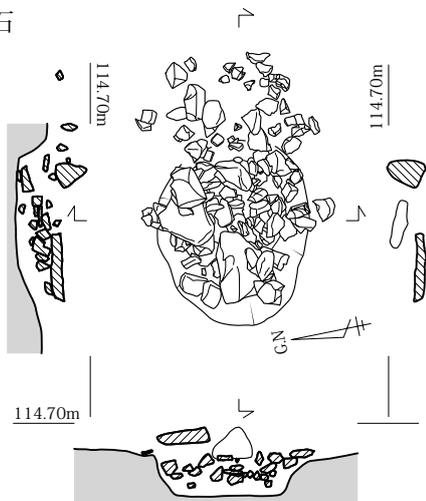
43号集石



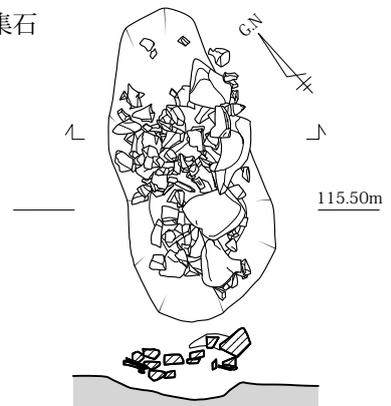
44号集石



56号集石

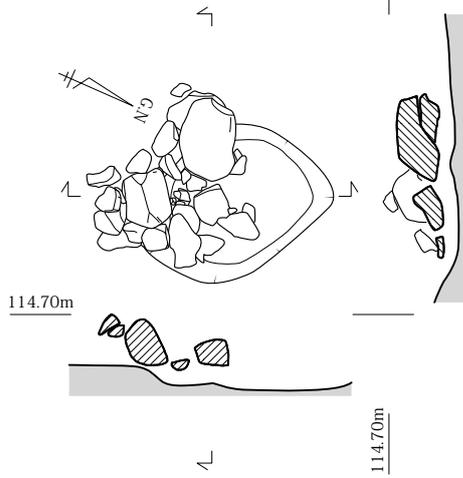


35号集石

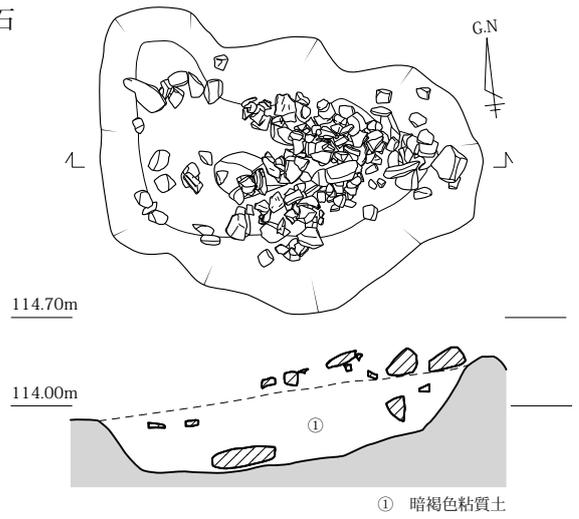


第22図 集石遺構実測図(5) (分類Ⅲ Aa)

52号集石

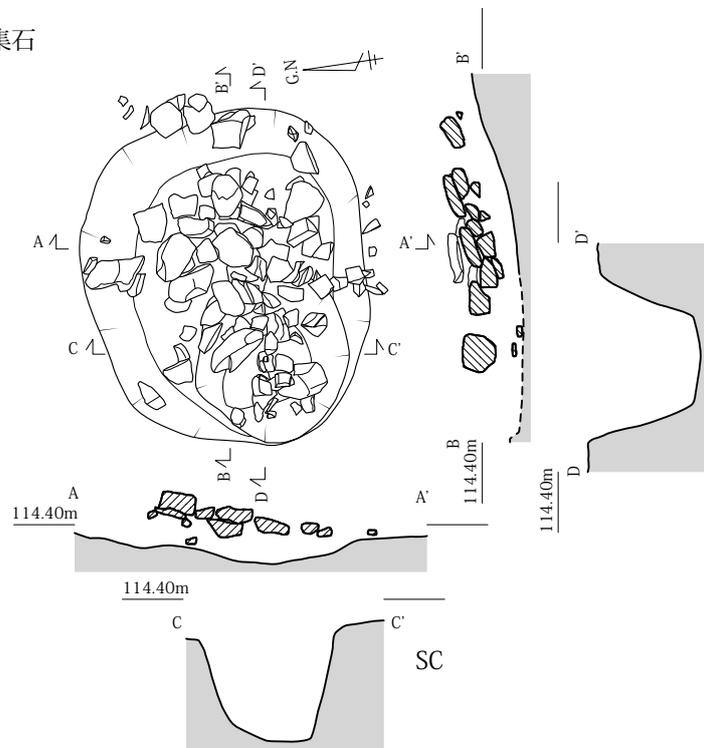


61号集石



① 暗褐色粘質土

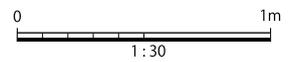
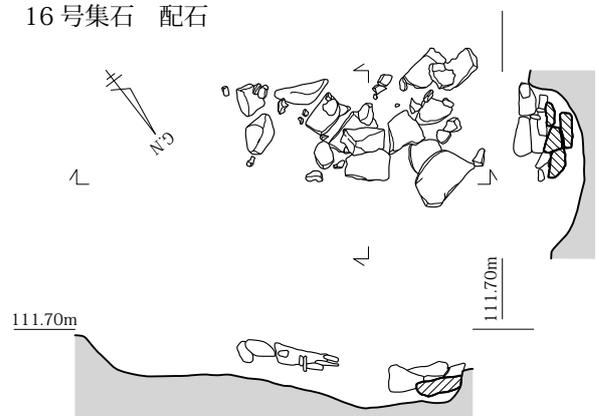
51号集石



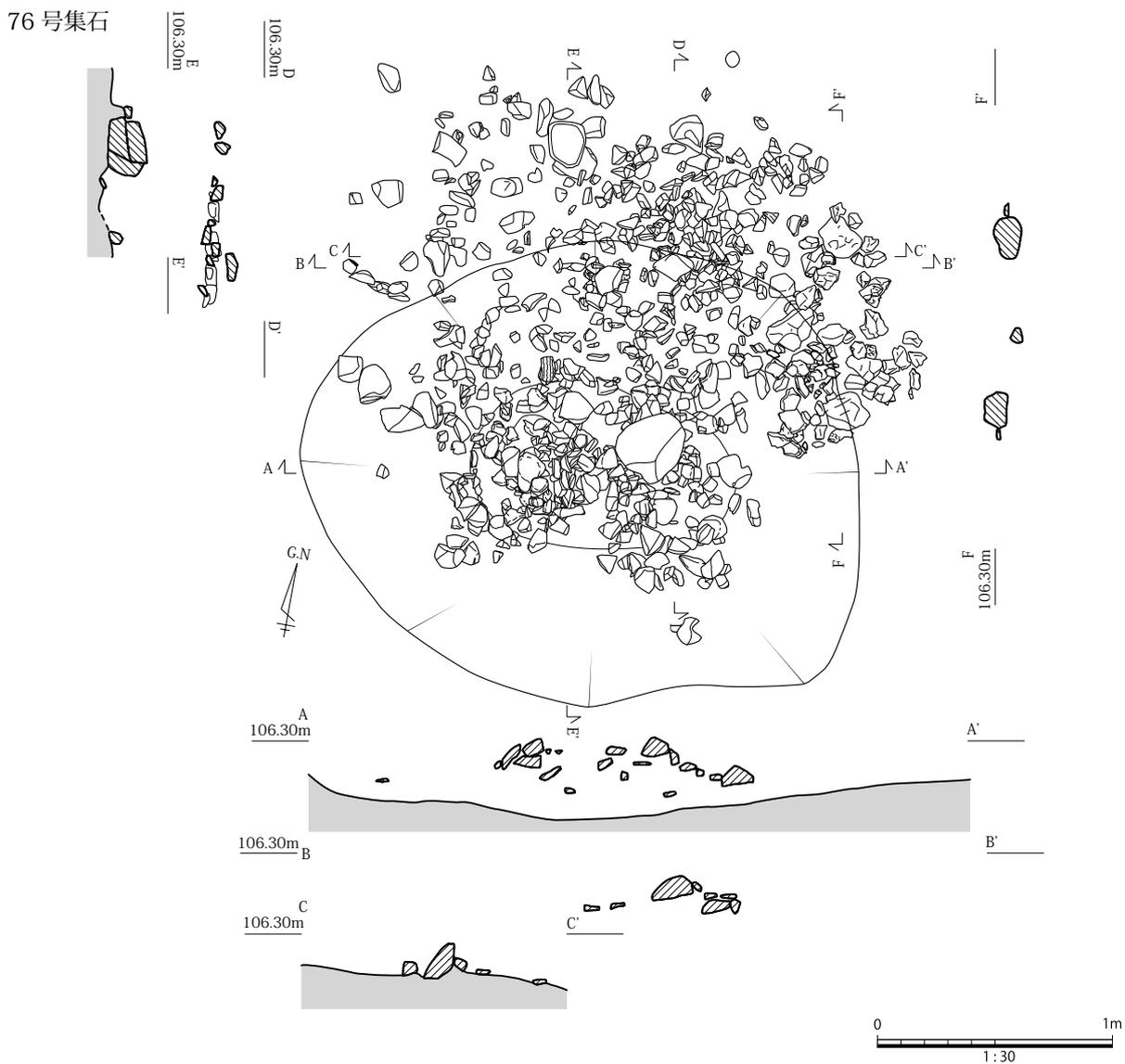
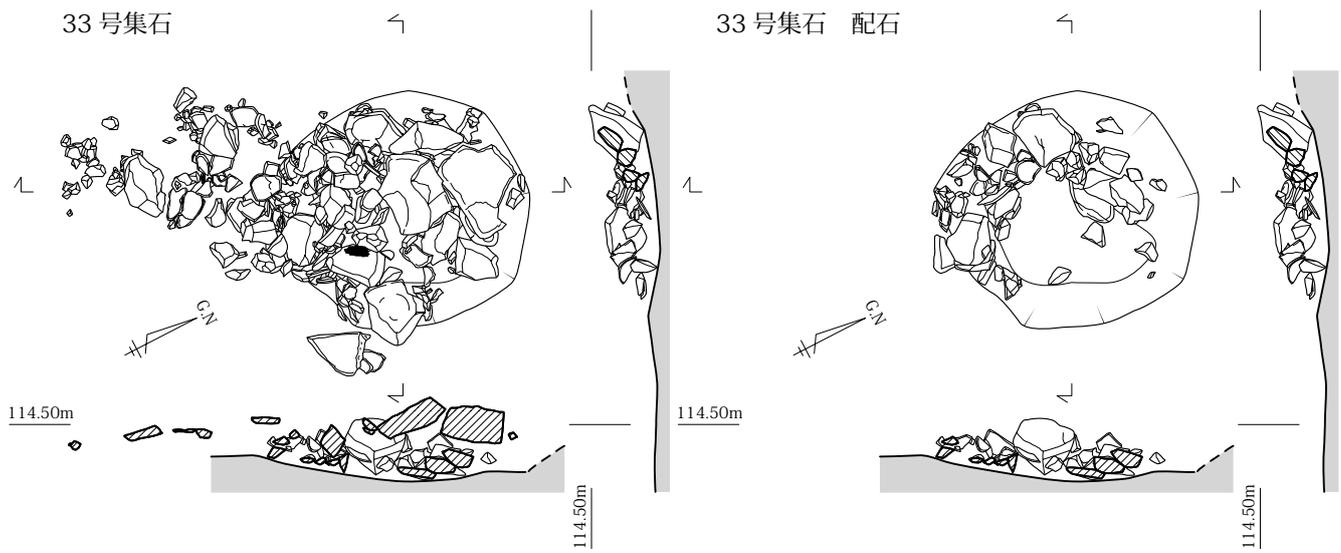
16号集石



16号集石 配石

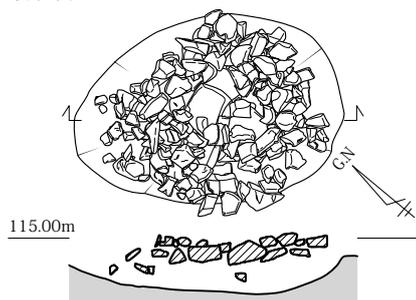


第23図 集石遺構実測図(6) (分類III Aa)

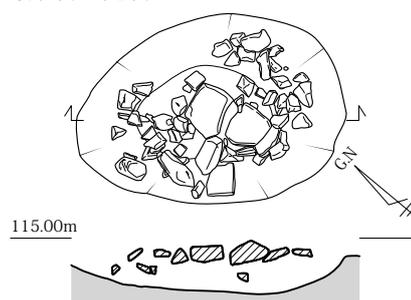


第 24 図 集石遺構実測図 (7) (分類Ⅲ Aa)

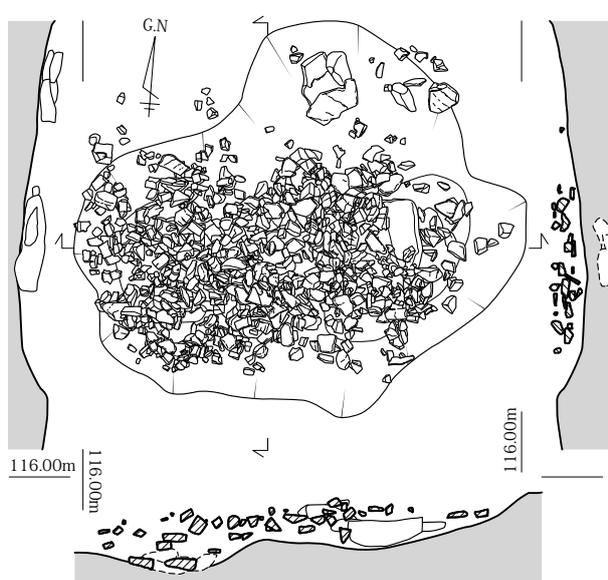
32号集石



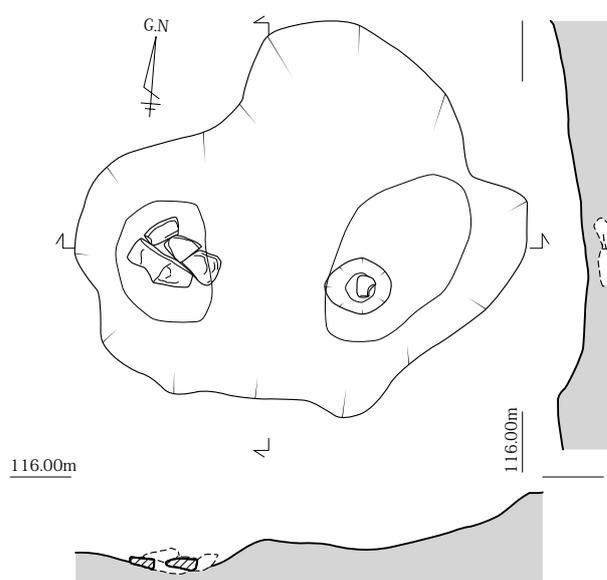
32号集石 配石



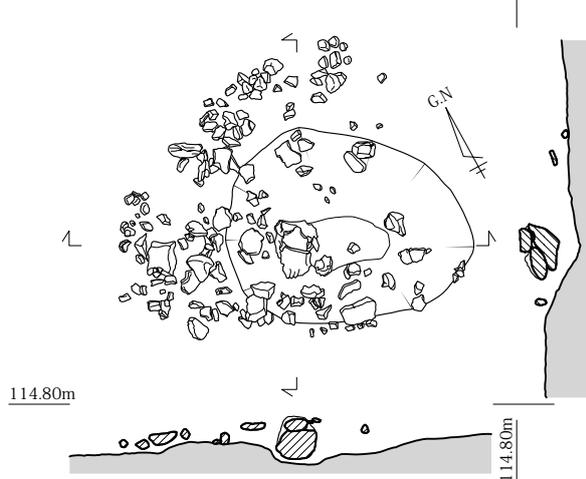
42号集石



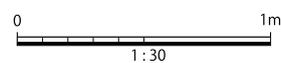
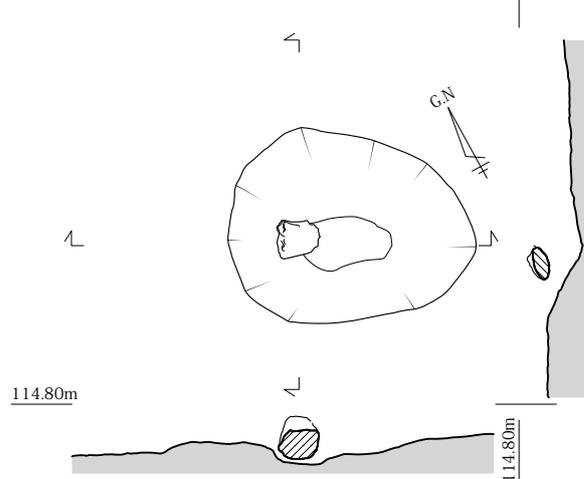
42号集石 配石



57号集石

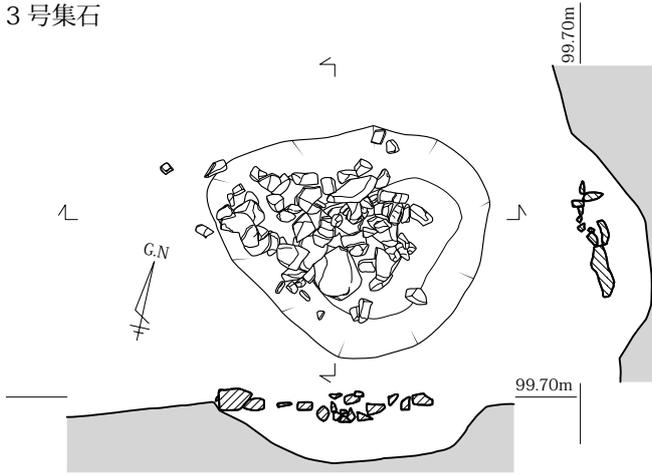


57号集石 配石

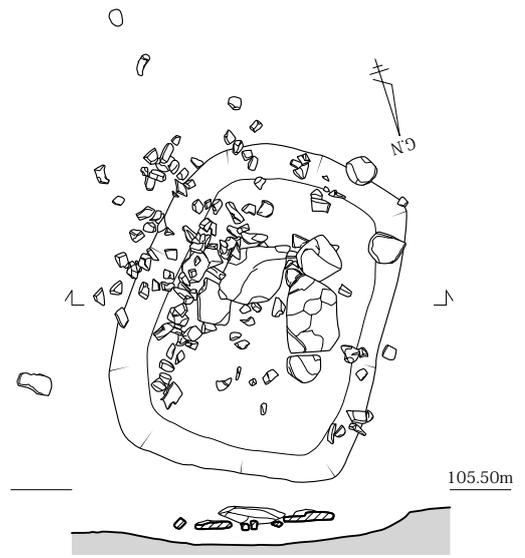


第 25 図 集石遺構実測図 (8) (分類Ⅲ Aa)

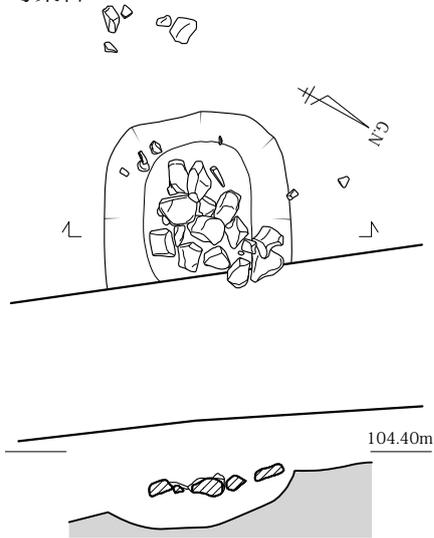
3号集石



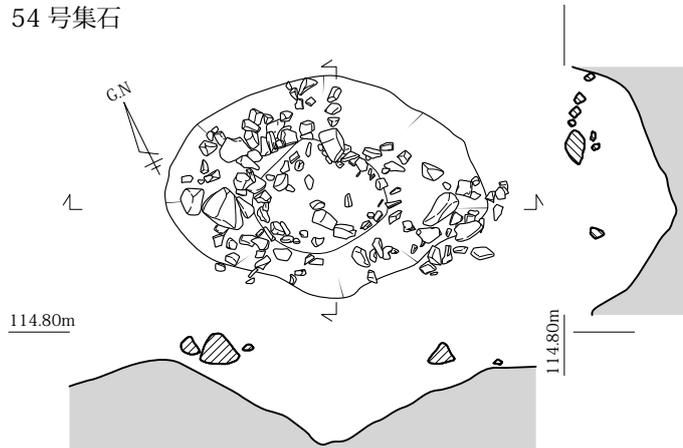
7号集石



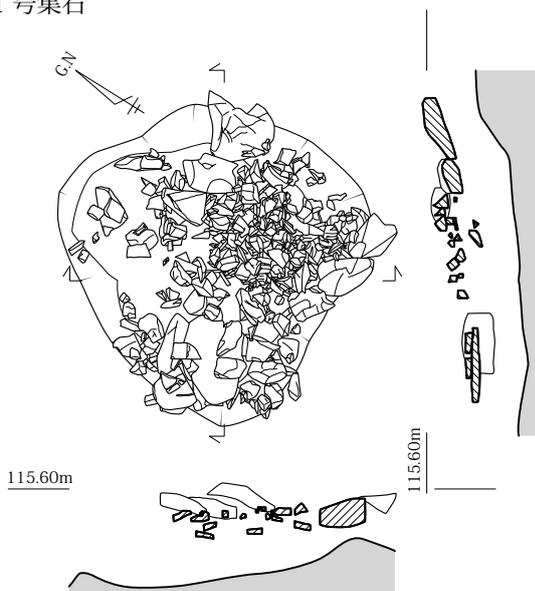
4号集石



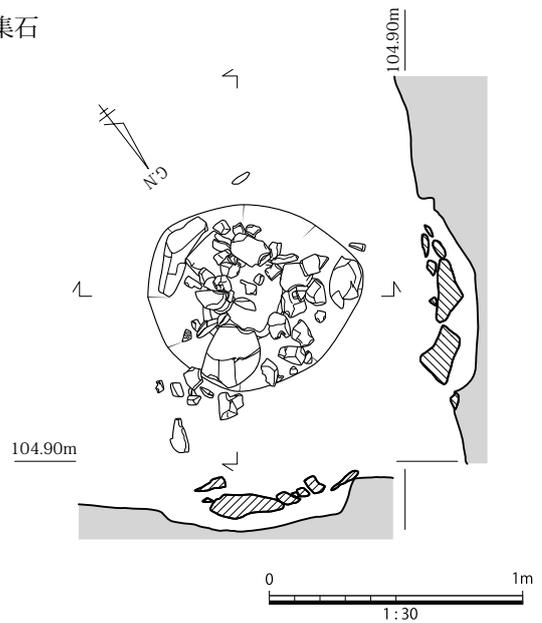
54号集石



41号集石

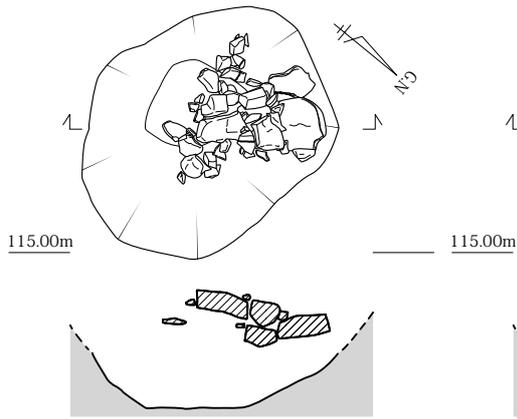


6号集石

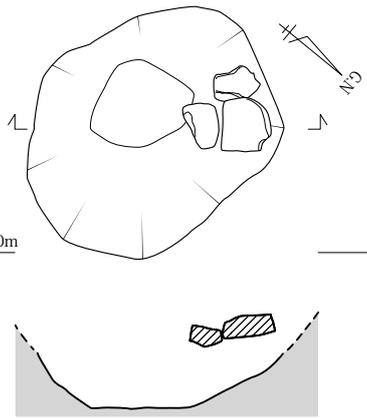


第 26 図 集石遺構実測図 (9) (分類 III Ab)

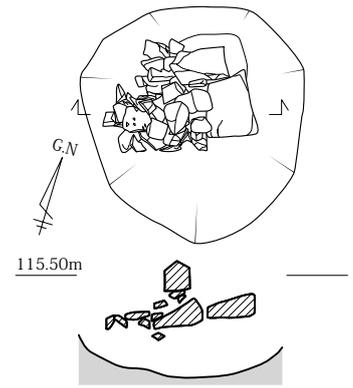
49号集石



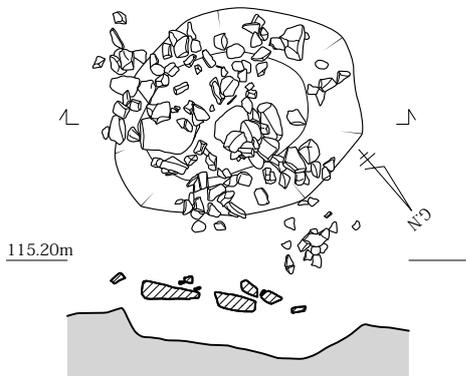
49号集石 配石



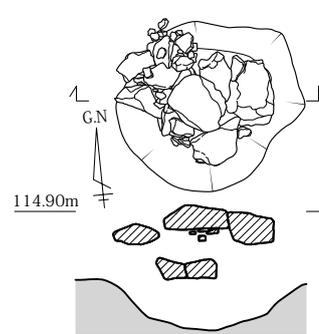
47号集石



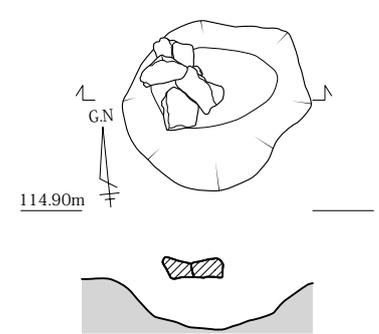
67号集石



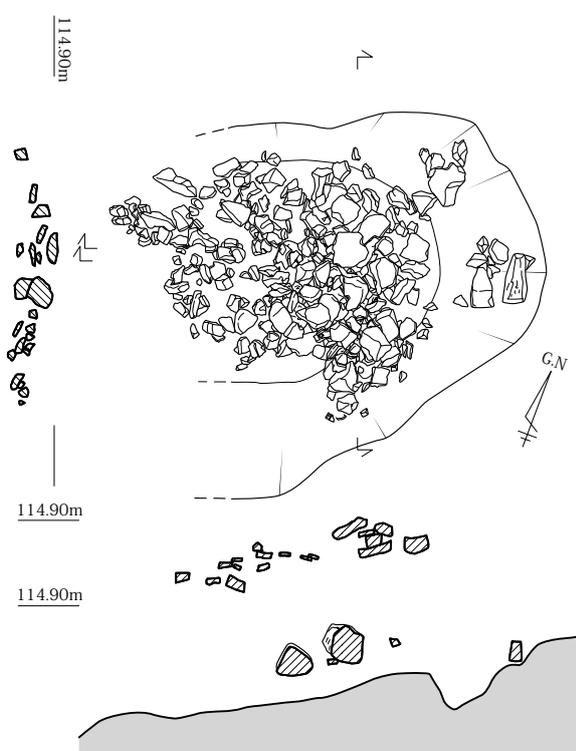
30号集石



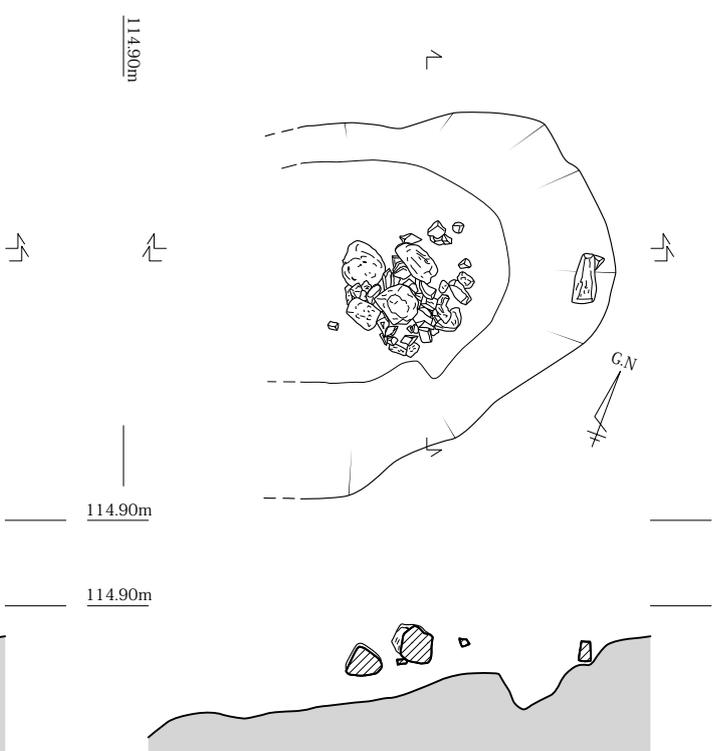
30号集石 配石



58号集石

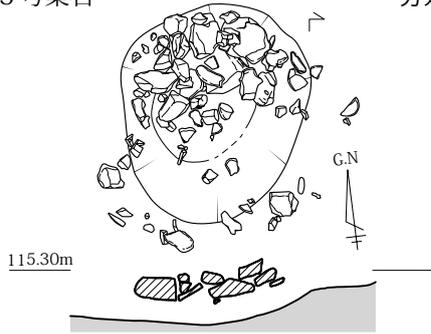


58号集石 配石



第 27 図 集石遺構実測図 (10) (分類Ⅲ Ab)

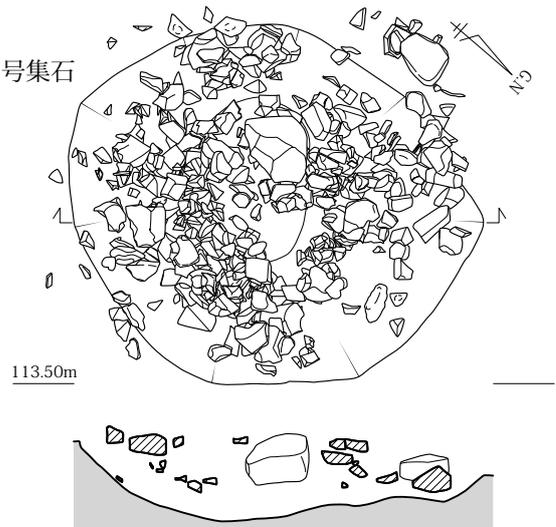
23号集石



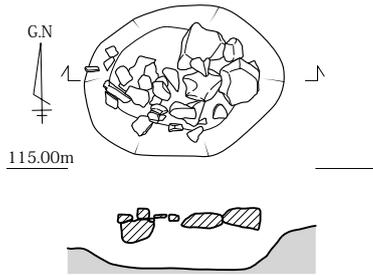
分類III Ab

分類III Ac

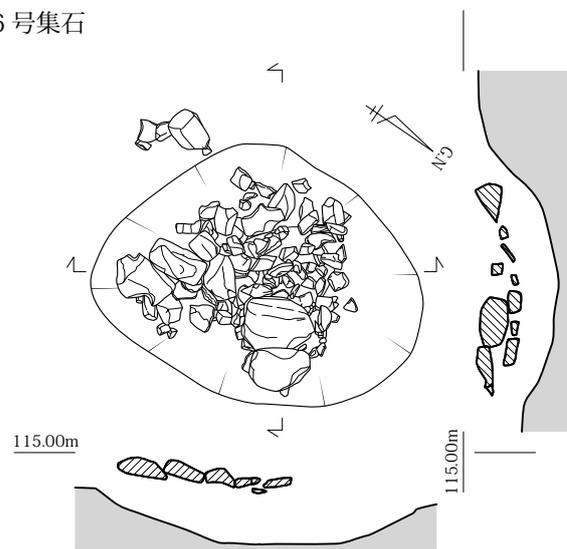
11号集石



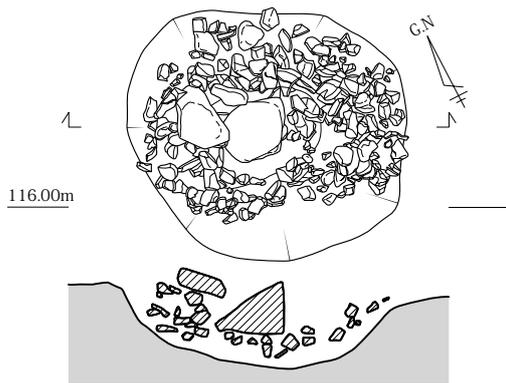
68号集石



36号集石

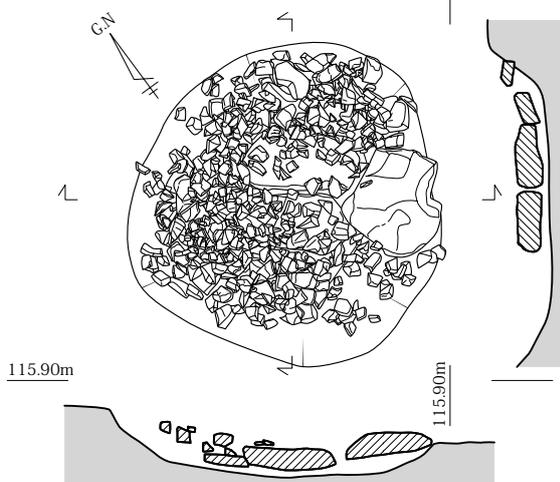


20号集石

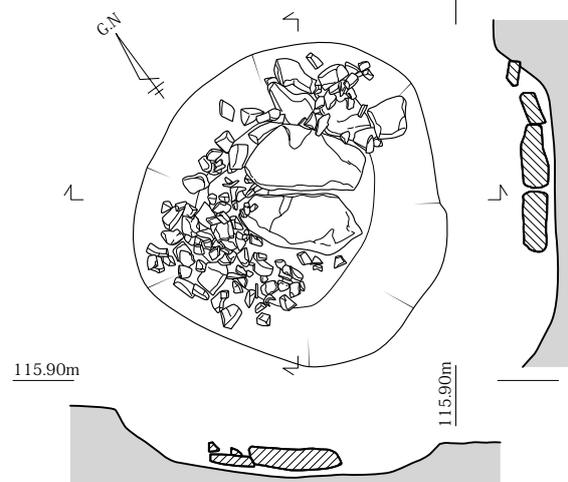


分類III Ba

22号集石

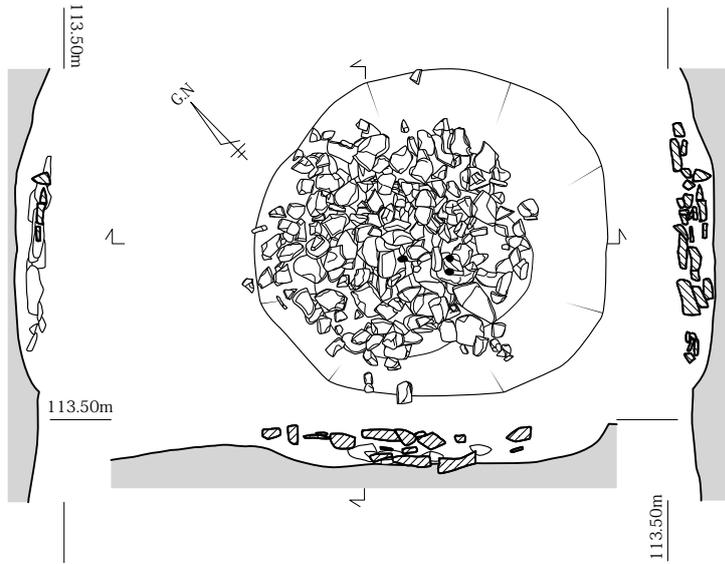


22号集石 配石

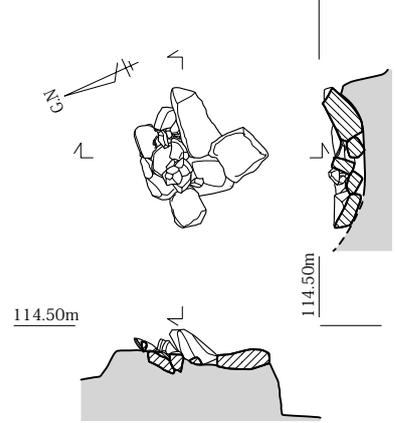


第 28 図 集石遺構実測図(11) (分類III Ab・III Ac・III Ba)

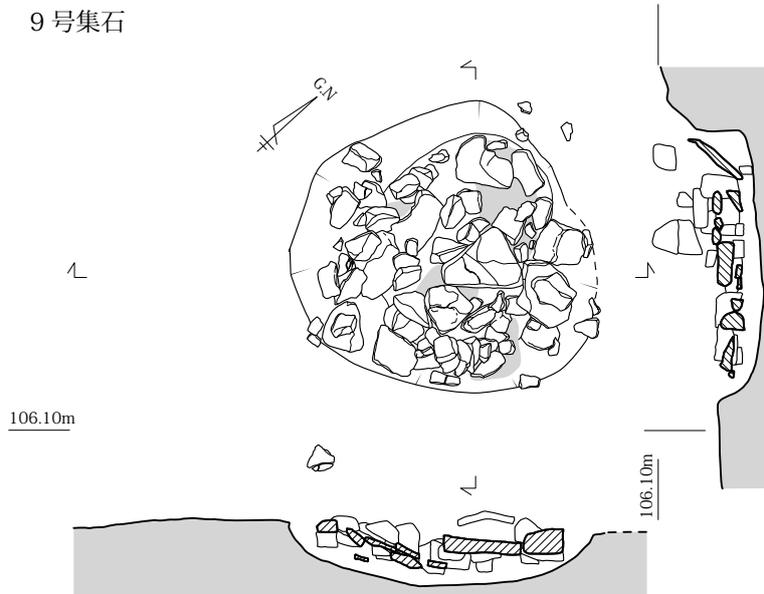
2号集石



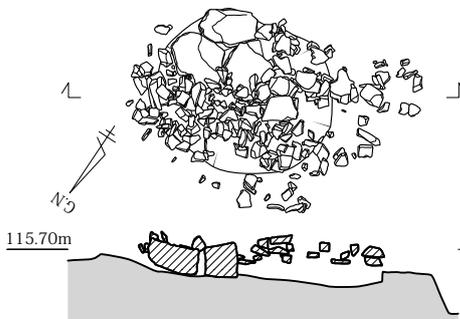
34号集石



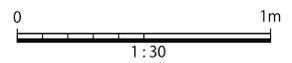
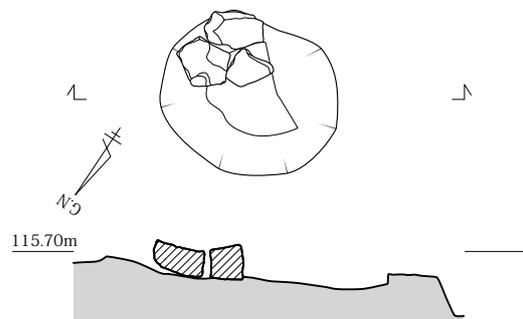
9号集石



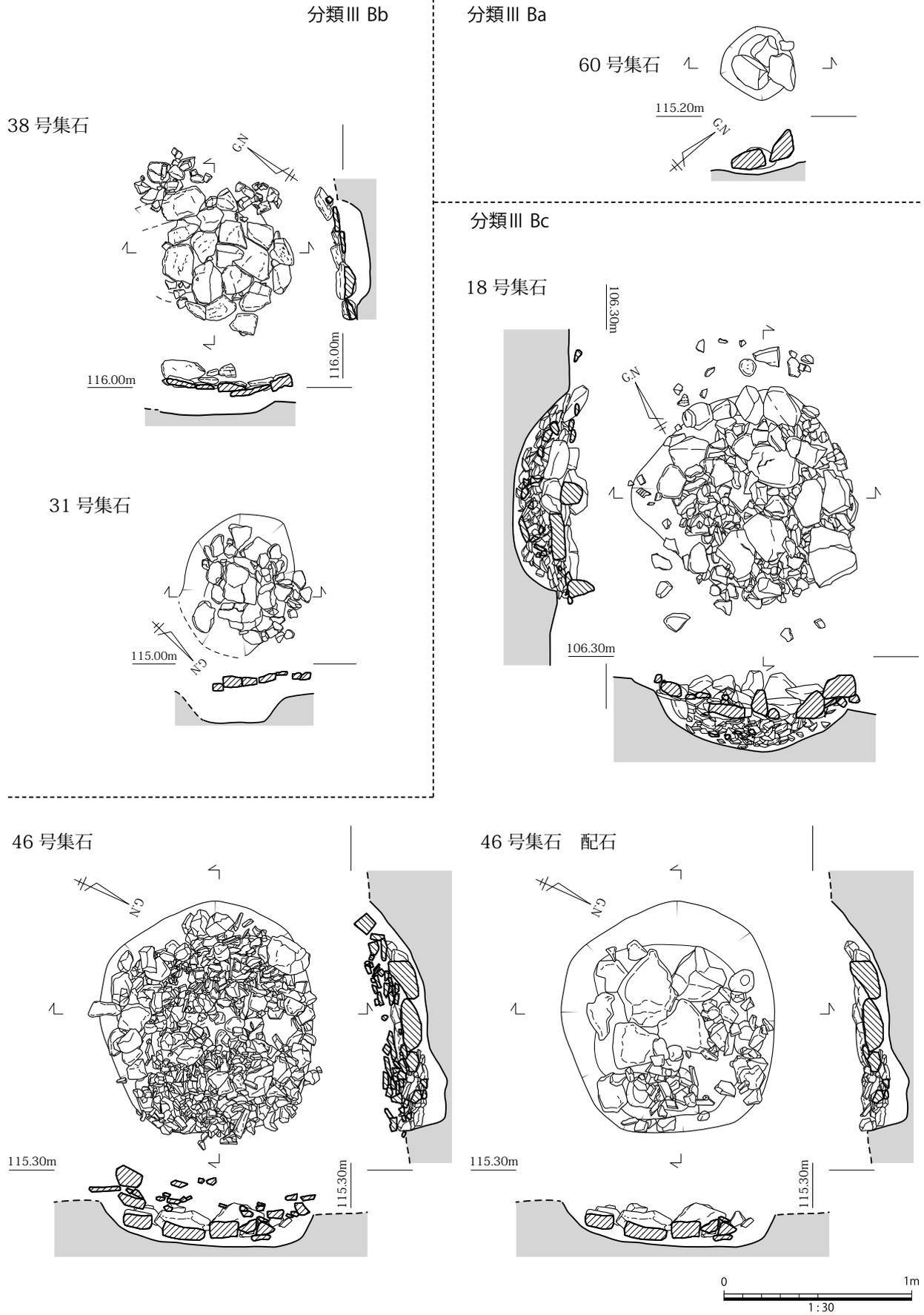
40号集石



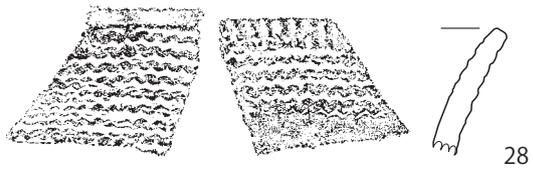
40号集石 配石



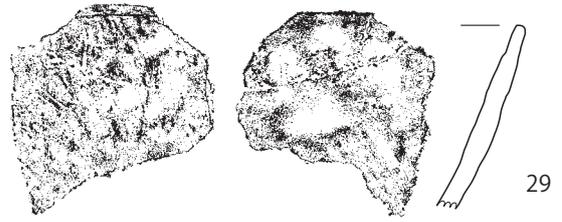
第 29 図 集石遺構実測図 (12) (分類Ⅲ Ba)



第 30 図 集石遺構実測図 (13) (分類III Ba・III Bb・III Bc)



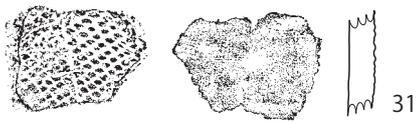
28



29



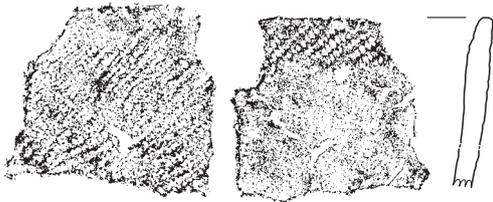
30



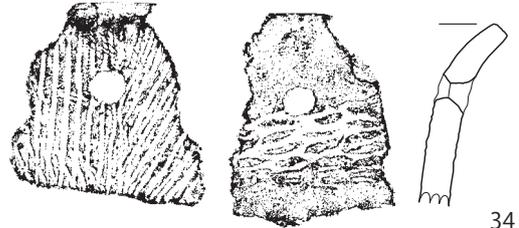
31



32



33



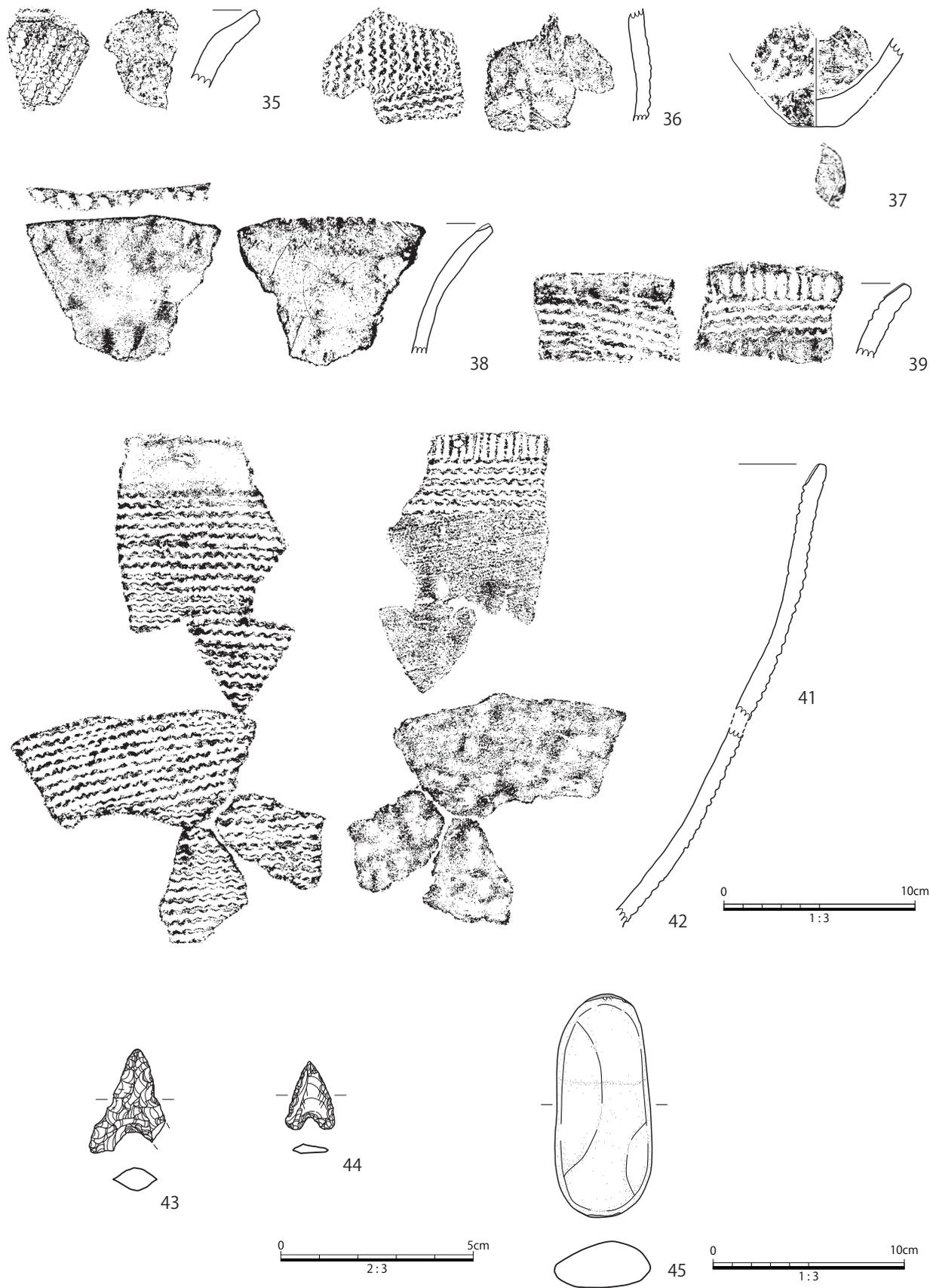
34



40



第 31 図 集石遺構出土遺物実測図 (1)



第 32 図 集石遺構出土遺物実測図 (2)

第7表 集石遺構一覧表①

遺構名	検出位置 (Gr.)	礫の範囲(m) 長軸×短軸	掘り込み(m) 最大長×最大幅×深さ	掘り込み形状 (平面プラン)	配石	炭化物	分類	自然科学分析/出土遺物
1号集石	O5	1.70 × 1.57	1.18 × 0.95 × 0.25	皿(円形)	-	○	II	
2号集石	O4	1.15 × 1.10	1.39 × 1.30 × 0.17	皿(円形)	○	-	III Ba	土器片
3号集石	E9	1.18 × 0.77	1.10 × 0.95 × 0.24	皿(楕円形)	○	-	III Ab	
4号集石	G7	1.24 × 0.80	(0.70) × 0.75 × 0.24	皿(不明)	○	-	III Ab	土器片
5号集石	G7	2.50 × (1.5)	-	-	-	-	I	土器片
6号集石	H8	1.12 × 0.81	0.85 × 0.75 × 0.24	皿(円形)	○	○	III Ab	土器片
7号集石	H7	1.70 × 1.50	1.35 × 1.06 × 0.14	皿(長方形)	○	-	III Ab	土器片
8号集石	H8	1.53 × 1.50	0.91 × 0.86 × 0.20	皿(円形)	-	-	II	土器片
9号集石	H7	1.16 × 1.07	1.20 × 1.15 × 0.36	皿(円形)	○	○	III Ba	土器(28~32) 放射性炭素年代測定No.4
10号集石	P4	2.02 × 1.74	-	-	-	-	I	土器片
11号集石	P5	1.65 × 1.44	1.60 × 1.44 × 0.36	皿(円形)	○	微少	III Ac	土器片
12号集石	P5	1.48 × (0.96)	1.45 × (0.98) × 0.34	皿(不明)	○	○	III Aa	石鏃(43)、土器(33)
13号集石	P5	(0.68) × (0.65)	(0.84) × (0.64) × 0.24	逆台形(不明)	○	○	III Ac	
14号集石	O4	0.42 × 0.24	(0.57) × (0.6) × (0.15)	皿(不明)	○	微少	III Aa	
15号集石	O4	2.20 × 1.11	1.10 × 0.89 × 0.16	皿(楕円形)	-	-	II	土器(34、35)
16号集石	O4	1.63 × 0.84	1.41 × 0.66 × 0.16	皿(不明)	○	-	III Aa	土器片
17号集石	P5	1.33 × 0.99	1.31 × 0.75 × 0.26	皿(楕円形)	○	-	III Aa	土器片
18号集石	I7	1.55 × 11.1	1.18 × 1.09 × 0.40	皿(円形)	○	○	III Bc	土器(36) 放射性炭素年代測定No.5
19号集石	K5	1.09 × 0.81	1.24 × 0.70 × 0.13	皿(楕円形)	-	○	II	土器片
20号集石	K5	1.07 × 0.85	1.10 × 1.00 × 0.34	皿(円形)	○	微少	III Ac	
21号集石	L5	1.00 × 0.80	0.89 × 0.79 × 1.18	皿(楕円形)	-	-	II	
22号集石	K5	1.22 × 1.14	1.30 × 1.27 × 0.26	皿(円形)	○	微少	III Ba	
23号集石	L5	1.04 × 0.97	0.88 × 0.75 × 0.13	皿(楕円形)	○	-	III Ab	土器片
24号集石	H7	0.73 × 0.52	0.76 × 0.55 × 0.15	皿(楕円形)	○	微少	III Aa	
25号集石	H7	0.84 × 0.82	0.84 × 0.80 × 1.10	皿(台形)	○	微少	III Aa	
26号集石	I7	0.62 × 0.45	0.73 × 0.50 × 0.13	皿(楕円形)	○	-	III Aa	
27号集石	L4	1.00 × 0.95	0.58 × 0.76 × 0.45	皿(楕円形)	-	○	II	
28号集石	L4	0.79 × 0.73	1.02 × 0.82 × 0.13	皿(楕円形)	-	微少	II	
29号集石	I7	0.99 × 0.83	1.06 × 0.89 × 0.13	皿(不定形)	○	○	III Aa	
30号集石	M5	0.63 × 0.61	0.75 × 0.66 × 0.17	皿(円形)	○	-	III Ab	
31号集石	M5	0.68 × 0.67	0.81 × 0.61 × 0.13	逆台形(楕円形)	○	-	III Bb	
32号集石	M5	0.93 × 0.84	1.08 × 0.76 × 0.11	皿(楕円形)	○	微少	III Aa	
33号集石	M5	1.83 × 1.17	0.94 × 1.04 × 0.24	皿(円形)	○	○	III Aa	土器片
34号集石	M5	0.57 × 0.53	0.34 × 0.29 × 0.04	皿(不明)	○	-	III Ba	
35号集石	M5	1.05 × 0.55	1.24 × 0.56 × 0.10	皿(楕円形)	○	微少	III Aa	

第8表 集石遺構一覧表②

遺構名	検出位置 (Gr.)	礫の範囲 (m) 長軸×短軸	掘り込み (m) 最大長×最大幅×深さ	掘り込み形状 (平面プラン)	配石	炭化物	分類	自然科学分析/出土遺物
36号集石	M4	0.96 × 0.92	1.32 × 1.03 × 0.27	皿 (楕円形)	○	微少	III Ac	
37号集石	L4	0.67 × 0.66	-	-	-	-	I	
38号集石	L4	0.95 × 0.79	0.60 × 0.55 × 0.18	皿 (不明)	○	-	III Bb	
39号集石	L4	0.52 × 0.40	0.55 × 0.40 × 0.23	皿 (不明)	○	微少	III Aa	
40号集石	L4	1.16 × 0.83	0.69 × 0.66 × 0.13	皿 (円形)	○	微少	III Ba	
41号集石	L4	1.30 × 1.29	1.28 × 1.23 × 0.19	皿 (円形)	○	-	III Ab	土器片
42号集石	L4	1.29 × 1.07	1.57 × 1.12 × 0.12	皿 (不定形)	○	-	III Aa	放射性炭素年代測定No. 6
43号集石	L4	0.65 × 0.75	(0.63) × 0.67 × 0.20	逆台形 (楕円形)	○	微少	III Aa	
44号集石	L4	(0.53) × (0.36)	(0.56) × (0.46) × (0.18)	不明 (不明)	○	-	III Aa	
45号集石	L4	0.55 × 0.51	-	-	-	-	I	
46号集石	M4	1.29 × 1.12	1.24 × 1.15 × 0.24	皿 (円形)	○	○	III Bc	放射性炭素年代測定No. 7、No. 8
47号集石	L4	0.64 × 0.46	0.94 × 0.86 × 0.19	皿 (楕円形)	○	微少	III Ab	
48号集石	N5	0.76 × 0.72	0.88 × 0.80 × 0.21	逆台形 (円形)	-	-	II	土器片
49号集石	M5	0.64 × 0.59	0.97 × 0.96 × 0.27	皿 (楕円形)	○	-	III Ab	土器片
50号集石	M4	0.59 × 0.49	0.44 × 0.41 × 0.06	皿 (円形)	○	-	III Aa	
51号集石	N4	1.33 × 1.02	1.32 × 1.10 × 0.15	皿 (楕円形)	○	-	III Aa	下部に土坑。土器 (37)
52号集石	N4	0.74 × 0.66	0.70 × 0.53 × 0.08	皿 (楕円形)	○	微少	III Aa	土器片
53号集石	N4	0.82 × 0.51	-	-	-	-	I	
54号集石	M4	1.29 × 0.82	1.27 × 0.58 × 0.34	逆山形 (楕円形)	○	微少	III Ab	土器片
55号集石	M4	1.31 × 1.03	1.32 × 1.25 × 0.24	逆台形 (円形)	-	○	II	土器 (38)
56号集石	M4	1.00 × 0.76	0.74 × 0.60 × 0.16	逆台形 (楕円形)	○	-	III Aa	
57号集石	M4	1.37 × 1.18	0.97 × 0.78 × 0.15	皿 (楕円形)	○	-	III Aa	
58号集石	M4	1.71 × 1.20	1.71 × 1.05 × 0.30	不明 (不明)	○	-	III Ab	土器 (39)、石鏃 (44)、敲石 (45)
59号集石	M4	0.35 × 0.25	0.34 × 0.30 × 0.07	皿 (楕円形)	○	-	III Aa	
60号集石	M4	0.34 × 0.30	0.40 × 0.39 × 0.05	皿 (円形)	○	-	III Ba	
61号集石	M3	1.31 × 0.77	1.52 × 1.08 × 0.35	逆台形 (不定形)	-	-	III Aa	
62号集石	M4	0.52 × 0.42	0.95 × 0.64 × 0.35	逆台形 (楕円形)	-	○	II	放射性炭素年代測定No. 9
63号集石	M4	1.08 × 0.86	0.93 × 0.84 × 0.16	皿 (楕円形)	-	微少	II	土器片
64号集石	M4	1.16 × 0.99	0.79 × 0.70 × 0.10	逆山形 (円形)	-	-	II	
65号集石	M4	0.95 × 0.75	0.80 × 0.75 × 0.11	皿 (楕円形)	○	-	II	
66号集石	M4	0.85 × 0.80	0.68 × 0.67 × 0.07	皿 (円形)	○	-	II	
67号集石	M4	1.29 × 0.90	1.04 × 0.80 × 0.20	皿 (楕円形)	○	微少	III Ab	土器片
68号集石	M4	0.69 × 0.48	0.79 × 0.60 × 0.14	皿 (楕円形)	○	-	III Ab	
69号集石	M4	0.24 × 0.23	0.42 × 0.40 × 0.07	皿 (不定形)	○	-	III Aa	
70号集石	M4	0.90 × 0.73	0.99 × 0.81 × 0.20	皿 (台形)	-	-	II	土器片
71号集石	M4	0.50 × 0.39	0.61 × 0.50 × 0.20	逆山形 (楕円形)	-	-	II	

第9表 集石遺構一覧表③

遺構名	検出位置 (Gr.)	礫の範囲 (m) 長軸×短軸	掘り込み (m) 最大長×最大幅×深さ	掘り込み形状 (平面プラン)	配石	炭化物	分類	自然科学分析/出土遺物
72号集石	M4	0.89 × 0.85	(1.19) × 0.95 × 0.17	逆山形 (不明)	-	微少	II	土器片
73号集石	M4	0.83 × 0.69	0.70 × 0.67 × 0.22	逆山形 (不明)	-	-	II	
74号集石	M4	0.87 × 0.55	0.94 × 0.64 × 0.15	皿 (不明)	○	-	II	
75号集石	I7	0.79 × 0.57	-	-	-	-	I	
76号集石	I7	2.55 × 2.52	2.37 × 2.01 × 0.15	皿 (円形)	○	○	III Aa	土器 (40、42) 放射性炭素年代測定No. 10

掲載 番号	器 種	部位	出土地点	調整・文様		色調		胎土の特徴	分類	備考
				外面	内面	外面	内面			
28	深鉢	口縁部	H7 [9号集石]	山形押型文、ナデ	原体条痕、山形押型文、ナデ	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2	5mm以下の黄灰色粒、3mm以下の灰白色粒、灰褐色粒、明褐色粒、透明光沢粒を多く含む。	I Bb	
29	深鉢	口縁部	H7 [9号集石]	ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	8mm以下のにぶい赤褐色粒を少し含む。微細な灰白色粒、雲母を含む。	III a	
30	深鉢	口縁部	H7 [9号集石]	繊維痕、ナデ	ナデ	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	微細な灰白色粒、透明光沢粒、黒色粒をごくわずかに含む。	III a	
31	深鉢	胴部	H7 [9号集石]	楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰 2.5Y5/1	微細な透明光沢粒を多く含む。3mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石をわずかに含む。3mm大の黒褐色粒を1つ含む。	I A	
32	深鉢	胴部	H7 [9号集石]	貝殻条痕	ミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の半透明光沢粒、灰白色粒を多く含む。微細な雲母をごくわずかに含む。	II Aa	黒斑あり
33	深鉢	口縁部～ 胴部	P5 [12号集石]	縄文、ナデ	縄文、ナデ	橙5YR6/8	黒褐 5YR3/1	4mm以下の赤色粒、1mm以下の透明光沢粒を多く含む。1mm以下の角閃石を少し含む。	I Ea	
34	深鉢	口縁部～ 胴部	O4 [15号集石]	撚糸文、ナデ	楕円押型文、 ナデ	橙5YR6/8	橙 5YR6/8	7mm以下の赤褐色粒、3mm以下の明褐色灰色粒、灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石を少し含む。	I Eb	穿孔あり
35	深鉢	口縁部	O4 [15号集石]	縄文、 工具ナデ、ナデ	ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	8mm以下のにぶい黄褐色粒を多く含む。4mm以下の橙褐色粒、2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。1mm以下の角閃石を少し含む。	I Eb	
36	深鉢	胴部	I7 [18号集石]	山形押型文	ナデ、繊維痕、	橙5YR6/6 にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	6mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。1mm以下の角閃石を少し含む。	I B	
37	深鉢	底部	N4 [51号集石]	楕円押型文、ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/8 灰褐5YR4/2	明赤褐 5YR5/6	4mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の角閃石を少し含む。5mm以下の褐灰色粒をわずかに含む。	I A	黒斑あり
38	深鉢	口縁部	M4 [55号集石]	ナデ	押圧刻目、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/2	4mm以下の灰白色光沢粒、灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石をわずかに含む。4mm以下の褐色粒、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	III a	黒斑あり
39	深鉢	口縁部	M4 [58号集石]	山形押型文、ナデ	原体条痕、山形押型文、ナデ	橙7.5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2	3mm以下の明黄褐色粒、黒褐色粒、灰白色粒、褐色粒、角閃石を含む。	I Bb	
40	深鉢	胴部～ 底部付 近	I7 [76号集石]	貝殻復縁刺突 文、ナデ、 綾杉状短沈線文	ミガキ	褐灰5YR4/1 明赤褐 5YR5/8	にぶい黄褐 10YR4/3	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。微細な角閃石をごくわずかに含む。7mm大の灰黄褐色粒を1つ含む。	II B	黒斑あり 丹塗りあり
41	深鉢	口縁部～ 胴部	I7 [76号集石]	山形押型文、ナデ、繊維痕	原体条痕、山形押型文、 工具ナデ、繊維痕	橙5YR6/6 にぶい黄橙 10YR7/4	明赤褐 2.5YR5/6 にぶい黄橙 10YR7/4	5mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む。	I Ba	42と同一
42	深鉢	胴部	I7 [76号集石]	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	3mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒、褐灰色粒を含む。	I Ba	41と同一 黒斑あり

第11表 集石遺構出土石器計測表

遺物 番号	器種	石材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
43	石鏃	チャート	12号集石	VI	2.7	2	0.6	2.1	III Bc
44	石鏃	チャート	58号集石	VI	1.8	1.3	0.2	0.4	III Bb
45	敲石	砂岩	58号集石	VI	11.8	5.1	2.4	223.9	

(4) 炉穴

炉穴は調査区北端の斜面部で5基、調査区中央の斜面上端部分で10基、斜面中央部分で1基、尾根付近で2基検出されている(第8図・第12表)。なお、以下の図中の網掛け部分は、焼土集中部である。

1号炉穴(第34図)

J6グリッドに位置する。平面形は北東方向に縦長の不定形で北西に向けて床面が傾斜している。遺構内の上方に焼土が集中している。遺構内より縄文時代早期の土器片が出土している。

2号炉穴・3号炉穴・7号炉穴・11号炉穴(第33、36図)

調査区中央の斜面上端部に位置し、遺構底部に焼土、炭化物の集中箇所が見られる。

4号炉穴・5号炉穴・6号炉穴(第36図)

K5グリッド周辺に位置し、3基が切り合う炉穴である。炉穴は4号炉穴が最も古く、5号炉穴、6号炉穴の先後関係は不明である。3基の底面付近は焼土粒を多く含む。

8号炉穴・9号炉穴・10号炉穴(第35図)

J5グリッドに位置する。3基が切り合っていた可能性のある炉穴であるが、遺構掘削時には連結部分は確認できなかった。

12号炉穴(第34、38図:46)

L4グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、遺構南側の埋土に焼土が混じる。また、東側壁面に焼土の付着が確認されている。46は埋土中より出土した石鏃である。両側縁がやや外側に張り出し、丸みを帯びている。

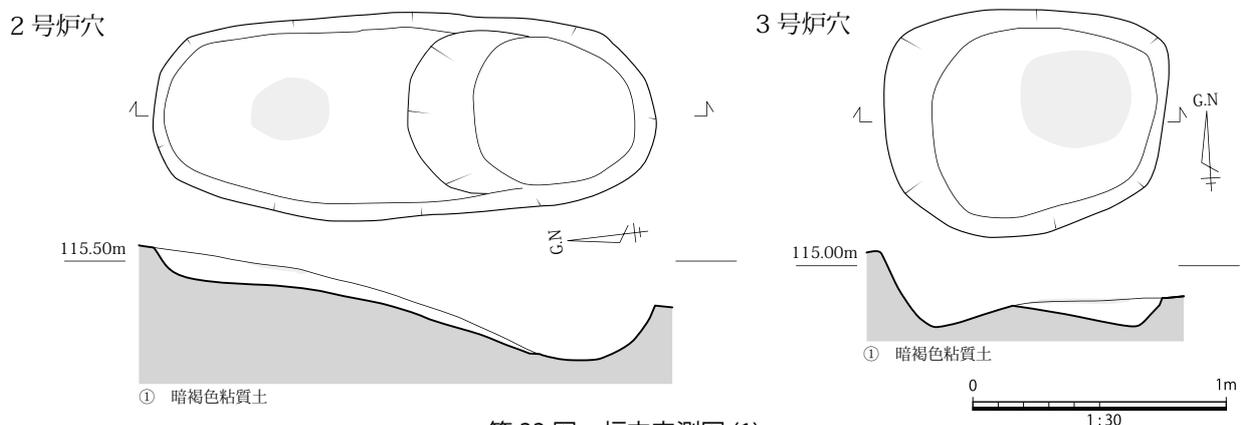
13号炉穴・14号炉穴・15号炉穴・16号炉穴・17号炉穴(第37、38図:47)

M3グリッド周辺に位置し、5基が切り合っていた可能性のある炉穴であるが、遺構掘削時には13号炉穴を切る14号炉穴の立ち上がりしか判断できなかった。いずれも埋土全体に焼土粒、炭化物を含み、13号炉穴、14号炉穴、15号炉穴の底面、壁面には焼土の付着が確認されている。

47は15号炉穴より出土した押型文系土器の口縁部である。外面、内面に楕円押型文、内面の口縁端部に原体条痕が施されている。

18号炉穴(第35図)

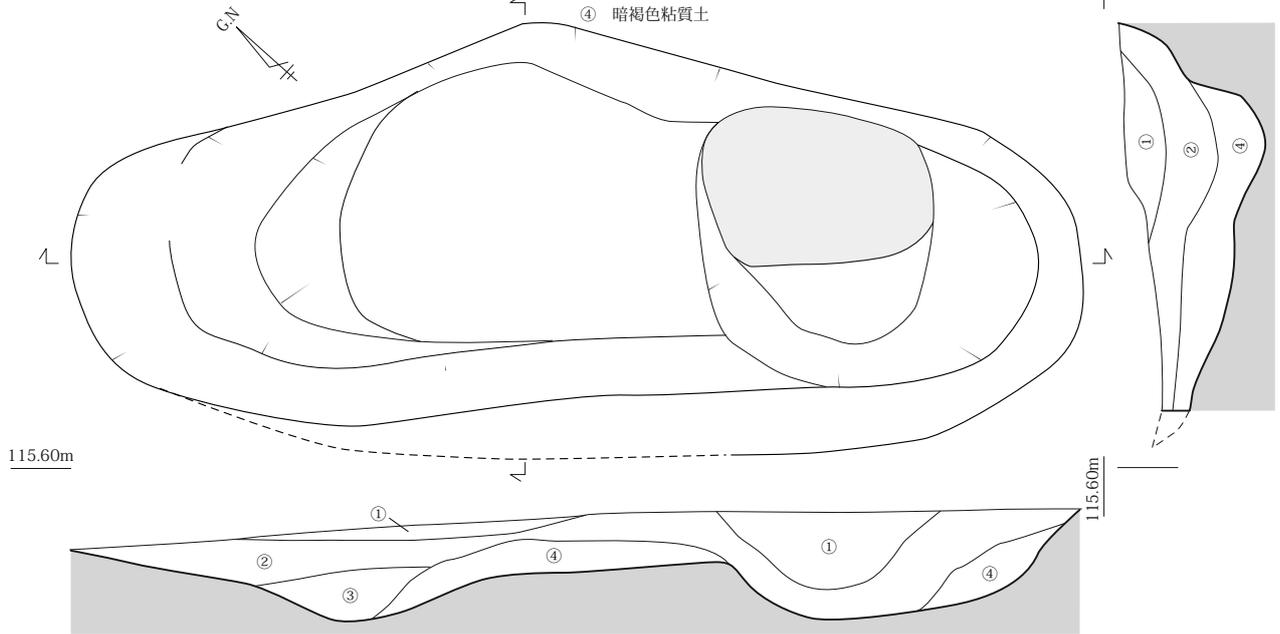
L3グリッドに位置し、西側から東側に向けた緩やかな上り傾斜となる。平面形は長楕円形を呈し、遺構東側中央付近に焼土の集中部分が確認されている。縄文時代早期に属する土器片が出土している。



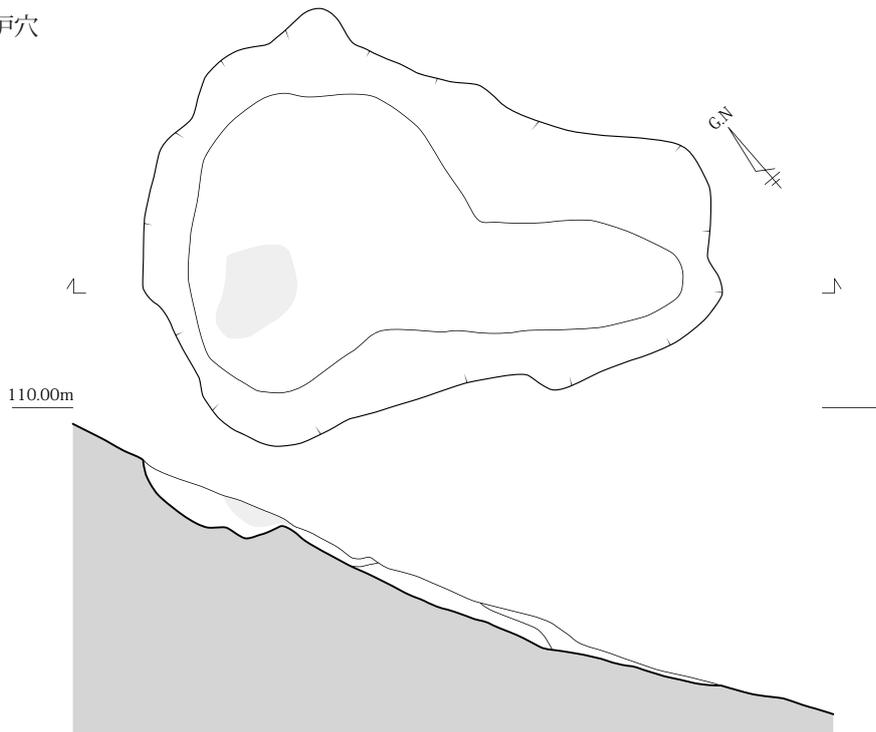
第33図 炉穴実測図(1)

12号炉穴

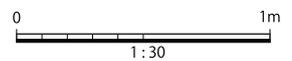
- ① 黒褐色砂質土 直径 10 cm以下の細礫を多く含む。焼土を少量含む。
- ② 褐色粘質土 直径 10 cm以下の細礫を少量含む。焼土を少量含む。
- ③ 暗黄色粘質土
- ④ 暗褐色粘質土



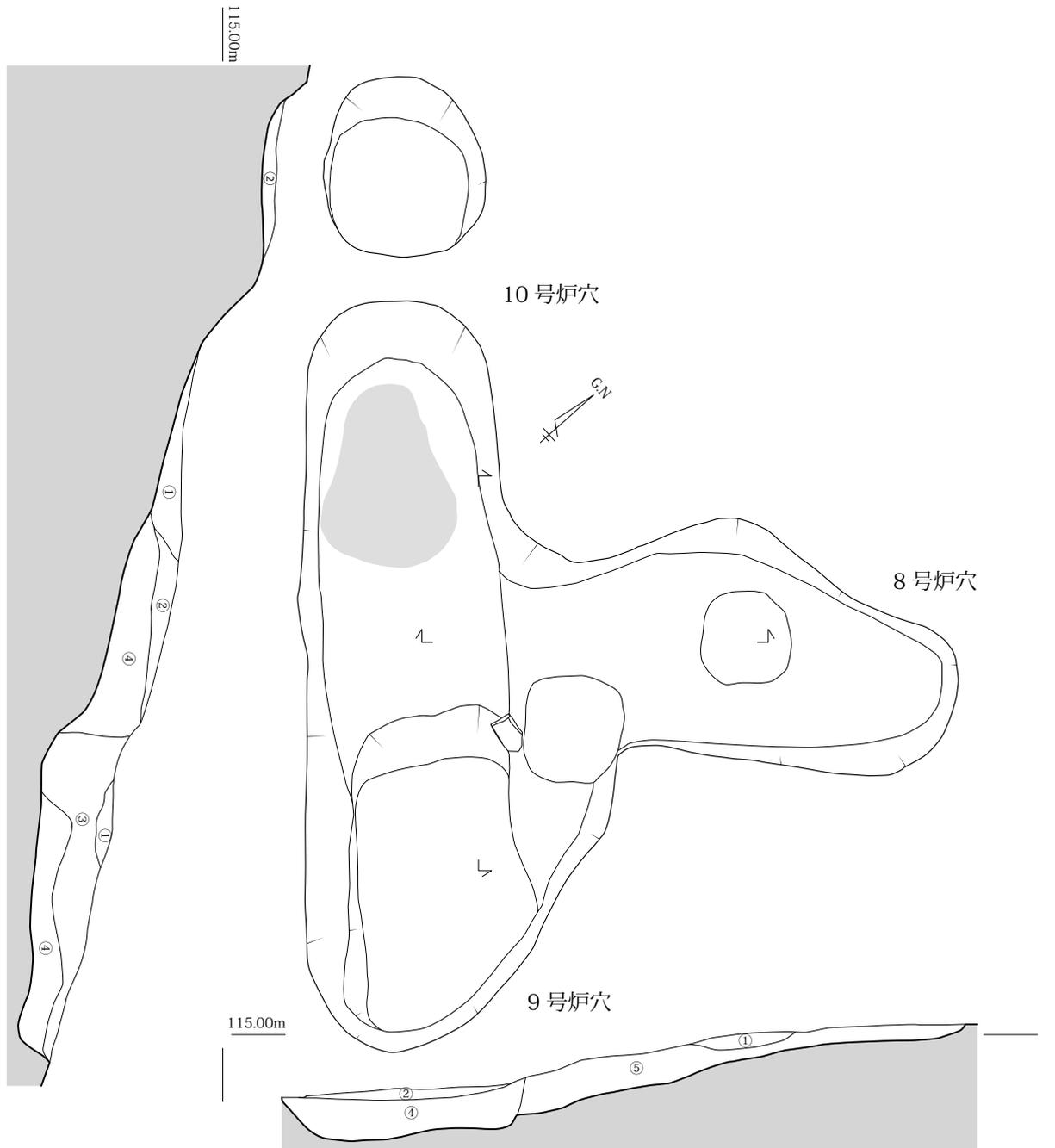
1号炉穴



- ① 暗褐色砂質土 粘性やや強い。しまりやや強い。1 mm以下の粒状の焼土を少量含む。
- ② 褐色砂質土 粘性やや強い。しまりやや強い。5 mm以下の粒状の焼土をやや多く含む。1 mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。
- ③ 褐色砂質土 粘性やや強い。しまりやや強い。1 mm以下の粒状の焼土をごく少量含む。
- ④ 暗褐色砂質土 粘性やや強い。しまりやや強い。1 mm以下の粒状の焼土をごく少量含む。

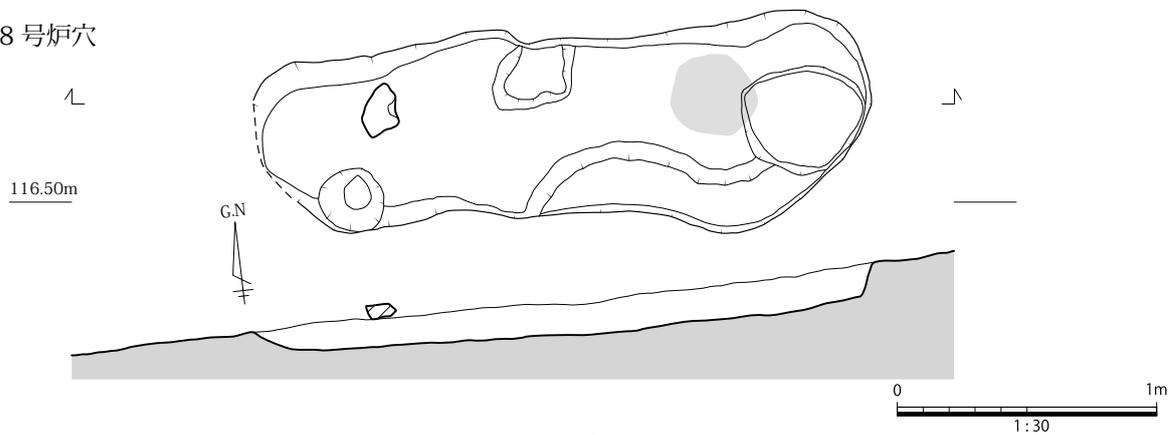


第 34 図 炉穴実測図 (2)

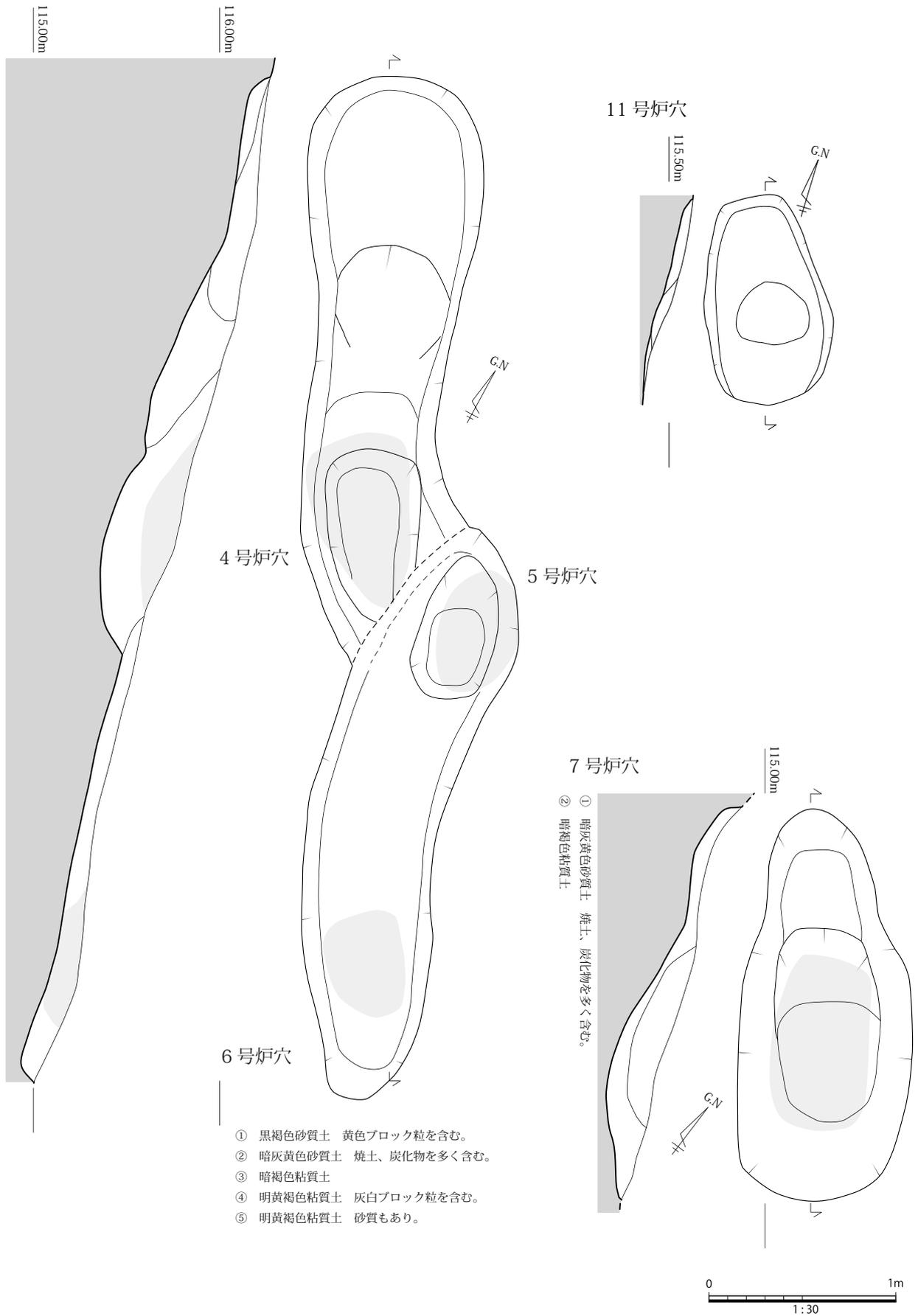


- ① 暗灰黄色砂質土 焼土、炭化物を多量に含む。
- ② 暗褐色粘土質 焼土、炭化物を含む。
- ③ 暗灰黄色粘土質 4層ブロックと焼土を含む。
- ④ 暗褐色粘土質 砂質土を含む。
- ⑤ 暗褐色粘土質 5mm以下の細礫を含む。

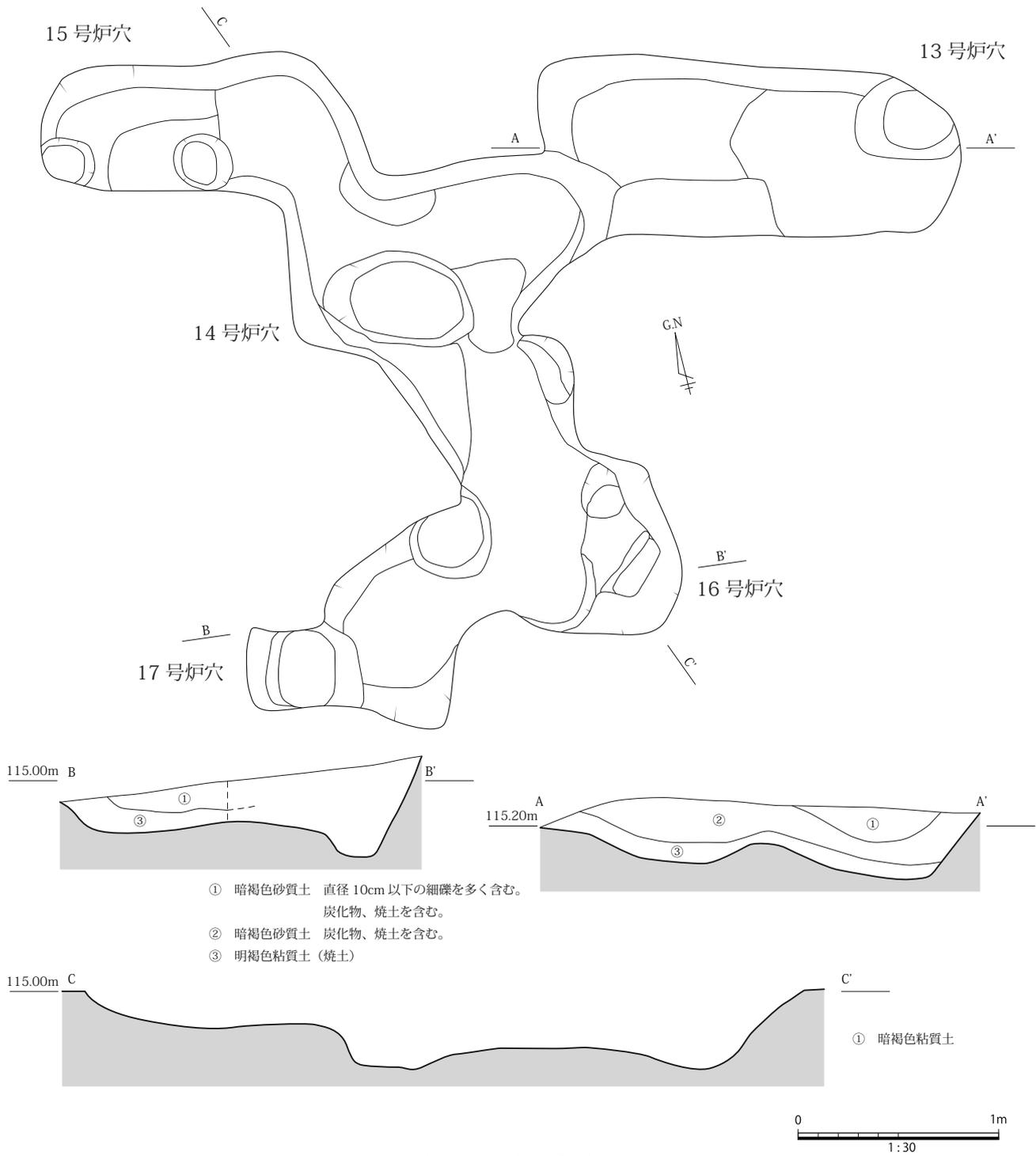
18号炉穴



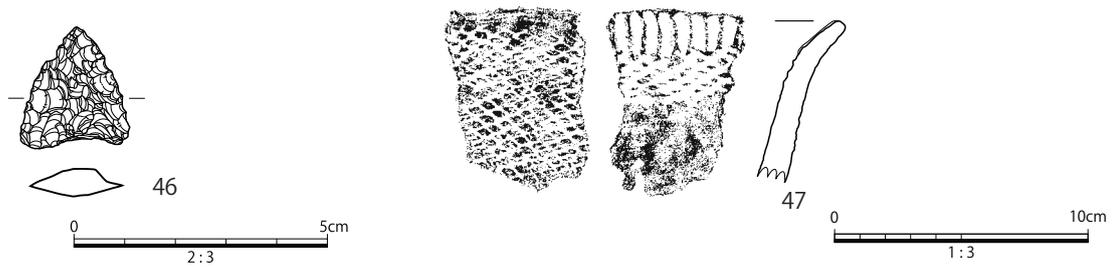
第35図 炉穴実測図(3)



第 36 図 炉穴実測図 (4)



第 37 図 炉穴実測図 (5)



第 38 図 炉穴出土遺物実測図

第 12 表 炉穴一覧表

遺構名	検出層位	検出位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面プラン	焼土/炭化物	自然科学分析/出土遺物
1号炉穴	VI	J6	2.23	1.20	0.16	不定形	焼土多く、炭化物をごく少量含む。	土器片
2号炉穴	VI	K5	1.97	0.79	0.20	楕円形	焼土・炭化物の集中部分有り。	
3号炉穴	VI	K5	1.10	0.90	0.10	隅丸長方形	焼土・炭化物の集中部分有り。	
4号炉穴	VI	K4	2.90+ α	0.70	0.41	(長楕円形)	焼土・炭化物を多く含む。	
5号炉穴	VI	K5	1.30+ α	0.70	0.10+ α	(楕円形)	焼土・炭化物を多く含む。	放射性炭素年代測定No.3
6号炉穴	VI	J5	1.40+ α	0.18	0.18	(楕円形)	焼土・炭化物を多く含む。	
7号炉穴	VI	J5	2.10	0.88	0.24	楕円形	焼土・炭化物を多く含む。	
8号炉穴	VI	J5	1.52+ α	1.04	0.17	(楕円形)	焼土・炭化物を多く含む。	
9号炉穴	VI	J5	3.40	0.88	0.30	長楕円形	焼土・炭化物を多く含む。	
10号炉穴	VI	J5	0.80	0.72	0.06	円形	焼土・炭化物を多く含む。	
11号炉穴	VI	L6	1.12	0.64	0.06	楕円形	焼土・炭化物を多く含む。	
12号炉穴	VI	L4	3.94	1.56+ α	0.40	長楕円形	東側壁に焼土付着。	石鏃 (46)
13号炉穴	VI	M3	1.86	0.84	0.34	長楕円形	炭化物を多く含む。東側壁に焼土付着。	
14号炉穴	VI	M3	1.70	0.90	0.36	(楕円形)	東側壁に焼土付着。	
15号炉穴	VI	M3	1.56	0.64	0.18	楕円形	埋土全体に焼土、上部に炭化物を含む。	土器 (47)
16号炉穴	VI	M4	1.56+ α	0.80	0.38	不明	焼土・炭化物を含む。	
17号炉穴	VI	M4	1.42+ α	0.60	0.4	不明	焼土・炭化物を含む。	
18号炉穴	VI	L3	2.37	0.72	0.14	長楕円形	炭化物をごく少量、焼土集中部分有り。	土器片

第 13 表 炉穴出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	調整・文様		色調		胎土の特徴	分類	備考
				外面	内面	外面	内面			
47	深鉢	口縁部	M3 [15号炉穴]	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、原体条痕、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	4mm以下の灰白色粒を少し含む。3mm以下の灰黄色粒を多く含む。1mm以下の角閃石、透明光沢粒を少し含む。	I Ab	

第 14 表 炉穴出土石器計測表

遺物番号	器種	石材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
46	石鏃	チャート	12号炉穴	VI	2.4	2.2	0.6	2.5	II B

(5) 土坑

土坑は 47 基確認されており、そのうち 43 基が尾根付近より確認されている。

遺物が出土したのは、1号土坑・3号土坑・5号土坑・6号土坑・13号土坑・15号土坑・17号土坑・19号土坑・20号土坑・26号土坑・28号土坑・32号土坑・33号土坑・39号土坑・40号土坑（第39～44・46～47図：48～55）である。それらはいずれも標高 115m～116 m程の尾根付近に位置し、縄文早期に属する土器片が出土している。3号土坑、6号土坑、28号土坑は、埋土に焼土や炭化物を含む。17号土坑及び39号土坑は、平面形にブリッジの可能性が伺える括れが見られる。

48は6号土坑より出土した無文土器の口縁部である。内面に指頭痕を残す。

49は13号土坑より出土した安山岩製の礫器である。50は15号土坑より出土した石鏃である。脚部

を欠くが、残存部分からほぼU字型の抉りを有する鋤形鏝であると推察される。51は17号土坑より出土した押型文系土器の口縁～胴部である。外面に斜位の山形押型文、内面上部に横位の山形押型文が施されている。52は26号土坑より出土した口縁部～胴部である。外面に格子目押型文、口唇部には斜方向の押圧刻み目が施されている。53は土坑より出土したものではないが、52と同一個体であるためここに掲載している。格子目押型文の胴部片で、外面下部にはイチゴ押型文（第2節3参照）が施されている。54は39号土坑より出土した口縁部片である。外面、内面に楕円押型文が施され、穿孔をもつ。55は40号土坑より出土した胴下部付近である。外面に楕円押型文が施されている。

37号土坑（第43・47図：56）

調査区南東端の北側壁付近に位置し、埋土に焼土や炭化物を少量含む。

56は埋土中から出土した石鏝である。両側縁が鋸歯状を呈し、先端部にかけて細長く尖る。遺構内よりチャートの剥片が出土している。

38号土坑（第44・47図：57～59）

1号竪穴建物跡東側の平坦部に位置し、埋土に焼土や炭化物を含む。遺構内より縄文時代早期に属する土器片や石鏝が出土している。

57は胴部片で、外面に山形押型文が施されている。58は口縁部～胴部である。外面は山形押型文、内面は口縁端部に原体条痕、その下部に山形押型文、胴部以下は丁寧なナデが施されている。59はガラス質安山岩製の石鏝である。

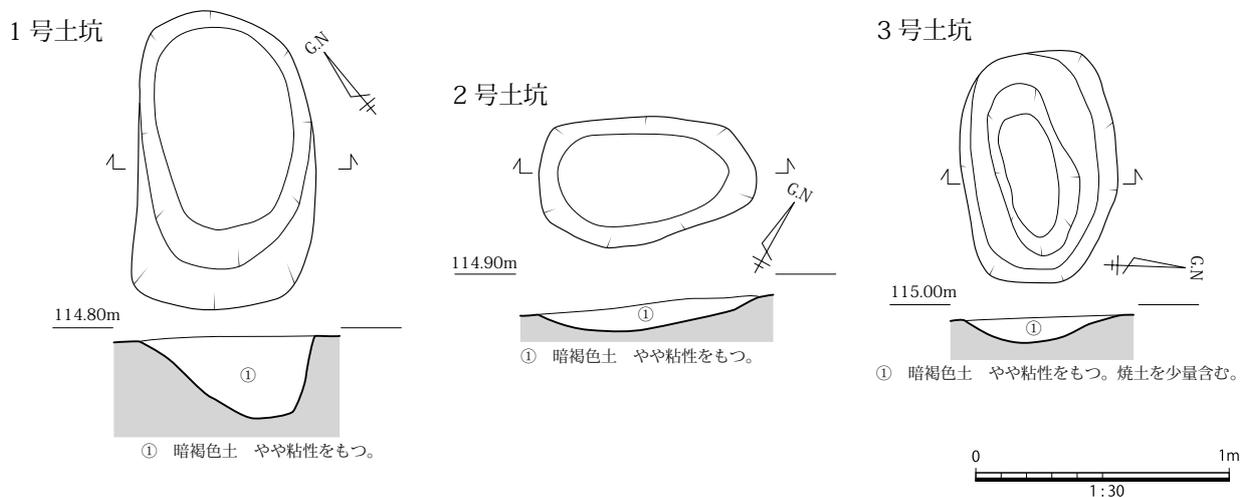
42号土坑・43号土坑・44号土坑・45号土坑（第45、43、47図：60）

調査区中央の斜面西側に位置する。埋土全体に多くの焼土や炭化物を含む。また局所的に焼土の集中部分があり炉穴の可能性が考えられる。主に平面の形状から炉穴としての認定は行わなかった。

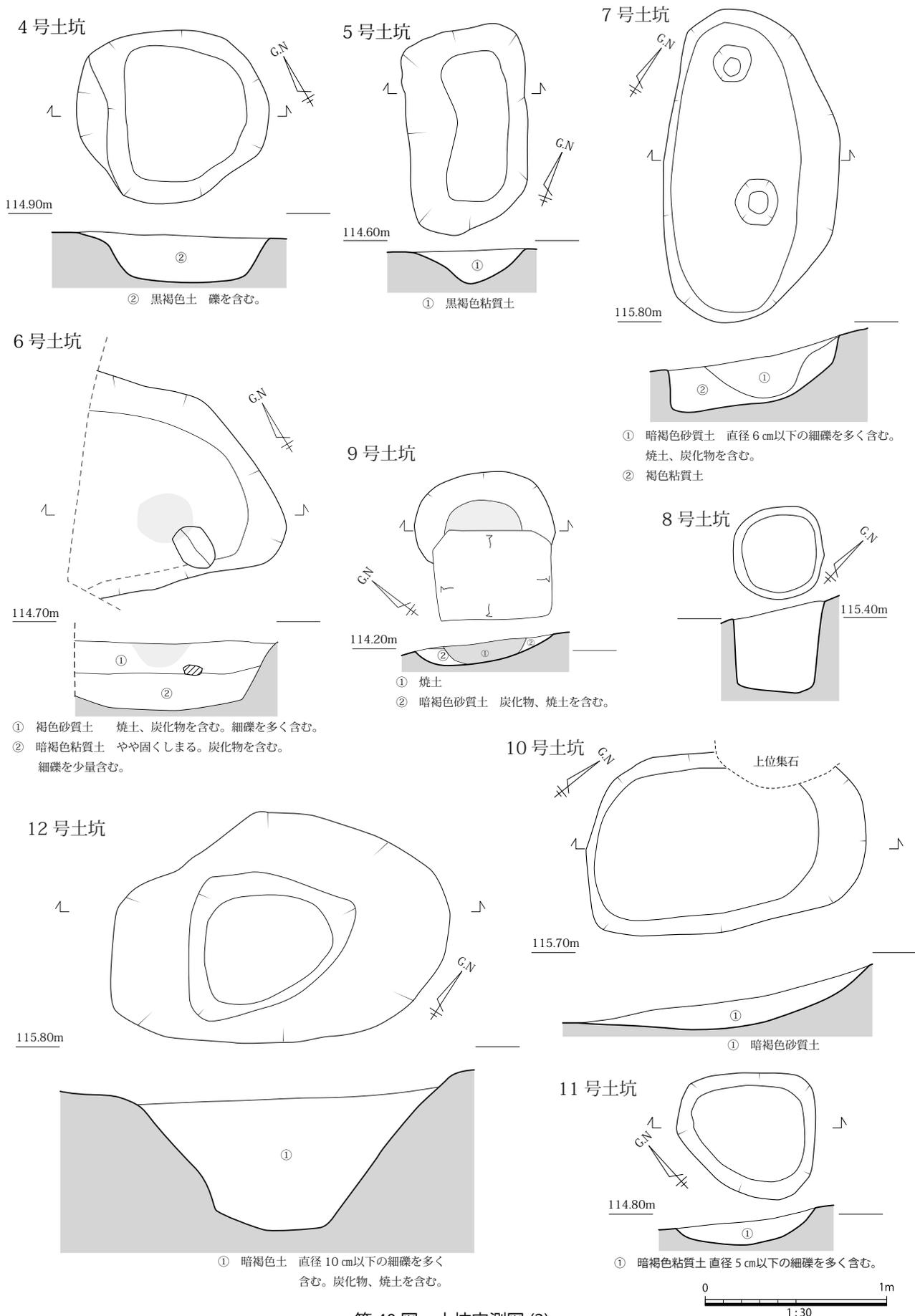
60は43号土坑より出土した無文土器の口縁部である。外面、内面に指頭痕が見られる。

46号土坑・47号土坑（第44図）

調査区中央の斜面上端部に位置し、2号炉穴、3号炉穴、7号炉穴、11号炉穴に隣接している。埋土に40%～50%程度の焼土を含み、炉穴の可能性も考えられる。

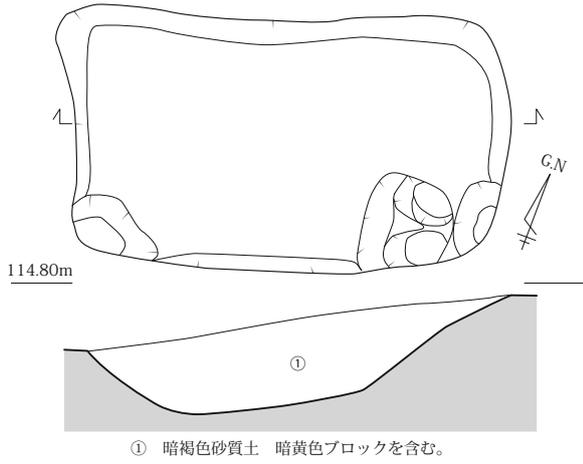


第39図 土坑実測図(1)

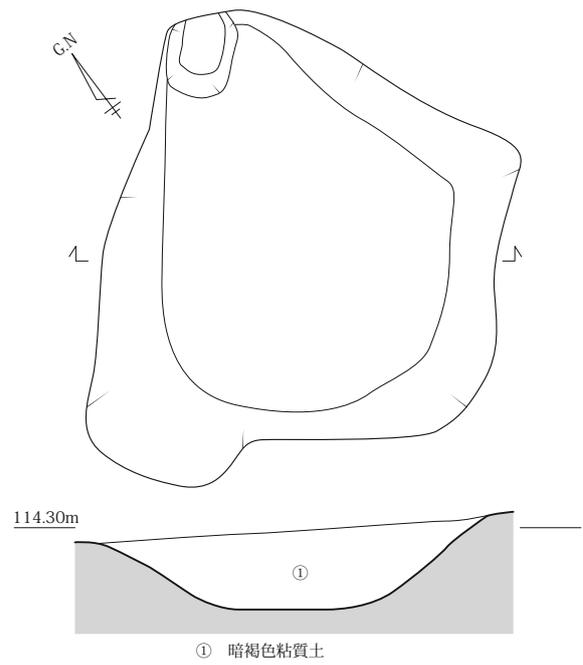


第40図 土坑実測図(2)

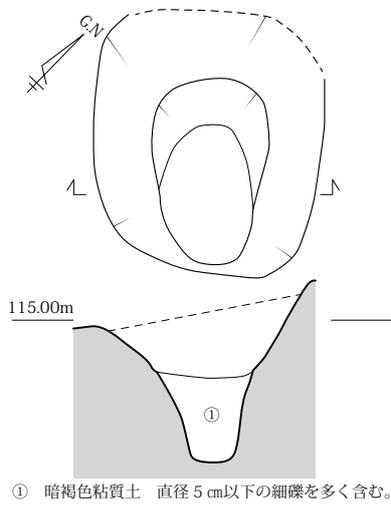
13号土坑



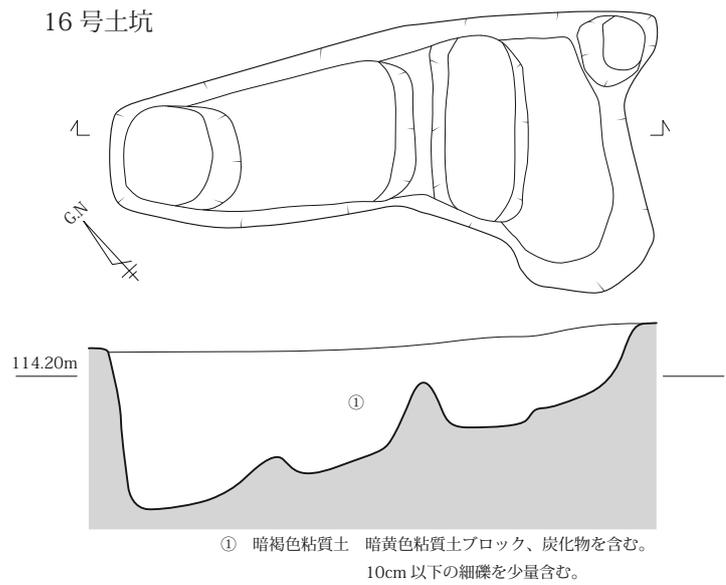
15号土坑



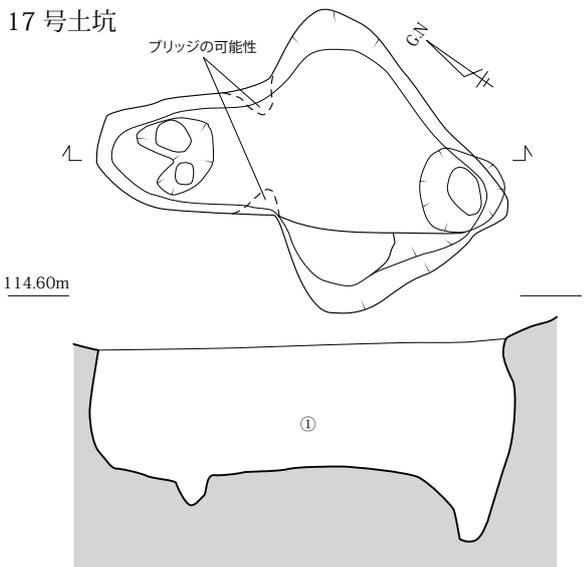
14号土坑



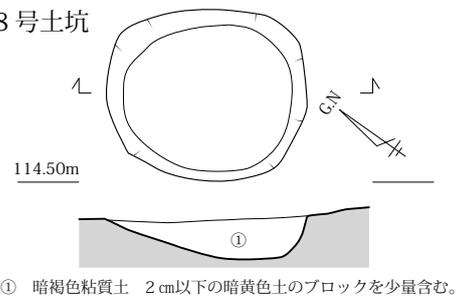
16号土坑



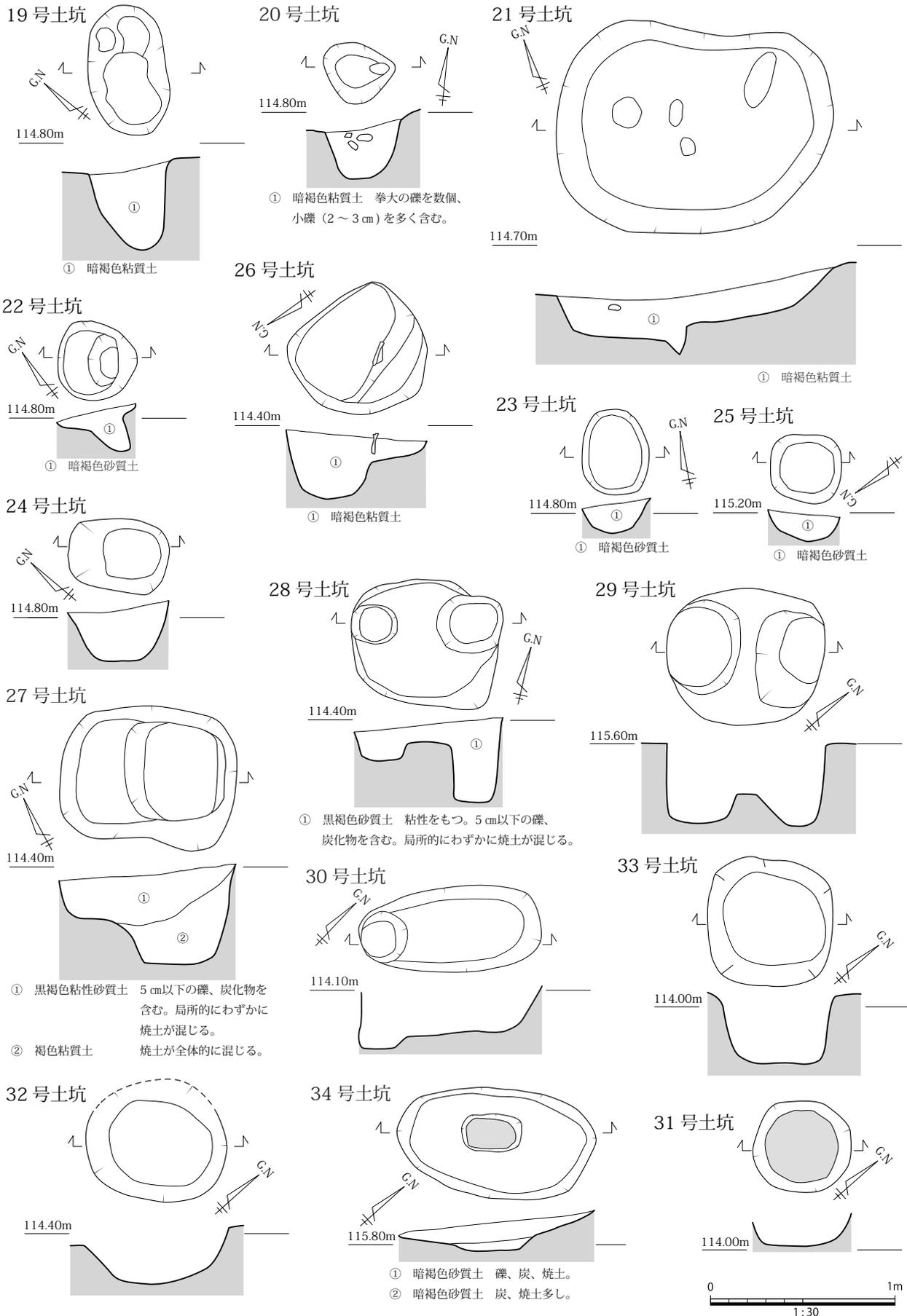
17号土坑



18号土坑

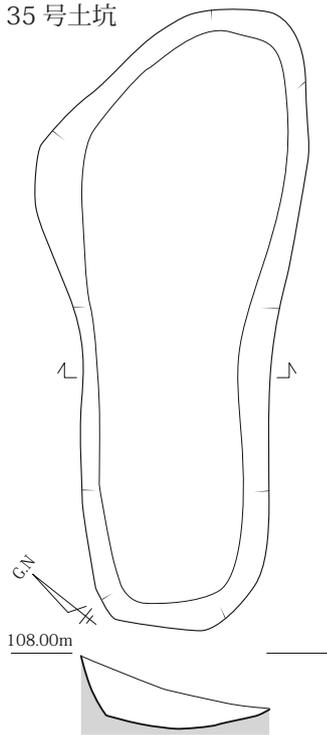


第41図 土坑実測図(3)

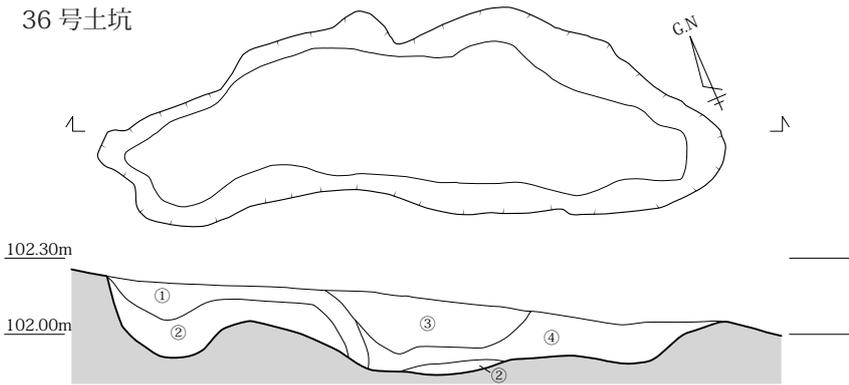


第 42 図 土坑実測図 (4)

35号土坑

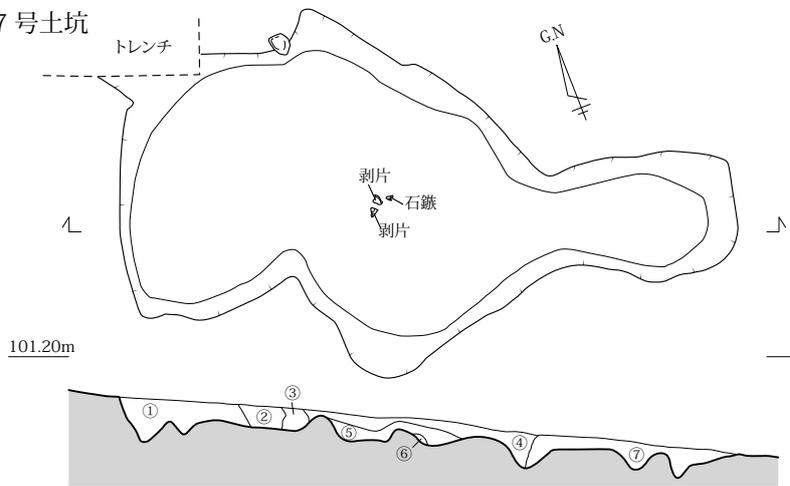


36号土坑



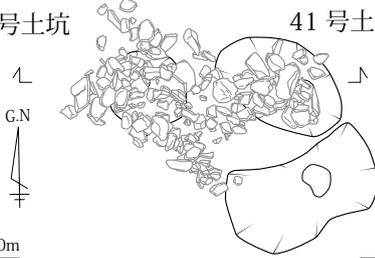
- ① 暗褐色砂質土 しまりやや強く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1mm以下) を7%含む。
- ② 褐色砂質土 しまり弱く、やや粘性をもつ。焼土粒 (2mm以下) を3%含む。
- ③ 黒褐色砂質土 しまりやや強く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1mm以下) を5%含む。
- ④ 暗褐色砂質土 しまりやや強く、粘性をもつ。焼土粒 (2mm以下) を1%含む。

37号土坑

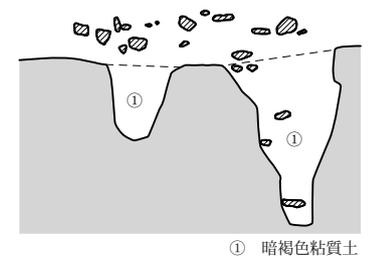


- ① 褐色砂質土 しまり弱く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1~2mm) を5%含む。
- ② 暗褐色砂質土 しまり弱く、やや粘性をもつ。焼土粒 (2mm程度)、炭化物をわずかに含む。
- ③ 褐色砂質土 しまりがあり、やや粘性をもつ。焼土粒 (1mm以下) を1%含む。
- ④ 褐色砂質土 しまりやや強く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1~2mm) を3%含む。
- ⑤ 明褐色砂質土 しまり弱く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1mm以下) を1%含む。
- ⑥ 明褐色砂質土 しまり弱く、粘性をもつ。焼土ブロック (5mm以下) を3%含む。
- ⑦ 明褐色砂質土 しまり弱く、やや粘性をもつ。焼土粒 (1mm以下) を3%含む。

40号土坑

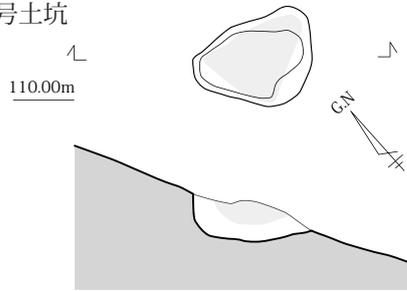


41号土坑



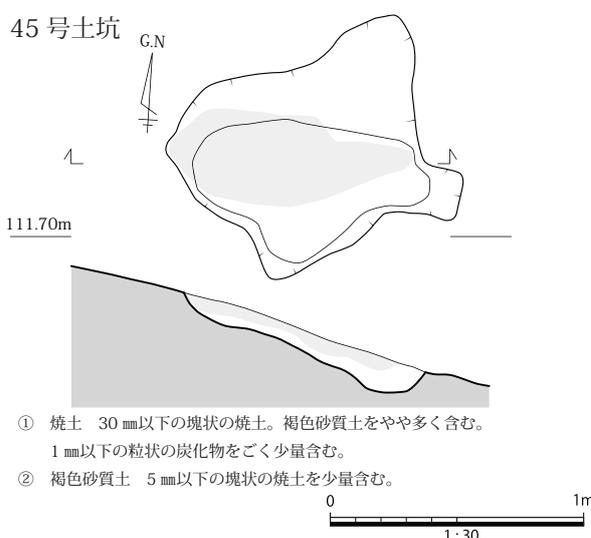
- ① 暗褐色粘質土

44号土坑



- ① 褐色砂質土 5mm以下の粒状の焼土をやや多く含む。
- ② 褐色砂質土 2mm以下の粒状の焼土を少量含む。

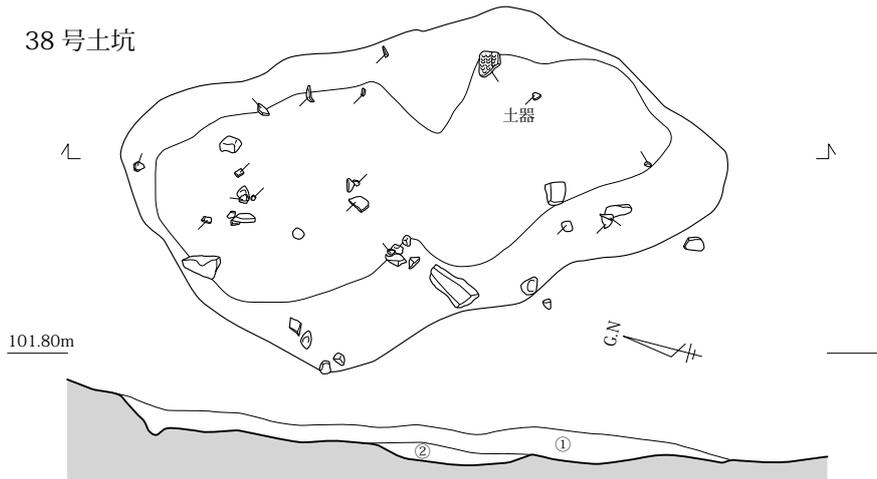
45号土坑



- ① 焼土 30mm以下の塊状の焼土。褐色砂質土をやや多く含む。1mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。
- ② 褐色砂質土 5mm以下の塊状の焼土を少量含む。

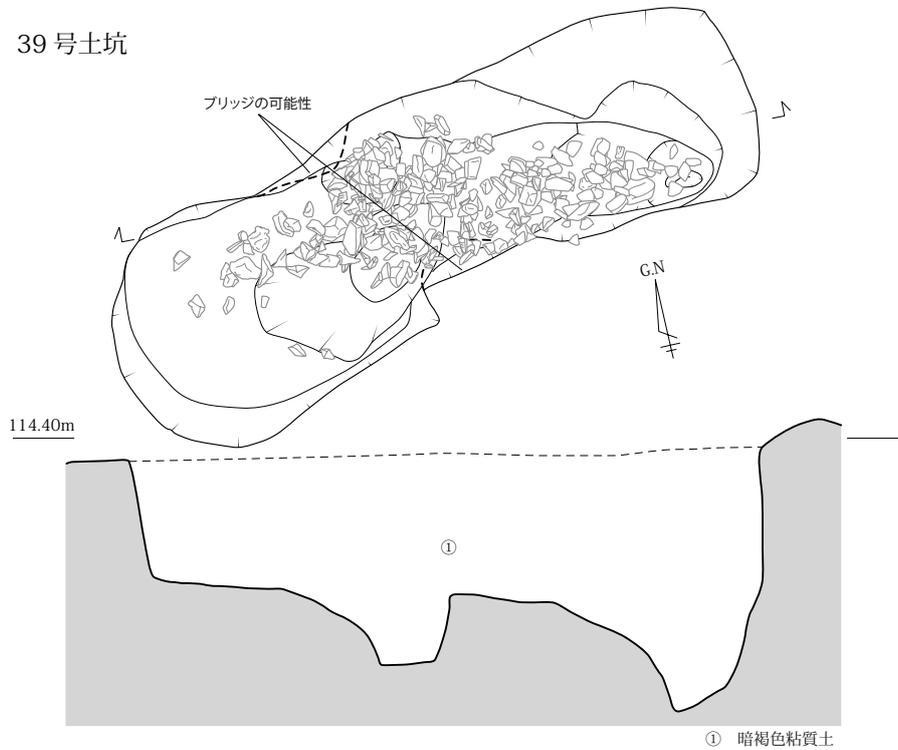
第43図 土坑実測図(5)

38号土坑



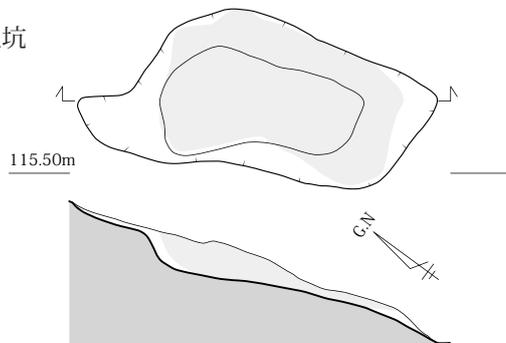
- ① 暗褐色砂質土 しまりがあり、粘性やや強い。焼土粒（1mm以下）を1%、炭化物の粒子（1mm以下）含む。チップを多く含む。
- ② 暗褐色砂質土 しまりがあり、粘性やや強い。焼土粒（1mm以下）を1%、炭化物の粒子（1mm以下）含む。チップを多く含むが①よりも密度薄。

39号土坑



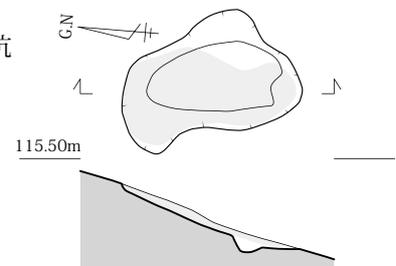
① 暗褐色粘質土

46号土坑

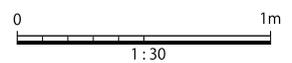


- ① 褐色砂質土 粘性ふつう。しまり弱い。5mm以下の粒子をやや多く含む。2mm以下の炭化物を少量含む。

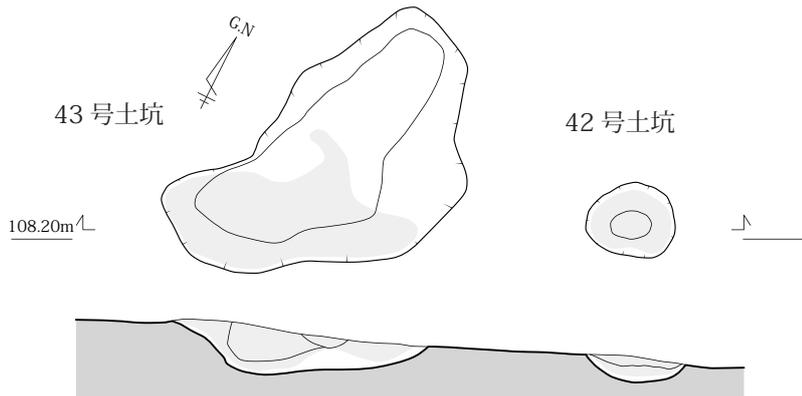
47号土坑



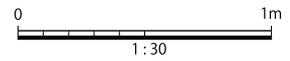
- ① 褐色砂質土 粘性やや強い。しまり弱い。5mm以下の粒状の焼土を多く含む。炭化物なし。



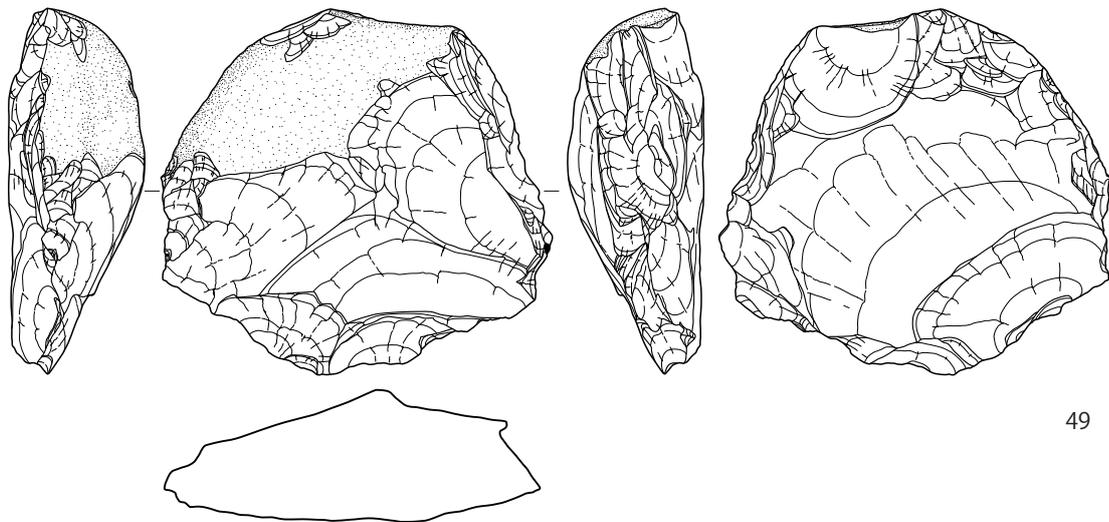
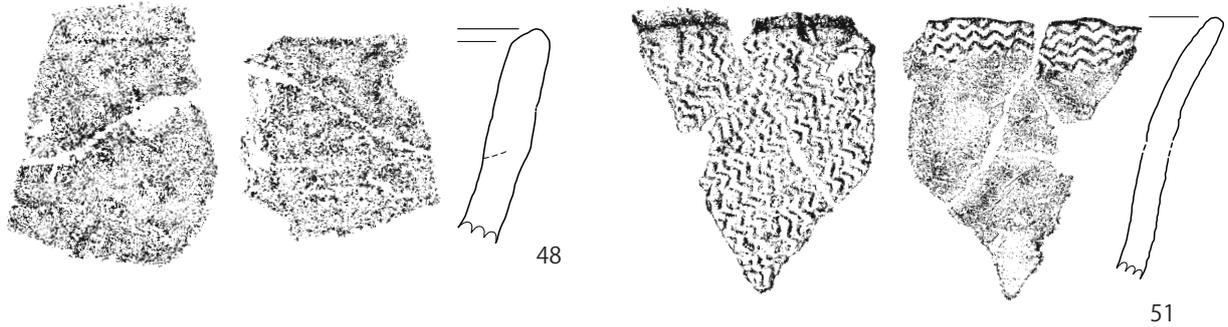
第 44 図 土坑実測図 (6)



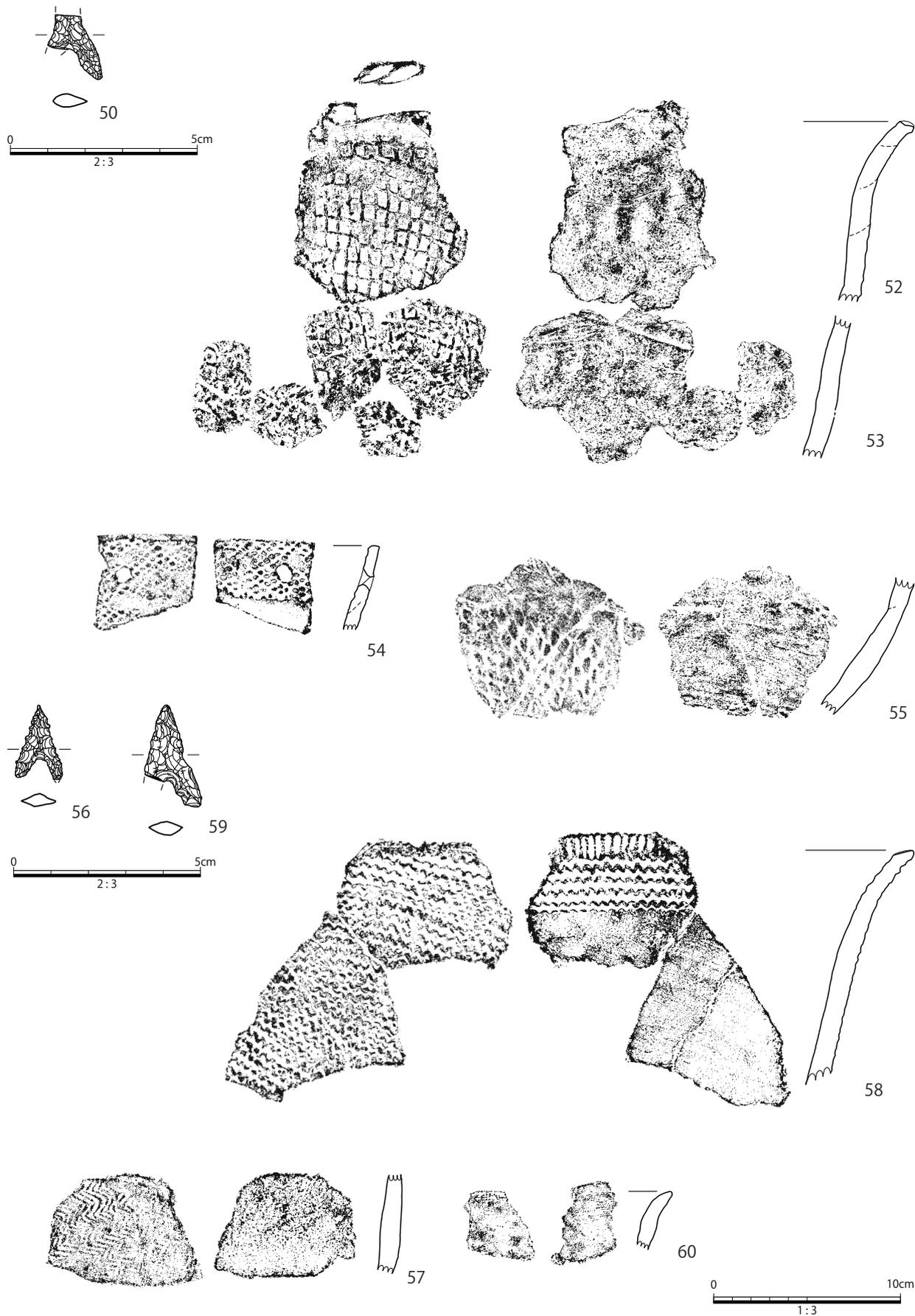
- | | |
|--|--|
| <p>① 褐色砂質土 5 mm以下の塊状の焼土をごく少量含む。
1 mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。</p> <p>② 焼土 5 mm~10 mm及び 10~20 mmの塊状の焼土で構成。
褐色砂質土を含む。
2 mm以下の粒状の炭化物を少量含む。</p> <p>③ 暗褐色砂質土 5 mm以下の塊状の焼土を少量含む。
1 mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。</p> <p>④ 暗褐色砂質土 10 mm以下の塊状の焼土を含む。
1 mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。</p> | <p>① 暗褐色砂質土 5 mm以下の塊状の焼土を含む。
1 mm以下の粒状の炭化物をごく少量含む。</p> <p>② 暗褐色砂質土 1 mm以下の粒状の焼土を少量含む。
炭化物なし。</p> <p>③ 暗褐色砂質土 1 mm以下の粒状の焼土を少量含む。
10 mmの炭化物出土。</p> |
|--|--|



第 45 図 土坑実測図 (7)



第 46 図 土坑出土遺物実測図 (1)



第 47 图 土坑出土遺物実測図 (2)

第 15 表 土坑一覧表①

遺構名	検出層位	検出位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面プラン	焼土／炭化物	自然科学分析／出土遺物
1号土坑	VI	M5	1.20	0.72	0.32	不整楕円形		土器片
2号土坑	VI	M5	0.88	0.50	0.10	楕円形		
3号土坑	VI	M5	0.90	0.62	0.10	楕円形	焼土を少量含む。	土器片
4号土坑	VI	M5	1.06	0.94	0.26	円形		
5号土坑	VI	M5	1.04	0.68	0.20	隅丸長方形		土器片
6号土坑	VI	N5	1.24+ α	1.20	0.36	不明	焼土の集中部分有り。炭化物を含む。	土器 (48)
7号土坑	VI	L4	1.72	0.98	0.24	楕円形	焼土・炭化物を含む。	
8号土坑	VI	L4	0.51	0.5	0.46	円形		
9号土坑	VI	M4	0.82	0.32+ α	0.10	不定形	焼土の集中部分有り。炭化物を含む。	
10号土坑	VI	L4	1.52	1.00	0.16	楕円形		
11号土坑	VI	M4	0.76	0.70	0.10	円形	焼土を少量含む。	
12号土坑	VI	M4	1.86	1.28	0.76	楕円形	焼土・炭化物を少量含む。	
13号土坑	VI	M4	1.74	1.00	0.32	長方形		礫器 (49)
14号土坑	VI	L4	1.00+ α	0.90	0.70	円形		
15号土坑	VI	N4	1.68	1.56	0.32	不整円形		石鏃 (50) 土器片
16号土坑	VI	M5	2.06	0.74	0.60	不定形		
17号土坑	VI	M4	1.60	1.20	0.80	不定形		土器 (51)
18号土坑	VI	M4	0.78	0.68	0.16	円形		
19号土坑	VI	M4	0.70	0.46	0.47	楕円形		土器片
20号土坑	VI	M4	0.40	0.37	0.31	不整円形		土器片
21号土坑	VI	M4	1.52	1.12	0.23	隅丸長方形		
22号土坑	VI	M3	0.44	0.42	0.26	円形		
23号土坑	VI	M4	0.48	0.36	0.18	楕円形		
24号土坑	VI	M4	0.56	0.42	0.29	隅丸長方形		
25号土坑	VI	M4	0.40	0.39	0.15	円形		
26号土坑	VI	M4	0.73	0.67	0.37	不整円形		土器 (52)
27号土坑	VI	M4	0.96	0.76	0.50	隅丸長方形	埋土全体に焼土粒を含む。	土器片
28号土坑	VI	M4	0.80	0.68	0.41	不整円形	焼土・炭化物をごく少量含む。	
29号土坑	VI	M5	0.98	0.72	0.48	円形		
30号土坑	VI	N4	1.00	0.50	0.42	楕円形		
31号土坑	VI	N5	0.54	0.50	0.21	円形	焼土土坑。	
32号土坑	VI	N5	0.79	0.56+ α	0.28	円形		
33号土坑	VI	N5	0.71	0.70	0.40	円形		土器片
34号土坑	VI	L4	1.06	0.62	0.19	楕円形	焼土・炭化物を多く含む。	

第 16 表 土坑一覧表②

遺構名	検出層位	検出位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面プラン	焼土/炭化物	自然科学分析/出土遺物
35号土坑	VI	J7	2.48	0.80	0.14	不定形		
36号土坑	VI	F8	2.47	0.70	0.32	不定形	埋土全体に焼土粒を少量含む。	
37号土坑	VI	E8	2.42	1.23	0.17	不定形	埋土全体に焼土粒を少量、焼土塊を含む。	石鏃 (56)、剥片
38号土坑	VI	I7	2.39	1.25	0.15	隅丸長方形	焼土・炭化物を少量含む。	石鏃 (59) 土器 (57、58)
39号土坑	VI	M4	2.72	0.84	1.15	長楕円形		土器 (54)
40号土坑	VI	M4	0.34	0.31	0.30	円形		土器 (55)
41号土坑	VI	M4	0.55	0.33	0.72	楕円形		
42号土坑	VI	J7	0.36	0.30	0.11	円形	埋土全体に焼土粒・炭化物を含む。	放射性炭素年代測定No.2
43号土坑	VI	J6	1.29	0.80	0.19	不定形	埋土全体に焼土塊・炭化物を含む。	土器 (60)
44号土坑	VI	J7	0.50	0.38	0.16	不整円形	埋土上部に焼土粒を含む。	
45号土坑	VI	K6	1.17	1.15	0.15	不定形	焼土・炭化物をごく少量含む。	土器片
46号土坑	VI	J5	1.04	0.56	0.14	隅丸長方形	焼土多く、炭化物を少量含む。	
47号土坑	VI	J4	0.70	0.40	0.04	不整楕円形	焼土粒を多く含む。	

第 17 表 土坑出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	調整・文様		色調		胎土の特徴	分類	備考
				外面	内面	外面	内面			
48	深鉢	口縁部	N5 [6号土坑]	ナデ	ナデ	浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/4	4mm以下の灰白色粒、角閃石、褐灰色粒、黒褐色粒、透明光沢粒を含む。	IIIa	
51	深鉢	口縁～ 胴部	M4 [17号土坑]	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	褐 7.5YR4/4	褐 7.5YR4/3	6mm以下の灰白色粒、4mm以下の褐灰色粒、角閃石、黒色光沢粒、透明光沢粒、浅黄褐色粒を含む。6mm大のにぶい橙色粒をごくわずかに含む。	I Bb	
52	深鉢	口縁～ 胴部	M4 [26号土坑]	格子目押型文、 ナデ、 押圧刻目	ナデ	褐 7.5YR4/6	にぶい黄褐 10YR4/3	6mm以下のにぶい赤褐色粒をやや多く含む。2.5mm以下の黒褐色粒をごくわずかに含む。1.5mm以下の白灰色粒を少し含む。1.5mm以下の透明光沢粒を含む。	I Cb	53と同一
53	深鉢	胴部	M4 [26号土坑]	格子目押型文、 イチゴ押型文	工具ナデ	明赤褐 5YR5/6	暗褐 10YR3/3	6mm以下のにぶい赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。	I Cb	52と同一 黒斑あり
54	深鉢	口縁部	M4 [39号土坑]	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、黒色粒、褐灰色光沢粒を多く含む。	I Aa	穿孔あり 黒斑あり
55	深鉢	胴部～ 底部付近	M4 [40号土坑]	楕円押型文、 ナデ	ナデ	橙5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	3mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、浅黄褐色粒、褐色粒、褐灰色粒、を含む。	I A	黒斑あり 炭化物付着
57	深鉢	胴部	I7 [38号土坑]	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色粒、微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	I B	風化著しい 黒斑あり
58	深鉢	口縁～ 胴部	I7 [38号土坑]	山形押型文、 ナデ	原体条痕、山形押型文、	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	7mm以下の黄褐色粒、6mm以下の浅黄褐色粒、5mm以下の灰白色粒を少し含む。2mm以下の角閃石を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。1mm以下の雲母をわずかに含む。	I Bb	黒斑あり
60	深鉢	口縁部	J6 [43号土坑]	ナデ	ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	5mm以下の灰黄褐色粒をごくわずかに含む。4mm以下の灰白色粒、黒褐色粒を少し含む。	IIIb	

第 18 表 土坑出土石器計測表

遺物番号	器種	石材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
49	礫器	安山岩	13号土坑	VI	14.6	15.4	5.4	1249.8	
50	石鏃	チャート	15号土坑	VI	1.7	1.5	0.3	0.6	IVBa
56	石鏃	黒曜石	37号土坑	VI	2	1.3	0.3	0.5	IVBb
59	石鏃	ガラス質安山岩	38号土坑	VI	2.8	1.5	0.4	0.9	III Bc

3 遺物

(1) 土器

本遺跡では、縄文時代早期の土器が多量に出土したが、完形の土器はなく、大多数が破片であった。出土した地点は、ほとんどが縄文時代早期の遺構及びⅤ層・Ⅵ層であった。

器種はほとんどが深鉢である。金丸武司(2004)をもとに系統を、Ⅰ「押型文系土器」、Ⅱ「貝殻文系・条痕文系土器」、Ⅲ「無文土器」の3つに大別し、Ⅳ「その他の土器」と合わせて大分類とした。Ⅰ・Ⅱ類については、それぞれ文様により中分類を設定し、さらに器形・形態の特徴で小分類を行った。頸部・胴部・底部については、各々の口縁部と同一個体であれば共に掲載し、それ以外のものは大分類の後に掲載した。また、深鉢以外の器種の個体についても大分類の後に掲載した。

なお、遺構内より出土した土器については、前述の「2 遺構」に掲載している。

Ⅰ 押型文系土器 (第 48～60 図：61～251)

押型文系土器の類型として、外面の文様により A 類「楕円押型文」、B 類「山形押型文」、C 類「格子目文」を設定し、小さな突起物を有する軸状工具の回転によると推定されるイチゴの粒状の文様を施すものを「イチゴ押型文」と仮称し、D 類とした。また、捺糸文・縄文を施す土器も便宜的にここに含め、E 類「捺糸文」と呼称した(中分類)。さらに、口縁部にも分類基準を設け、a 類「口縁部が直口となるもの」、b 類「口縁部が外反するもの」とした(小分類)。なお、a 類については口縁部がわずかに外傾するものも含めている。

Ⅰ A 類「楕円押型文」

Ⅰ Aa 類 (第 48、49 図：61～70)

61～65 は外面、内面に横方向の楕円押型文を施す。64 は波状口縁となる。65 は口縁部内面に刻目文を施す。66 と 69 は内面の口縁端部に柵状の文様を施す。これは平行押型文の可能性がある。67～70 は外面に縦方向または斜方向の楕円押型文、内面に横方向の楕円押型文を施す。69、70 は内面の口縁端部に原体条痕を施す。

Ⅰ Ab 類 (第 49～52 図：71～109)

71～75 は外面、内面に横方向の楕円押型文を施し、73～75 は内面の口縁端部に原体条痕を施す。72 は口唇部にも楕円押型文を施文し、焼成後に穿孔を施す。76、77 は外面に横方向の楕円押型文、内面に原体条痕を施す。78～109 は外面に縦方向または斜方向の楕円押型文を施す。内面に 78～91 は横方向の楕円押型文、87、92 は横方向の山形押型文、88～102、109 は原体条痕を施す。83 は口縁部が内湾する壺に近い器形であろう。96 は口縁端部が強く外反する。100 は波状口縁となる。101 は貫通する円孔をもち、原体条痕を 2 段に施文する。103 は外反の度合いが弱く、むしろ a 類とすべきか。106 は内面に繊維痕を残す。107 と 108 は文様や胎土が類似しており、同一個体の可能性が高い。

Ⅰ B 類「山形押型文」

Ⅰ Ba 類 (第 52、53 図：110～136)

110 は外面に横方向の山形押型文を施し、内面はナデ調整する。円筒形に近い器形を呈する。111～131 は外面、内面に横方向の山形押型文を施す。111 の文様は他と比べて文様の単位が細かい。125 は波状口縁となる。123～131 は内面の口縁端部に原体条痕を施す。112、115、116、125、129 は貫通

する円孔を、121 は未貫通の円孔を有する。125 は波状口縁の頂部付近。132 は外面に横方向あるいは斜方向の山形押型文を施す。内面はナデ調整である。133、134 は外面に縦方向の山形押型文、内面に横方向の山形押型文を施し、134 は内面の口縁端部に原体条痕を施す。135 は外面に縦方向の山形押型文、内面の口縁端部に原体条痕を施す。

I Bb 類 (第 53、54 図：137～153)

137、138、140、141 は外面、内面に横方向の山形押型文を施し、138、140 は内面の口縁端部に原体条痕を施す。141 は接合箇所が極小で不確実だが、明らかに 140 と同一個体である。139、142～148、152、153 は外面に縦方向の山形押型文、内面に横方向の山形押型文を施す。142 は内傾の粘土接合痕が観察できる。149～151 は外面に縦方向の山形押型文、149 は内面に横方向の楕円押型文を施文する。150 は原体条痕を施す。円孔を穿ち、内面に炭化物の付着が認められる。

I C 類「格子目押型文」

I Ca 類 (第 55 図：154、155)

154 は外面の口縁端部をナデ調整し、無文帯を形成する。その口縁部無文帯の下位に格子目押型文、内面は口縁部に格子目押型文を施す。内面には文様とは別に幅 2mm 程の棒状の圧痕が見られる。155 は外面と内面に細かな格子目押型文、内面の口縁端部には原体条痕を施す。

I Cb 類 (第 55 図：156～160)

156～160 は外面全体と口縁部内面に格子目押型文を施文する。158 は外面に細かな格子目押型文、内面の口縁端部には原体条痕を施す。159 は口唇部と内面の口縁端部に原体条痕を施す。160 は口唇部にも格子目押型文が施されている。

I D 類「イチゴ押型文」

I Db 類 (第 55 図：161～163)

161 は口縁部～胴部である。外面と口縁部内面にイチゴ押型文を施す。162 は外面の口縁端部と内面にイチゴ押型文を施す。163 は外面にイチゴ押型文、内面の口縁端部に原体条痕を施す。

I E 類：「撚糸文」ほか

I Ea 類 (第 55、56 図：164～176)

164～167 は外面と内面に横方向の撚糸文、169、170 は外面に縦方向の撚糸文を施す。内面には文様は見られない。171 は外面と内面に網目撚糸文を施す。168 と 172～175 は外面と内面に縄文を施す。174 は無節縄文か。内面の胴部にも施文される。内面のナデは工具の繊維痕が明瞭に残る。また指頭圧痕も明瞭である。176 は外面に縄文を施す。174 と 176 は円筒形に近い器形であろう。

I Eb 類 (第 56 図：177～186)

177～180 は外面に縦方向、内面に横方向の撚糸文を施す。181 は外面に斜方向の撚糸文を施し、内面はナデ調整する。182 と 183 は外面、内面に撚糸文を施す。184 は外面と内面に縄文を施す。185 は撚糸文か押圧縄文であろうか。186 は外面に変形撚糸文を施文する。

頸部及び胴部 (第 56～59 図：187～233)

187～189 は外面に楕円押型文を施す。189 は内面に炭化物の付着が認められる。190 は頸部で外面の楕円押型文の粒が比較的大きく、内面は原体条痕を 2 段に施す。191～195 は底部付近で外面に楕円押型文を施す。192 は外面に縦方向の楕円押型文、内面上部には原体条痕を施し、外面下部にはス

スの付着が認められる。196～198は外面に横方向の山形押型文を施し、内面はナデ調整する。199、200は外面、内面に横方向の山形押型文を施す。201は外面と内面に押型文を施し、下部はわずかに屈曲する。202～205は外面に縦方向の山形押型文を施す。205は植物の枝圧痕が残る。206は撚糸文、207は網目撚糸文を外面に施す頸部である。208は外面と内面に横方向の撚糸文を施す。209～214は外面に撚糸文を施し、加えて213には外面下位に楕円押型文を施文する。215～217は外面に縄文を施す。218～220は外面に撚糸文を施文する。221～223は外面に網目撚糸文、224～227は繊細な変形撚糸文を施す。228は頸部、229、230は胴部でいずれも外面に格子目押型文を施す。230は内面に炭化物の付着が認められる。231～233は外面、内面にイチゴ押型文を施すものである。231は内面にも施文する。

底部（第59図：234～246）

234～237は外面に楕円押型文を施す。234は丸底、235～237は平底である。235は底径が推定4.2cmの小振りの個体である。

238～244は外面に山形押型文を施す。238は尖底、239と240は丸底、241～244は平底である。239は外面下部にはススの付着が認められる。

245と246は外面に撚糸文を施す。246は外面下部に炭化物が付着している。

深鉢以外の土器（第59、60図：247～251）

247～250は壺である。247は胴部最大径が約22.9cmで、稜を形成して屈曲し、算盤玉状の体部となる。外面は横方向の楕円押型文を施し、内面はナデ調整を行う。248は胴下部であろう。器壁が比較的薄い。外面は横方向の山形押型文を施し、内面に繊維状痕を残す。249は頸部で、外面は縦方向の山形押型文を施す。250は口縁部で外面に縦方向、内面に原体条痕と横方向の山形押型文を施す。

251は小型の鉢で外面に楕円押型文を施す。内面は指頭圧痕が明瞭に残る。

II 貝殻文系・条痕文系土器（第60～62図：252～290）

貝殻文系・条痕文系土器については外面の文様によりA類「条痕を施すもの」、B類「刺突文を施すもの」とした（中分類）。またA類についてはa類「貝殻条痕を施すもの」、b類「工具による条痕を施すもの」に細分した（小分類）。

II A類：「条痕を施すもの」

II Aa類（第60図：252～256）

252、253は口縁～胴部。252は口縁部が直立する。外面に太目の貝殻条痕を施し、口唇部は丁寧なミガキ調整、内面は丁寧なナデ調整を行う。253は胴部から口縁部にかけて内傾する。254は外面と口唇部、口縁部内面に貝殻条痕を施す。255は外面の口縁端部に貝殻条痕、口縁部下位に貝殻腹縁刺突文を施す。256は口縁～胴部である。外面全体に貝殻条痕、口縁端部付近に貝殻腹縁刺突文が施される。口唇部はナデ調整、内面はミガキ調整を行う。

II Ab類（第60、61図：257～266）

257～259は口縁部が直口となり、外面に条痕文を施す。265は口唇部と内面に丁寧なミガキ調整を行う。260～266口縁部が外反する。260は外面に条痕文、内面の口縁端部に原体条痕を施す。261は外面、口唇部、口縁端部の内面に条痕文を施し、円孔を有する。262～265は外面、内面に条痕文

を施し、263、265 は口唇部に刻目を施す。264 は外面、口縁端部の内面及び口唇部に横方向のナデ調整を行う。266 は外面に斜方向の条痕文を施し、内面は多方向のナデ調整を施す。

II B 類：「刺突文を施すもの」（第 61 図：267～274）

多くは口縁部が内湾する器形となる。外面に貝殻腹縁刺突文を施し、内面はミガキ調整を行う。267 は外面の口縁端部に沈線文を施し、口唇部にミガキ調整、内面に粗いミガキ調整を施す。269 は外面の口縁端部に貝殻腹縁刺突文、下位に綾杉状短沈線文を施す。口唇部はミガキ調整、内面は丁寧なミガキ調整を行い、口唇部に部分的に貝殻腹縁刺突文を施す。270、271、273 は外面の口縁端部に貝殻腹縁刺突文を、下位に綾杉状短沈線文を施し、270 は胴部にも貝殻腹縁刺突文を施す。272 は外面の口縁端部に綾杉状貝殻腹縁刺突文を施し、その下位に綾杉状短沈線文を施す。274 は他と異なり口縁端部が先細となり、外反する。外面の口縁部上部に縦位 3 段の貝殻腹縁連続刺突文、下部に丁寧なナデ調整、口唇部及び内面は丁寧なミガキ調整を施す。

胴部（第 61、62 図：275～288）

275 は外面に横方向の細かな貝殻条痕、276 は斜方向の貝殻条痕を施す。277 は外面に綾杉状貝殻条痕を施し、内面は丁寧なミガキ調整を行う。278 と 280 は条痕文を施す。279 は口縁付近で外面の口縁端部に条痕文を施し、口縁下位は横方向のナデ調整、内面は縦方向のミガキ調整を施す。281 は外面上位に縦方向及び斜方向の沈線文、下位に横方向の沈線文を施し、下端部に貼付けの刻目突帯を付す。内面には細かな条痕が横・斜方向に施される。この個体は平行沈線文が見られることからここに含めたが、他とは系統が異なり押型文系土器の終末に位置する可能性が高い。282～288 は外面に綾杉状短沈線文、沈線文を施す。内面は丁寧なナデ調整を行うものが多い。

底部（第 62 図：289～290）

289 は底部近くの破片で外面に貝殻腹縁刺突文を施す。底面は剥離している。290 は小型の平底の破片。外面に貝殻条痕を施す。

III 無文土器（第 62～65 図：291～336）

無文土器については口縁部の器形をもとに、a 類「口縁部が直口するもの」、b 類「口縁部が外反するもの」とした（小分類）。a 類には、口縁部がわずかに開きぎみになるものや内湾するものも含めた。

III a 類（第 62～64 図：291～313）

ほとんどの個体が外面、内面ともナデ調整である。308 は内面に小さな凹み状の圧痕を残す。311 は鐙状の貼付突帯を巡らせる。ヨコナデ整形をしない粗雑な印象を与えるものである。表では深鉢としたが全体の形状は判然としない。312 はこぶ状の突起を付す。この個体についても、全体の形状は不明である。313 も同様である。

III b 類（第 64 図：314～318）

やはり、全て外面、内面ナデ調整。314 は内面に斜方向の太目の原体条痕を施す。外面に文様が見られないためここに含めたが、器形の面では I 類に近い。316 は口唇部に刻目を施し、外面、内面は丁寧なナデ調整を施す。

胴部（第 64、65 図：319～323）

319～322 は外面、内面をナデ調整し、321 は外面及び内面に繊維痕、322 は圧痕を残す。323 は外

面をナデ調整、内面は丁寧なナデ調整を施す。

底部（第 65 図：324～336）

全て外面、内面ナデ調整。328～330は尖底、325、331～335は平底である。324、326、327及び336は丸底である。336の内面は風化が著しく調整は不明である。

Ⅳ その他の土器（第 65 図：337～343）

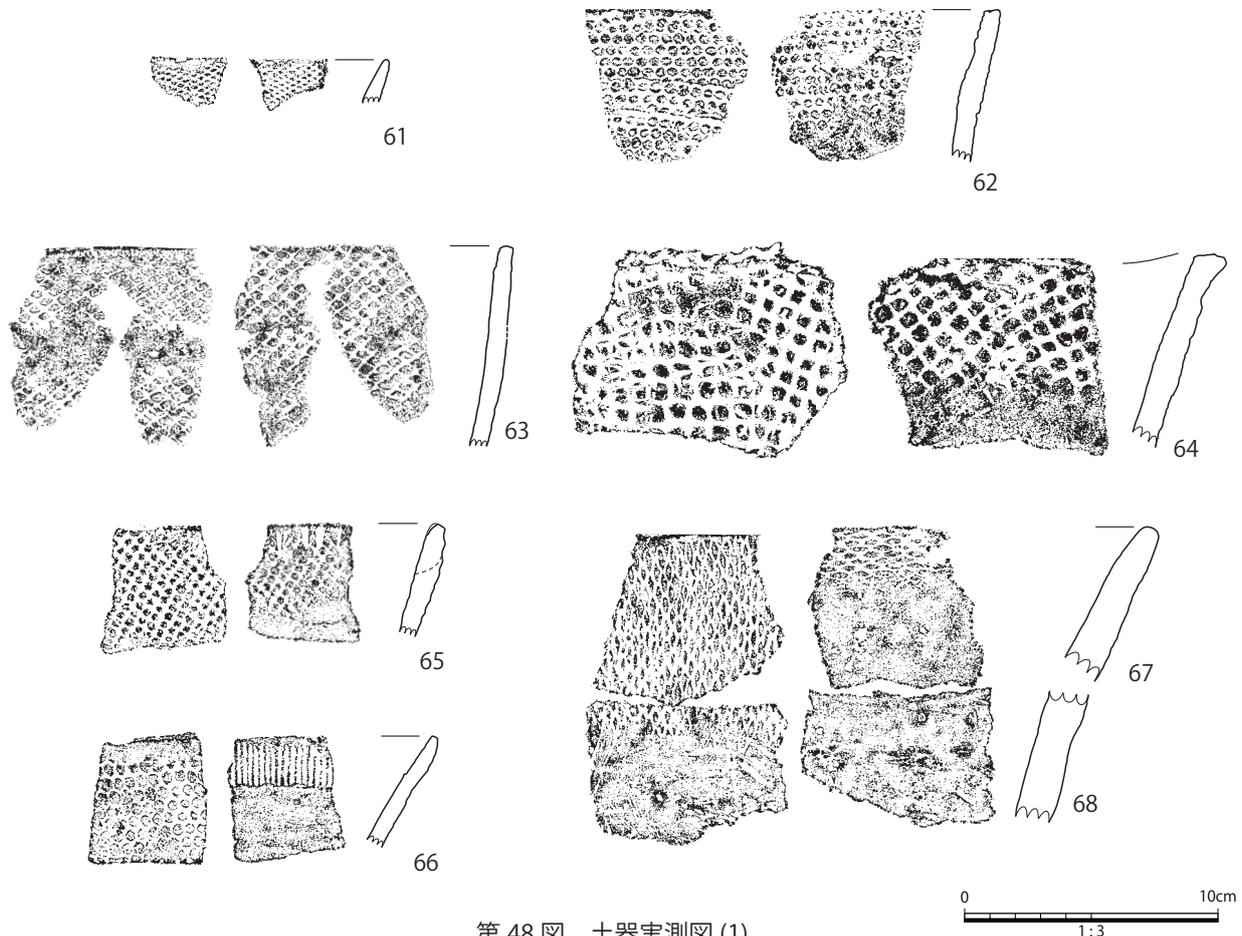
V層・VI層出土であることから縄文時代早期の可能性を有する土器についてここでまとめて記載する。

337は口縁～胴部で、風化が著しく外面、内面ともに調整は不明である。338～340は底部である。338は底径が推定7.2cmの平底、339は丸底で、いずれも外面、内面ともにナデ調整を施す。340は底径が推定10.9cmの平底で外面の風化が著しく様態は不明だが、内面は丁寧なナデ調整を施す。

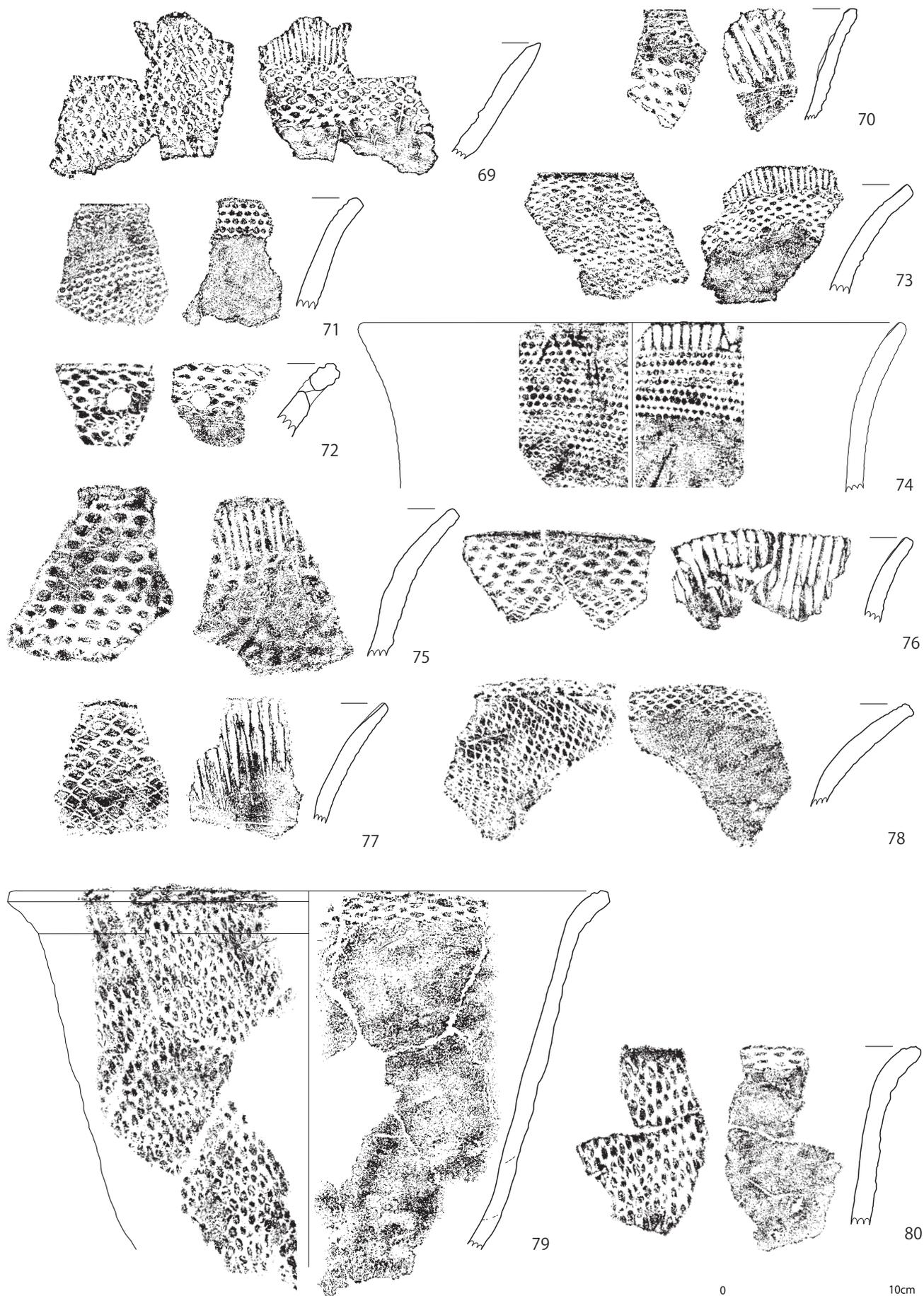
341～343は二次加工された土器片加工円盤である。341は径が約6.0cm、342は径が約5.5cmで、片面に楕円押型文、もう一方の面に斜方向の原体条痕を施した土器片を加工している。343は径が約4.0cmで、両面に繊維痕を残す。

【引用文献】

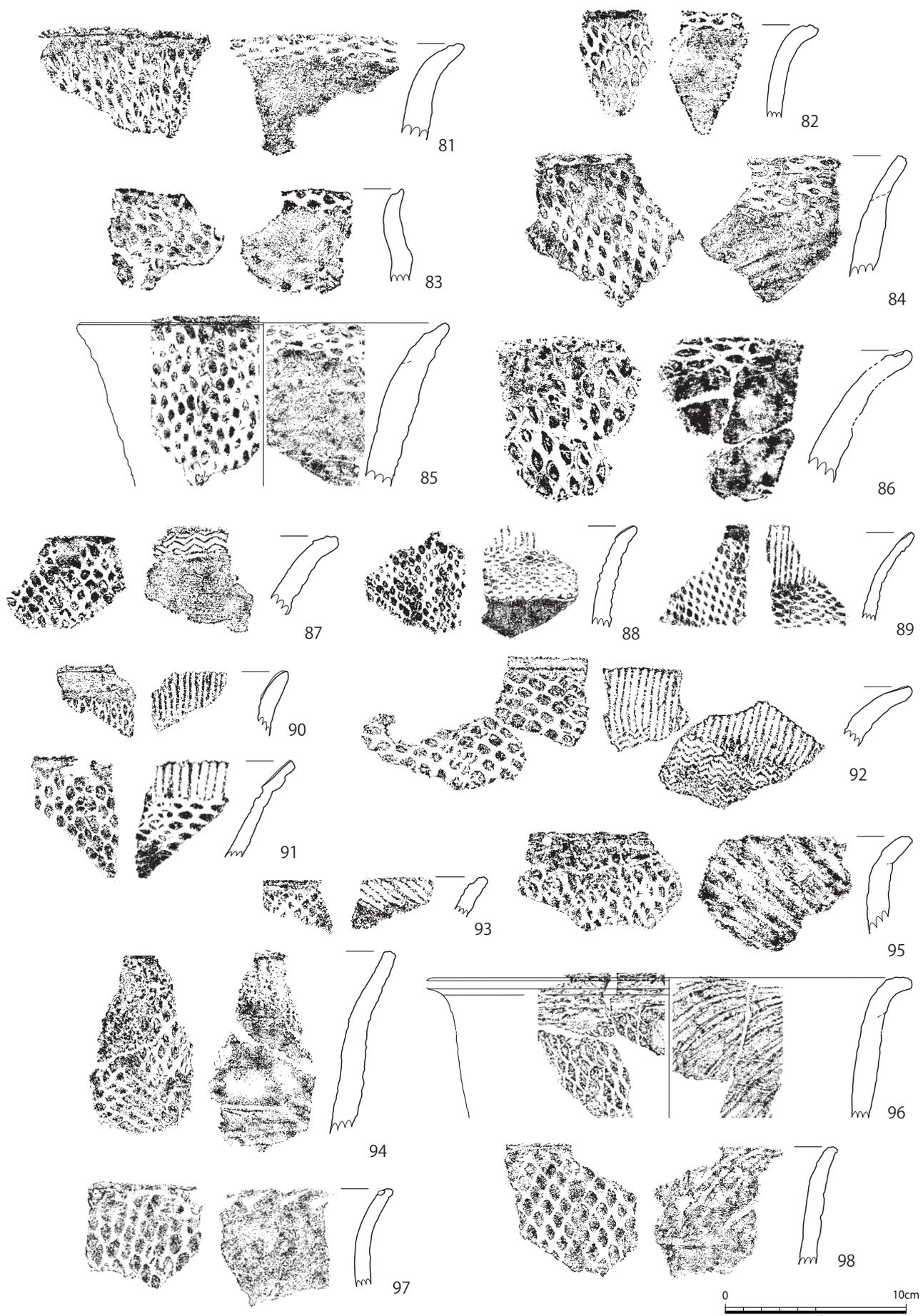
金丸武司 2004「宮崎における縄文時代早期前半の土器群」『宮崎考古』第19号 宮崎考古学会



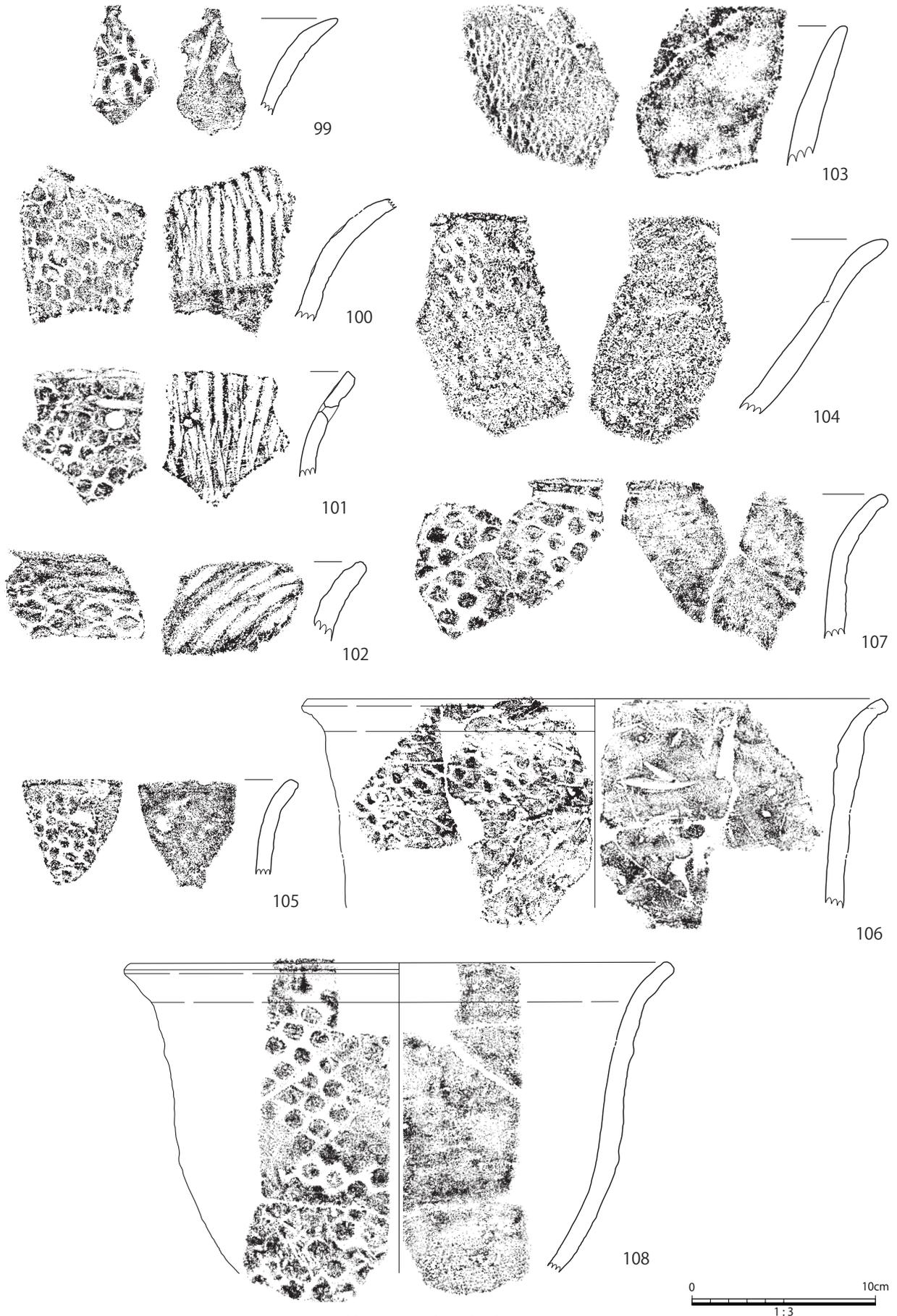
第 48 図 土器実測図 (1)



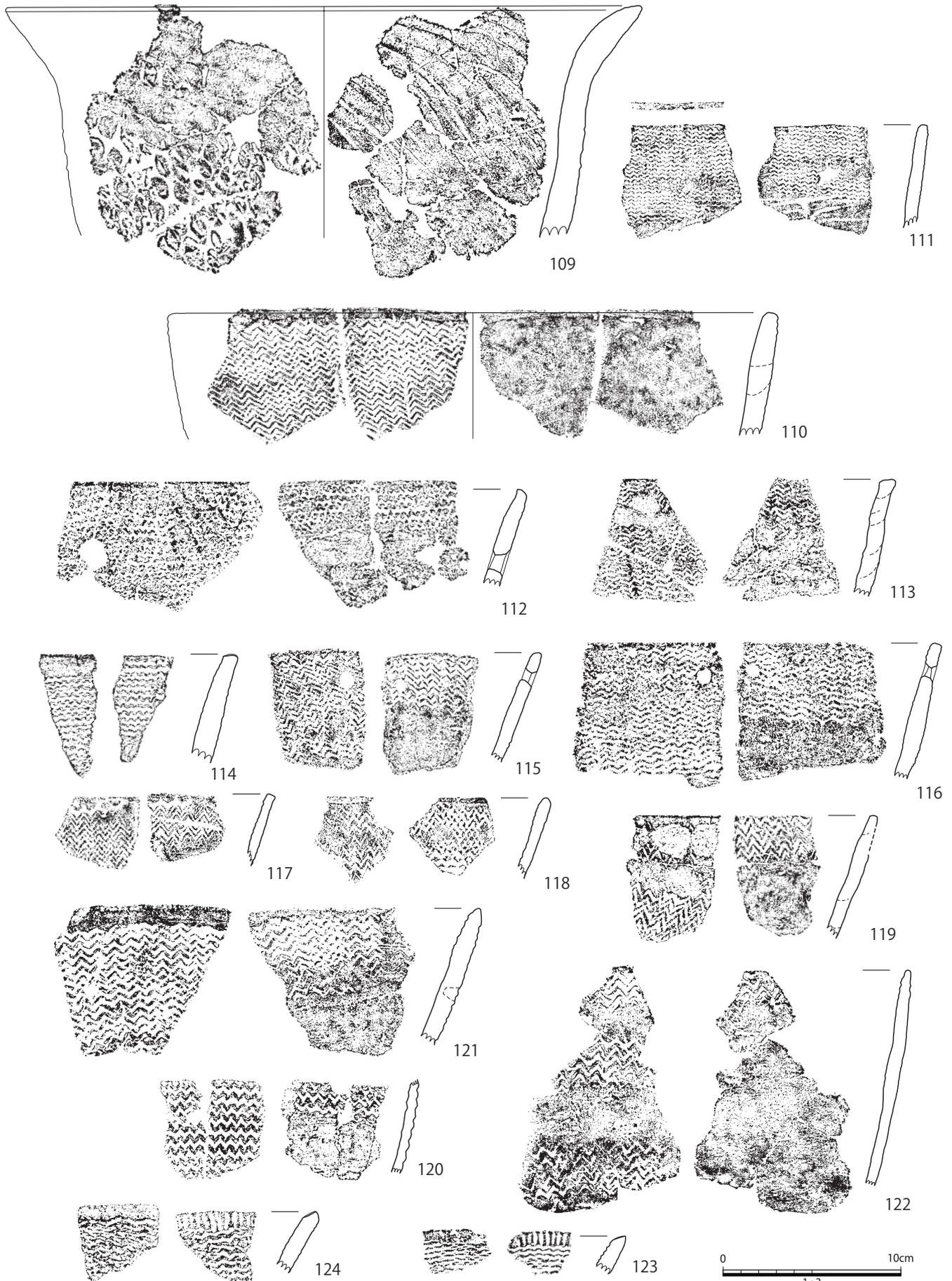
第 49 图 土器実測図 (2)



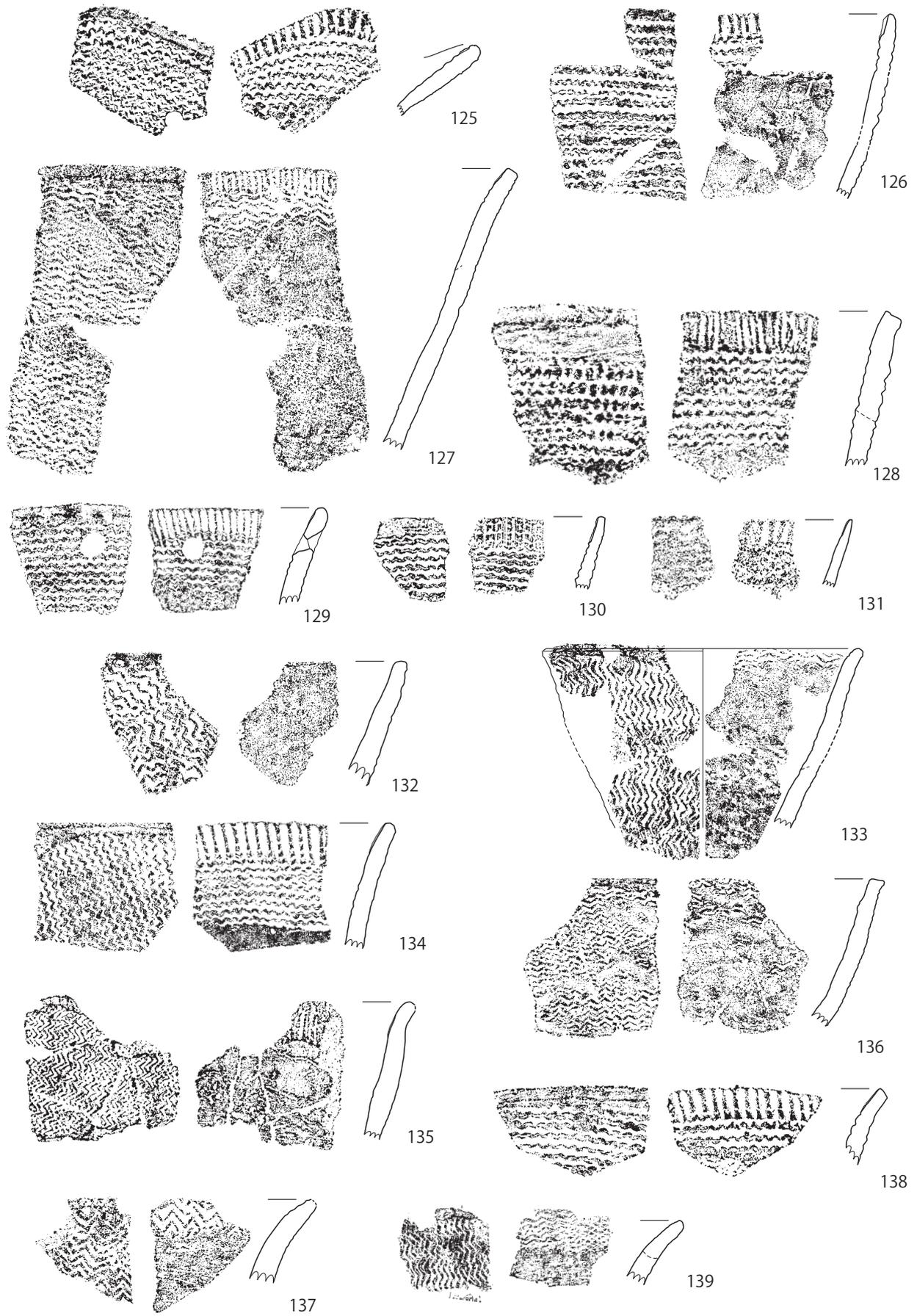
第 50 图 土器実測图 (3)



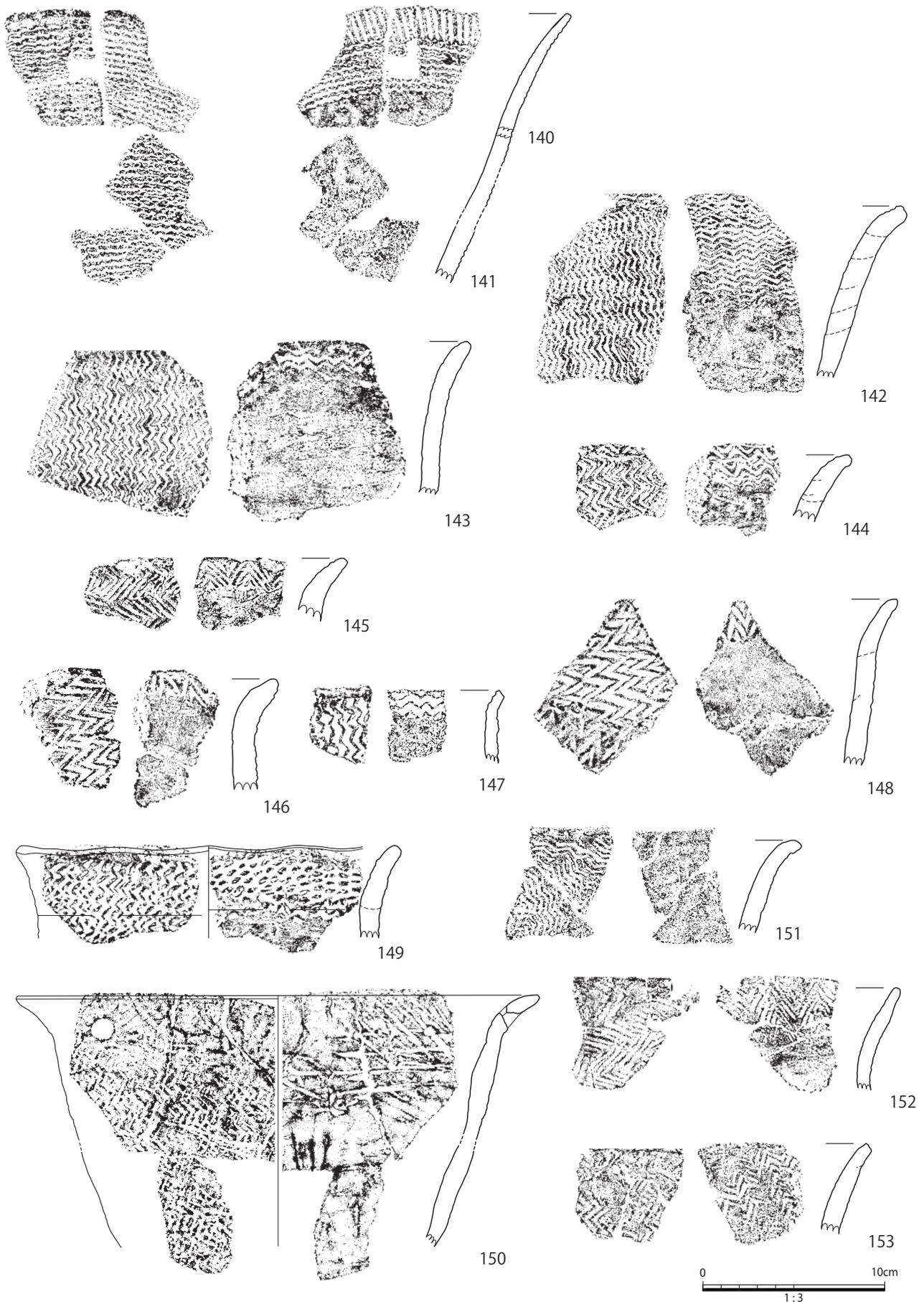
第 51 图 土器実測图 (4)



第 52 图 土器実測图 (5)



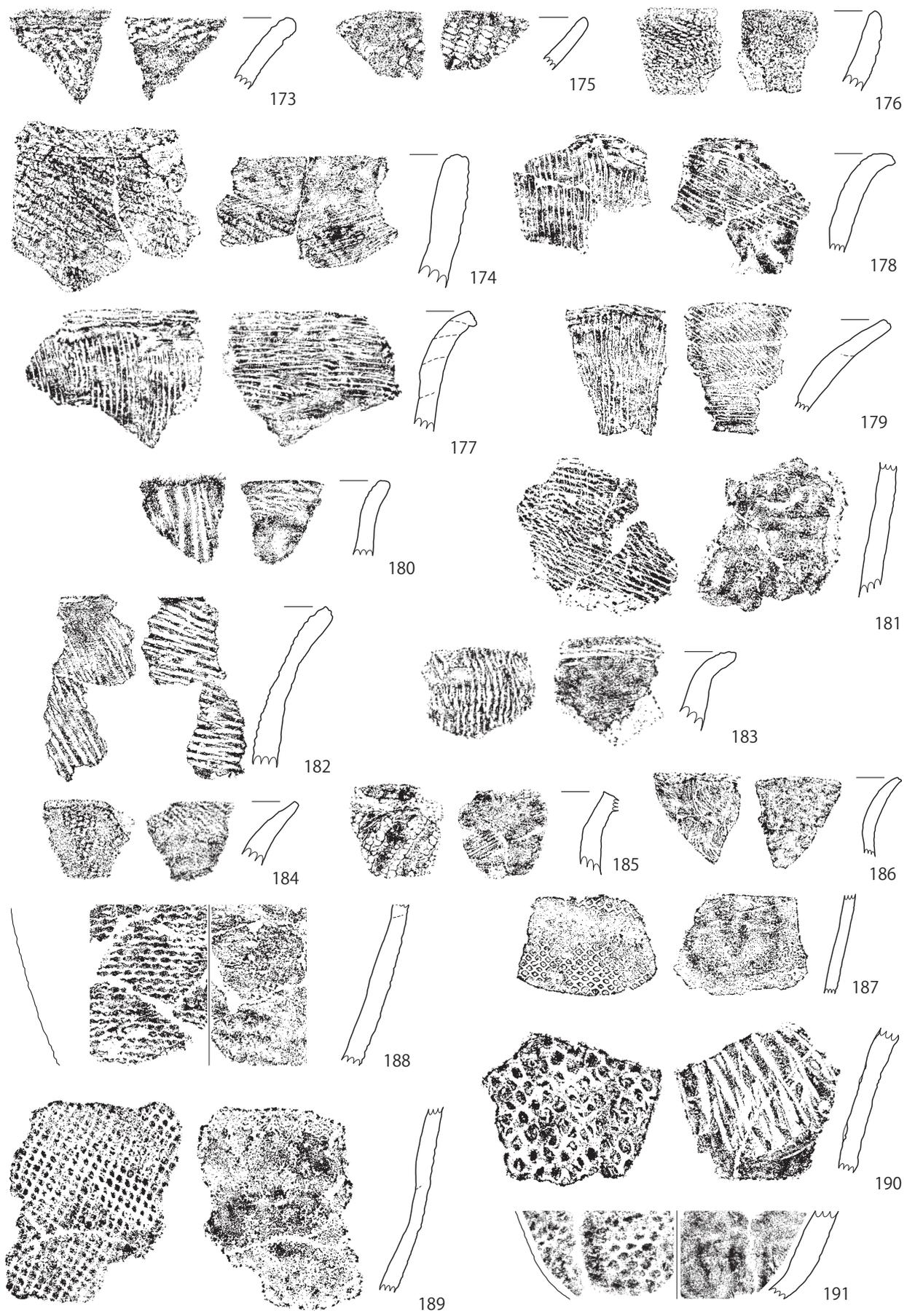
第 53 图 土器実測図 (6)



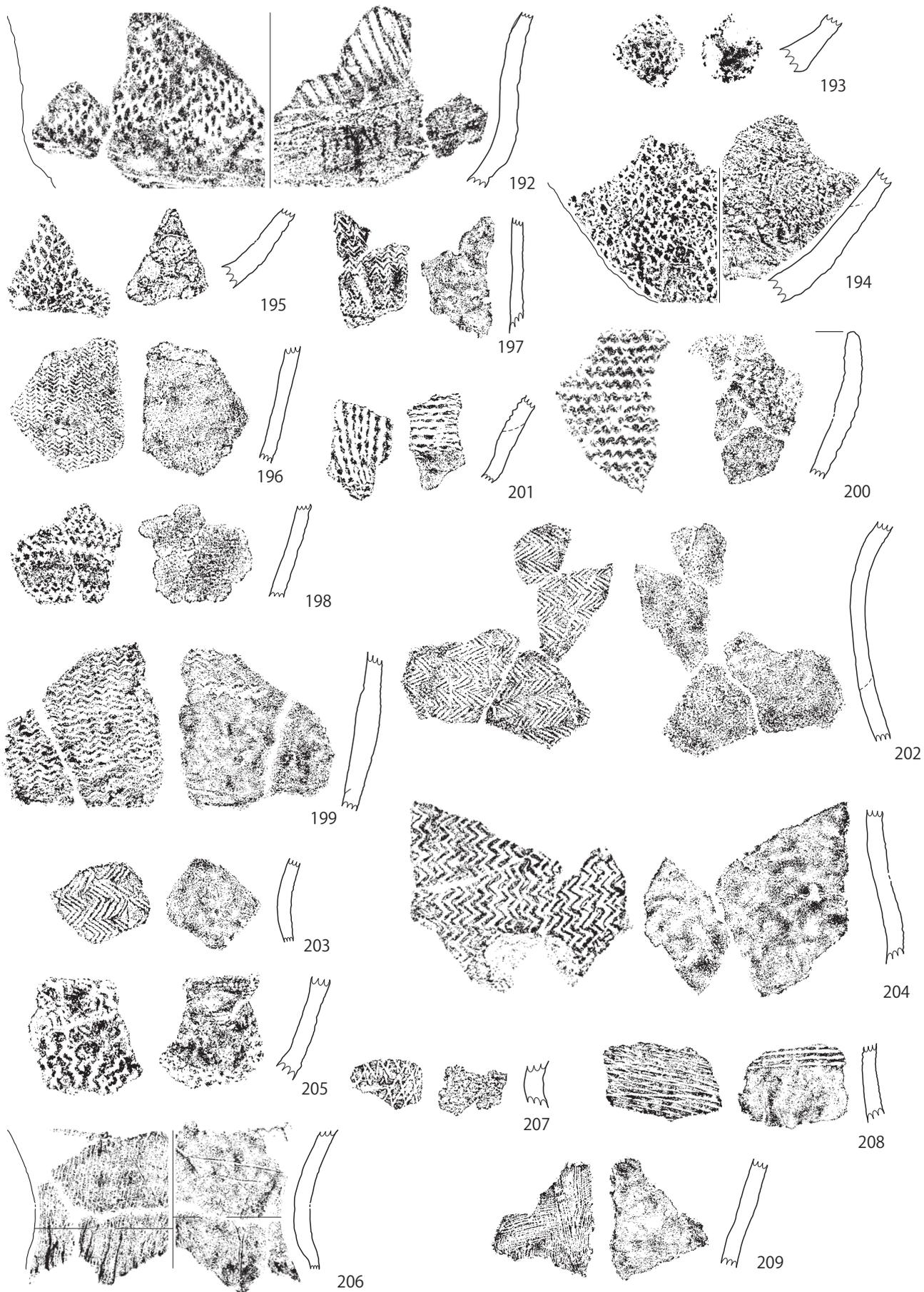
第 54 图 土器実測图 (7)



第 55 图 土器実測图 (8)

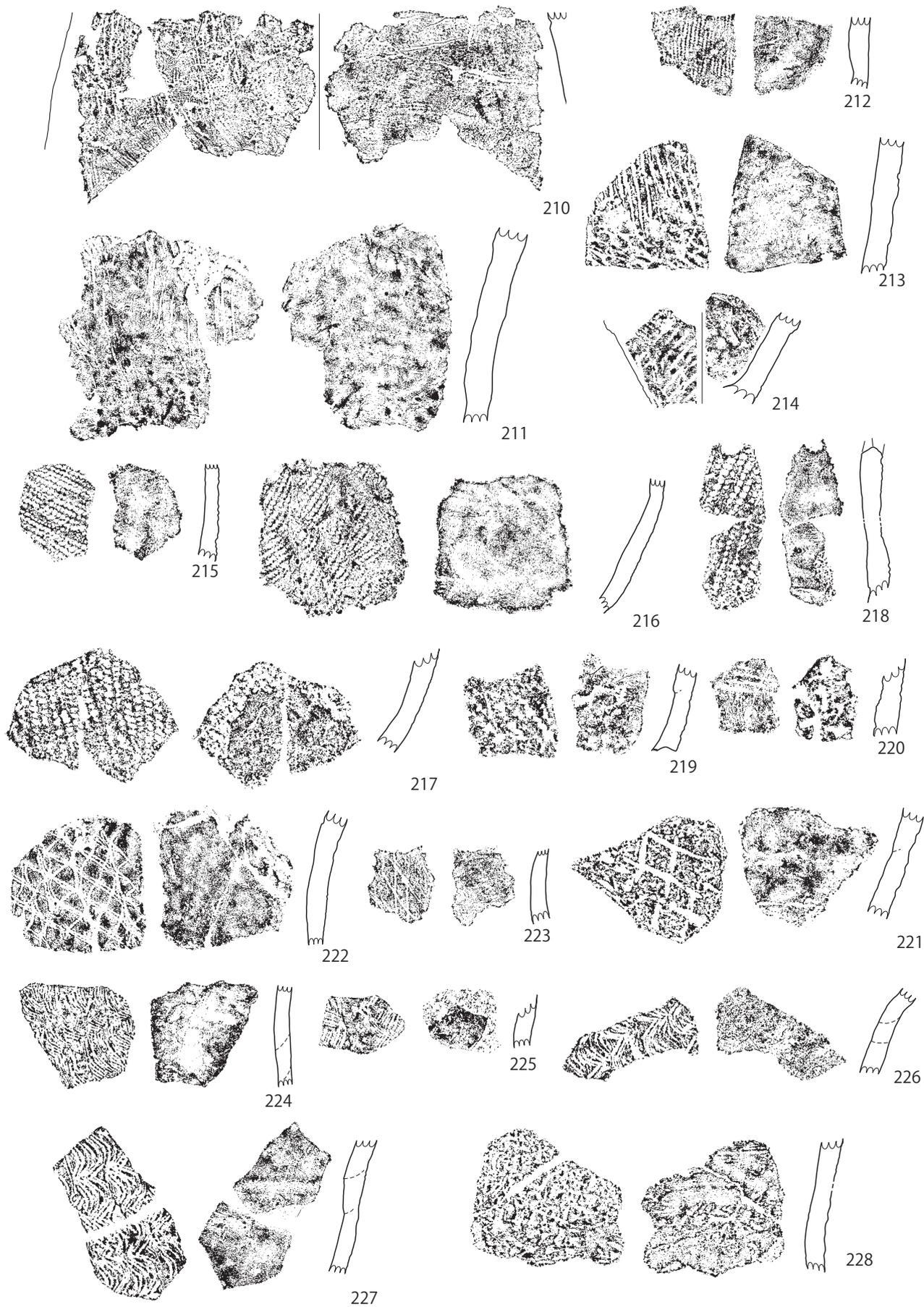


第 56 图 土器実測图 (9)



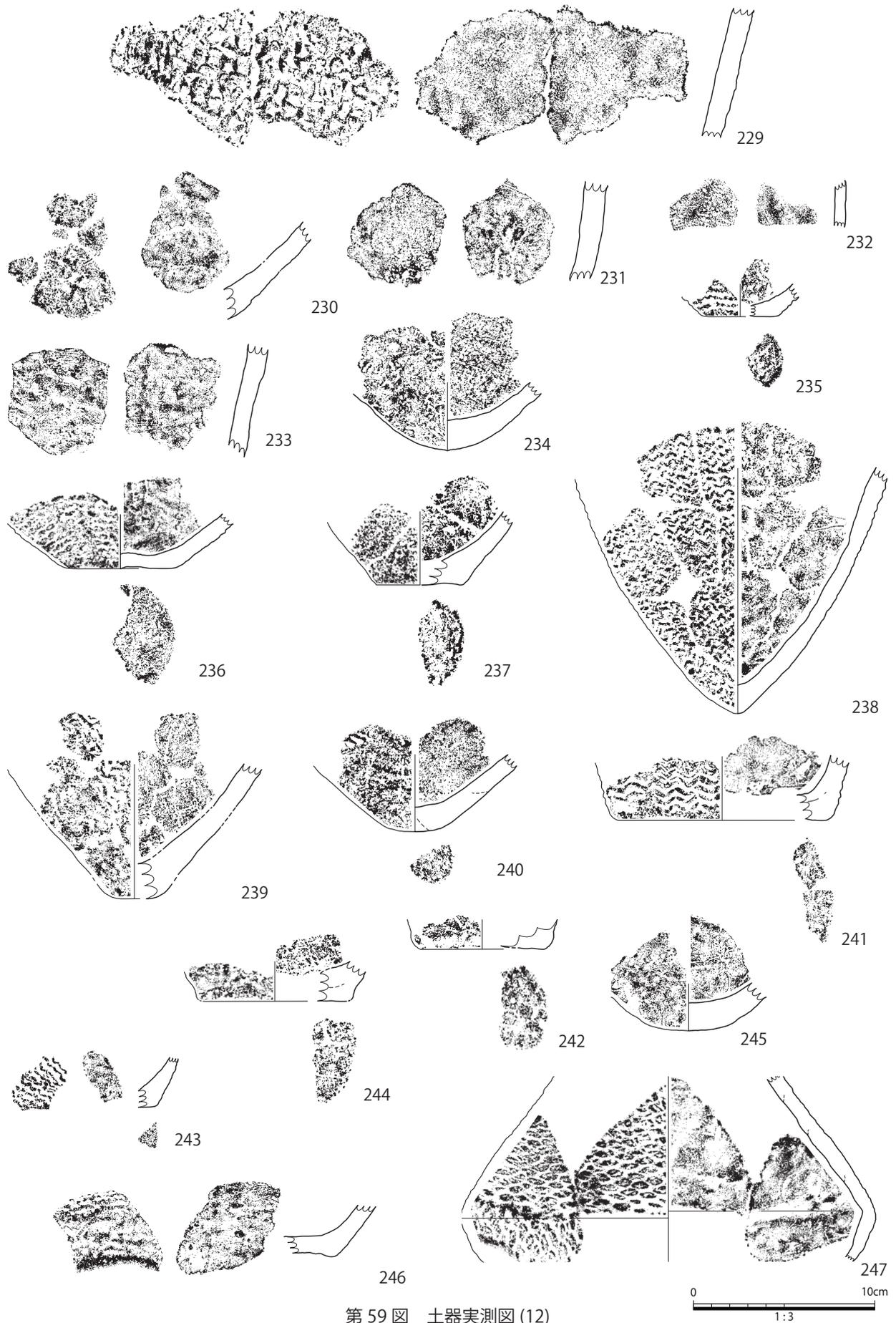
第 57 图 土器実測图 (10)

0 10cm
1:3

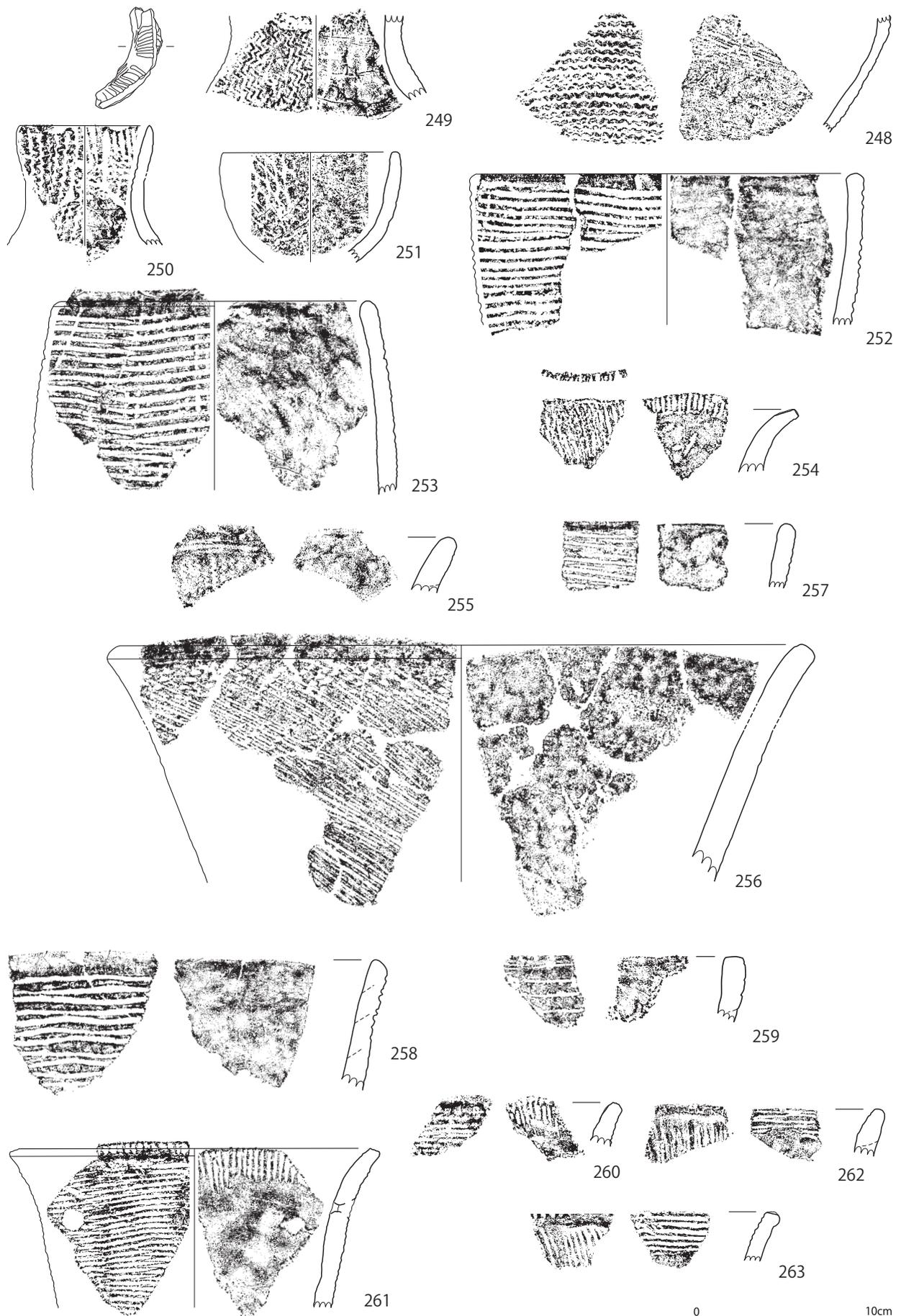


第 58 图 土器実測図 (11)

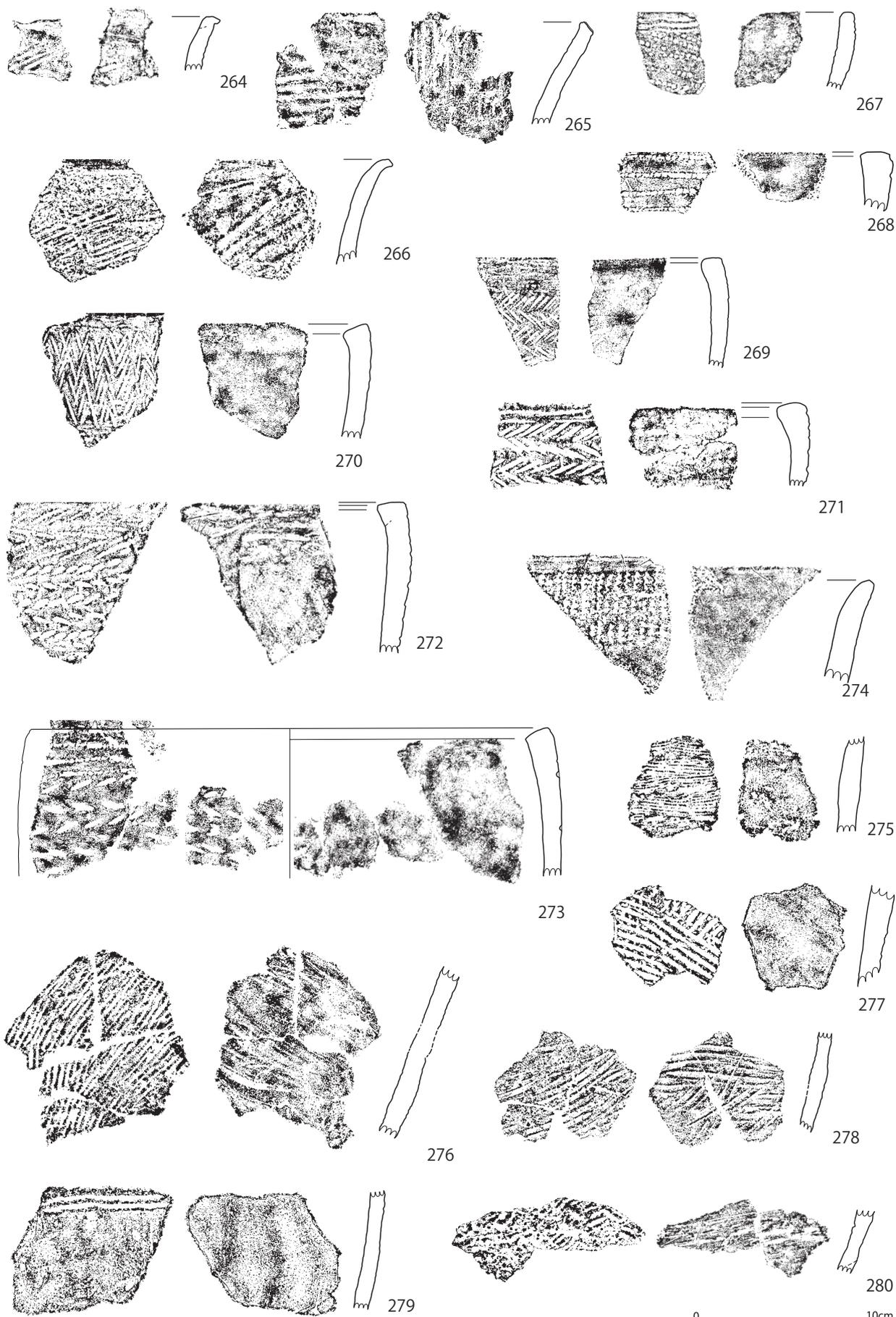
0 10cm
1:3



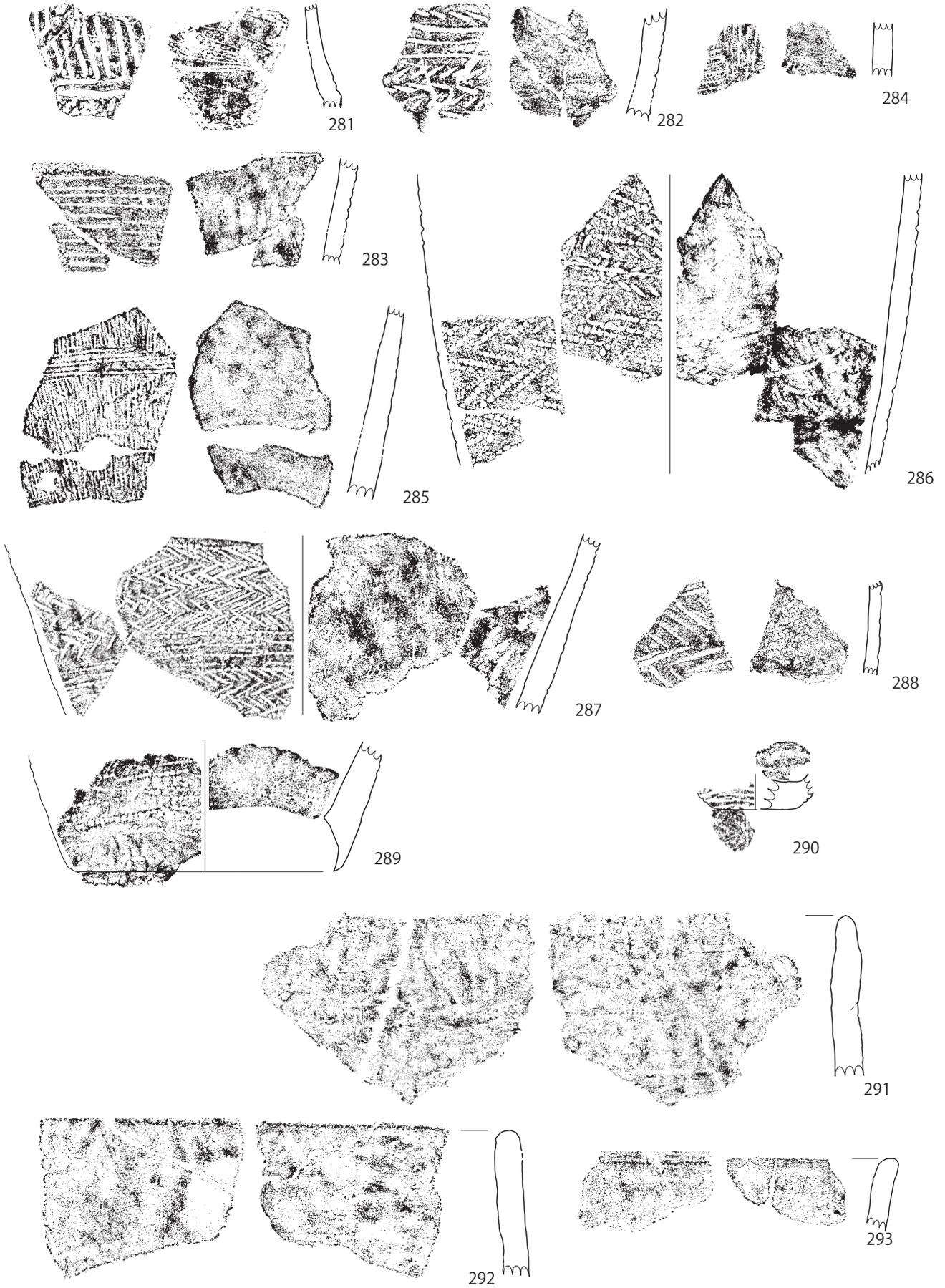
第 59 图 土器実測図 (12)



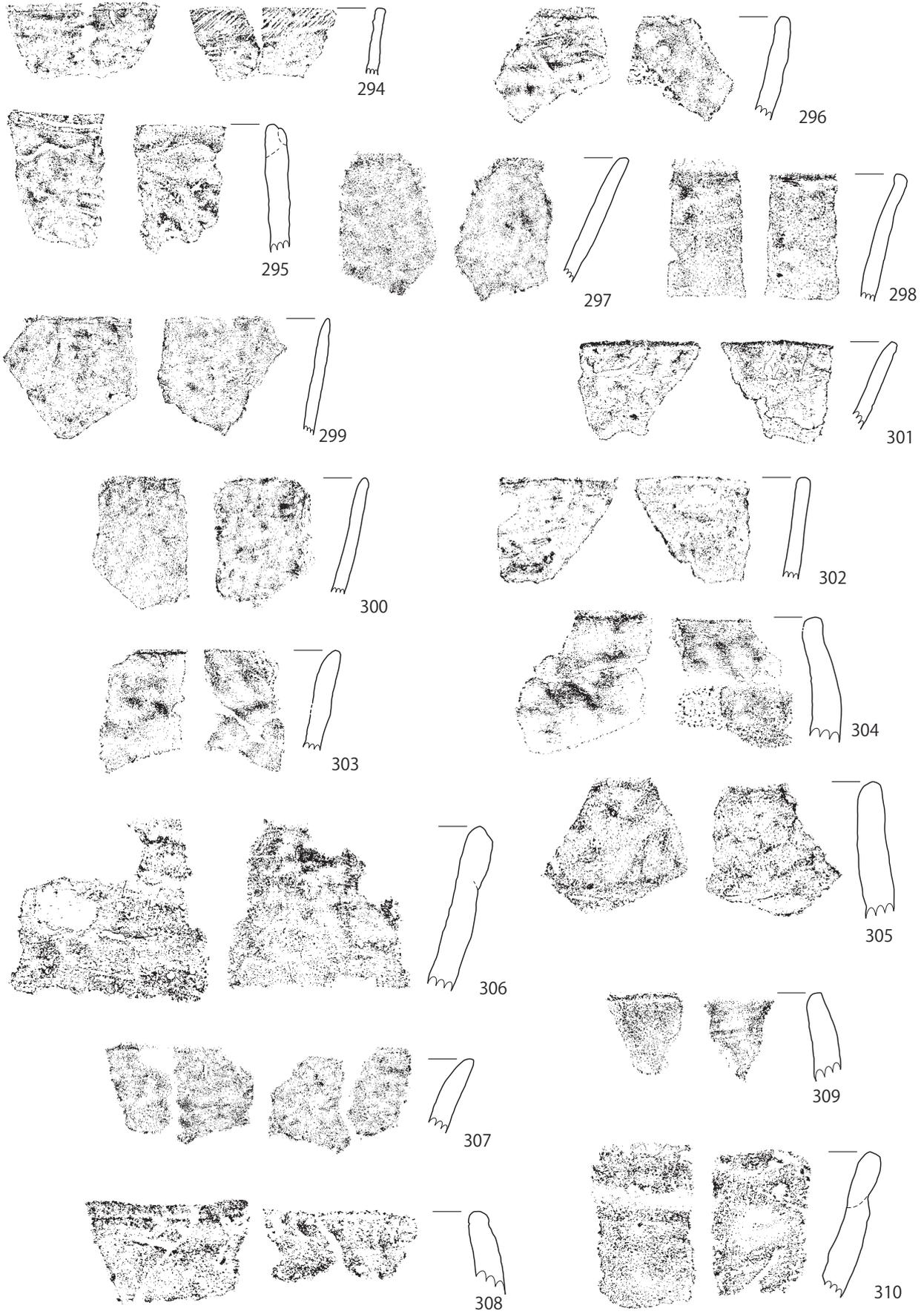
第 60 図 土器実測図 (13)



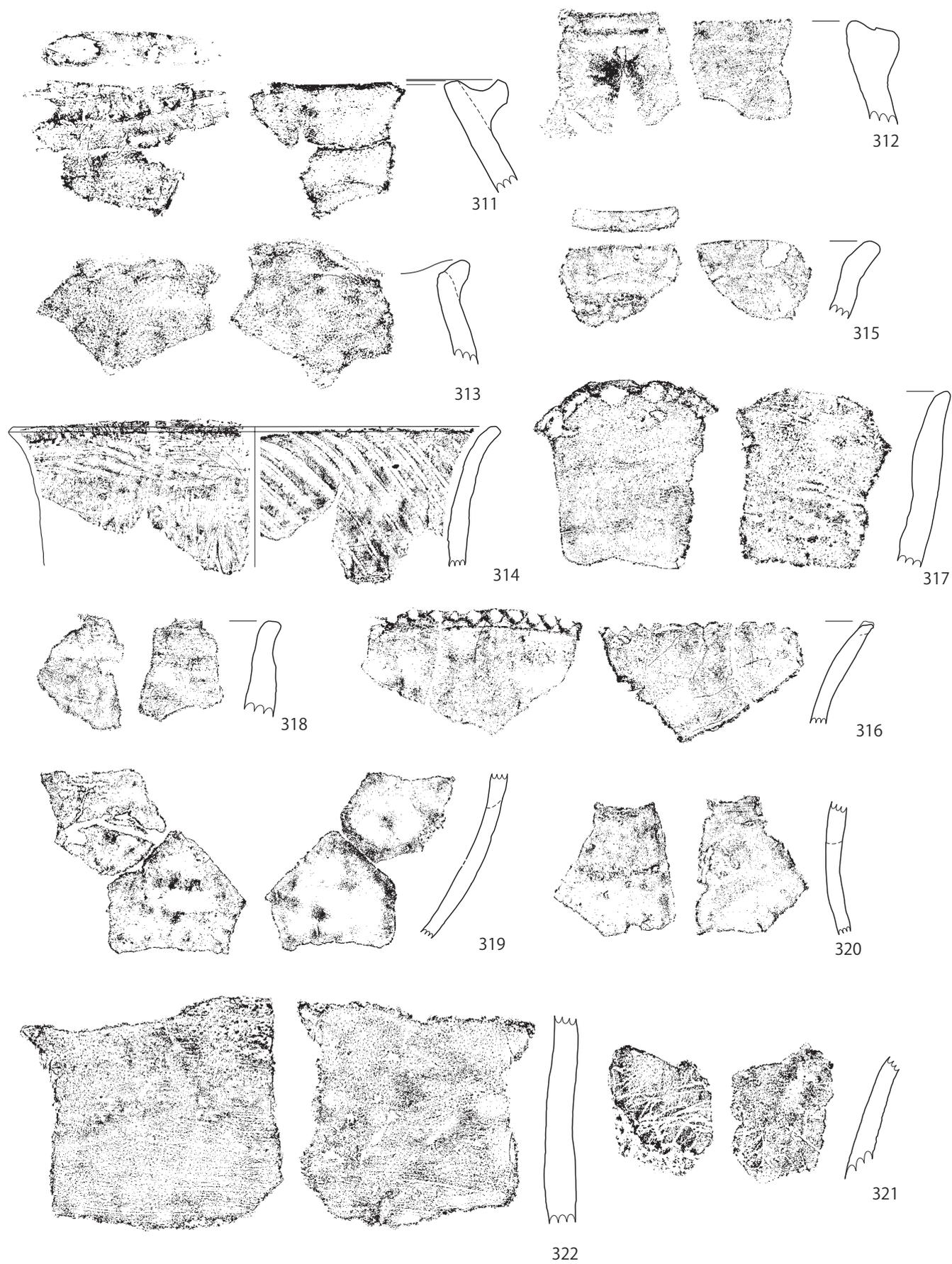
第 61 图 土器実測図 (14)



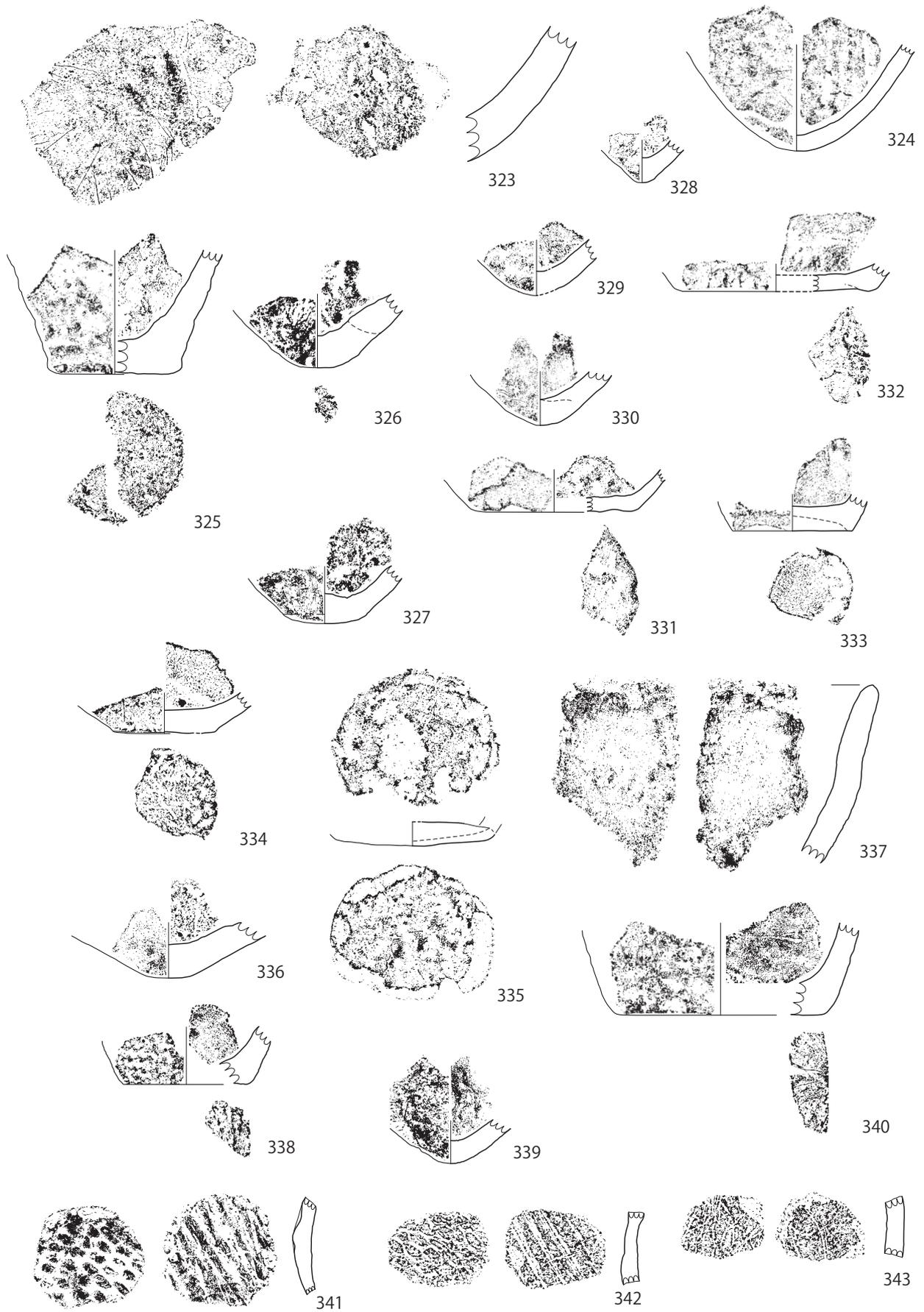
第 62 图 土器実測図 (15)



第 63 图 土器実測图 (16)



第 64 图 土器実測図 (17)



第 65 图 土器実測图 (18)

0 10cm
1:3

第19表 縄文時代早期土器観察表①

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
61	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	微細な透明光沢粒を含む。	I Aa	
62	深鉢	口縁部	G7	楕円押型文、刺突文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙5YR6/6	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の半透明粒をごくわずかに含む。	I Aa	
63	深鉢	口縁部	H7	楕円押型文、ナデ	楕円押型文	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙2.5Y6/3	8mm以下の灰黄色粒、3mm以下の褐色粒、2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	I Aa	黒斑あり
64	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	橙7.5YR7/6	6mm以下の灰白色粒、3mm以下の角閃石をわずかに、2mm以下の透明光沢粒を少し含む。	I Aa	波状口縁
65	深鉢	口縁部	N5	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ、刻目	7.5YR7/6	にぶい黄橙10YR6/4	1.5mm以下の灰白色粒、0.5mm以下の角閃石、透明光沢粒を少し含む。0.5mm以下の金色粒をごくわずかに含む。	I Aa	
66	深鉢	口縁部	O4	楕円押型文、ナデ	原体条痕、ナデ	橙7.5YR6/6	褐灰10YR5/1	3mm以下の灰黄色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む。2mm以下の黒色粒を少し含む。	I Aa	
67	深鉢	口縁部	G7	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	明褐7.5YR5/6	にぶい褐7.5YR5/4	2mm以下の灰白色粒、浅黄褐色粒、明褐色粒、黒色光沢粒を含む。	I Aa	68と同一個体
68	深鉢	胴部	H6	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の灰白色粒、淡黄色粒、褐色粒、褐灰色粒、黒色光沢粒を含む。7mm大の灰白色粒を1つ含む。	I Aa	67と同一個体 黒斑あり
69	浅鉢	口縁～胴部	N5	楕円押型文	楕円押型文、原体条痕、ナデ	にぶい黄橙7.5YR5/4	にぶい黄橙10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、浅黄色粒、明褐色粒、黒褐色粒、褐灰色粒を含む。	I Aa	
70	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、工具ナデ、ナデ	原体条痕、工具ナデ	明赤褐2.5YR5/6	にぶい赤褐5YR5/4	2mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の褐色粒を含む。微細な黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	I Aa	
71	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙7.5YR7/6	にぶい黄橙7.5YR5/3	3mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の灰色粒を含む。2mm以下の角閃石を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の明赤褐色粒を少し含む。	I Ab	黒斑あり
72	深鉢	口縁部	N4	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙2.5Y6/3	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、にぶい黄褐色粒を含む。	I Ab	穿孔あり 黒斑あり
73	深鉢	口縁部	M4	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、原体条痕、ナデ	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	2mm以下の角閃石、透明光沢粒、灰白色粒、にぶい黄褐色粒、にぶい黄褐色粒を含む。4mm以下の明黄褐色粒、浅黄色粒、にぶい褐色粒をごくわずかに含む。	I Ab	黒斑あり
74	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、原体条痕、ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の灰白色粒、角閃石、浅黄色粒、褐灰色粒、透明光沢粒を含む。3mm以下の灰黄褐色粒を1つ含む。	I Ab	穿孔未貫通あり 黒斑あり
75	深鉢	口縁～胴部	N4	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、原体条痕、ナデ	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐5YR5/6	5mmの明褐灰色粒を1つ含む。3mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の灰色粒をわずかに含む。2mm以下の角閃石を少し含む。1mm以下の半透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Ab	
76	深鉢	口縁部	M5	楕円押型文、ナデ	原体条痕	にぶい黄2.5Y6/3	暗黄灰2.5Y5/2	2mm以下の角閃石、透明光沢粒、灰白色粒、浅黄色粒、褐灰色粒を含む。	I Ab	
77	深鉢	口縁部	N5	楕円押型文、ナデ	原体条痕、ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	灰黄褐10YR5/2	4mm以下の灰白色粒を少し含む。微細な透明光沢粒、角閃石をわずかに含む。	I Ab	黒斑あり
78	深鉢	口縁部	H7	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、圧痕	にぶい黄橙10YR5/3	にぶい黄橙10YR7/4	6mm以下のにぶい赤褐色粒をごくわずかに含む。7mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	I Ab	風化気味 黒斑あり
79	深鉢	口縁～胴部	M5	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	橙5YR6/6	にぶい橙7.5YR6/4	5mm以下のにぶい橙色粒、灰白色粒を多く含む。3mm以下の黒褐色粒、灰白光沢粒、角閃石をわずかに含む。	I Ab	黒斑あり
80	深鉢	口縁～胴部	M5	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙5YR6/6 明赤褐5YR5/6	橙5YR6/6 にぶい褐7.5YR5/4	8mm以下の灰白色粒、4mm以下の赤褐色粒を含む。2mm以下の角閃石を少し含む。1mm以下の透明光沢粒を多く含む。	I Ab	
81	深鉢	口縁部	M5	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	明赤褐5YR5/6	橙5YR6/8 橙5YR6/6	5mm以下の赤褐色粒、3mm以下のにぶい赤褐色粒を少し含む。2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を多く含む。3mm以下の灰白色粒を含む。	I Ab	
82	深鉢	口縁部	M5	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	明赤褐5YR5/6	橙5YR6/8	5mm以下の褐灰色粒、3mm以下のにぶい赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。2mm以下の灰白色粒、角閃石を多く含む。	I Ab	黒斑あり
83	深鉢	口縁部	N4	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	3mm以下の灰白色粒を多く含む。5mmの灰白色粒をごくわずかに含む。	I Ab	
84	深鉢	口縁部	M5	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐10YR5/2	にぶい褐7.5YR5/4	1mm以下の灰白色粒、浅黄色粒、褐灰色粒、黒色光沢粒を含む。7mm以下の褐灰色粒、浅黄色粒、にぶい褐色粒をごくわずかに含む。	I Ab	
85	深鉢	口縁部	P4	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙7.5YR6/6	明赤褐5YR6/8	7mm以下の暗赤色粒を含む。3mm以下の明褐灰色粒を含む。微細な透明光沢粒を多く含む。	I Ab	黒斑あり

第 20 表 縄文時代早期土器観察表②

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外面	内面	外面	内面			
86	深鉢	口縁部	N5	楕円押型文、 ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい赤褐 5YR4/4	3mm以下の赤褐色粒を多く含む。2mm以下の橙色粒を多く含む。微細な黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	I Ab	黒斑あり
87	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	7mm以下の灰褐色粒を多く含む。微細な透明光沢粒を少し含む。	I Ab	
88	深鉢	口縁部	N4	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 原体条痕、 ナデ	にぶい赤褐 2.5YR4/4	にぶい赤褐 2.5YR4/3	2mm以下の灰白色光沢粒を少し含む。2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	I Ab	
89	深鉢	口縁部	I7	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 原体条痕	褐灰 10YR4/1	にぶい褐 7.5YR5/4	2mm以下の角閃石、灰白色粒をわずかに含む。微細な透明光沢粒をわずかに含む。	I Ab	
90	深鉢	口縁部	K6	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 原体条痕	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下のにぶい黄橙色粒を少し含む。4mm以下の橙色粒をごくわずかに含む。1mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	I Ab	
91	深鉢	口縁部	N5	楕円押型文、 ナデ	楕円押型文、 原体条痕、ナ デ	褐灰 10YR4/1	橙 7.5YR6/6	5mm大の灰白色粒、にぶい光沢粒を1つ含む。3mm以下の灰白色粒、雲母をごくわずかに含む。微細な透明光沢粒、角閃石をごくわずかに含む。	I Ab	
92	深鉢	口縁部	F6	楕円押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	明赤褐 5YR5/6	橙5YR6/6	4mm以下の灰白色粒を少し含む。2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。1mm以下の灰白色光沢粒をごくわずかに含む。	I Ab	
93	深鉢	口縁部	I7	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	にぶい黄橙 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	2mm以下の角閃石をわずかに含む。2mm以下の灰白色粒、灰白色光沢粒をごくわずかに含む。微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Ab	
94	深鉢	口縁部	I6	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄褐 10YR4/2	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の黄橙色粒、3mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を多く含む。	I Ab	風化著しい 黒斑あり
95	深鉢	口縁部	L4	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	褐灰 10YR6/1	にぶい黄橙 10YR7/3	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色粒をわずかに含む。2mm以下の透明光沢粒を多く含む。2mm以下の角閃石を少し含む。	I Ab	
96	深鉢	口縁～ 胴部	M4	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	2mm以下の角閃石、透明光沢粒、黒褐色粒、灰白色粒、褐灰色粒を含む。3mmのにぶい赤褐色粒を1つ含む。	I Ab	黒斑あり
97	深鉢	口縁部	P4	楕円押型文、 ナデ	刺突文、ナ デ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	3mm以下の灰白色粒、暗褐色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を含む。	I Ab	黒斑あり
98	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、 原体条痕、 ナデ	原体条痕、 ナデ	浅黄 2.5Y7/3	灰黄 2.5Y6/2	2mm以下の灰白色粒をわずかに含む。2mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。5mm以下の灰黄色粒をごくわずかに含む。	I Ab	
99	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文	原体条痕、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の灰褐色粒、灰白色粒、黒褐色粒、透明光沢粒を含む。角閃石を含む。	I Ab	
100	深鉢	口縁付 近	H7	楕円押型文	原体条痕、 ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を多く含む。3mm以下の灰褐色粒、赤褐色粒を1つ含む。	I Ab	
101	深鉢	口縁部	J7	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	明黄褐 10YR6/6	明黄褐 10YR6/6	1mm以下の透明光沢粒、灰白色粒、角閃石を少し含む。	I Ab	穿孔未貫通あり
102	深鉢	口縁部	M4	楕円押型文、 ナデ	原体条痕	明赤褐 5YR5/8	明赤褐 5YR5/8	5mm以下の灰褐色粒を多く含む。2mm以下の赤褐色粒を少し、角閃石を多く含む。微細な透明光沢粒を多く含む。	I Ab	黒斑あり
103	深鉢	口縁部	I7	楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	にぶい赤褐 5YR4/4	5mm以下の灰白色粒、灰褐色粒を多く、角閃石を少し含む。	I Ab	風化著しい
104	深鉢	口縁～ 胴部	D区	楕円押型文、 ナデ	ナデ	灰黄褐 10YR5/2	灰褐 5YR4/2	6mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の角閃石をわずかに含む。1mm以下の透明光沢粒、5mm以下の明赤褐色粒をごくわずかに含む。1mmの雲母を1つ含む。	I Ab	風化著しい
105	深鉢	口縁部	K7	楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色粒、角閃石を少し含む。	I Ab	一部風化気味
106	深鉢	口縁～ 胴部	L5	楕円押型文、 ナデ	工具痕、 ナデ	浅黄 2.5Y7/3	淡黄 2.5Y8/3	2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、淡黄色粒、黒褐色粒を含む。4mmの灰白色粒を1つ含む。	I Ab	黒斑あり
107	深鉢	口縁～ 胴部	M4	楕円押型文、 工具ナデ、 ナデ	工具ナデ、 ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	1mm以下の角閃石、灰白色粒、褐灰色粒、浅黄橙色粒、透明光沢粒を含む。	I Ab	12と同一個体か
108	深鉢	口縁～ 胴部	M5	楕円押型文、 ナデ	工具ナデ、 圧痕	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/4 明褐 7.5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、浅黄橙色粒、角閃石を含む。6mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	I Ab	
109	深鉢	口縁～ 胴部	J6	楕円押型文、 ナデ	原体条痕、 ナデ	明赤褐 5YR5/6 にぶい赤褐 5YR4/3	橙5YR6/6 明赤褐 5YR5/6	9mm以下のにぶい黄橙色粒、9mm以下のにぶい橙色粒、8mm以下のにぶい赤褐色粒を多く含む。1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少し含む。	I Ab	

第 21 表 縄文時代早期土器観察表③

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外面	内面	外面	内面			
110	深鉢	口縁部	I7	山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の黒色粒、2.5mm以下のにぶい黄褐色粒をわずかに含む。2mm以下の角閃石を少し含む。3mm以下の透明光沢粒を多く含む。	I Ba	
111	深鉢	口縁部	N5	山形押型文、ナデ	山形押型文、 工具ナデ	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/4	4mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。1mm以下の角閃石を少し含む。	I Ba	黒斑あり
112	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、ナデ	山形押型文、 ナデ	黒褐 10YR2/2	褐 7.5YR4/4	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の灰色粒をごくわずかに含む。6mm大の灰黄褐色粒を1つ含む。	I Ba	穿孔あり 黒斑あり
113	深鉢	口縁部	I7	山形押型文、ナデ	山形押型文、 ナデ	褐10YR4/6	にぶい黄褐 10YR5/4	3mm以下の橙色粒、2.5mm以下の灰白色粒を少し含む。2.5mm以下の透明色粒をやや多く含む。	I Ba	
114	深鉢	口縁部	N5	原体条痕、山形押型文、ナデ	山形押型文、 ナデ	黄灰 2.5Y4/1	浅黄 2.5Y7/3	8mm以下の灰白色粒、4mm以下の黒褐色粒、にぶい黄褐色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒を含む。	I Ba	
115	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、ナデ	山形押型文、 ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/4	3mm以下の灰白色粒、角閃石を含む。2mm以下のにぶい黄褐色粒、透明光沢粒を含む。	I Ba	穿孔あり 風化気味
116	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、 圧痕、ナデ	山形押型文、 楕円形圧痕、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい赤褐 5YR5/4	4mm以下の灰白色粒を少し含む。3mm以下の角閃石、2mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	I Ba	穿孔 黒斑あり 風化気味
117	深鉢	口縁部	J6	山形押型文、 楕円押型文 ナデ	山形押型文、 ナデ、 楕円押型文	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR5/2	3mm以下のにぶい褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む。3mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石を少し含む。	I Ba	
118	深鉢	口縁部	I7	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ、 楕円押型文	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 7.5YR6/6	4mm以下の灰白色粒を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。	I Ba	
119	深鉢	口縁部	H8	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/3	5mm大のにぶい赤褐色粒を1つ含む。4.5mm以下の褐色粒をわずかに含む。2.5mm以下の灰白色粒を少し含む。	I Ba	
120	深鉢	口縁付 近～ 胴部	H8	山形押型文	山形押型文、 ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の褐色灰色粒、2mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少し含む。	I Ba	黒斑あり
121	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	褐 7.5YR4/3	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、褐色灰色粒、浅黄褐色粒、赤褐色粒を含む。4mm大の褐色灰色粒、7mm大の褐色粒を1つ含む。	I Ba	穿孔未貫通あり
122	深鉢	口縁～ 胴部	H7	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	橙5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	4mm以下の灰白色粒、3mm以下の赤褐色粒を少し含む。2mm以下の角閃石の、1mm以下の透明光沢粒を含む。	I Ba	黒斑あり
123	深鉢	口縁部	H6	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	2mm以下の白灰色粒を少し含む。微細な黒褐色粒を多く含む。角閃石を少し含む。	I Ba	
124	深鉢	口縁部	O4	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	3mm以下の灰色粒、2mm以下の黒色粒、灰白色粒、角閃石、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Ba	
125	浅鉢	口縁	H7	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄 2.5Y6/3	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、にぶい褐色粒、浅黄褐色粒を含む。	I Ba	穿孔あり 波状口縁
126	深鉢	口縁～ 胴部	H7	山形押型文、 ナデ	原体条痕、山形押型文、 ナデ	橙5YR6/6	明赤褐 10YR6/4	4mm以下の浅黄褐色粒を多く含む。1mm以下の角閃石をわずかに含む。1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	I Ba	
127	深鉢	口縁～ 胴部	I6	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕、 ナデ	明黄褐 10YR6/6	明褐 7.5YR5/6	5mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石を多く含む。3mm以下の黄褐色粒、黒色粒を含む。	I Ba	黒斑あり
128	深鉢	口縁～ 胴部	I7	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕、 ナデ	赤褐 5YR4/6	にぶい赤褐 5YR4/3	3mm以下の灰白色粒、灰黄褐色粒、にぶい黄褐色粒を含む。2mm以下の角閃石、透明光沢粒を含む。	I Ba	黒斑あり
129	深鉢	口縁部	N5	山形押型文、 ナデ	原体条痕、山形押型文、 ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	5mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、にぶい褐色粒、黒色光沢粒、にぶい赤褐色粒、黒褐色粒を含む。	I Ba	穿孔あり
130	深鉢	口縁部	H6	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色にぶい光沢粒、2mm以下の灰色粒、1mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	I Ba	
131	深鉢	口縁部	I6	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 原体条痕	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR4/4	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黄褐色粒、黒褐色粒を多く含む。	I Ba	風化著しい
132	深鉢	口縁部	N5	山形押型文	指頭痕、ナデ	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	3mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、褐色灰色粒を含む。5mm大の黒褐色粒を1つ含む。	I Ba	
133	深鉢	口縁～ 胴部	M4	山形押型文、 ナデ	山形押型文、 ナデ	赤褐 5YR4/6	褐 7.5YR5/6	2mm以下の灰色光沢粒、3mm以下の褐色粒、微細な金色粒を多く含む。7mm以下の灰褐色粒、5mm以下の明褐色粒を含む。	I Ba	

第 22 表 縄文時代早期土器観察表④

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外面	内面	外面	内面			
134	深鉢	口縁部	I6	山形押型文、ナデ	山形押型文、原体条痕、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 7.5YR6/6 褐灰 7.5YR4/1	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒褐色粒、微細な黄褐色粒を含む。角閃石を含む。	I Ba	黒斑あり
135	深鉢	口縁部	G9	山形押型文、ナデ	原体条痕、ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/2	4mm以下の灰白色粒、3mm以下の灰色粒、2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。	I Ba	風化著しい
136	深鉢	口縁～胴部	H7	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐 10YR4/3	褐 7.5YR4/4	4mm以下のにぶい黄褐色粒、1mm以下の角閃石、透明光沢粒を多く含む。2mm以下の灰白色粒を少し含む。	I Ba	
137	深鉢	口縁部	M4	山形押型文	山形押型文、ナデ	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、浅黄褐色粒。8mm大の灰白色粒を1つ含む。	I Bb	黒斑あり
138	深鉢	口縁部	N4	山形押型文、ナデ	原体条痕、山形押型文、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	橙 7.5YR6/6	6mm大の浅黄褐色粒をごくわずかに含む。2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、明褐色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を少し含む。	I Bb	
139	深鉢	口縁部	M4	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。3mm以下の明褐色粒を少し含む。1.5mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	I Bb	
140	深鉢	口縁部	M5	山形押型文、ナデ	原体条痕、山形押型文、ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤褐 2.5YR4/6	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の角閃石、2mm以下の灰色粒、1mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。	I Bb	黒斑あり 139と同一
141	深鉢	胴部	L4	山形押型文	ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤褐 2.5YR4/6	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、灰色粒、3mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。	I Bb	138と同一
142	深鉢	口縁～胴部	N4	山形押型文	山形押型文、ナデ	褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	5mm以下のにぶい橙色粒を少し含む。2.5mm以下のにぶい黄褐色粒やや多く含む。2mm以下の角閃石、1.5mm以下の透明光沢粒を含む。	I Bb	
143	深鉢	口縁～胴部	M4	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	明黄褐 10YR6/8	明黄褐 10YR7/6	6mm以下の浅黄褐色粒、3mm以下の灰色粒、1mm以下の角閃石を多く含む。2mm以下の黒褐色粒を少し含む。	I Bb	黒斑あり
144	深鉢	口縁部	M5	山形押型文	山形押型文、ナデ	褐 7.5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/3	5mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。3mm以下の赤褐色粒を少し含む。1mm以下の透明色粒をごくわずかに含む。	I Bb	
145	深鉢	口縁部	M5	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	橙 7.5YR6/8	明黄褐 10YR6/6	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒褐色粒、雲母を多く含む。	I Bb	黒斑あり
146	深鉢	口縁部	M4	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	明赤褐 5YR5/8	明赤褐 5YR5/8	7mm大の明赤褐色粒、にぶい橙色粒をごくわずかに含む。3mm以下の暗赤褐色粒、黒褐色粒、黄灰色粒、にぶい橙色粒、にぶい赤褐色粒を含む。角閃石をわずかに含む。	I Bb	
147	深鉢	口縁部	M5	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	2mm以下の灰白色粒、多く含む。2mm以下の黒色光沢粒を含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。	I Bb	黒斑あり
148	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の灰白色粒、浅黄褐色粒をわずかに含む。2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黄褐色粒、暗褐色粒、角閃石を含む。	I Bb	
149	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ、楕円押型文	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 7.5YR6/6	4mm以下の褐色粒、1mm以下の明褐灰色粒をわずかに含む。	I Bb	
150	深鉢	口縁～胴部	M4	山形押型文、ナデ	原体条痕、ナデ	橙 7.5YR7/6 にぶい橙黄 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	2mm以下の角閃石をわずかに含む。3mm以下の灰色粒、2mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	I Bb	穿孔あり、炭化物付着、黒斑あり、風化気味
151	深鉢	口縁部	H7	山形押型文、ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の灰白色粒を含む。2mm以下の角閃石を少し含む。1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	I Bb	黒斑あり
152	深鉢	口縁部	M4	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	浅黄 2.5Y7/3	灰黄 2.5Y6/2	2mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、褐灰色粒、黒褐色粒を含む。	I Bb	黒斑あり
153	深鉢	口縁部	M6	山形押型文	山形押型文	褐 7.5YR4/3	にぶい褐 7.5YR5/4	12mm以下のにぶい赤褐色粒、3mm以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む。2mm以下の角閃石を少し含む。	I Bb	意図しない指頭痕により押型文が不鮮明
154	深鉢	口縁部	I7	格子目押型文、ナデ	格子目押型文、ナデ、棒状の圧痕	にぶい黄橙 10YR4/3	暗褐 10YR3/4	5mm大の灰白色粒、橙色粒、オリーブ灰色粒をごくわずかに含む。2mm以下のにぶい橙色粒、黒色粒、黄褐色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を含む。	I Ea	
155	深鉢	口縁部	I6	格子目押型文、ナデ	格子目押型文、原体条痕	暗褐 10YR3/4	明褐 7.5YR5/6	5mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、3mm以下のにぶい黄褐色粒、黄褐色粒、褐灰色粒、橙色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を少し含む。	I Ea	風化著しい
156	深鉢	口縁部	N4	格子目押型文、ナデ	格子目押型文、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	3mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、角閃石、透明光沢粒、橙色粒を含む。	I Cb	

第 23 表 縄文時代早期土器観察表⑤

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
157	深鉢	口縁部	I6	格子目押型文	格子目押型文、ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい褐 7.5YR5/4	5mm以下の灰白色粒を多く含む。4mm以下の褐灰色粒をごくわずかに含む。	I Cb	風化著しい
158	深鉢	口縁部	I6	格子目押型文、ナデ	格子目押型文、ナデ 原体条痕	橙5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	4mm以下の灰白色粒を少し含む。微細な透明光沢粒をわずかに含む。4mm以下の黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒、角閃石をごくわずかに含む。	I Cb	
159	深鉢	口縁部	K6	格子目押型文、 原体条痕、	格子目押型文、ナデ、 原体条痕、 工具ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	4mm以下の白灰色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の灰白色光沢粒、黒色粒をごくわずかに含む。褐灰色粒、浅黄褐色粒、透明光沢粒を含む。	I Cb	黒斑あり
160	深鉢	口縁部	P4	格子目押型文	格子目押型文、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	明褐 7.5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、黒色光沢粒、明赤褐色粒を含む。	I Cb	
161	深鉢	口縁～ 胴部	L5	イチゴ押型文、ナデ	イチゴ押型文、工具ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	にぶい褐 7.5YR5/4	5mm以下のにぶい橙色粒、透明光沢粒、灰白色粒、橙色粒を含む。	I Db	黒斑あり
162	深鉢	口縁部	I7	イチゴ押型文、ナデ	イチゴ押型文	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色粒を少し含む。2mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒を含む。	I Db	風化著しい 黒斑あり
163	深鉢	口縁部	I7	原体条痕、 文、ナデ	原体条痕、 工具ナデ	橙5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	6mm以下のにぶい赤褐色粒、角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、浅黄褐色粒を含む。	I Db	風化気味
164	深鉢	口縁部	H7	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	明褐 7.5YR5/6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒褐色粒、暗赤褐色粒、褐灰色粒、明褐灰色粒を多く含む。	I Ea	意図しない指頭痕により撚糸文が不鮮明
165	深鉢	口縁部	G8	撚糸文	撚糸文、ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	3mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、橙色粒をわずかに含む。2mm以下の灰白色、黒褐色粒、褐灰色粒を多く含む。角閃石を少し含む。	I Ea	意図しない指頭痕により撚糸文が不鮮明
166	深鉢	口縁～ 胴部	J6	撚糸文	撚糸文、ナデ	暗褐 7.5YR3/3	褐 7.5YR4/4	6mm以下の暗赤褐色粒、明黄褐色粒を少し含む。4mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石を含む。	I Ea	風化著しい
167	深鉢	口縁部	I7	撚糸文、ナデ	撚糸文	橙5YR6/6	橙5YR6/8	3mm以下の黒色粒、1mm以下の角閃石、微細な灰白色粒を多く含む。2mm以下のにぶい黄色粒を少し含む。	I Ea	意図しない指頭痕により撚糸文が不鮮明
168	深鉢	口縁部	H7	撚糸文、ナデ	撚糸文、ナデ	褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、橙、にぶい橙色粒を含む。	I Ea	
169	深鉢	口縁部	L4	撚糸文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	3mm以下の角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、褐灰色粒を含む。	I Ea	黒斑あり
170	深鉢	口縁部	I6	撚糸文、ナデ	ナデ	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒を含む。	I Ea	黒斑あり
171	深鉢	口縁部	J7	網目撚糸文、 ナデ	網目撚糸文	にぶい赤褐 5YR4/3	褐 7.5YR4/3	5mm以下のにぶい褐色粒を少し含む。3mm以下の明赤褐色粒を多く含む。2mm以下の灰白色粒を少し含む。	I Ea	
172	深鉢	口縁部	M4	縄文、ナデ	縄文、ナデ	黄褐 10YR5/8	明黄褐 10YR7/6	7mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を多く含む。5mm以下の橙色粒、2mm以下の灰褐色粒を含む。	I Ea	黒斑あり
173	深鉢	口縁部	H7	縄文、ナデ	縄文、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の白色粒、透明光沢粒を少し含む。2mm以下の角閃石を含む。	I Ea	黒斑あり
174	深鉢	口縁部	I6	縄文、撚糸文、 ナデ	縄文、ナデ	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。	I Ea	黒斑あり
175	深鉢	口縁部	M5	縄文、ナデ	縄文	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の褐灰色粒、3mm以下のにぶい黄褐色粒、2mm以下の角閃石、透明光沢粒を含む。	I Ea	黒斑あり
176	深鉢	口縁部	H7	縄文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 7.5YR5/4	3mm以下の黒色粒を少し含む。3mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	I Ea	意図しない指頭痕により縄文が不鮮明
177	深鉢	口縁部	H7	撚糸文、	撚糸文、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	5mm大の明黄褐色粒、明赤褐色粒を少し含む。5mm以下の赤褐色粒、2mm以下の灰白色粒、にぶい橙色粒、黒褐色粒、にぶい赤褐色粒を多く含む。	I Eb	意図しない指頭痕により撚糸文が不鮮明
178	深鉢	口縁部	M6	撚糸文	撚糸文、 工具痕、ナデ	明赤褐 5YR5/6	赤褐 5YR4/6	5.5mm以下の橙色粒、3mm以下の黒褐色粒、1.5mm以下の透明光沢粒、1mm以下の灰褐色粒を少し含む。	I Eb	黒斑あり
179	深鉢	口縁部	M5	撚糸文	撚糸文、ナデ	褐 7.5YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	6mm以下のにぶい赤褐色粒を少し含む。0.5mm以下の透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Eb	
180	深鉢	口縁部	G8	撚糸文、ナデ	撚糸文、ナデ	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	2mm以下の角閃石、透明光沢粒、灰白色粒、浅黄褐色粒、3mm以下の黒褐色粒を含む。	I Eb	風化気味

第 24 表 縄文時代早期土器観察表⑥

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
181	深鉢	口縁部	I7	撚糸文	ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 5YR5/8 黄褐 10YR5/6	10mm以下の暗赤褐色粒、橙色粒、5mm以下の灰白色粒、明赤褐色粒、2mm以下の明褐灰色粒、黒褐色粒を多く含む。10mm大の淡橙色粒を少し含む。	I Eb	
182	深鉢	口縁～ 胴部	G8	縄文、ナデ	縄文	明赤褐 5YR5/6	にぶい赤褐 5YR4/3	8mm大の灰褐色粒を1つ含む。5mm以下の黄褐色粒、4mm以下の褐色粒、にぶい褐色粒を多く含む。微細な黒色光沢粒をごくわずかに含む。	I Eb	
183	深鉢	口縁部	I7	縄文	縄文、ナデ	にぶい黄褐 10YR4/3	明褐 7.5YR5/6	2mm以下の褐灰色粒、2.5mm以下の角閃石を含む。1.5mm以下の透明光沢粒をやや多く含む。	I Eb	
184	深鉢	口縁部	J6	縄文、ナデ	縄文、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR6/3	2mm以下の角閃石、半透明なにぶい光沢粒を多く含む。4mm以下の灰白色粒を少し含む。微細な透明光沢粒をわずかに含む。	I Eb	風化著しい
185	深鉢	口縁部	P4	縄文、ナデ	工具ナデ、 ナデ	橙 2.5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	5mm以下の灰白色粒を少し含む。微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Eb	黒斑あり
186	深鉢	口縁～ 頸部	J6	変形撚糸文	ナデ	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	1mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒、雲母を含む。5mm大のにぶい黄褐色粒を1つ含む。	I Eb	
187	深鉢	胴部	J7	楕円押型文、 ナデ	ナデ	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR6/3	6mm以下の灰白色粒を少し含む。微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の雲母、1mm以下の角閃石をごくわずかに含む。	I A	炭化物付着
188	深鉢	胴部	M4	楕円押型文	工具痕、ナデ	橙5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	5mm大の浅黄色粒、透明光沢粒をごくわずかに含む。2mm以下の灰白色粒を含む。	I A	
189	深鉢	胴部	L4	楕円押型文	不明	明赤褐 2.5YR5/8	にぶい赤褐 5YR4/4	3mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石をわずかに含む。2mm以下の灰色粒をごくわずかに含む。3mm大の赤褐色粒を1つ含む。	I A	風化著しい 黒斑あり
190	深鉢	頸部	M4	楕円押型文	原体条痕、 ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の黒褐色粒、角閃石、透明光沢粒、淡黄色粒、にぶい褐色粒、明赤褐色粒、褐灰色粒を含む。4mm以下の灰白色粒を含む。	I A	黒斑あり
191	深鉢	底部付 近	M4	楕円押型文	ナデ	浅黄 2.5Y7/4	暗灰黄 2.5Y4/2	3mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、淡黄色粒、にぶい褐色粒を含む。	I A	黒斑あり
192	深鉢	胴部～ 底部付 近	I7	楕円押型文	原体条痕、 工具ナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR6/4	8mm以下の灰白色粒を含む。8mm以下の褐灰色粒をごくわずかに含む。3mm以下の角閃石、赤褐色粒、浅黄褐色粒を含む。	I A	風化気味 スス付着
193	深鉢	底部付 近	L5	楕円押型文	ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい黄褐 10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、黄褐色粒を多く含む。角閃石を含む。	I A	風化著しい
194	深鉢	底部付 近	I6	楕円押型文	工具ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	3mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒、にぶい褐色粒、褐色粒、角閃石、透明光沢粒を含む。	I A	黒斑あり 炭化物付着
195	深鉢	底部付 近	A区	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐 10YR7/4	浅黄 2.5Y7/3	3mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、明赤褐色粒、角閃石、浅黄褐色粒を含む。4mm大の褐灰色粒を1つ含む。	I A	
196	深鉢	胴部	M4	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	4mm以下の明褐灰色粒を含む。3mm以下のにぶい褐色粒をごくわずかに含む。	I B	
197	深鉢	胴部	I7	山形押型文	ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/4	6mm以下のにぶい白色光沢粒を少し含む。5mm以下の灰白色粒を多く含む。	I B	
198	深鉢	口縁付 近～ 胴部		山形押型文	山形押型文、 指ナデ、 ナデ	明赤褐 5YR5/8	にぶい黄橙 10YR6/3	2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を少し含む。3mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。3mm大の黄褐色粒を1つ含む。	I B	黒斑あり
199	深鉢	胴部	M5	山形押型文	ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/4	3mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、浅黄褐色粒、角閃石、にぶい黄褐色粒を含む。	I B	黒斑あり
200	深鉢	胴部	F9	山形押型文	ナデ	橙5YR6/8	橙5YR6/8	1mm以下の角閃石を多く含む。2mm以下の黒色光沢粒を少し含む。3mm以下の赤褐色粒を含む。	I B	
201	深鉢	胴部	F9	山形押型文	山形押型文、 ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR5/4	4.5mm以下の褐灰色粒、2.5mm以下のにぶい赤褐色粒、1.5mm以下の黒褐色粒、1mm以下の角閃石をごくわずかに含む。3mm以下の灰白色粒を含む。	I B	
202	深鉢	胴部	I7	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3.5mm以下の灰黄色粒を含む。5mm以下の褐灰色粒、2mm以下の角閃石、1.5mm以下の透明光沢粒を少し含む。2.5mm以下の褐色粒をごくわずかに含む。	I B	
203	深鉢	頸部	M5	山形押型文	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	4mm以下のにぶい黄褐色粒、2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。	I B	黒斑あり
204	深鉢	胴部	H7	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 7.5YR7/6	3mm以下の角閃石をわずかに含む。3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I B	

第 25 表 縄文時代早期土器観察表⑦

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
205	深鉢	胴部～ 底部付 近	M3	山形押型文、 植物の枝圧痕	工具ナデ、 ナデ	明褐 7.5YR5/6	灰黄褐 10YR4/2	6mm以下の灰白色粒、褐灰色粒を多く含む。2mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	I B	黒斑あり
206	深鉢	頸部	J6	撚糸文	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	8.5mm以下の灰黄色粒を少し含む。1.5mm以下の角閃石をごくわずかに含む。1.5mm以下の透明光沢粒をやや多く含む。	I C	
207	深鉢	頸部	M5	網目撚糸文	ナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/4	3mm以下の灰白色粒、明赤褐色粒、黒褐色粒、浅黄褐色粒、透明光沢粒を含む。	I E	
208	深鉢	口縁付 近	P4	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6 暗灰黄 2.5Y5/2	2mm以下の角閃石を少し含む。2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mmの半透明のにぶい光沢粒を1つ含む。	I E	
209	深鉢	胴部	N4	撚糸文	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	明褐 7.5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、黒褐色粒、浅黄褐色粒を含む。	I E	黒斑あり
210	深鉢	胴部	L4	撚糸文、 工具ナデ	工具痕、 工具ナデ	明赤褐 5YR5/6	褐 7.5YR4/4	3mm以下のにぶい褐色粒を少し含む。	I E	
211	深鉢	胴部	M4	撚糸文、ナデ	ナデ	橙5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	10mm大の灰白色粒を1つ含む。7mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。3mm以下の褐灰色粒、にぶい赤褐色粒、明褐灰色粒、赤褐色粒、褐色粒を多く含む。	I E	
212	深鉢	胴部	J7	撚糸文、ナデ	ナデ	黄褐 2.5Y5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の透明光沢粒、灰白色粒をわずかに含む。2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。11mm大の灰黄色粒を1つ含む。	I E	
213	深鉢	胴部	P4	撚糸文、楕円 押型文	ナデ	明褐 7.5YR5/8	明褐 7.5YR5/8	3mm以下の灰白色粒、褐色粒、明褐色粒、暗褐色粒、褐灰色粒、にぶい赤褐色粒を多く含む。	I E	
214	深鉢	胴部～ 底部付 近	P4	撚糸文	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7mm以下の灰白色粒を少し含む。2mm以下の角閃石、1mm以下の黒色光沢粒を含む。1mm以下の透明光沢粒を多く含む。	I E	黒斑あり
215	深鉢	胴部	F8	縄文	指ナデ、ナデ	橙5YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/3	3mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の角閃石、1mm以下の黒色粒、微細な金色粒、透明光沢粒をごくわずかに含む。	I E	
216	深鉢	胴部	I6	縄文	ナデ	浅黄 2.5Y7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、角閃石、褐色粒を含む。	I E	黒斑あり
217	深鉢	胴部	I6	縄文	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	4mm以下の褐灰色粒を多く含む。2mm以下の褐色粒、黒色粒を少し含む。2mm以下の白色粒をごくわずかに含む。2mm以下の角閃石を含む。	I E	風化気味
218	深鉢	胴部	O4	縄文	ナデ	橙5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	6mm以下のにぶい黄褐色粒、5mm以下のにぶい褐色粒を多く含む。3mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を少し含む。3mm以下の白色粒をごくわずかに含む。	I E	穿孔あり
219	深鉢	胴部～ 底部付 近	I7	縄文	ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	5mm以下の灰白色粒を含む。4mm以下の赤褐色粒、黒色光沢粒、3mm以下の明黄褐色粒、2mm以下の角閃石、透明光沢粒を少し含む。	I E	
220	深鉢	胴部	N4	縄文、撚糸文、 ナデ	不明	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	2mm以下の灰白色粒を含む。2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	I E	風化著しい
221	深鉢	胴部	I7	網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の白色粒、褐灰色粒をごくわずかに含む。	I E	
222	深鉢	胴部	H7	網目撚糸文	ナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	明赤褐 2.5YR5/8 にぶい橙 7.5YR6/4	5mm以下の明赤褐色粒を多く含む。3mm以下の灰白色粒、微細な角閃石、透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の赤褐色粒をごくわずかに含む。	I E	黒斑あり
223	深鉢	胴部	I6	網目撚糸文	ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、にぶい赤褐色粒、褐灰色粒、赤褐色粒を含む。	I E	風化著しい
224	深鉢	胴部	I7	変形撚糸文	ナデ	にぶい黄褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 7.5YR5/4	4mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の雲母を含む。1.5mm以下の角閃石を少し含む。	I E	
225	深鉢	胴部	M4	変形撚糸文	ナデ	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR5/3	2mm以下の角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、褐灰色粒を含む。4mm大の浅黄褐色粒を2つ含む。	I E	風化気味
226	深鉢	胴部	A区	変形撚糸文	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	4.5mm以下の明褐灰色粒をごくわずかに含む。1.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の角閃石を少し含む。3mm以下の透明光沢粒を含む。	I E	
227	深鉢	胴部	H7	変形撚糸文	ナデ	浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/4	2mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の角閃石を少し含む。1.5mm以下の透明光沢粒を含む。	I E	

第 26 表 縄文時代早期土器観察表⑧

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外面	内面	外面	内面			
228	深鉢	頸部	—	格子目押型文	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	3mm以下のにぶい褐色粒を含む。4mm以下の褐灰色粒を多く含む。微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I C	
229	深鉢	胴部	M5	格子目押型文	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、淡黄色粒、にぶい橙色粒、黄褐色粒を含む。7mm以下の褐灰色粒をごくわずかに含む。	I C	黒斑あり
230	深鉢	胴部～ 底部	K7	格子目押型文、ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	4mm以下の灰白色粒、3mm以下の暗褐色粒、微細な透明光沢粒を少し含む。4mm以下の橙色粒、3mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。	I C	風化著しい、黒斑あり 炭化物付着
231	深鉢	胴部	H7	イチゴ押型文	イチゴ押型文、工具ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい褐 7.5YR6/3	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I E	
232	深鉢	胴部	I7	イチゴ押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	微細な透明光沢粒をわずかに含む。4mm以下の灰白色粒、微細な角閃石をごくわずかに含む。	I E	
233	深鉢	胴部	I7	イチゴ押型文、 ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	明赤褐 5YR5/6 灰黄褐 10YR5/2	4mm以下の灰白色粒を少し含む。7mm以下の褐灰色粒、1mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	I E	
234	深鉢	底部	I6	楕円押型文	ナデ	明赤褐 2.5YR6/8	明赤褐 5YR6/8	7mm以下の明赤褐色粒、微細な明褐灰色粒を多く含む。3mm以下の赤灰色粒を含む。	I A	風化著しい
235	深鉢	胴部～ 底部	D区	楕円押型文	ナデ	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	3mm以下の赤褐色粒、1mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を少し含む。2mm以下の橙色粒を多く含む。	I A	
236	深鉢	底部	N5	楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	明赤褐 2.5YR5/6	5mm以下の明晰灰色粒を多く含む。7mm以下の黒褐色粒を少し含む。1mm以下の角閃石を多く含む。	I A	
237	深鉢	底部	I8	楕円押型文	ナデ	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	5mm以下の灰黄色粒をごくわずかに含む。3mm以下の灰白色粒を少し含む。角閃石を少し含む。	I A	風化著しい
238	深鉢	胴部～ 底部	I6	山形押型文	工具ナデ、 ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	5mm大の明褐色粒を少し含む。5mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の黒褐色粒、暗褐色粒、角閃石を少し含む。	I B	風化著しい
239	深鉢	胴部～ 底部	M4	山形押型文、 ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄 2.5Y6/2	2mm以下の灰白色粒、角閃石、にぶい赤褐色粒、褐灰色粒、透明光沢粒を含む。	I B	風化気味 スス付着
240	深鉢	底部	L5	山形押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	4.5mm以下のにぶい黄褐色粒を多く含む。1mm以下の透明光沢粒、角閃石をごくわずかに含む。	I B	
241	深鉢	底部	H7	山形押型文、 ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	褐灰 10YR5/1	5mm大の浅黄褐色粒をごくわずかに含む。2mm以下の灰白色粒、褐色粒、暗赤褐色粒、褐灰色粒を含む。角閃石を少し含む。	I B	黒斑あり
242	深鉢	底部	N6	山形押型文、 ナデ	植物の葉の圧痕	赤褐 5YR4/6	なし	2mm以下の灰白色光沢粒、灰白色粒、暗赤褐色粒、黒褐色粒を多く含む。角閃石を少し含む	I B	
243	深鉢	底部	M6	山形押型文、 ナデ	ナデ	浅黄 2.5YR7/3	灰黄 2.5Y7/2	2mm以下の角閃石、微細な透明光沢をわずかに含む。2mm以下の黒色粒をごくわずかに含む。6mm大の黒褐色粒を1つ含む。	I B	黒斑あり
244	深鉢	底部	I6	山形押型文、 ナデ	ナデ	褐 7.5YR4/4	にぶい褐 7.5YR5/3	2mm以下の黒褐色粒、透明光沢粒、灰白色粒、角閃石を含む。4mm大の灰白色粒を2つ含む。	I B	木の葉底 風化著しい
245	深鉢	底部	M4	撚糸文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 5YR6/4	10mm以下の灰白色粒を多く含む。4mm以下の褐灰色粒、3mm以下の灰黄色粒をごくわずかに含む。	I E	黒斑あり
246	深鉢	底部	M4	撚糸文、 工具ナデ、 ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	灰褐 7.5YR5/2	5mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を少し含む。6mm以下のにぶい赤褐色粒、3mm以下の黒色粒、明褐灰色粒、2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。4mmの褐灰色粒を1つ含む。	I E	炭化物付着
247	壺	胴部	I7	楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄 2.5Y7/3	2mm以下の角閃石、灰白色粒、褐灰色粒、浅黄褐色粒、にぶい黄褐色粒を含む。4mm大の灰白色粒を1つ含む。	I A	黒斑あり
248	壺	胴部	I7	山形押型文	繊維状痕、 工具ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	2.5mm以下の灰白色粒、3mm以下のにぶい褐色粒をごくわずかに含む。	I B	
249	壺	頸部	I7	山形押型文	ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	4mm以下の灰白色粒、2mm以下のにぶい黄色粒を少し含む。2mm以下の角閃石を含む。1mm以下の透明光沢粒を多く含む。	I B	
250	壺	口縁～ 頸部	I7	山形押型文	原体条痕、 山形押型文、 ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の灰白色粒、黄褐色粒、褐灰色粒を少し含む。	I Bb	
251	鉢	口縁～ 底部付 近	M4	楕円押型文、 ナデ	ナデ	橙5YR6/8	にぶい橙 7.5YR7/4	3mm以下の灰白色粒を少し、2mm以下の半透明光沢粒をごくわずかに含む。	I Aa	黒斑あり
252	深鉢	口縁～ 胴部	H7	貝殻条痕、 ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、浅黄褐色粒、褐灰色粒、明褐色粒、透明光沢粒を多く含む。	II Aa	

第 27 表 縄文時代早期土器観察表⑨

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
253	深鉢	口縁～ 胴部	H7	貝殻条痕、 ミガキ	ミガキ	黄橙 7.5YR7/8 明黄褐 10YR6/6	橙5YR6/8	3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒を多く含む。	II Aa	
254	深鉢	口縁部	H7	貝殻条痕	貝殻条痕、 ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	微細な透明光沢粒を多く含む。4mm以下の高師小僧、3mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石をわずかに含む。2mm以下の黒色粒、白色粒をごくわずかに含む。	II Aa	
255	深鉢	口縁部	I6	貝殻条痕、 ナデ、 貝殻腹縁刺突 文	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	3mm以下の灰黄褐色粒、1.5mm以下の角閃石を少し含む。1.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。	II Aa	黒斑あり
256	深鉢	口縁～ 胴部	P8	貝殻腹縁刺突 文、 貝殻条痕	ミガキ	浅黄 2.5Y7/3 黄灰 2.5Y5/1	灰黄 2.5Y7/2 黄灰 2.5Y5/1	微細な灰白色粒、透明光沢粒を多く含む。3mm以下の灰白色光沢粒、2mm以下の角閃石をごくわずかに含む。	II Aa	
257	深鉢	口縁部		条痕、ナデ	ナデ	黒5YR2/1	浅黄橙 10YR8/4	6mm以下の明褐色粒、1mm以下の橙色粒、微細な角閃石、透明光沢粒を多く含む。	II Ab	
258	深鉢	口縁部	F9	条痕文、 ミガキ	ミガキ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、にぶい黄褐色粒、褐灰色粒、透明光沢粒を多く含む。角閃石を含む。	II Ab	
259	深鉢	口縁部	I7	条痕、ナデ	工具ナデ、 ナデ	明褐 7.5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の橙色粒、0.5mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少し含む。	II Ab	
260	深鉢	口縁部	D区	条痕、ナデ	原体条痕、 ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	暗赤褐 5YR3/6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の橙色粒、角閃石を多く含む。3mm以下のにぶい橙色粒を少し含む。	II Ab	
261	深鉢	口縁～ 胴部	I7	条痕	条痕、ナデ	明黄褐 10YR6/6	明黄褐 10YR7/6	2mm以下の角閃石、4mm以下の浅黄褐色粒を多く含む。3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰色粒を含む。	II Ab	
262	深鉢	口縁部	L4	条痕、ナデ	条痕、ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	2.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。3.5mm以下のにぶい褐色粒をごくわずかに含む。1.5mm以下の角閃石を含む。	II Ab	
263	深鉢	口縁部	M4	刻目、 条痕、ナデ	条痕、ナデ	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR7/3	2mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒、角閃石、褐灰色粒、にぶい褐色粒を含む。	II Ab	風化気味
264	深鉢	口縁部	N5	条痕、ナデ	条痕、ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒、にぶい橙色粒を含む。	II Ab	
265	深鉢	口縁部	M4	刻目、条痕	条痕	暗褐 10YR3/3	褐 7.5YR4/3	6mm以下の橙色粒、にぶい橙色粒、黒褐色粒、にぶい赤褐色粒、透明光沢粒、褐灰色粒を含む。	II Ab	
266	深鉢	口縁部	N4	条痕、ナデ	ナデ	黄灰 2.5Y5/1	にぶい橙 7.5YR7/4	8mm以下の灰白色粒を多く含む。白色光沢粒をわずかに含む。微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	II Ab	
267	深鉢	口縁部	H6	貝殻腹縁刺突 文、沈線文、ミ ガキ、ナデ	ミガキ	明黄褐 10YR6/6	明褐 7.5YR5/6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の褐灰色粒、雲母を多く含む。	II B	風化著しい 黒斑あり
268	深鉢	口縁部	I7	貝殻腹縁刺突 文、ミガキ ナデ	ミガキ	黒褐 2.5Y3/2	黄褐 2.5Y5/3	微細な角閃石、透明光沢粒、橙色粒を多く含む。5mm以下の暗赤褐色粒、3mm以下の褐灰色粒を少し含む。	II B	黒斑あり
269	深鉢	口縁部	I7	貝殻腹縁刺突 文、 ミガキ、綾杉 状短沈線文	ミガキ	にぶい黄褐 10YR5/4	明黄褐 10YR6/6	3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の灰白色粒、雲母を多く含む。	II B	
270	深鉢	口縁部	I7	貝殻腹縁刺突 文、ミガキ、綾 杉状短沈線文	ミガキ	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の灰白色粒、雲母、透明光沢粒、黒褐色粒、褐灰色粒を含む。	II B	風化気味
271	深鉢	口縁部	H7	貝殻腹縁刺突 文、ミガキ、綾 杉状短沈線文	ミガキ	にぶい黄 2.5Y6/3	黄褐 2.5Y5/3	3mm以下の灰白色粒、浅黄褐色粒、雲母、透明光沢粒、黒色光沢粒を含む。4mm大の灰白色粒を1つ含む。	II B	風化気味
272	深鉢	口縁部	H6	綾杉状貝殻腹 縁刺突文、綾 杉状短沈線 文、ミガキ	ミガキ	橙 2.5YR6/6	橙5YR6/6	微細な角閃石、透明光沢粒、灰白色粒を含む。	II B	
273	深鉢	口縁～ 胴部	I7	貝殻腹縁刺突 文、ミガキ綾 杉状短沈線文	ミガキ	褐灰 7.5YR4/1	にぶい橙 7.5YR6/4	6mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。微細な角閃石をごくわずかに含む。	II B	

第 28 表 縄文時代早期土器観察表⑩

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外面	内面	外面	内面			
274	深鉢	口縁部	H7	貝殻腹縁刺突文、ミガキ、ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰 10YR4/1	微細な透明光沢粒を多く含む。3mm以下の角閃石、灰白色粒を少し含む。3mm大の黒色光沢粒、2mm大の黒色粒を1つ含む。	II B	黒斑あり
275	深鉢	胴部	F8	貝殻条痕	ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい赤褐 5YR5/4	2mm以下の黒色粒、浅黄橙色粒、灰白色粒、黄橙色粒を多く含む。	II Aa	
276	深鉢	胴部	K7	貝殻条痕	工具ナデ	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	5mm以下のにぶい黄橙色粒、3mm以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む。4mm以下の灰白色粒を少し含む。	II Aa	風化気味
277	深鉢	胴部	J7	綾杉状貝殻条痕	ミガキ	橙 7.5YR6/6	明灰黄 2.5Y5/2	2mm以下の灰白色光沢粒、灰白色粒、明黄褐色粒、褐灰色粒を多く含む。	II Aa	
278	深鉢	胴部	I7	条痕	条痕	橙 2.5YR6/6	明黄褐 10YR7/6	2mm以下の黄橙色粒を多く含む。1mm以下の灰白色粒を少し含む。	II Ab	黒斑あり
279	深鉢	口縁付近		条痕、ナデ	ミガキ	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	11mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、3mm以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒を多く含む。2mm以下の黒色光沢粒を含む。	II Ab	
280	深鉢	胴部	N4	条痕	ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	3.5mm以下の灰黄褐色粒、5.5mm以下の灰白色粒を含む。	II Ab	
281	深鉢	胴部	J7	刻目突帯、沈線文	繊維痕、ナデ	橙 2.5YR7/8	橙 5YR6/6	5mm以下の黄橙色粒、4mm以下の暗赤色粒を多く含む。3mm以下の黒色粒、2mm以下の褐灰色粒を少し含む。角閃石をわずかに含む。	II Ab	
282	深鉢	胴部	H7	綾杉状短沈線文、沈線文	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	3mm以下の浅黄橙色粒を多く含む。2mm以下の橙色粒を少し含む。1mm以下の雲母を含む。	II Ab	
283	深鉢	胴部	I8	貝殻腹縁刺突文	ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄褐 10YR5/2	4mm以下の灰白色粒、雲母、黒色光沢粒、透明光沢粒、浅黄色粒を含む。	II B	風化気味
284	深鉢	胴部	A区	貝殻腹縁刺突文、短沈線文	ナデ	黄橙 7.5YR7/8	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色粒をわずかに含む。微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	II B	風化気味
285	深鉢	胴部	G8	貝殻腹縁刺突文、短沈線文	ミガキ	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	2mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	II B	黒斑あり
286	深鉢	胴部	I7	綾杉状貝殻腹縁刺突文、綾杉状短沈線文	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒を多く含む。2mm以下の透明光沢粒、雲母を少し含む。	II B	
287	深鉢	胴部	I7	貝殻腹縁刺突文、綾杉状短沈線文	ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む。	II B	風化著しい
288	深鉢	胴部	M5	綾杉状貝殻腹縁刺突文	ミガキ	灰黄褐 10YR6/2	黒 10YR2/1	4mm以下の灰白色粒、微細な雲母を多く含む。	II B	
289	深鉢	底部	G7	貝殻腹縁刺突文、ナデ	ナデ	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	2mm以下の灰白色粒、赤褐色粒、透明光沢粒、角閃石を多く含む。	II B	
290	深鉢	底部	J7	貝殻条痕、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	2mm以下の灰白色光沢粒、灰白色粒、角閃石を多く含む。	II Aa	
291	深鉢	口縁～胴部	J7	ナデ	ナデ	明赤褐 2.5YR5/8	橙 2.5YR6/8	3mm以下の角閃石、2mm以下の透明光沢粒を多く含む。7mm以下の灰白色粒、6mm以下の褐灰色粒、3mm以下の浅黄橙色粒を含む。	III a	
292	深鉢	口縁～胴部	L4	ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/8	橙 7.5YR6/8	7mm以下の明黄褐色粒、2mm以下の褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒、角閃石を多く含む。3mm以下の黒色粒を少し含む。	III a	
293	鉢	口縁部	J7	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	2mm以下の角閃石、灰白色粒、透明光沢粒、浅黄褐色粒、褐灰色粒を含む。3mm大のにぶい赤褐色粒、6mm大の灰白色粒を各1つ含む。	III a	
294	深鉢	口縁部	H7	ナデ	条痕、ナデ	黄褐 2.5Y5/3	橙 2.5YR6/8	4mm以下のにぶい赤褐色粒、5mm以下の灰色粒を含む。2mm以下の灰白色粒を少し含む。	III a	黒斑あり
295	深鉢	口縁部	K7	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい黄橙 10YR5/4	3mm以下の黒褐色粒、黒色光沢粒、灰白色粒、透明光沢粒、浅黄褐色粒を含む。	III a	風化気味
296	深鉢	口縁部	P5	ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	3mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒、にぶい赤褐色粒を含む。	III a	
297	深鉢	口縁部	F9	繊維状痕、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒、褐灰色粒を含む。	III a	
298	深鉢	口縁部	I7	ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	微細な透明光沢粒を多く含む。3mm以下の赤褐色粒をわずかに含む。微細な白色光沢粒をごくわずかに含む。	III a	
299	深鉢	口縁部	J7	ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	3mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒、にぶい橙色粒を含む。	III a	黒斑あり

第 29 表 縄文時代早期土器観察表①

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文 様		色 調		胎 土 の 特 徴	分 類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
300	深 鉢	口縁部	H7	ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	橙5YR7/6	2mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色光沢粒、暗褐色粒を含む。	Ⅲa	風化著しい 黒斑あり
301	深 鉢	口縁部	H7	ナデ	ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/8	2mm以下の橙色粒、黒褐色粒を含む。	Ⅲa	黒斑あり
302	深 鉢	口縁部	H6	工具ナデ、 ナデ	工具ナデ	赤褐 5YR4/6	赤褐 5YR4/6	2mm以下の灰白色粒、角閃石、透明光沢粒、浅黄橙色粒を含む。	Ⅲa	黒斑あり
303	深 鉢	口縁～ 胴部	I7	ナデ	ナデ	橙5YR7/8	橙5YR7/8	3mm以下の角閃石を多く含む。2mm以下の明褐色粒、灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。	Ⅲa	
304	深 鉢	口縁部	J7	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3 灰黄褐 10YR4/2	明黄褐 10YR7/6 灰黄褐 10YR5/2	2mm以下の灰白色粒を含む。2mm以下の透明光沢粒を多く含む。1mm以下の黒色光沢粒を少し含む。	Ⅲa	風化気味
305	深 鉢	口縁部	H7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	4mm以下の灰白色粒、3mm以下の角閃石を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	Ⅲa	
306	深 鉢	口縁部	I7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の灰白色粒、角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。微細な黒色粒をごくわずかに含む。	Ⅲa	
307	深 鉢	口縁部	L4	ナデ	ナデ	淡黄 2.5Y8/3	灰黄 2.5Y7/2	2mm以下の灰白色粒をわずかに含む。微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	Ⅲa	
308	深 鉢	口縁部	J7	ナデ	圧痕、ナデ	灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y5/1	3mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒褐色粒、明黄褐色粒を含む。	Ⅲa	風化気味
309	深 鉢	口縁部	J6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR5/3	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	Ⅲa	
310	深 鉢	口縁部	I7	ナデ	工具痕、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	4mm以下の褐灰色粒、1.5mm以下の角閃石、透明光沢粒を少し含む。3mm以下の灰白色粒を含む。	Ⅲa	
311	深 鉢	口縁部	N4	貼付突帯、 ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	にぶい橙 7.5YR7/4	5mm以下の暗赤色粒、0.5mm以下の金色粒をごくわずかに含む。2mm以下の赤灰色粒、1.5mm以下の角閃石を少し含む。2.5mm以下のにぶい橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。	Ⅲa	
312	深 鉢	口縁部	H6	突帯、ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	4mm大のにぶい黄橙色粒を1つ含む。2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、透明光沢粒、角閃石を少し含む。	Ⅲa	
313	深 鉢	口縁部	J6	ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6 橙5YR6/8	橙5YR6/8	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の褐灰色粒、橙色粒を含む。	Ⅲa	
314	深 鉢	口縁部	L4	工具ナデ、 ナデ	原体条痕、 ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	明赤褐 5YR5/6	5mm以下のにぶい黄橙色粒、3mm以下の褐灰色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む。	Ⅲb	
315	深 鉢	口縁部	H6	ナデ	ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	2mm以下の灰白色粒、角閃石、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	Ⅲb	
316	深 鉢	口縁部	M4	刻目、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい橙 5YR6/4	4mm以下の灰白色粒を少し含む。5mm大の赤褐色粒、3mm大の橙色粒、2mm大の暗赤褐色粒を各1つ含む。	Ⅲb	
317	深 鉢	口縁部	J7	ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	5mm以下のにぶい褐色粒、3mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、褐灰色粒、褐色粒を多く含む。角閃石を少し含む。	Ⅲb	
318	深 鉢	口縁部	J7	指ナデ、ナデ	ナデ	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	2mm以下の灰白色粒、赤褐色粒、浅黄色粒、角閃石を少し含む。	Ⅲb	
319	深 鉢	胴部	J6	ナデ	ナデ	赤褐 5YR4/6	明赤褐 2.5YR5/6	4mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の黒褐色粒、1mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を少し含む。	Ⅲ	
320	深 鉢	胴部	M4	工具ナデ、 ナデ	工具ナデ、 ナデ	にぶい褐 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	5mm以下のにぶい黄橙色粒を含む。4mm以下の橙色粒、1mm以下の角閃石をごくわずかに含む。3mm以下の透明光沢粒を少し含む。2.5mm以下の灰白色粒をやや多く含む。	Ⅲ	
321	深 鉢	胴部	I6	繊維痕、ナデ	繊維痕、ナデ	橙 2.5YR6/8	明赤褐 2.5YR5/8	5mm以下の灰白色粒、4mm以下の橙色粒を多く含む。3mm以下の黒色粒を含む。	Ⅲ	黒斑あり
322	深 鉢	胴部	J7	工具ナデ	工具ナデ、 ナデ、圧痕	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	5mm以下の灰白色粒、褐灰色粒を多く含む。3mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒を含む。	Ⅲ	黒斑あり
323	深 鉢	胴部～ 底部付 近	I6	ナデ	ナデ	橙5YR7/6 明赤褐 5YR5/6	にぶい黄褐 10YR6/4	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の角閃石を多く含む。	Ⅲ	風化気味
324	深 鉢	胴部～ 底部	J7	ナデ	ナデ	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒褐色粒、透明光沢粒を含む。角閃石を少し含む。	Ⅲ	風化気味

第 30 表 縄文時代早期土器観察表⑫

掲載 番号	器 種	部 位	出土 地点	調整・文様		色 調		胎土の特徴	分類	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
325	深鉢	胴部～ 底部	I7	ナデ	ナデ	橙 2.5YR6/6 にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	3mm以下の黒色粒を多く含む。4mm以下の灰白色粒をわずかに含む。微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。5mm大の灰色粒を1つ含む。	III	
326	深鉢	底部	J7	工具ナデ	工具痕、ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/3	6mm以下の高師小僧を含む。1.5mm以下の角閃石、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。2mm以下の灰白色粒を含む。	III	
327	深鉢	底部	J7	圧痕、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石をわずかに含む。2mm以下の白色のにぶい光沢粒、灰褐色粒、微細な透明光沢粒をごくわずかに含む。	III	
328	深鉢	底部	N4	ナデ	ナデ	明褐 7.5YR5/6	橙 7.5YR6/6	3mm以下の褐灰色粒を含む。1mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒を少し含む。1.5mm以下のにぶい赤褐色粒をごくわずかに含む。	III	
329	深鉢	底部	D区	ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙5YR6/6	5mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、4mm以下の浅黄褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	III	
330	深鉢	底部	I6	ナデ	ナデ	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	5mm以下の明赤褐色を少し含む。5mm以下の灰白色粒、2mm以下の明褐灰色粒、黒色粒、橙色粒、褐灰色粒、透明光沢粒、角閃石を多く含む。	III	風化気味
331	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰 10YR4/1	5mm以下の灰白色粒を多く含む。2mm以下の角閃石をわずかに含む。	III	黒斑あり
332	深鉢	底部	O4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	8mm以下の浅黄褐色粒、3mm以下の明赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	III	
333	深鉢	底部	P4	ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	橙 7.5YR6/6	2.5mm以下の黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。4mm以下の明赤灰色粒をごくわずかに含む。	III	
334	深鉢	底部	N5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄 2.5Y7/3	7mm以下の灰白色粒、2mm以下の角閃石、透明光沢粒、明褐色粒、黒色光沢粒を含む。	III	風化気味
335	深鉢	底部	J7	ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の角閃石、黒褐色粒、浅黄褐色粒、明赤褐色粒を含む。3mm大のにぶい赤褐色粒を1つ含む。	III	
336	深鉢	底部	I7	ナデ	不明	黄橙 10YR8/4	黄橙 10YR8/4	8mm以下の浅黄褐色粒、明黄褐色粒をごくわずかに含む。3mm以下の褐灰色粒、灰白色粒、黒褐色粒、角閃石を含む。	III	風化著しい
337	深鉢	口縁～ 胴部	M6	不明	不明	暗赤灰 2.5YR3/1	赤褐 2.5YR4/6	2mm以下の黒色粒を多く含む。7mm以下の灰白色粒をわずかに含む。微細な角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	IV	風化著しい
338	深鉢	底部	I6	ナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	4mm以下の白灰色粒、2mm以下の角閃石、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の灰白色光沢粒、黒色粒をごくわずかに含む。	IV	
339	深鉢	底部	I6	ナデ	ナデ	橙5YR6/8	橙5YR7/6	2mm以下の角閃石、灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の灰色粒をごくわずかに含む。	IV	黒斑あり
340	深鉢	底部	I7	不明	ナデ	橙5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、灰黄褐色粒を少し含む。2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、角閃石を含む。	IV	風化著しい
341	深鉢	胴部	I7	楕円押型文	原体条痕	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	微細な灰白色粒をごくわずかに含む。	IV	土器片加工円盤
342	深鉢	胴部	A区	楕円押型文	原体条痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む。	IV	土器片加工円盤
343	深鉢	胴部	I6	繊維痕、ナデ	繊維痕、ナデ	橙5YR7/6	橙5YR6/6	微細な灰白色粒、角閃石、透明光沢粒をごくわずかに含む。	IV	土器片加工円盤

(2) 石器

遺構ならびにV層・VI層から石鏃、石斧、礫器、磨石、敲石や剥片類が出土している。本書には製品を中心に337点を掲載した。以下、器種別に報告する。

なお、遺構内より出土した石器については、第2節2に掲載している。

I 石鏃（第67～71図：344～570）

石鏃は未製品・欠損品を含めて702点が出土しており、石材別に見るとチャート製625点（89%）、黒曜石製35点（5%）、その他、姫島産安山岩、頁岩、流紋岩などの石材が42点（6%）となっている。そのうち242点を図化した。黒曜石を産地別に見ると、11点中10点が西北九州産黒曜石、1点が姫島産黒曜石となっている。ここでは形態によって、次のように分類を試みた（形状不明な未製品・欠損品を除く）。大分類として、

I類：基部に抉りがないもの II類：基部の抉りが浅いもの

III類：基部の抉りが深いもの IV類：基部の抉りが極めて深いもの

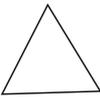
さらに平面の形状により、中分類として、

A類：ほぼ正三角形を呈するもの B類：ほぼ二等辺三角形を呈するもの

さらにIII類・IV類については脚端部の形態により、小分類として、

a類：尖脚 b類：円脚 c類：方脚

と細分した（第66図 参照）。

	I	II	III			IV		
			a	b	c	a	b	c
A								
B								

第66図 石鏃分類模式図

傾向としては、抉りの有無・深さではIII類（46%）、IV類（37%）が多く、平面形ではA類（正三角形）44%、B類（二等辺三角形）56%、脚端部の形状ではa類20%、b類30%、c類50%であった。

I A類（第67図：344～349）

チャート製である。344は基部の厚さが薄く、表面の上部に厚みがあるが、裏面は平坦に加工されている。346、347は中央の断面形が凸レンズ状となる。349は側縁に鋸歯状の加工が施されている。

I B類（第67図：350～356）

チャート製である。350は非常に小型で、側縁の輪郭が歪である。352、353は表面の中央部分に厚

みがある。353 は表裏両面に剥離が施されているが全体的に調整は粗い。354 は断面形が扁平で、側縁の輪郭が歪で、先端部は欠損している。355 は側縁に鋸歯状の加工が施されている。

II A 類 (第 67 図：357 ～ 364)

357 ～ 364 はチャート製である。357 は非常に小型で、両側縁がやや外側に張り出す。358、360 は表裏両面に剥離が施されているが全体的に調整は粗い。361、362 は両側縁が外側に張り出し、鋏形ではないが平面形は類似している。363、364 は側縁の輪郭が歪で、先端が鋭く尖る。

II B 類 (第 67 図：365 ～ 382)

365、366 は非常に小型である。365 は安山岩製で断面形は薄い。366、373、379、380 は両側縁がやや外側に張り出し、丸みを帯びている。366 は側縁に鋸歯状の加工が施されている。368 は左側縁の輪郭が歪で、先端及び基部が鋭く尖る。370 ～ 372 は両側縁が内湾し、370、371 は表面の中央部分に厚みがある。372 は安山岩製である。373、374 は挟りの幅が非常に狭い。374 はホルンフェルス製で風化が激しく、先端部が欠損している。377 はチャート製で、全体の調整が粗く失敗品の可能性も指摘できる。378 は黒曜石製で左基部が欠損している。381、382 は他の石鋏と比較しても非常に大型であり、381 は整った二等辺三角形を呈し先端が鋭く尖る。382 は基部が丸みを帯び、先端は欠損している。

III Aa 類 (第 67、68：383 ～ 393)

383 ～ 389 はチャート製で非常に小型である。383 は先端及び脚部を鋭く尖らせ、側縁部に鋸歯状の加工が施されている。384、390、392 はやや U 字状の挟りがある。385 ～ 391 は両側縁がやや外側に膨らみ、丸みを帯びている。390 は左側縁が張り出し平面形が整っていないが、両側縁部に鋸歯状の加工が施されている。391 は水晶製で、右側縁部から脚部にかけて欠損している。393 は基部が左右非対称で、全体の調整が粗く未成品の可能性もある。

III Ab 類 (第 68 図：394 ～ 402)

394 は黒曜石製で U 字状の挟りがある。395 ～ 401 はチャート製で、395 は先端部が先細りし尖っている。394 は表裏両面からの細かな調整が確認できる。400 ～ 402 は比較的大型のもので、402 は水晶製で先端部を鋭く尖らせ、裏面は素材の主要剥離面を大きく残す。

III Ac 類 (第 68 図：403 ～ 421)

404、405 はチャート製で断面が薄く、表裏両面に素材剥片の主要剥離面を残し、周縁部のみ調整を施している。406 ～ 420 は鋏形鋏で、406 ～ 409、412 ～ 417、420 はチャート製、410、411、418 は黒曜石製、419 は水晶製である。417 は先端部を鋭く尖らせ、側縁部に鋸歯状の加工を施している。421 はチャート製で左脚部を欠く。表面の中央部分に自然面を残し、全体の調整も粗く未成品の可能性もある。

III Ba 類 (第 68 図：422 ～ 437)

422 はチャート製で両側縁がやや外側に張り出し、丸みを帯びている。挟りの幅が大きく、脚部の先端は細く尖る。423 ～ 433 はやや V 字状挟りがあり、434 ～ 436 は鋏形鋏である。423 はチャート製で両側縁が内湾し脚部が広角に開く。先端部及び脚部先端が鋭く尖る。424、425、432、433 は側縁部に鋸歯状の加工が施されており、425 は黒曜石製で非常に小型である。435、436 は縦長の二等辺三角形を呈し、436 は安山岩製で側縁部はやや内湾し、先端部は丸みを帯びている。437 はチャート製で下半部に最大幅を有する縦長の二等辺三角形を呈する。いわゆる帖地型石鋏である。

III Bb 類 (第 68、69 図：438 ～ 448)

438 ～ 440 はチャート製。薄く、両側縁がやや外側に張り出し丸みを帯びている。表裏両面に素材剥片の主要剥離面を残す。441 ～ 446 は鍬形鍬で、441 は褐色のチャート製、442 は千枚岩製である。447 は先端部を欠くが、残存部分から比較的大型の石鍬と推察される。448 はチャート製で両側縁が外側に張り出し丸みを帯びている。裏面には主要剥離面を大きく残す。

III Bc 類 (第 69 図：449 ～ 471)

449、450 はチャート製で両側縁が外側に張り出し丸みを帯びている。449 は右側縁の輪郭が歪で左右非対称である。450 は中央の断面形が凸レンズ状となる。451 ～ 468 は鍬形鍬で、451 ～ 454、456、457、459、460、463 ～ 466 はチャート製、455、457、458、461、462 は安山岩製、467、468 は黒曜石製である。454 は赤色のチャートで、表裏両面に細かな調整が確認できる。458 は断面形が非常に薄い。460 は茶褐色のチャートで、先端部及び左脚部が欠損しており全体的に調整が粗い。462 は姫島産黒曜石製で、両脚部が欠損している。468、469 は両側縁がやや外側に張り出し丸みを帯びている。468 は側縁に鋸歯状の加工が施されている。469 は裏面には主要剥離面を大きく残す。470、471 は片側に湾曲し、左右非対称な縦長の二等辺三角形を呈する。

IV Aa 類 (第 69 図：472 ～ 481)

ほぼ U 字型の挟りを有する鍬形鍬である。480 は安山岩製、他はチャート製である。475 は暗褐色、476、478 は透明感のあるチャートである。481 は脚部が比較的幅広く、側縁は鋸歯状となる。

IV Ab 類 (第 69、70 図：482 ～ 501)

ほぼ U 字型の挟りを有する鍬形鍬である。484、490、494 は黒曜石製、491、492 は安山岩製、他はチャート製である。482 は小型のもので、左脚部は欠損しているが右脚部は幅広く大きい。486、493、497、499、500 は白く透明感のあるチャートである。489、490、493、496、500、501 は側縁に鋸歯状の加工が施されている。498 ～ 501 は側縁が膨らみ、丸みを帯びている。

IV Ac 類 (第 70 図：502 ～ 519)

ほぼ U 字型の挟りを有する鍬形鍬である。517 は安山岩製、他はチャート製で 502 ～ 505 は非常に小型である。505 は裏面に主要剥離面を大きく残す。506 は濃い灰色のチャートで側縁の一部には鋸歯状の加工が確認できる。511 はやや深緑色のチャート、513 は黒線の混じる黄土色のチャートである。512、515 は側縁に鋸歯状の加工が施されている。514 は右脚部が風化し白く変色している。また、平面形は右側縁の輪郭が歪で左右非対称である。517 は表面の中央部分に厚みがあるが裏面は平たく、全体として調整は粗い。519 は側縁が張り出し丸みを帯びている。

IV Ba 類 (第 70 図：520 ～ 525)

チャート製であるが、521 は赤褐色が多く混じり、525 は透明感がある。520 は非常に小型である。520 ～ 522 はほぼ V 字型の挟りを有し、523 ～ 525 は脚部が欠損しているものもあるが、残存部分からほぼ U 字型の挟りを有する鍬形鍬であると推察される。522 は表裏両面に細かな調整が確認でき、先端部及び広角に開いた脚部の先端部は鋭く尖る。523 は側縁部から先端部にかけて細長く伸び、鋭く尖る。524 は側縁が張り出し、脚部方向へ向けて鋸歯状を呈する。

IV Bb 類 (第 70、71 図：526 ～ 548)

いわゆる鍬形鍬である。526、529 ～ 539、542 ～ 547 はチャート製である。526 は赤紫色で左側

縁が一部欠損している。右脚部に比べ左脚部がやや大きく、脚部先端が外側に開き左右非対称となる。529、530、536、538、542、544は白色でやや透明感があり、533は乳白色、545はやや緑色を帯びている。527、528、540、541、548は黒曜石製で、540は西北九州産であろう。527～530、534、547は側縁が鋸歯状を呈し、529、536～538、541、544は側縁部のやや先端に近い位置に屈曲点を持ち、先端部にかけて細長く尖る。535、546、548は側縁がやや外湾し丸みを帯びている。544～548は大型で、547は裏面に主要剥離面を大きく残し扁平に調整されている。

IV Bc 類 (第71図：549～570)

いわゆる鋏形鏃である。549～553、555、556、559～561、563、565、566、568～570はチャート製である。551、563はやや透明感のある白色、560は風化によりやや褐色を帯びた白色、565は赤紫色、566は薄い緑色である。554、567は頁岩製、557、558、562は黒曜石製、562は姫島産安山岩製、564は安山岩製である。549は小型に属する。550、551は側縁部がやや内湾している。552、559は裏面に主要剥離面を大きく残し扁平に調整されている。553、554、557、558は側縁が鋸歯状を呈している。569は大型で先端部に向けて細長く鋭く尖る。570は厚みが薄く、側縁部が外側に張り出し丸みを帯びている。

II 異形石器 (第71、72図：571～587)

571～575はいわゆるトロトロ石器で、全てチャート製である。571、572は小型のもので、572は白色のチャート製である。573は表裏両面に主要剥離面を大きく残し、全体が丁寧に研磨されている。574は右側縁部が欠損している。

576～579、581～583、587はチャート製、580は流紋岩製、586はサヌカイト製である。576は脚部が幅広く、欠損しているが残存部分からみて大型のものと推察される。577、583、584は上端は平たく、下端は石鏃状に中央に抉りを有している。578は側縁部が外湾し先端から脚部に向けて丸みを帯びる。基部に浅い抉りを有し脚部は尖る。いわゆるUFO形(新東2011)に類似する。579は7か所の抉りが確認できる。580は側縁部が内湾し先端に向けて細長い。側縁の一部が鋸歯状となる。581、582は石鏃のような平面形を呈しているが、両側縁部の脚部に近い位置に抉りが施されている。582は両側縁部の先端部に近い位置にも浅い抉りが見られる。585は右側縁部から脚部にかけて欠損しているが、残存部分から大型のものと推察される。左側縁部は鋸歯状を呈し、基部に突起があり、いわゆるUFO形に類似する。586は曲状のカーブが残り、ブーメラン形を呈する。587は弧状に湾曲した体部で上部方向へ膨らむ。

III 尖頭状石器 (第72図：588～590)

588～590は、緩斜度の二次加工が周縁を巡るチャート製の尖頭形の石器である。590は表面の中央部分に厚みがあり、裏面は平坦に加工されている。先端が僅かに欠損している。

IV 石錐 (第72図：591、592)

591、592はチャート製でつまみ部を持ち、軸部が細長い。表裏両面に細かな剥離を加えて下端を錐状に尖らせている。

V 楔形石器 (第72図：593、594)

593、594はチャート製で裏面に主要剥離面を大きく残す。593は横長剥片を素材とし上下両端に潰れ、594は縦長剥片を素材とし上下左右の端部に潰れが観察される。

VI 石核（第 72、73 図：595～605）

595～600 はチャート製である。595、596 は打面を固定している。石核としたが、両面加工石器あるいは尖頭状石器の可能性も考えられる。601 は流紋岩製で比較的厚みのある剥片を素材として、自然面を打面とし、不定形剥片を剥離している。602 はホルンフェルス製、603 は流紋岩製で自然面を打面とする剥片素材石核である。604 はホルンフェルス製、605 は溶結凝灰岩製である。縦長もしくは幅広の剥片を剥離している。

VII 打製石斧（第 74 図：606～608）

606 は砂岩製で両側縁部に僅かに抉りを有し、裏面のほぼ全体には自然面を残し加工は見られない。607 は砂岩製で裏面に自然面を大きく残し、周縁を巡るように二次加工が施されている。608 はホルンフェルス製で下半が欠損している。

VIII スクレイパー（第 74 図 609～613）

609 はチャート製のサイドスクレイパーである。縦長剥片を素材にして右側縁に二次加工を施し、刃部を作出している。610～613 は砂岩製で表面に自然面を残す。610～612 はサイドスクレイパー、613 はラウンドスクレイパーである。

IX 礫器（第 75 図：614～621）

614～621 は、素材となる自然礫や剥片の一部に打撃を加え、簡単な加工を施したものである。615～619 は平面形が円板状を呈し、表裏両面あるいは片面に自然面を残し、下端や側縁を剥離した後、二次加工を施している。616、617、619 はホルンフェルス製、614、615、618、620 は砂岩製、621 は安山岩製である。614 は筒状の原石を素材とし、上端と下端を剥離した後、二次加工を施している。下端の稜線に潰れ、側面に敲打痕が確認できる。620 は裏面に素材の主要剥離面を大きく残す。621 は分割礫を利用している。

X 横刃形石器（第 76 図：622）

622 は流紋岩製である。直線刃で背縁は粗い二次加工が施されている。

XI 半月形刃器（第 76 図：623）

623 はサヌカイト製で、中央の断面形が凸レンズ状になり、表裏両面の周縁に押圧剥離を行い整形している。

XII 両面加工剥片（第 76 図：624、625）

624 は流紋岩製、625 はサヌカイト製である。

XIII 二次加工剥片（第 76 図 626、627）

626 は流紋岩製である。縦長剥片を素材として右側縁と末端に二次加工が施されている。裏面は素材の主要剥離面を大きく残す。627 はホルンフェルス製で風化が激しい。周縁の稜線に潰れが見られる。

XIV 磨石（第 77、78 図：628～647）

磨面を有するものは磨石とした。磨石は 73 点出土しており、そのうち 20 点を図化した。平面形態により、次のように分類を試みた。

I 類：円形のもの II 類：楕円形のもの III 類：その他のもの及び欠損品で形態不明のもの

I 類（第 77 図：628～631）

いずれも表裏両面に磨痕が観察される。628、631 は砂岩製、629、630 は溶結凝灰岩製である。628 は表面中央に敲打痕による凹みが見られる。629～631 は側縁の一部や周縁に敲打痕が見られる。

II類 (第 77、78 図：632～637)

I類同様、いずれも表裏両面に磨痕、側縁の一部や周縁に敲打痕が観察される。632、633、635、636は砂岩製、634、637は溶結凝灰岩製である。632、633はいわゆる石鹼形である。

III類 (第 78 図：638～647)

いずれも砂岩製の分割礫でI・II類同様、表裏両面に磨痕、側縁の一部や周縁に敲打痕が観察される。側面にも広く磨痕が見られる。

XV 敲石 (第 78、79 図：648～651)

敲石は19点出土しており、石材別に見ると、砂岩17点、溶結凝灰岩1点、ホルンフェルス1点である。そのうち5点を図化した。いずれも顕著な敲打痕が確認できる。

XVI 石棒 (第 79 図：652)

652は頁岩製の石棒である。断面は薄く、下部から上部方向へやや細く、先端に近い位置の側縁部に約3mm～4mmの抉りが見られる。

XVII 石錘 (第 79 図：653)

653は砂岩製であり、扁平な円礫を素材としている。下半を欠くため左側縁は不明であるが、右側縁に紐掛部が残る。

XVIII 磨製石斧 (第 79 図：654)

654は頁岩製で刃部の一部を残し大きく欠損しているため、全体の形状は不明である。側面は敲打による整形を行った後、研磨を施している。

XIX 凹石 (第 79 図 655)

655は砂岩製の円礫を素材としている。敲打痕による凹みは表裏両面中央に確認できる。また周縁にも敲打痕が確認できる。

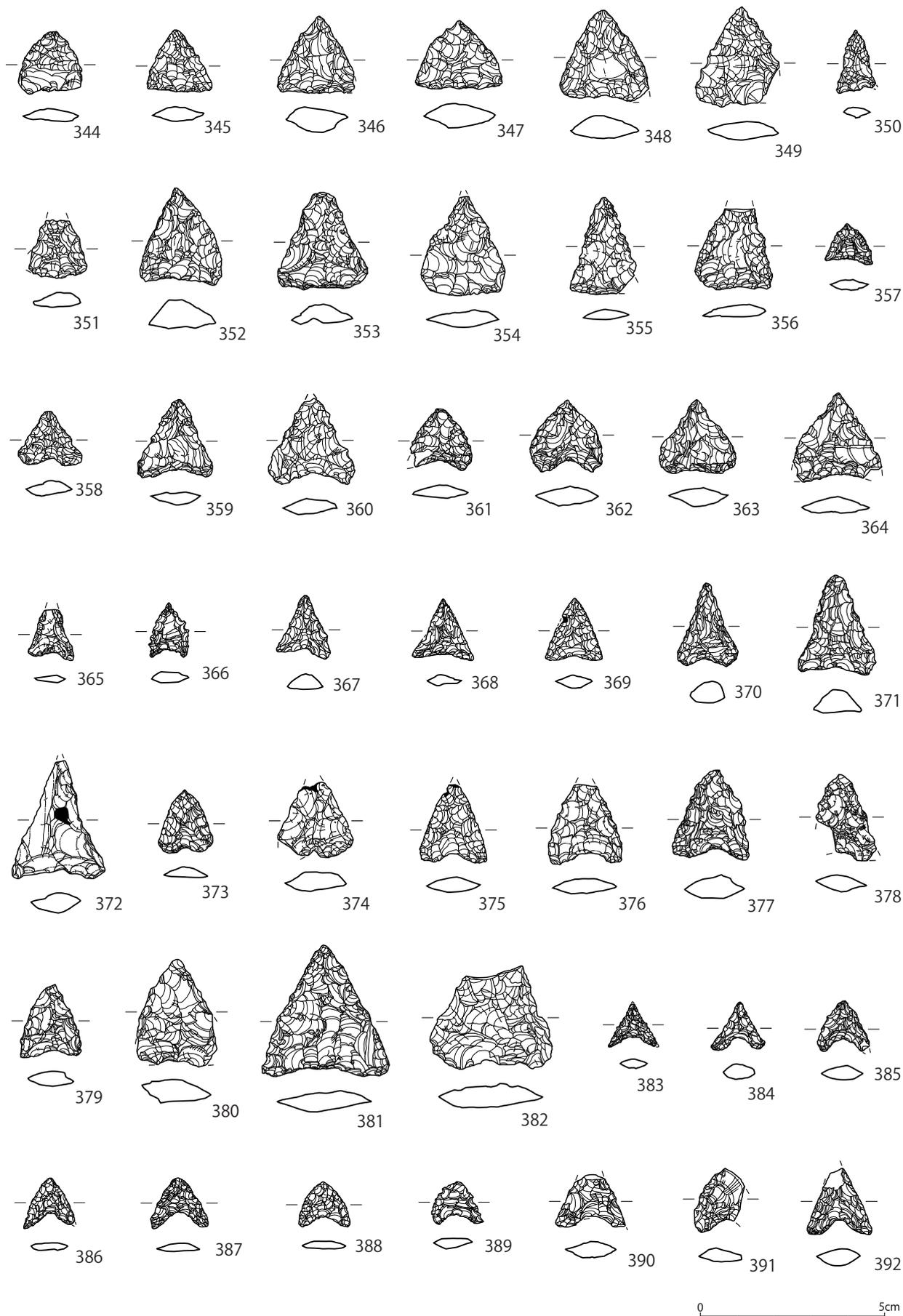
XX 有孔石製品 (第 79 図 656)

自然に形成された穴を有するノジュールを素材とし、一部に研磨痕が観察される。用途等は不明である。

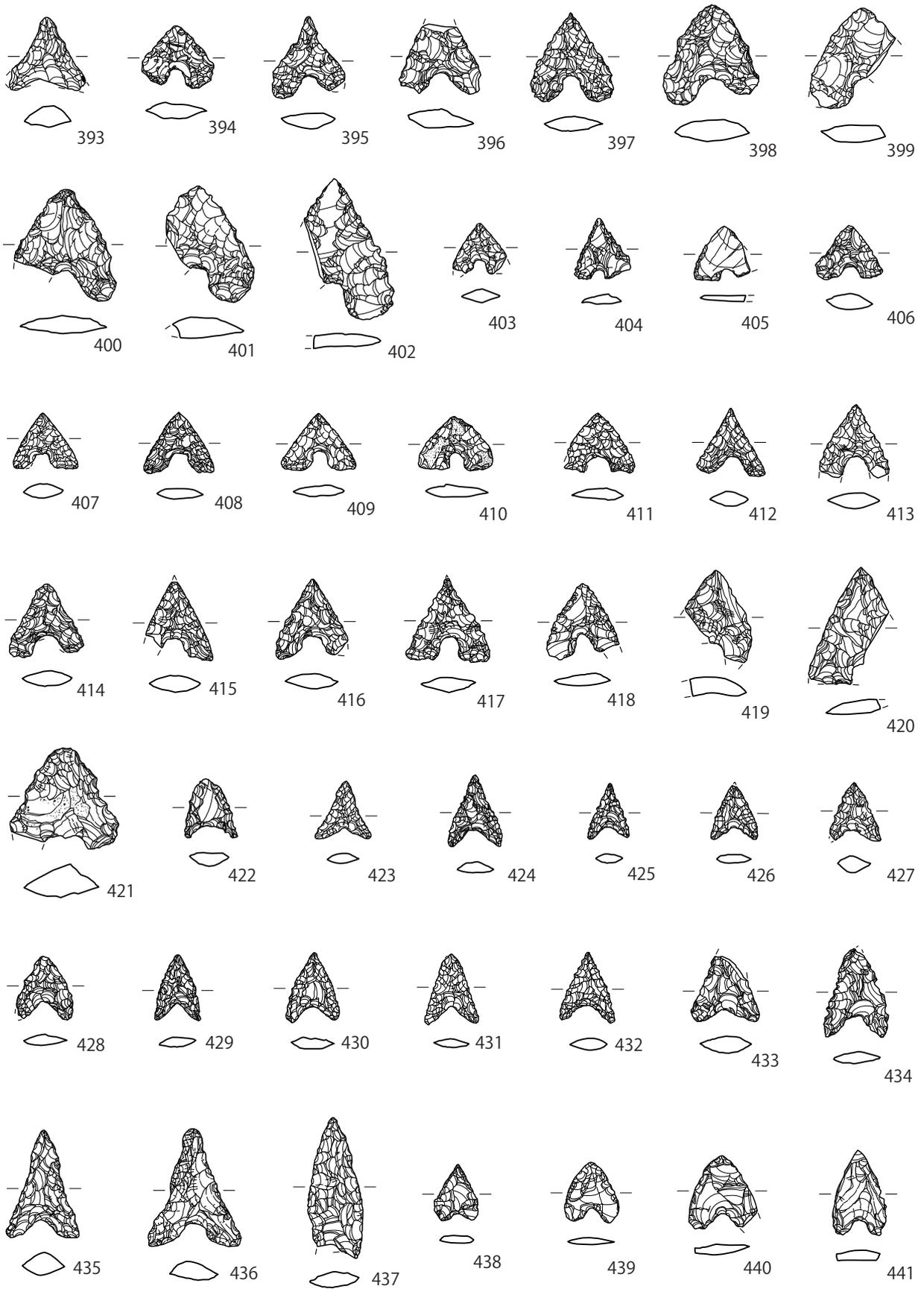
【参考文献】

宮崎県教育委員会 1995「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」

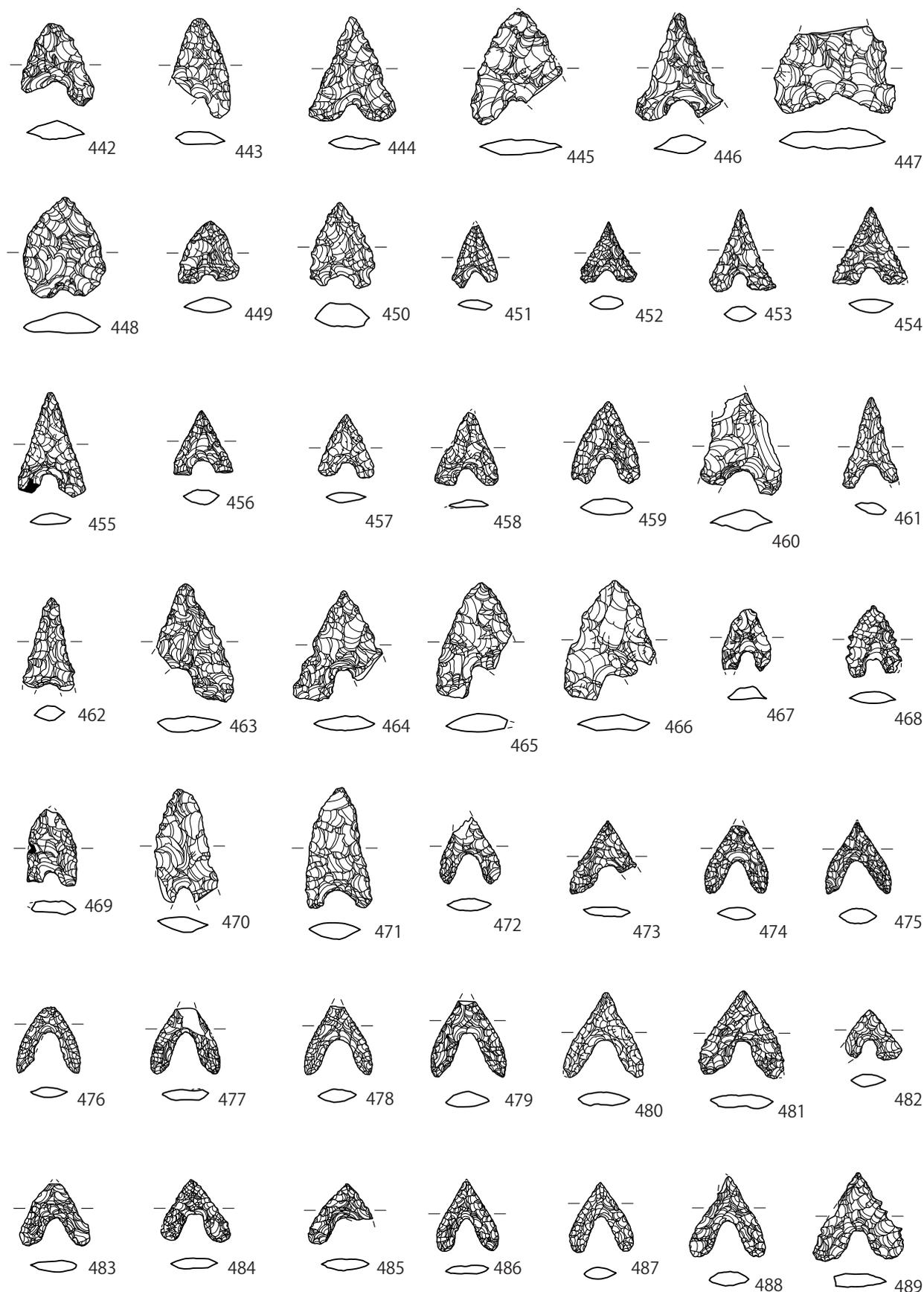
新東晃一 2011「南九州の異形石器」『南九州縄文通信 No21』南九州縄文研究会



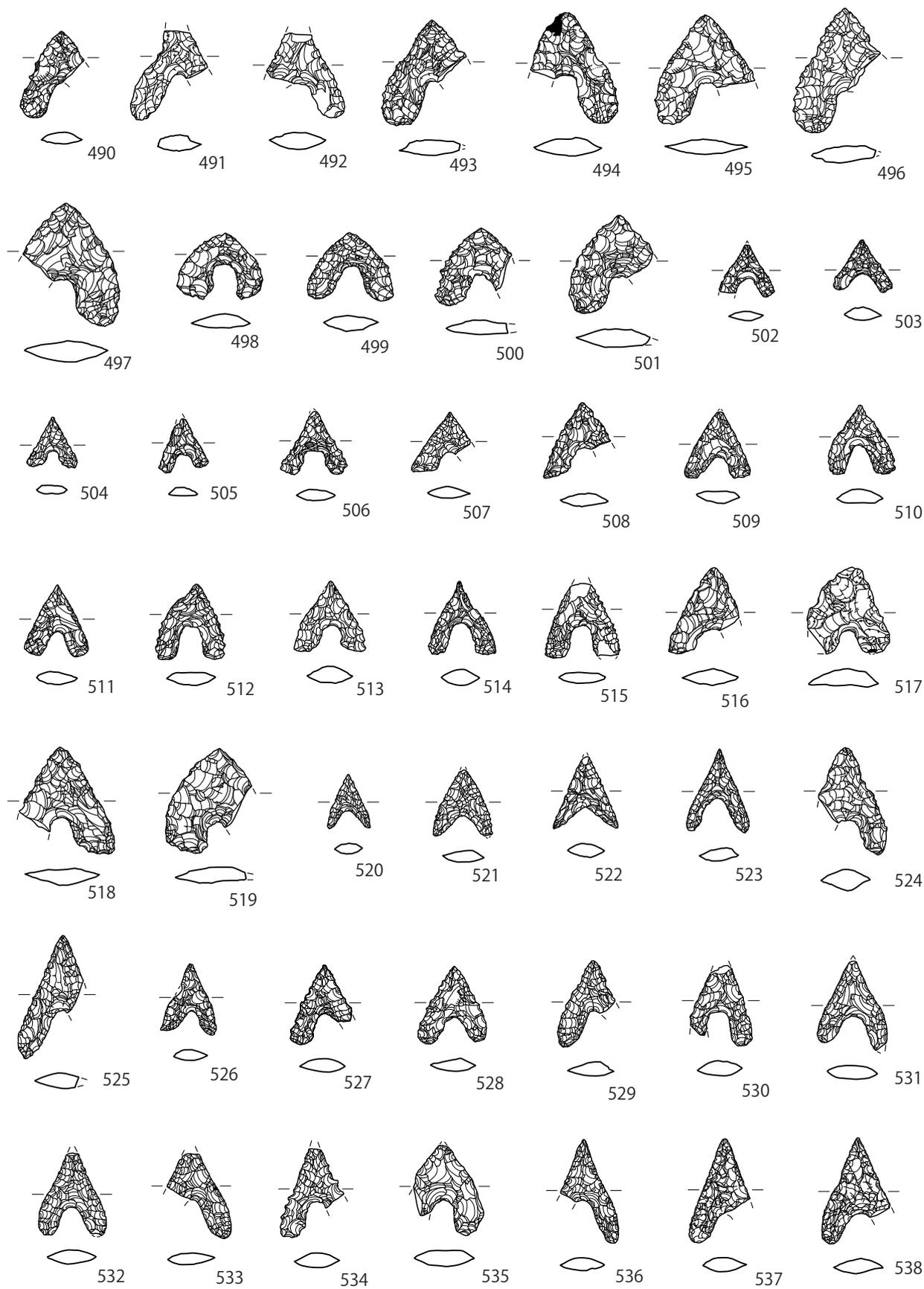
第 67 图 石器实测图 (1)



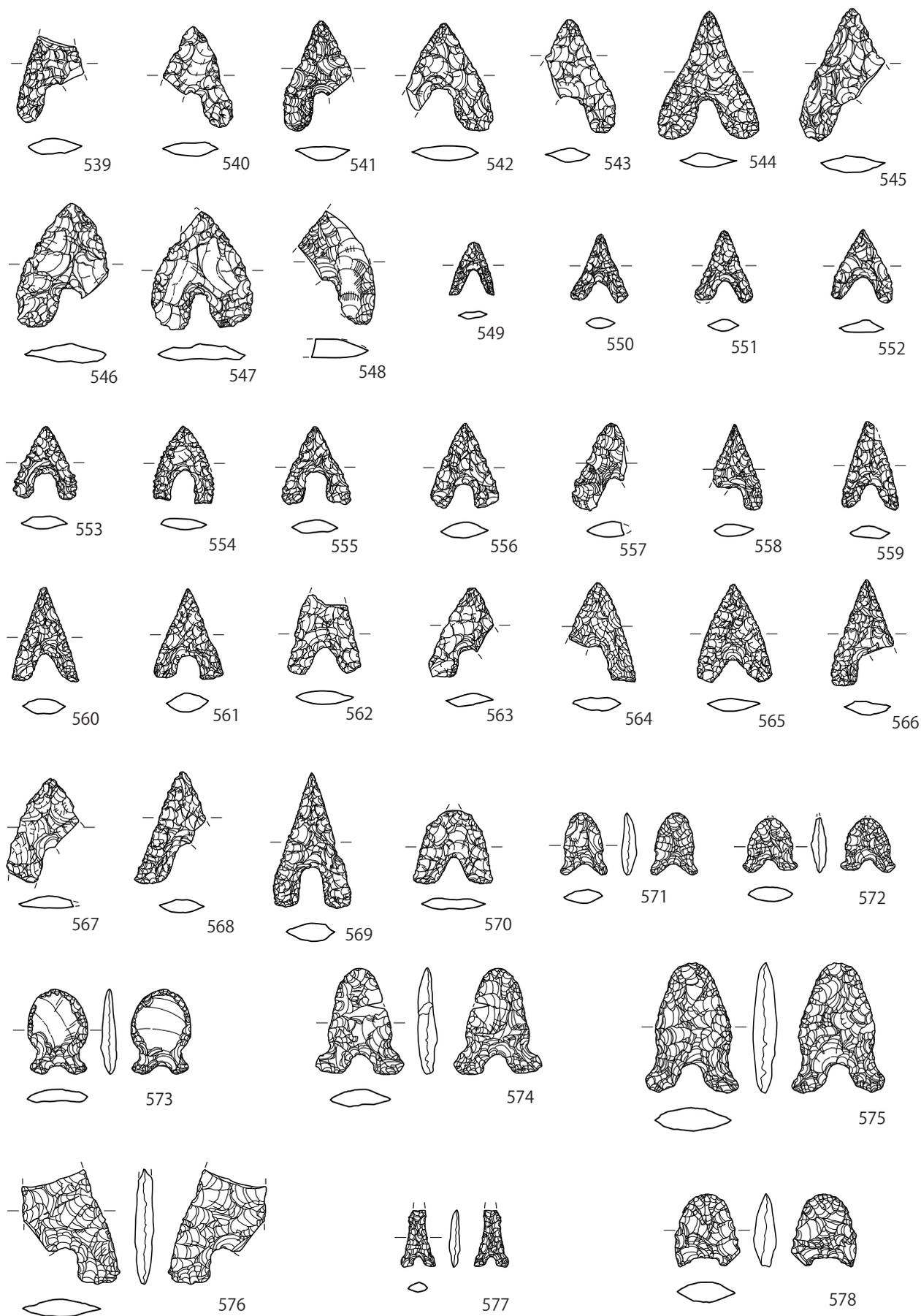
第 68 图 石器实测图 (2)



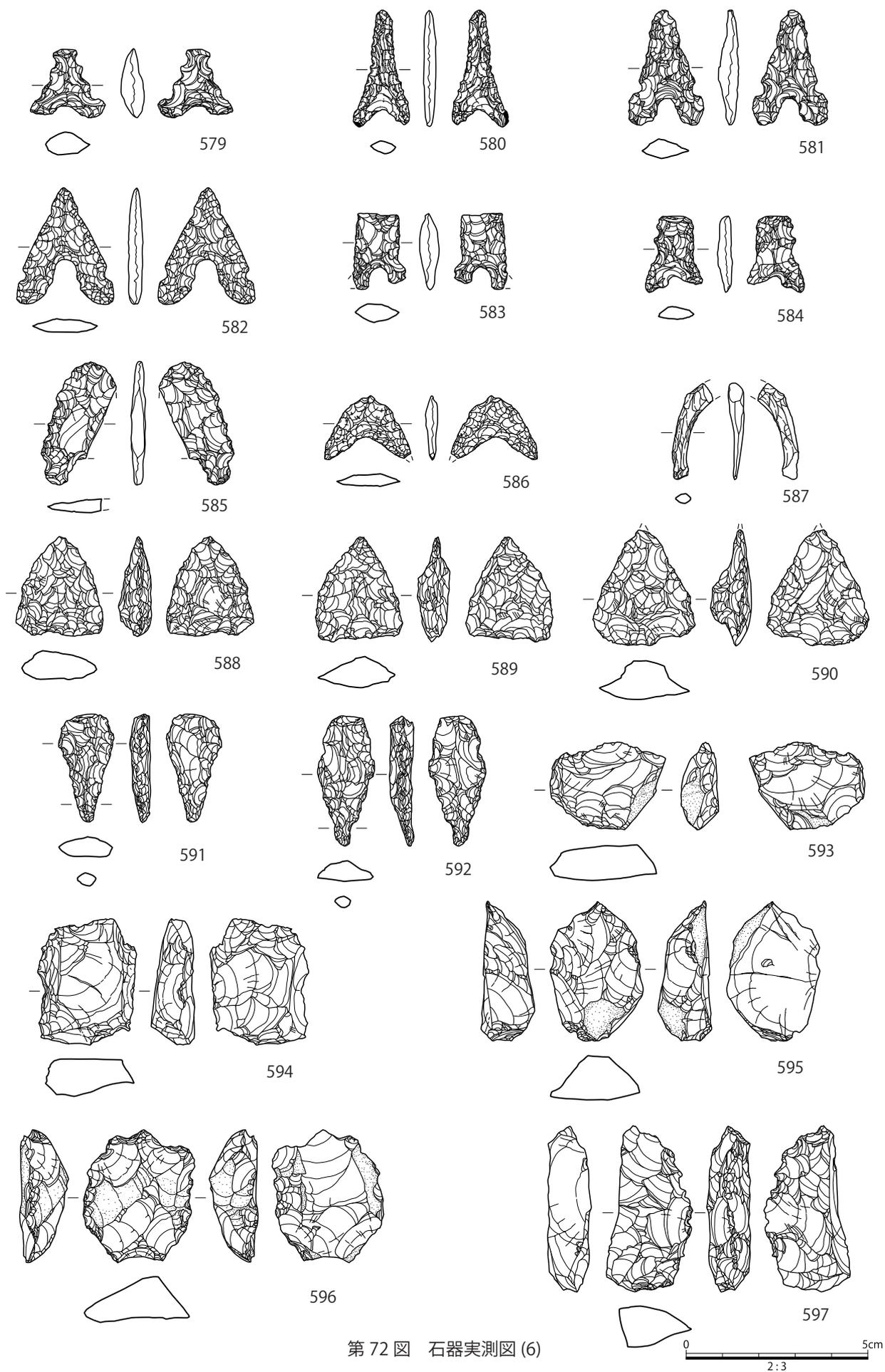
第 69 图 石器实测图 (3)



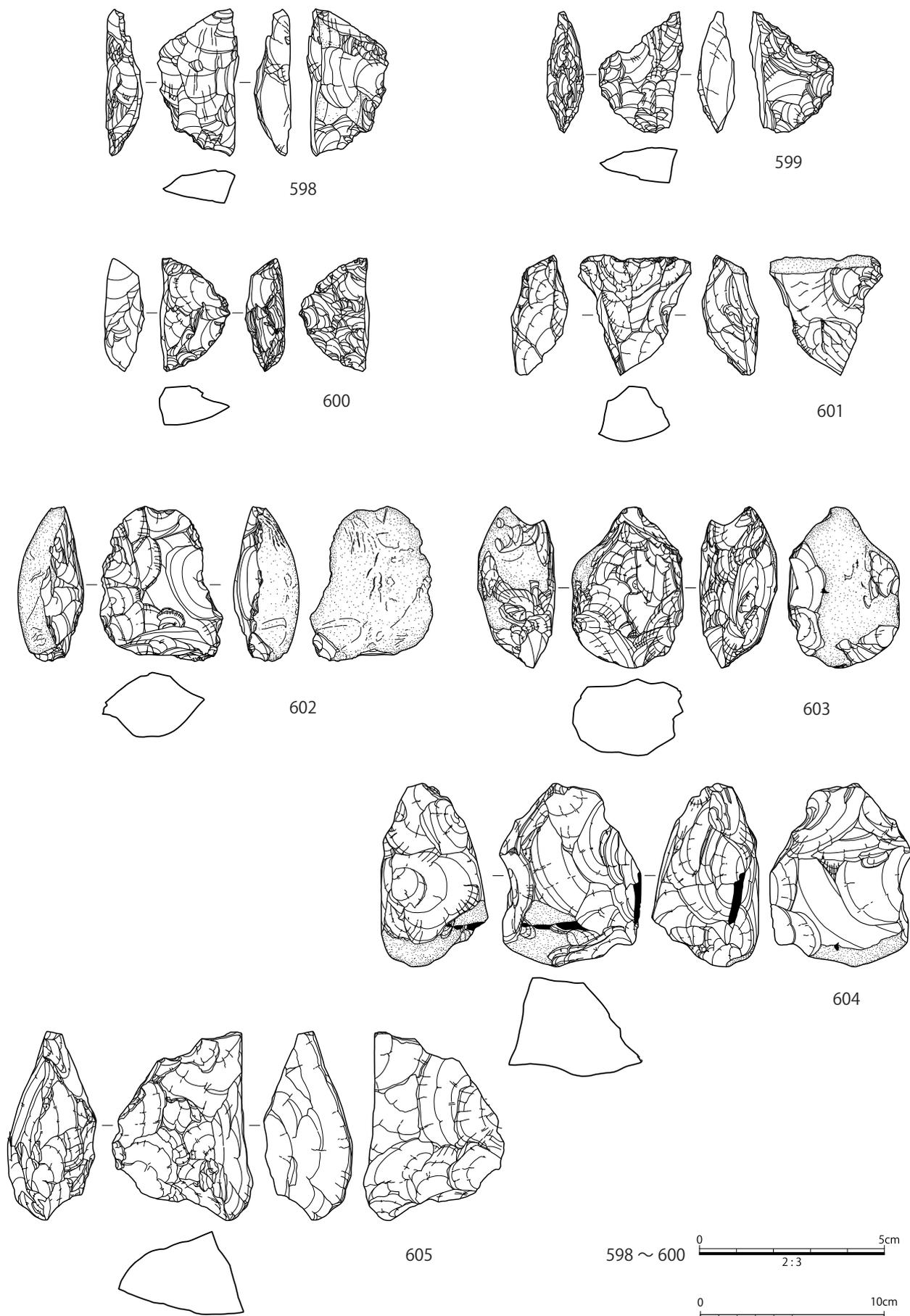
第 70 图 石器实测图 (4)



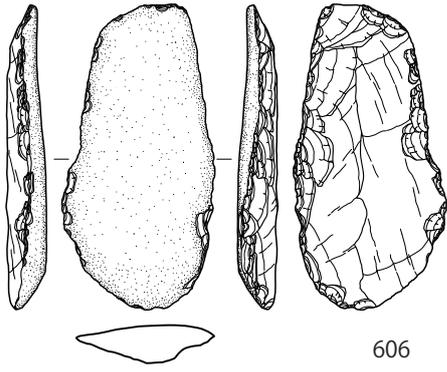
第 71 图 石器实测图 (5)



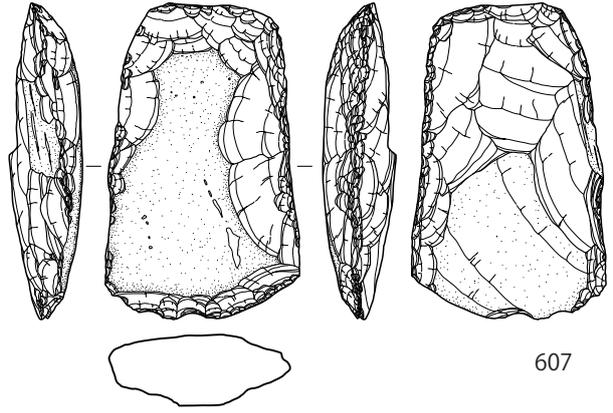
第 72 图 石器实测图 (6)



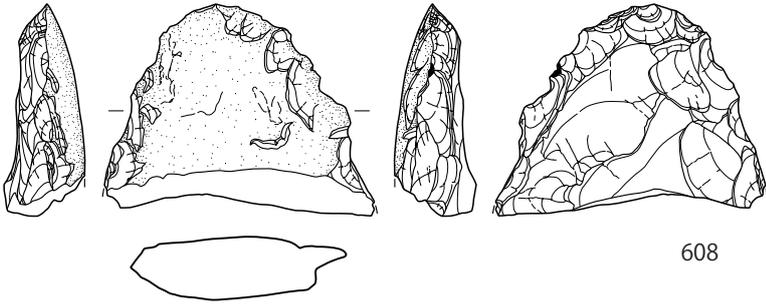
第73图 石器实测图(7)



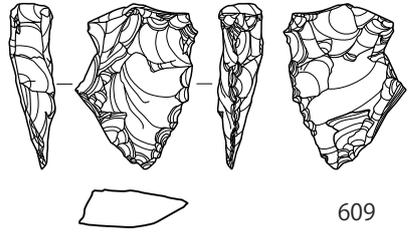
606



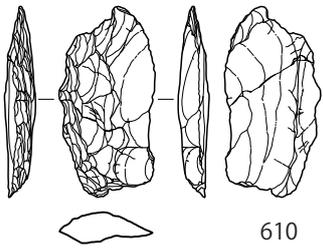
607



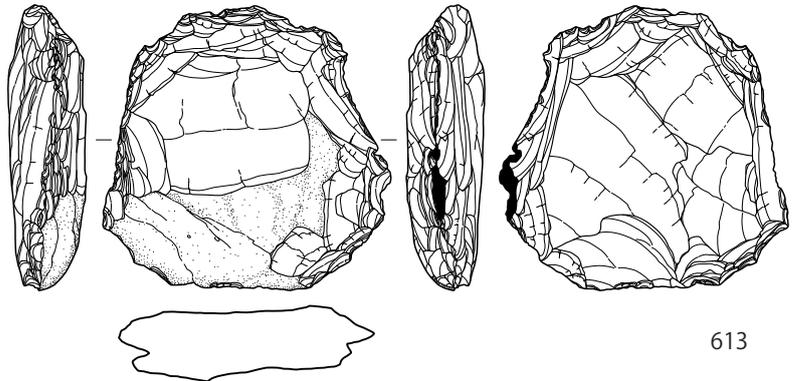
608



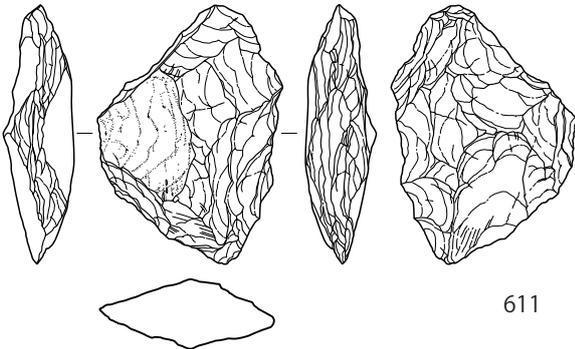
609



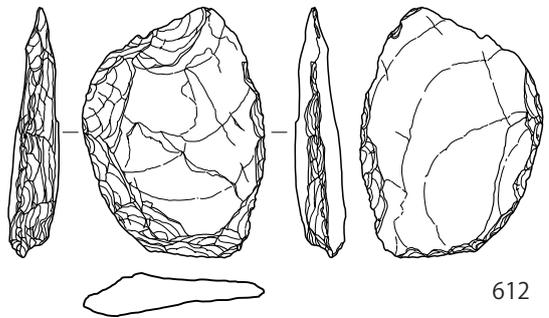
610



613



611

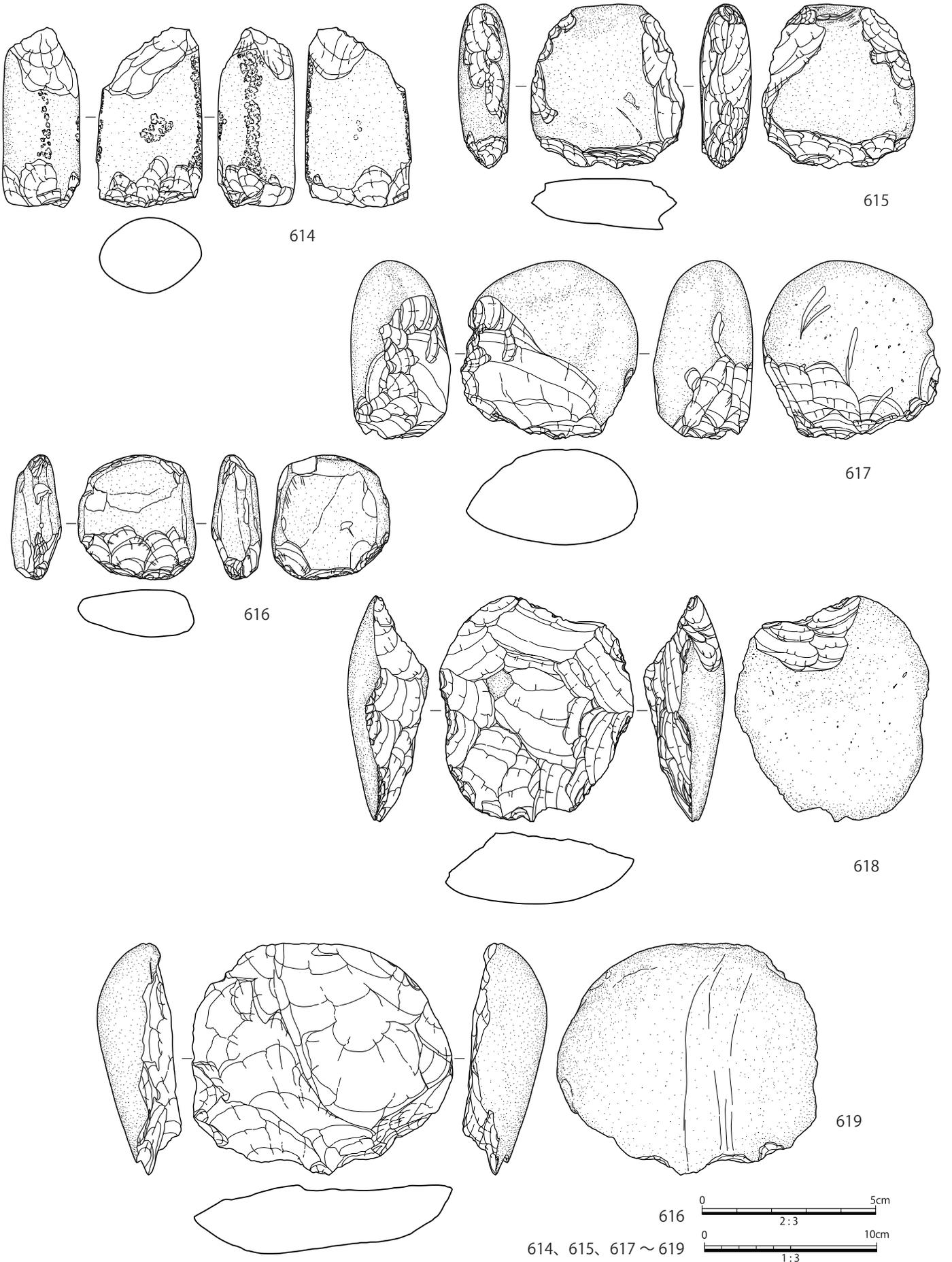


612

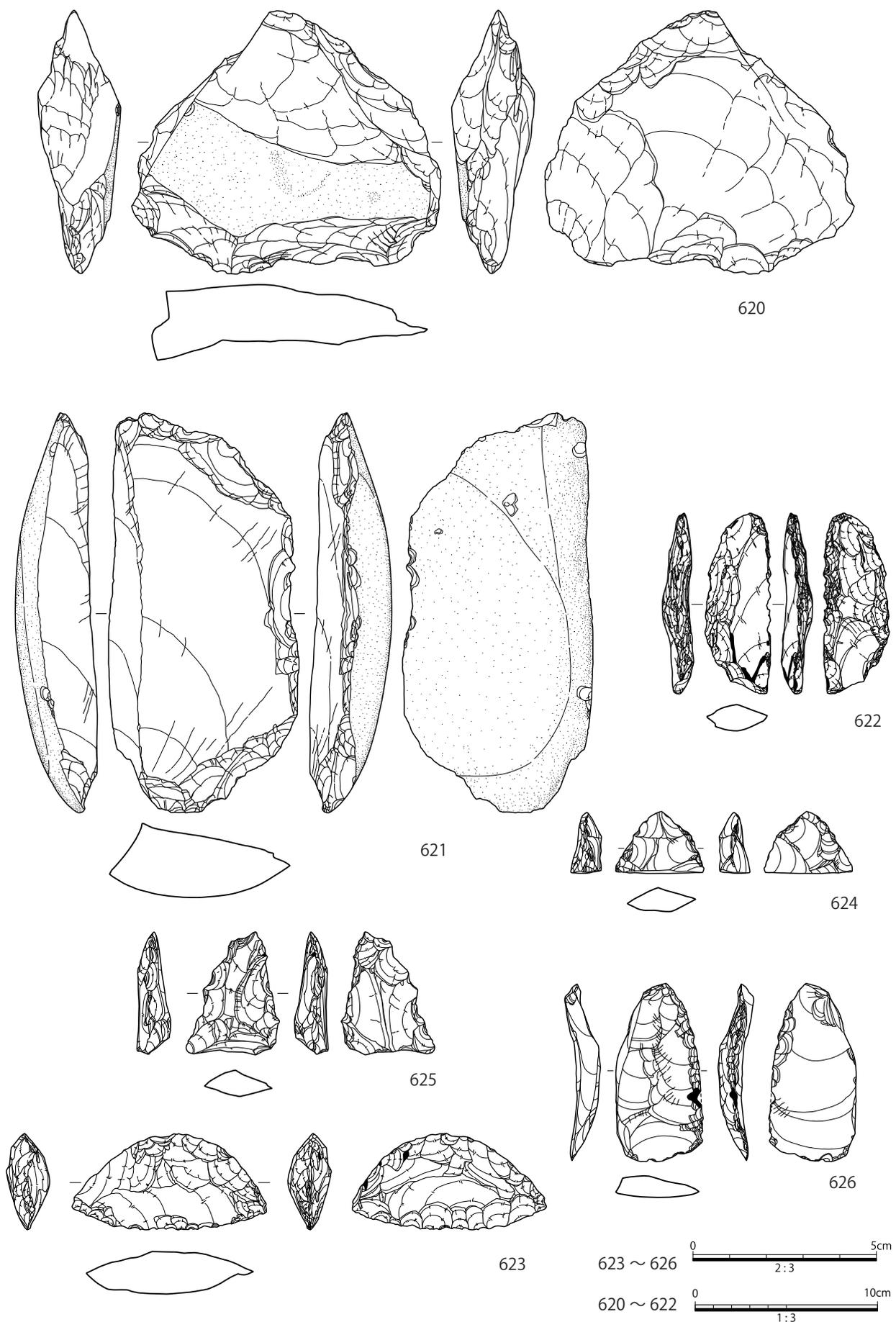
608、609 0 5cm
2:3

607、610~613 0 10cm
1:3

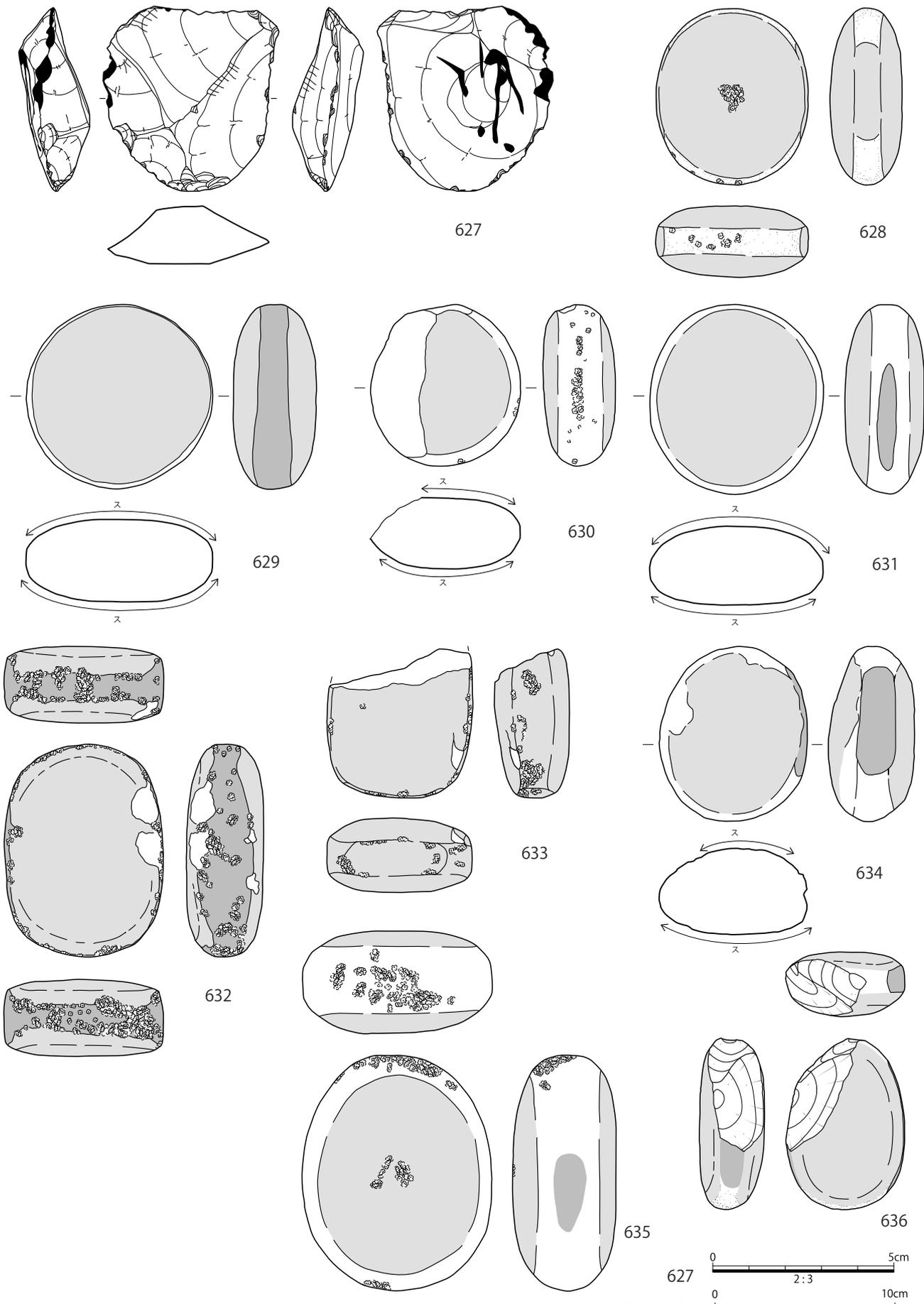
第74图 石器实测图(8)



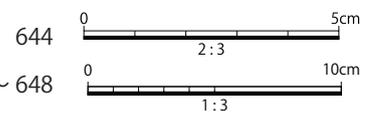
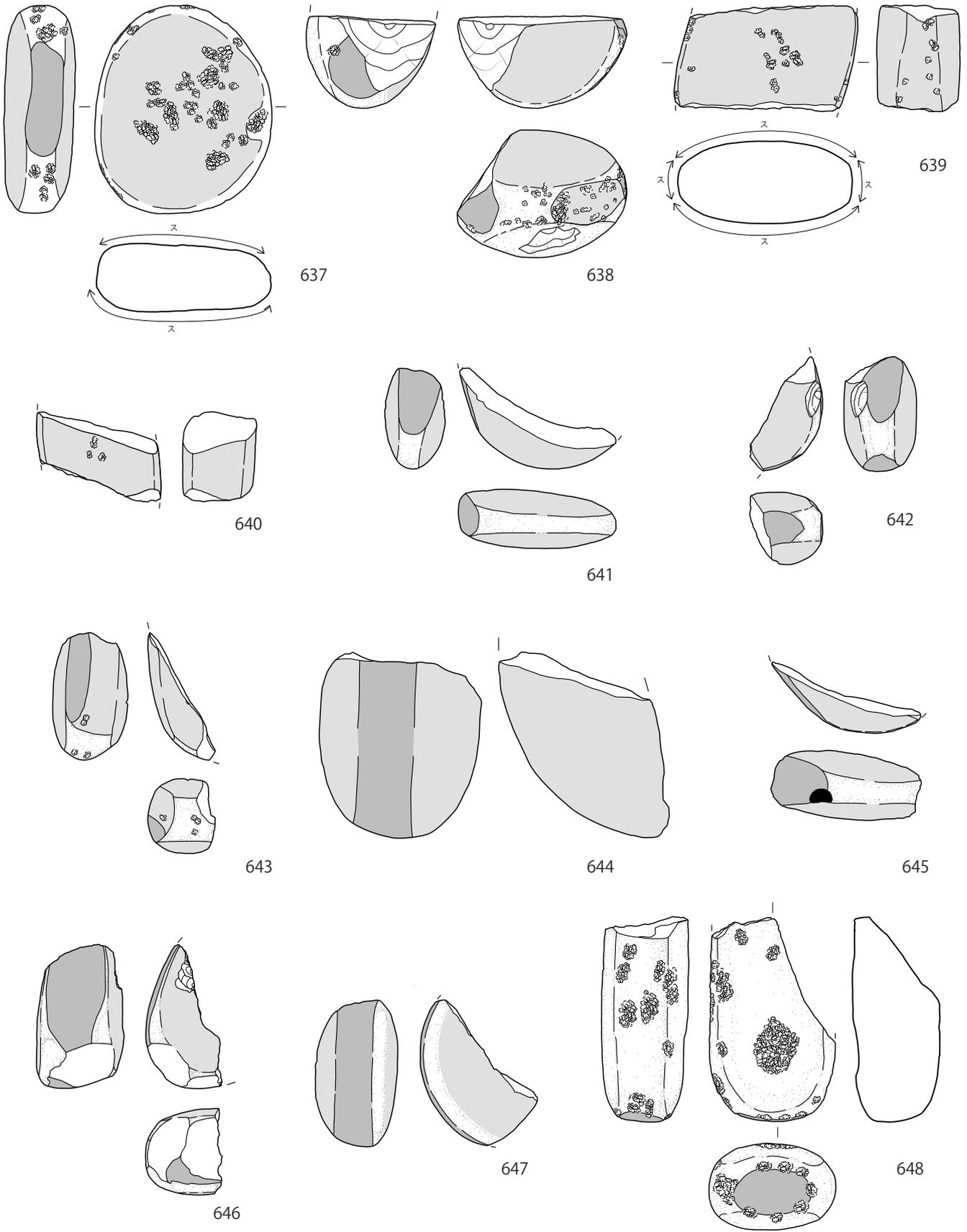
第75图 石器实测图(9)



第 76 图 石器实测图 (10)

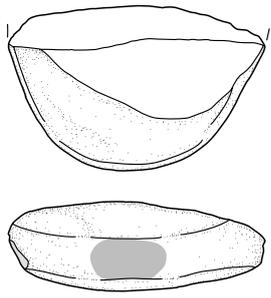


第 77 図 石器実測図 (11)

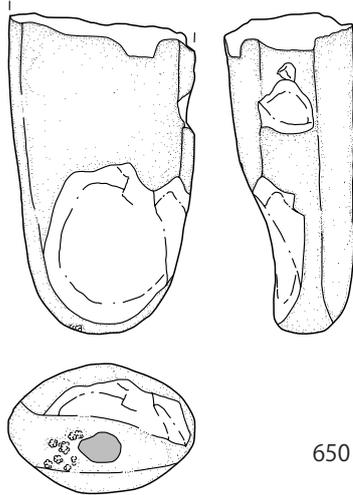


637 ~ 643, 645 ~ 648

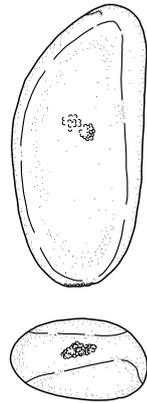
第 78 図 石器実測図 (12)



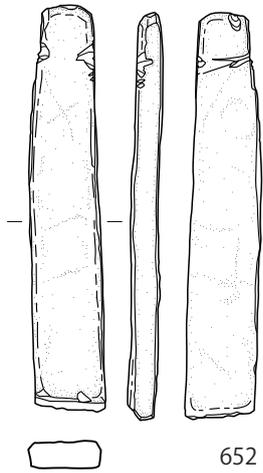
649



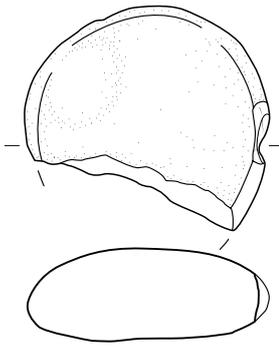
650



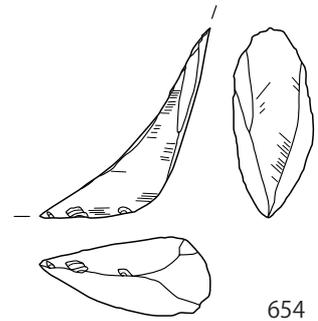
651



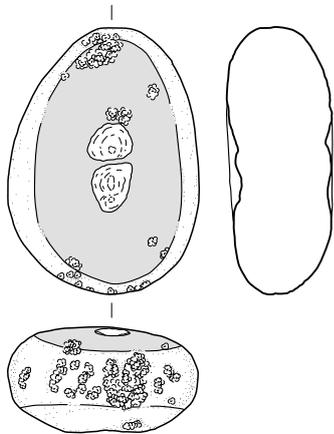
652



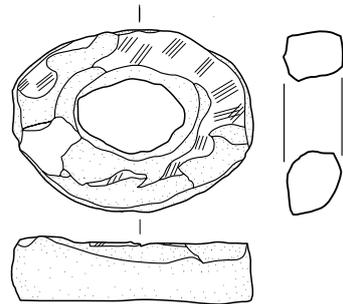
653



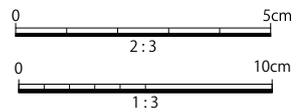
654



655



656



652 ~ 654、656

第79图 石器实测图(13) 649 ~ 651、655

第 31 表 石器計測表①

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
344	石鏃	チャート	I7	VI	1.7	1.7	0.3	1	IA
345	石鏃	チャート	D区	VI	1.7	1.8	0.4	1	IA
346	石鏃	チャート	I6	VI	2.1	2.1	0.7	2.8	IA
347	石鏃	チャート	I6	VI	1.9	1.9	0.7	2.7	IA
348	石鏃	チャート	N5	VI	2.5	2.4	0.6	3	IA
349	石鏃	チャート	H7	VI	2.7	2.3	0.5	2.8	IA
350	石鏃	チャート	A区	IV	1.7	1.1	0.3	0.5	IB
351	石鏃	チャート	A区	IV	1.6	1.6	0.4	1	IB
352	石鏃	チャート	M5	IV	2.6	1.2	0.8	3.5	IB
353	石鏃	チャート	-	IV	2.6	2.4	0.5	3.8	IB
354	石鏃	チャート	I5	VI	2.7	2.3	0.5	2.6	IB
355	石鏃	チャート	I6	VI	2.7	1.8	0.3	1.5	IB
356	石鏃	チャート	D区	VI	2.2	2.1	0.3	1.9	IB
357	石鏃	チャート	I7	VI	1.1	1.3	0.3	0.4	IIA
358	石鏃	チャート	I7	VI	1.5	1.7	0.4	0.9	IIA
359	石鏃	チャート	K7	V	2.1	2	0.4	1.3	IIA
360	石鏃	チャート	I7	V	2.4	2.3	0.4	2	IIA
361	石鏃	チャート	I7	VI	1.7	1.7	0.4	0.9	IIA
362	石鏃	チャート	I7	VI	1.9	1.9	0.5	1.8	IIA
363	石鏃	チャート	I6	VI	2	2.1	0.5	1.9	IIA
364	石鏃	チャート	M6	VI	2.4	2.4	0.4	2.1	IIA
365	石鏃	安山岩	I7	VI	1.4	1.2	0.2	0.3	IIB
366	石鏃	チャート	I7	VI	1.5	1.1	0.3	0.5	IIB
367	石鏃	チャート	J7	V	1.8	1.5	0.4	0.7	IIB
368	石鏃	チャート	H7	VI	1.7	1.7	0.3	0.6	IIB
369	石鏃	チャート	L4	IV	1.7	1.5	0.4	0.7	IIB
370	石鏃	チャート	L5	VI	2.3	1.6	0.6	1.6	IIB
371	石鏃	チャート	N5	VI	2.7	2.1	0.7	3	IIB
372	石鏃	安山岩	A区	IV	3.2	2.5	0.5	3	IIB
373	石鏃	チャート	I5	VI	1.7	1.5	0.3	0.7	IIB
374	石鏃	姫島産安山岩	I7	VI	2.1	2.1	0.5	1.6	IIB
375	石鏃	チャート	M4	IV	2.2	1.8	0.4	1.2	IIB
376	石鏃	チャート	M4	VI	2.2	2	0.4	1.6	IIB
377	石鏃	チャート	I7	VI	2.4	2.1	0.6	2.6	IIB
378	石鏃	黒曜石	N5	VI	2.4	1.6	0.4	1.4	IIB
379	石鏃	チャート	M5	V	2	1.7	0.4	1.3	IIB
380	石鏃	チャート	H7	VI	2.9	2.2	0.7	4.1	IIB
381	石鏃	チャート	M4	VI	3.6	3.4	0.5	5.6	IIB
382	石鏃	チャート	C区	VI	2.8	3.3	0.6	6.2	IIB
383	石鏃	チャート	J7	VI	1.2	1.3	0.3	0.2	IIIAa
384	石鏃	チャート	I7	VI	1.3	1.5	0.4	0.5	IIIAa
385	石鏃	チャート	J6	V	1.4	1.4	0.4	0.6	IIIAa
386	石鏃	チャート	I7	VI	1.4	1.4	0.2	0.4	IIIAa
387	石鏃	チャート	I7	VI	1.4	1.6	0.2	0.5	IIIAa
388	石鏃	チャート	J6	V	1.2	1.4	0.2	0.3	IIIAa
389	石鏃	チャート	H7	VI	1.2	1.4	0.3	0.5	IIIAa
390	石鏃	チャート	L4	V	1.4	1.9	0.4	1	IIIAa
391	石鏃	水晶	H7	VI	1.7	1.4	0.4	0.8	IIIAa

第 32 表 石器計測表②

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
392	石鏃	チャート	J6	V	1.8	1.8	0.5	1.1	III Aa
393	石鏃	チャート	B区	VI	2	2	0.6	1.6	III Aa
394	石鏃	黒曜石	N5	V	1.7	1.9	0.4	0.9	III Ab
395	石鏃	チャート	J7	VI	2.2	1.9	0.4	1.2	III Ab
396	石鏃	チャート	I6	IV	1.9	2.2	0.5	1.8	III Ab
397	石鏃	チャート	L4	V	2.4	2.2	0.4	1.6	III Ab
398	石鏃	チャート	H7	VI	2.7	2.5	0.6	3.4	III Ab
399	石鏃	チャート	L6	VI	2.7	2.3	0.5	2.1	III Ab
400	石鏃	チャート	O4	IV	3	2.7	0.5	3.1	III Ab
401	石鏃	チャート	K7	V	3.1	2.3	0.6	2.9	III Ab
402	石鏃	水晶	I6	V	3.8	2.4	0.4	3.1	III Ab
403	石鏃	チャート	A区	IV	1.3	1.4	0.4	0.5	III Ac
404	石鏃	チャート	I8	VI	1.6	1.5	0.3	0.5	III Ac
405	石鏃	チャート	J7	V	1.4	1.5	0.2	0.4	III Ac
406	石鏃	チャート	J7	V	1.4	1.8	0.4	0.9	III Ac
407	石鏃	チャート	F8	V	1.5	1.7	0.4	0.6	III Ac
408	石鏃	チャート	F8	V	1.6	1.9	0.3	0.7	III Ac
409	石鏃	チャート	N5	VI	1.5	2	0.3	0.7	III Ac
410	石鏃	黒曜石	I7	V	1.4	2	0.3	0.7	III Ac
411	石鏃	黒曜石	N5	VI	1.6	1.9	0.3	0.6	III Ac
412	石鏃	チャート	L4	V	1.8	1.8	0.4	0.7	III Ac
413	石鏃	チャート	L5	VI	2	1.8	0.4	1.1	III Ac
414	石鏃	チャート	G9	VI	1.9	2	0.4	1.3	III Ac
415	石鏃	チャート	I7	V	2.1	1.8	0.4	1.1	III Ac
416	石鏃	チャート	N5	VI	2.1	1.9	0.4	1.1	III Ac
417	石鏃	チャート	M5	IV	2.2	2.2	0.4	1.3	III Ac
418	石鏃	黒曜石	J7	VI	2	1.9	0.3	0.8	III Ac
419	石鏃	水晶	I7	VI	2.5	1.8	0.5	1.7	III Ac
420	石鏃	チャート	I6	VI	3.1	2.1	0.4	2.2	III Ac
421	石鏃	チャート	I7	V	2.7	2.9	0.9	4.4	III Ac
422	石鏃	チャート	K7	VI	1.6	1.4	0.4	0.7	III Ba
423	石鏃	チャート	G8	V	1.5	1.5	0.3	0.4	III Ba
424	石鏃	チャート	L5	V	1.9	1.4	0.3	0.6	III Ba
425	石鏃	黒曜石	J7	VI	1.5	1.1	0.2	2	III Ba
426	石鏃	チャート	I7	VI	1.4	1.2	0.2	0.4	III Ba
427	石鏃	チャート	I6	VI	1.6	1.4	0.4	0.7	III Ba
428	石鏃	チャート	I7	VI	1.7	1.5	0.3	0.7	III Ba
429	石鏃	チャート	O4	VI	1.8	1.2	0.3	0.5	III Ba
430	石鏃	チャート	N4	VI	1.9	1.4	0.3	0.6	III Ba
431	石鏃	チャート	I7	VI	1.9	1.4	0.2	0.5	III Ba
432	石鏃	チャート	J7	VI	1.9	1.5	0.3	0.5	III Ba
433	石鏃	チャート	L5	VI	1.7	1.8	0.4	1.1	III Ba
434	石鏃	チャート	I7	V	2.4	1.7	0.3	1.1	III Ba
435	石鏃	チャート	N5	VI	2.9	1.9	0.6	1.9	III Ba
436	石鏃	安山岩	H7	VI	3.1	2.5	0.5	2.3	III Ba
437	石鏃	チャート	O4	V	3.7	1.5	0.4	2.3	III Ba
438	石鏃	チャート	H7	VI	1.5	1.2	0.2	0.3	III Bb

第33表 石器計測表③

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
439	石鏃	チャート	I7	VI	1.6	1.4	0.2	0.4	III Bb
440	石鏃	チャート	I5	VI	1.9	1.8	0.3	1.1	III Bb
441	石鏃	千枚岩	J7	VI	2.3	1.4	0.3	0.9	III Bb
442	石鏃	チャート	G7	VI	2.2	1.9	0.5	1.4	III Bb
443	石鏃	チャート	F9	VI	2.7	1.6	0.3	1.5	III Bb
444	石鏃	チャート	H7	V	2.8	2.3	0.4	1.7	III Bb
445	石鏃	チャート	L4	V	3	2.4	0.4	2.8	III Bb
446	石鏃	チャート	I7	VI	2.9	2.3	0.5	2.5	III Bb
447	石鏃	チャート	N5	VI	2.3	3.2	0.6	4.1	III Bb
448	石鏃	チャート	M5	VI	2.7	2.2	0.5	3.3	III Bb
449	石鏃	チャート	M5	IV	1.7	1.6	0.4	1	III Bc
450	石鏃	チャート	G8	V	2.3	1.7	0.6	2.3	III Bc
451	石鏃	チャート	I7	VI	1.7	1.2	0.3	0.4	III Bc
452	石鏃	チャート	G7	V	1.7	1.5	0.3	0.6	III Bc
453	石鏃	チャート	M5	V	2.2	1.8	0.4	0.9	III Bc
454	石鏃	チャート	I7	VI	2.1	2	0.4	1.1	III Bc
455	石鏃	安山岩	J6	VI	2.8	1.8	0.3	1.4	III Bc
456	石鏃	チャート	J7	V	1.7	1.6	0.4	0.7	III Bc
457	石鏃	安山岩	I7	VI	1.7	1.5	0.3	0.5	III Bc
458	石鏃	安山岩	G8	VI	1.9	1.7	0.2	0.5	III Bc
459	石鏃	チャート	J6	V	2.2	1.8	0.4	1.4	III Bc
460	石鏃	チャート	F9	V	2.7	2.1	0.6	2.7	III Bc
461	石鏃	安山岩	J6	VI	2.4	1.5	0.3	0.6	III Bc
462	石鏃	チャート	-	IV	2.5	1.4	0.4	1	III Bc
463	石鏃	チャート	L4	VI	3.2	2.1	0.4	2.2	III Bc
464	石鏃	チャート	I7	VI	2.9	2.4	0.4	1.9	III Bc
465	石鏃	チャート	H7	VI	3.1	2	0.5	2.2	III Bc
466	石鏃	チャート	G8	V	3.2	2.4	0.4	2.9	III Bc
467	石鏃	黒曜石	M5	VI	1.7	1.3	0.4	0.6	III Bc
468	石鏃	黒曜石	I7	VI	1.9	1.5	0.3	0.7	III Bc
469	石鏃	チャート	N4	VI	2	1.3	0.4	1.1	III Bc
470	石鏃	チャート	H7	VI	3	1.7	0.4	2.1	III Bc
471	石鏃	チャート	I7	VI	3.2	1.8	0.4	2.6	III Bc
472	石鏃	チャート	H6	VI	1.8	1.6	0.3	0.6	IV Aa
473	石鏃	チャート		IV	2	1.7	0.3	0.6	IV Aa
474	石鏃	チャート	I7	V	1.8	1.7	0.3	0.8	IV Aa
475	石鏃	チャート	M4	VI	1.9	1.7	0.4	0.8	IV Aa
476	石鏃	チャート	I7	VI	1.8	1.7	0.3	0.5	IV Aa
477	石鏃	チャート	M5	V	1.7	1.8	0.3	0.7	IV Aa
478	石鏃	チャート	I7	VI	1.8	1.8	0.3	0.7	IV Aa
479	石鏃	チャート	L5	V	2	2	0.4	1	IV Aa
480	石鏃	安山岩	H7	V	2.3	2.1	0.4	1	IV Aa
481	石鏃	チャート	L4	V	2.3	2.2	0.4	1.4	IV Aa
482	石鏃	チャート	M5	VI	1.4	1.5	0.3	0.4	IV Ab
483	石鏃	チャート	I7	VI	1.7	1.9	0.3	0.7	IV Ab
484	石鏃	黒曜石	N5	VI	1.7	1.8	0.3	0.6	IV Ab
485	石鏃	チャート	Tr1	VI	1.6	1.7	0.3	0.5	IV Ab

第34表 石器計測表④

遺物 番号	器種	石材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
486	石鏃	チャート	M5	V	1.9	1.6	0.2	0.6	IVAb
487	石鏃	チャート	J7	VI	1.9	1.7	0.3	0.6	IVAb
488	石鏃	チャート	N5	VI	2.1	2	0.4	1	IVAb
489	石鏃	チャート	L5	VI	2.4	2.4	0.3	1.5	IVAb
490	石鏃	黒曜石	N5	V	2.3	1.7	0.3	0.8	IVAb
491	石鏃	安山岩	A区	VI	1.4	2.1	0.4	1.1	IVAb
492	石鏃	流紋岩	H7	VI	2.3	2.1	0.4	1.3	IVAb
493	石鏃	チャート	I6	VI	2.8	2.3	0.4	1.7	IVAb
494	石鏃	黒曜石	M5	VI	2.9	2.3	0.5	1.9	IVAb
495	石鏃	チャート	P5	VI	2.9	2.6	0.4	2	IVAb
496	石鏃	チャート	C区	VI	3.3	2.3	0.5	2.6	IVAb
497	石鏃	チャート	M4	VI	3.3	2.6	0.6	3.5	IVAb
498	石鏃	チャート	M4	VI	1.8	2.3	0.4	1.2	IVAb
499	石鏃	チャート	M4	VI	1.8	2.3	0.4	1.1	IVAb
500	石鏃	チャート	J6	VI	2.1	2	0.4	1.2	IVAb
501	石鏃	チャート	F8	VI	2.6	2.2	0.5	2.1	IVAb
502	石鏃	チャート	L5	VI	1.4	1.5	0.2	0.3	IVAc
503	石鏃	チャート	J6	V	1.4	1.6	0.3	0.5	IVAc
504	石鏃	チャート	J7	V	1.4	1.3	0.2	0.4	IVAc
505	石鏃	チャート	O3	V	1.5	1.3	0.2	0.3	IVAc
506	石鏃	チャート	M4	VI	1.7	1.8	0.3	0.5	IVAc
507	石鏃	チャート	J6	VI	1.6	1.6	0.3	0.5	IVAc
508	石鏃	チャート	I7	VI	2	1.8	0.4	0.7	IVAc
509	石鏃	チャート	F8	V	1.8	1.7	0.3	0.8	IVAc
510	石鏃	チャート	M5	VI	1.9	1.8	0.4	0.8	IVAc
511	石鏃	チャート	I7	VI	1.9	1.7	0.4	0.8	IVAc
512	石鏃	チャート	I7	VI	2	1.8	0.3	0.9	IVAc
513	石鏃	チャート	I5	VI	1.9	1.9	0.4	1	IVAc
514	石鏃	チャート	J7	VI	2	1.8	0.4	0.8	IVAc
515	石鏃	チャート	I7	VI	2	2	0.3	1.1	IVAc
516	石鏃	チャート	I6	VI	2.3	1.9	0.4	1.2	IVAc
517	石鏃	安山岩	G7	VI	2.3	2.2	0.5	1.9	IVAc
518	石鏃	チャート		IV	2.8	2.5	0.4	2.2	IVAc
519	石鏃	チャート	I7	VI	2.8	2.3	0.4	2.3	IVAc
520	石鏃	チャート		IV	1.4	1.1	0.3	0.3	IVBa
521	石鏃	チャート	M5	VI	1.8	1.6	0.3	0.7	IVBa
522	石鏃	チャート	J7	VI	1.9	1.7	0.4	0.7	IVBa
523	石鏃	チャート	H7	VI	2.2	1.7	0.4	0.6	IVBa
524	石鏃	チャート	G8	V	2.9	1.8	0.6	1.8	IVBa
525	石鏃	チャート	H6	VI	3.3	1.7	0.4	1.4	IVBa
526	石鏃	チャート	H7	VI	1.9	1.5	0.3	0.5	IVBb
527	石鏃	黒曜石	M4	VI	2.1	1.6	0.3	0.7	IVBb
528	石鏃	黒曜石	J7	V	2.1	1.8	0.3	0.8	IVBb
529	石鏃	チャート	N5	VI	2.3	1.5	0.4	0.6	IVBb
530	石鏃	チャート	F8	VI	2.1	1.6	0.4	0.9	IVBb
531	石鏃	チャート	F9	VI	2.4	1.9	0.4	1.1	IVBb
532	石鏃	チャート	N5	VI	2.2	1.8	0.4	1.1	IVBb

第 35 表 石器計測表⑤

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
533	石鏃	チャート	J6	VI	-2.3	-1.7	-0.3	0.8	IVBb
534	石鏃	チャート	I7	VI	-2.4	-1.7	0.4	1	IVBb
535	石鏃	チャート	A区	IV	-2.4	-1.9	0.4	1.6	IVBb
536	石鏃	チャート	I7	V	-2.8	-1.5	0.3	0.8	IVBb
537	石鏃	チャート	I7	VI	-2.8	-1.6	0.4	1.2	IVBb
538	石鏃	チャート	I6	VI	2.8	-1.8	0.4	1.4	IVBb
539	石鏃	チャート	M4	VI	-2.4	-1.8	0.4	1.4	IVBb
540	石鏃	黒曜石	I7	V	-2.7	-1.9	0.4	1.3	IVBb
541	石鏃	黒曜石	H7	V	3	1.8	0.4	1.3	IVBb
542	石鏃	チャート	N5	VI	2.9	-2.4	0.4	1.9	IVBb
543	石鏃	チャート	B区	VI	3.1	-1.9	0.4	1.5	IVBb
544	石鏃	チャート	I7	VI	3.4	2.7	0.4	2.8	IVBb
545	石鏃	チャート	J7	VI	3.6	-2.3	0.5	2.7	IVBb
546	石鏃	チャート	M5	VI	3.3	-2.5	0.5	3.4	IVBb
547	石鏃	チャート	I6	VI	-3.2	2.7	0.5	3.6	IVBb
548	石鏃	黒曜石	I6	VI	3.1	2.1	0.5	2.3	IVBb
549	石鏃	チャート	J6	V	1.4	1.2	0.2	0.2	IVBc
550	石鏃	チャート	I6	VI	1.9	1.6	0.3	0.5	IVBc
551	石鏃	チャート	H8	V	-2	1.6	0.3	0.6	IVBc
552	石鏃	チャート	N4	VI	2	1.6	0.3	0.8	IVBc
553	石鏃	チャート	L5	VI	2	1.7	0.3	0.7	IVBc
554	石鏃	安山岩	I7	V	2.1	1.6	0.3	0.7	IVBc
555	石鏃	チャート	M4	V	2.1	1.9	0.4	0.9	IVBc
556	石鏃	チャート	N5	VI	2.3	1.8	0.4	1.2	IVBc
557	石鏃	黒曜石	J7	IV	2.4	1.5	0.4	1	IVBc
558	石鏃	黒曜石	M5	VI	2.3	1.3	0.3	0.7	IVBc
559	石鏃	チャート	J7	VI	-2.4	-1.5	0.4	1.1	IVBc
560	石鏃	チャート	M5	V	2.6	1.8	0.4	1.1	IVBc
561	石鏃	チャート	M6	VI	2.4	1.9	0.5	1.3	IVBc
562	石鏃	安山岩	L4	V	-2.2	-2	0.3	1.3	IVBc
563	石鏃	チャート	I7	VI	2.4	-1.8	0.4	1	IVBc
564	石鏃	安山岩	I7	VI	2.7	1.8	0.4	1.2	IVBc
565	石鏃	チャート	O4	VI	2.7	2	0.4	1.5	IVBc
566	石鏃	チャート	I7	VI	2.9	-1.7	0.4	1.2	IVBc
567	石鏃	頁岩	F9	V	2.8	1.9	0.3	1.5	IVBc
568	石鏃	チャート	I7	VI	3.1	-1.9	0.4	1.2	IVBc
569	石鏃	チャート	I7	VI	3.7	2.1	0.5	2.2	IVBc
570	石鏃	チャート	I6	VI	-2	2.2	0.3	1.2	IVBc
571	異形石器	チャート	G7	VI	1.7	1.3	0.4	0.7	
572	異形石器	チャート	H7	V	1.5	1.5	0.4	0.8	
573	異形石器	チャート	M4	VI	2.2	1.6	0.4	1.6	
574	異形石器	チャート	B区	VI	2.9	2.4	0.5	2.7	
575	異形石器	チャート	H7	VI	3.5	2.5	0.7	4.9	
576	異形石器	チャート	I7	VI	3.1	2.6	0.5	3.3	
577	異形石器	チャート	M6	VI	1.6	0.9	0.3	0.3	
578	異形石器	チャート	O4	V	2	1.7	0.6	2	
579	異形石器	チャート	I7	VI	1.9	2.1	0.7	1.6	

第 36 表 石器計測表⑥

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
580	異形石器	流紋岩	I6	V	3.3	1.6	0.4	1.2	
581	異形石器	チャート	P5	VI	3.2	2.1	0.5	2.3	
582	異形石器	チャート	N5	VI	3.3	2.7	0.4	2.5	
583	異形石器	チャート	I7	V	2.1	1.5	0.5	1.6	
584	異形石器	チャート	O3	VI	2.1	1.6	0.4	1.2	
585	異形石器	チャート	I7	VI	3.4	2.1	0.4	2.3	
586	異形石器	サヌカイト	I7	VI	1.8	2.4	0.4	1	
587	異形石器	チャート	N5	VI	2.7	1.1	0.3	0.6	
588	尖頭状石器	チャート	L5	VI	2.8	2.4	0.95	5.8	
589	尖頭状石器	チャート	D区	VI	2.95	2.45	0.9	5.1	
590	尖頭状石器	チャート	M4	VI	-3.25	2.85	1.15	6.9	
591	石錐	チャート	N5	VI	3.05	1.55	0.6	2.6	
592	石錐	チャート	-	IV	3.65	1.6	0.7	3.4	
593	楔形石器	チャート	M5	IV	2.45	3.2	1.05	9	
594	楔形石器	チャート	I7	V	3.5	2.7	1.2	14	
595	石核	チャート	M5	VI	3.9	2.6	1.5	13.9	
596	石核	チャート	I7	VI	3.7	3.1	1.35	13.4	
597	石核	チャート	I7	V	4.6	2.4	1.2	12.8	
598	石核	チャート	M4	VI	4	2.25	1	8.2	
599	石核	チャート	J7	VI	3.35	2.3	1	6.2	
600	石核	チャート	H6	VI	3.1	1.9	1.1	5.7	
601	石核	流紋岩	P5	VI	6.6	6.2	3.1	96.3	
602	石核	安山岩	K7	VI	8.8	6.1	4.2	287.1	
603	石核	流紋岩	I7	IV	8.5	6.7	3.6	185.3	
604	石核	ホルンフェルス	I5	V	10.1	7.7	5.8	473.4	
605	石核	溶結凝灰岩	I6	VI	10.3	7.6	4.8	308.2	
606	打製石斧	砂岩	I7	VI	12.15	6.05	1.6	134.7	
607	打製石斧	砂岩	L5	VI	12.6	7.7	2.9	356	
608	打製石斧	ホルンフェルス	I6	VI	4.2	5.3	1.6	35.7	
609	スクレイパー	チャート	H7	VI	3.3	2.4	0.9	6.5	
610	スクレイパー	砂岩	I7	VI	7.6	3.8	1.25	28.6	
611	スクレイパー	砂岩	I6	VI	10.3	7.3	2.8	156.3	
612	スクレイパー	砂岩	C区	IV	9.95	7.2	2	115.6	
613	スクレイパー	砂岩	I7	VI	11.8	11.4	3.1	439.7	
614	礫器	砂岩	P4	VI	10.5	6.2	4.5	383	
615	礫器	砂岩	H7	VI	9.6	8.9	3	369.1	
616	礫器	ホルンフェルス	I7	VI	7.3	6.9	2.9	195	
617	礫器	ホルンフェルス	I5	VI	10.4	10.3	5.8	837.1	
618	礫器	砂岩	H7	V	13.2	11.25	4.7	620.6	
619	礫器	ホルンフェルス	N5	VI	13.6	15.1	4.9	1072.4	
620	礫器	砂岩	H7	VI	14.6	17	4.5	873.5	
621	礫器	安山岩		IV	22.1	10.5	4.5	1118.4	
622	横刃形石器	流紋岩	L4	V	10	3.6	1.2	52.2	
623	半月形刃器	サヌカイト	I5	VI	2.7	5.3	1.2	14.4	
624	両面加工剥片	流紋岩	J6	VI	-1.7	-2.4	-0.9	3.1	
625	両面加工剥片	サヌカイト	I5	VI	3.4	2.6	0.9	6.4	
626	二次加工剥片	流紋岩	H7	V	4.9	2.4	1	9.2	

第 37 表 石器計測表⑦

遺物 番号	器 種	石 材	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
627	二次加工剥片	ホルンフェルス	I7	VI	5.2	4.9	1.9	40.7	
628	磨石	砂岩	M5	VI	9.9	8.45	4	530	I
629	磨石	溶結凝灰岩	M5	VI	10.35	10.35	4.6	766.1	I
630	磨石	溶結凝灰岩	H7	VI	9.08	8.32	4.02	424	I
631	磨石	砂岩	M5	VI	10.64	9.65	4.4	675.4	I
632	磨石	砂岩	J6	VI	11.9	8.9	4.3	795.9	II
633	磨石	砂岩	J7	VI	8.35	8.1	4.15	42.1	II
634	磨石	溶結凝灰岩	L4	VI	9.8	8.2	4.8	497.8	II
635	磨石	砂岩	H7	VI	13.2	10.55	5.75	1301.2	II
636	磨石	砂岩	H7	VI	9.6	6.6	3.6	330	II
637	磨石	溶結凝灰岩	J7	VI	11.5	9.75	3.8	646	II
638	磨石	砂岩	N5	VI	5.1	9.3	7.1	408.2	III
639	磨石	砂岩	J7	VI	5.85	10.1	4.55	445.5	III
640	磨石	砂岩	I7	VI	4.95	6.85	4.05	168	III
641	磨石	砂岩	J6	VI	5.7	8.6	3.4	95.3	III
642	磨石	砂岩	J6	VI	6.35	4	4	82.8	III
643	磨石	砂岩	M6	VI	7.03	3.7	4.12	68.8	III
644	磨石	砂岩	H7	VI	5.13	4.68	4.45	99.8	III
645	磨石	砂岩	B 区	VI	3.9	8.2	3.7	63.9	III
646	磨石	砂岩	H7	VI	7.95	4.2	4.8	172.9	III
647	磨石	砂岩	H7	VI	8.1	6.45	4.5	199	III
648	敲石	溶結凝灰岩	P4	VI	11.3	6.95	4.8	484.2	
649	敲石	砂岩	I7	VI	6.58	10.12	3.55	291.8	
650	敲石	砂岩	I6	VI	12.88	7.38	5.13	588.9	
651	敲石	砂岩	J7	VI	11.2	5.3	3.3	290.2	
652	石棒	頁岩	I7	VI	8.1	1.55	0.55	12.6	
653	石錘	砂岩	H7	VI	4.41	4.83	1.82	48.6	
654	磨製石斧	頁岩	M5	VI	3.75	3.35	1.65	6.9	
655	凹石	砂岩	I5	VI	10.68	7.58	4.2	453.4	
656	有孔石製品	ノジュール	J7	VI	3.6	4.75	1.3	26.3	

第 3 節 放射性炭素年代測定の結果

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約 5 万年前までの年代測定が可能である。

2 試料と方法

第 38 表に、測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。

3 測定結果

第 38 表 測定試料の詳細と前処理・調整法

加速器質量分析法（AMS）によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素 (^{14}C) 年代および暦年代（校正年代）を算出した。第 39 表にこれらの結果を示し、第 80 図、第 81 図に暦年校正結果（校正曲線）を示す。

試料No.	採取箇所	種類	前処理・調整法	測定法
No. 1	2 号竪穴建物	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 2	42 号土坑	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 3	5 号炉穴	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 4	9 号集石	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 5	18 号集石	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 6	42 号集石	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 7	46 号集石①	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 8	46 号集石②	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 9	62 号集石	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 10	76 号集石	炭化物	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

(1) デルタ δ ^{13}C 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料の δ ^{13}C 値を -25 (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、現在（AD1950 年基点）から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いている。統計誤差（±）は 1 シグマ σ （68.2% 確率）である。 ^{14}C 年代値は下 1 桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年校正曲線が更新された場合のために下 1 桁を丸めない暦年校正用年代値も併記した。

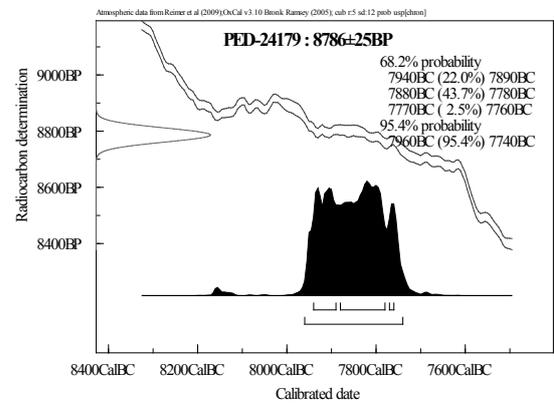
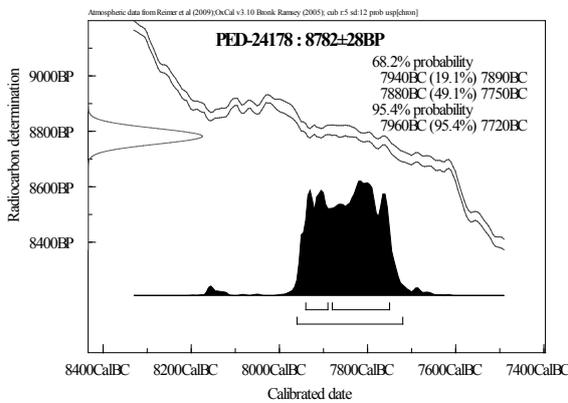
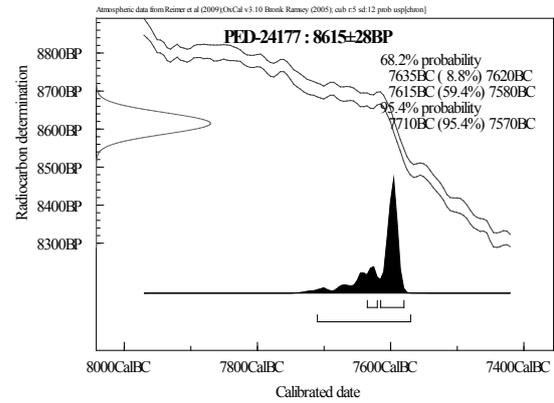
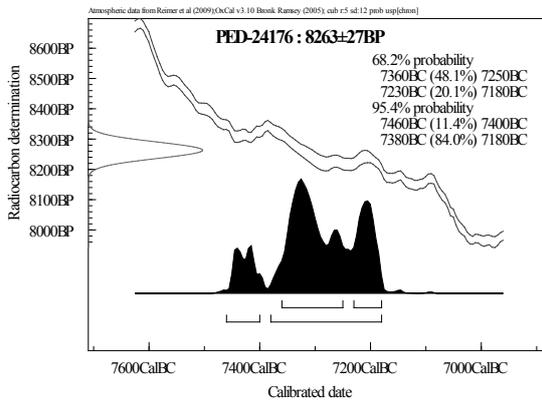
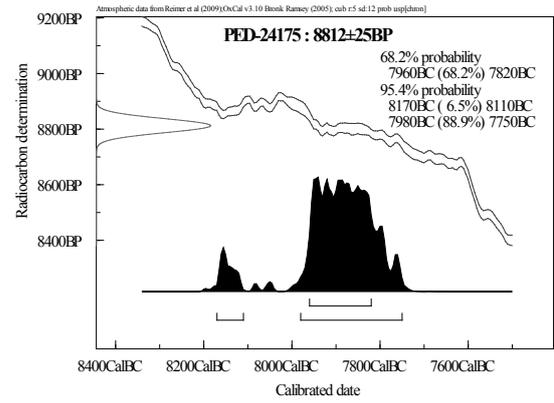
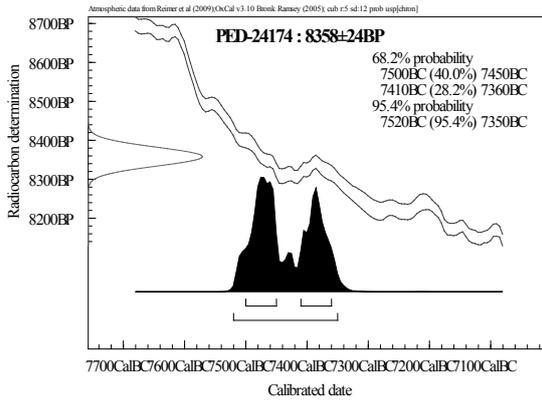
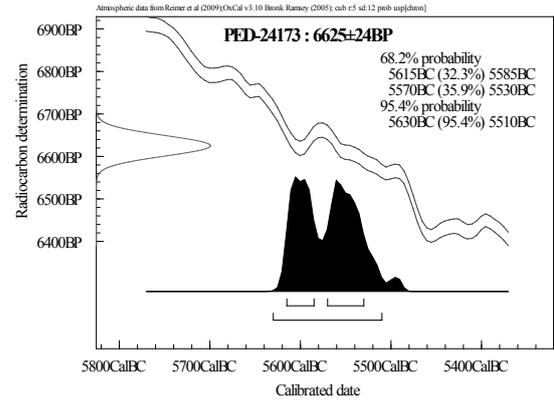
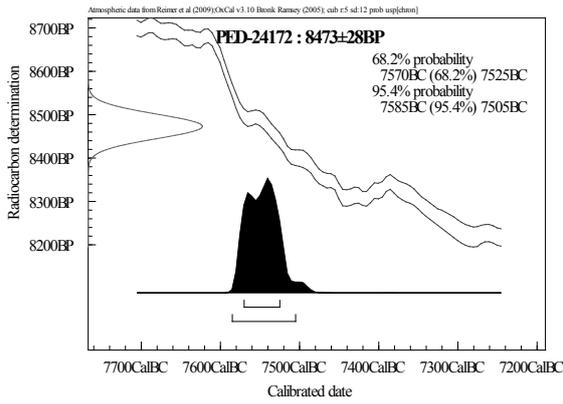
(3) 暦年代（Calendar Years）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを校正することで、放射性炭素 (^{14}C) 年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代校正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値およびサンゴの U/Th（ウラン/トリウム）年代と ^{14}C 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。校正曲線のデータは IntCal 09、校正プログラムは OxCal 3.1 である。

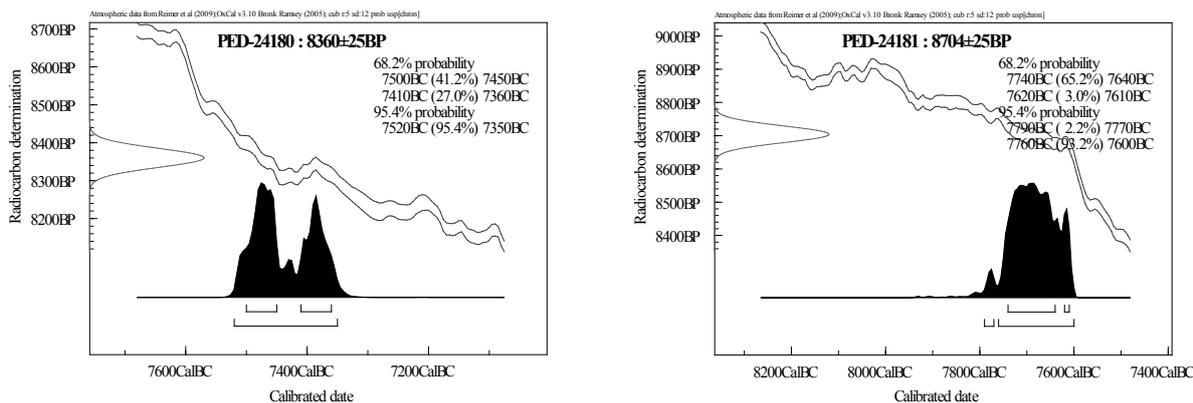
暦年代（校正年代）は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCal の確率法により 1 シグマ σ （68.2% 確率）と 2 σ （95.4% 確率）で示した。校正曲線が不安定な年代では、複数の 1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。（）内の % 表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

4 所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果、No. 1 では 8475 ± 30 年 BP（2 σ の暦年代で BC 7585 ~ 7505 年）、No. 2 では 6625 ± 25 年 BP（BC 5630 ~ 5510 年）、No. 3 では 8360 ± 25 年 BP（BC 7520 ~ 7350 年）、No. 4 では 8810 ± 25 年 BP（BC 8170 ~ 8110, 7980 ~ 7750 年）、No. 5 では 8265 ± 25 年 BP（BC 7460 ~ 7400, 7380 ~ 7180 年）、No. 6 では 8615 ± 30 年 BP（BC 7710 ~ 7570 年）、No. 7 では 8780 ± 30 年 BP（BC 7960 ~ 7720 年）、No. 8 では 8785 ± 25 年 BP（BC 7960 ~ 7740 年）、No. 9 では 8360 ± 25 年 BP（BC 7520 ~ 7350 年）、No. 10 では 8705 ± 25 年 BP（BC 7790 ~ 7770, 7760 ~ 7600 年）の年代値が得られた。



第 80 图 曆年較正結果 (1)



第 81 図 暦年較正結果 (2)

第 39 表 放射性炭素年代測定結果

試料No.	測定番号 PED-	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用 年代 (年 BP)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) : cal-	
					1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
1	24172	-30.43 ± 0.24	8473 ± 28	8475 ± 30	BC7570-7525(68.2%)	BC7585-7505(95.4%)
2	24173	-26.47 ± 0.21	6625 ± 24	6625 ± 25	BC5615-5585(32.3%) BC5570-5530(35.9%)	BC5630-5510(95.4%)
3	24174	-27.55 ± 0.24	8358 ± 24	8360 ± 25	BC7500-7450(40.0%) BC7410-7360(28.2%)	BC7520-7350(95.4%)
4	24175	-27.00 ± 0.21	8812 ± 25	8810 ± 25	BC7960-7820(68.2%)	BC8170-8110(6.5%) BC7980-7750(88.9%)
5	24176	-27.17 ± 0.23	8263 ± 27	8265 ± 25	BC7360-7250(48.1%) BC7230-7180(20.1%)	BC7460-7400(11.4%) BC7380-7180(84.0%)
6	24177	-29.43 ± 0.19	8615 ± 28	8615 ± 30	BC7635-7620(8.8%) BC7615-7580(59.4%)	BC7710-7570(95.4%)
7	24178	-27.17 ± 0.26	8782 ± 28	8780 ± 30	BC7940-7890(19.1%) BC7880-7750(49.1%)	BC7960-7720(95.4%)
8	24179	-26.74 ± 0.21	8786 ± 25	8785 ± 25	BC7940-7890(22.0%) BC7880-7780(43.7%) BC7770-7760(2.5%)	BC7960-7740(95.4%)
9	24180	-26.17 ± 0.23	8360 ± 25	8360 ± 25	BC7500-7450(41.2%) BC7410-7360(27.0%)	BC7520-7350(95.4%)
10	24181	-26.48 ± 0.21	8704 ± 25	8705 ± 25	BC7740-7640(65.2%) BC7620-7610(3.0%)	BC7790-7770(2.2%) BC7760-7600(93.2%)

文献

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon,37(2), p.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, p.355-363.

Paula J Reimer et al., (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, p.1111-1150.

中村俊夫 (2003) 放射性炭素年代測定法と暦年代較正. 環境考古学マニュアル. 同成社, p.301-322.

第IV章 総括

今回の調査では、先史時代の五ヶ瀬川上流地域において狭小な尾根を含む傾斜地を生活・生業空間として利用した一つの特徴的事例が確認できた。

第1節 後期旧石器時代について

旧石器時代については年代の指標となる始良 Tn 火山灰 (AT) 層 (IX層) が尾根頂部において部分的に確認されたが、遺構は確認できなかった。遺物は、縄文時代早期のVI層中に混在したナイフ形石器4点 (内、流紋岩製3点) のみであった。当遺跡周辺には、1.5km 圏内に同様の石器が出土した矢野原遺跡、蔵田遺跡、中畑遺跡がある。矢野原遺跡、蔵田遺跡では、AT 層の上下からナイフ形石器を含む多数の流紋岩製石器群の出土がみとめられ、また、中畑遺跡でも上層から移動したと考えられる流紋岩製の石刃やナイフ形石器が出土している。こうした遺跡間の立地関係、遺物の素材や組成などから、本遺跡の立地する丘陵地一帯も当該期集団の活動範囲内にあったと考えておきたい。

第2節 縄文時代早期について

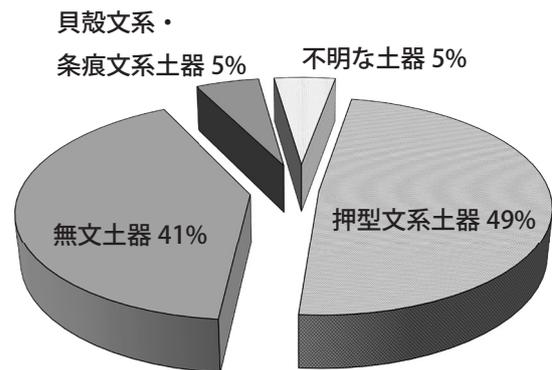
遺構埋土に包含される炭化物の放射性炭素年代測定の分析結果や出土した土器群の様相などから、早期前葉～中葉において当地で人々の生活が展開されていたことが判った。

遺構は、調査区中の比較的平坦な面に展開している。1号竪穴建物跡は床面が緩やかな傾斜を示すことから、比較的短期間の逗留の跡を示す遺構と考えられる。炉穴に関しては、傾斜地である遺跡の立地を生かし、平坦部から傾斜地に至る風通しの良い場所にみられる。遺物は、急斜面及び削平を受けている部分以外において、遺構周辺の平坦部を中心に調査区全体から出土している。

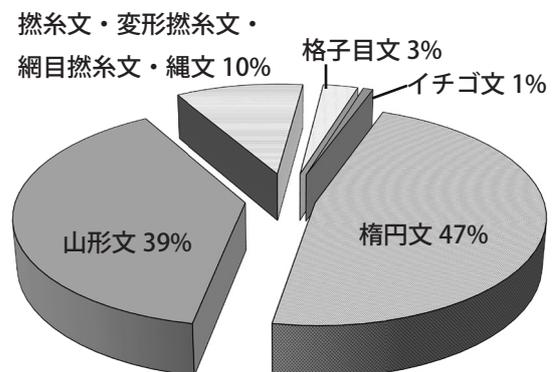
土器群の中心は押型文系土器であり (第82図)、中でも楕円押型文土器・山形押型文土器が大半を占める。貝殻文系・条痕文系土器は比較的少量である (第82・83図)。無文土器の出土量は多いが、押型文系土器や貝殻文系・条痕文系土器の無文部の土器片が含まれている可能性がある。

土器型式をみると、押型文系土器では稲荷山式土器、早水台式土器、下菅生B式土器、田村式土器、沈目式土器が主体を占め、貝殻文系・条痕文系土器では別府原式土器、下剝峰式土器 (辻タイプ) があるなど、若干の時期幅がある。縄文時代早期前葉～中葉の土器群として位置づけられる (金丸2004)。

本報告分として遺跡から抽出した石器1107点の内訳は第41表の通りである。石鏃702点 (63.4%)、尖頭状石器4点 (0.4%) などの狩猟具が63.8%、磨石73点 (6.6%)、敲石19点 (1.7%) などの植物



第82図 土器重量割合図



第83図 押型文系土器重量割合図

調理用石器が9%、スクレイパー9点(0.8%)、凹石6点(0.5%)などの加工具が1.5%、石棒1点(0.1%)、異形石器13点(1.2%)などの祭祀具が1.3%であり、狩猟具の比率が高い。本遺跡の抽出石器総数の63.4%を占める石鏃は89%がチャート製であり、矢野原遺跡では出土石器総数221点のうち石鏃102点(チャート製93%)、早日渡遺跡では出土石器総数320点のうち石鏃253点(チャート製81%)であることから、出土石器総数に対する石鏃の割合が高く、その大半がチャート製であるという周辺遺跡と同様の傾向が読み取れる。また、調査時の所見として、チャートの剥片や碎片、石核や分割礫、石鏃未成品と考えられる石器等も大量に見つかったことから、本遺跡内が石鏃等の製作の場であったことがうかがえる。また、安山岩製の異形石器及び半月形刃器については、風化の状況や肉眼で観察する質等により他の安山岩と質的に異なるため、西北九州あるいは他の地域で産出されたサヌカイトである可能性が指摘できる。関連して、搬入石材である西北九州産黒曜石や姫島産黒曜石、ガラス質安山岩等がみとめられることから、当時の交流の一端をうかがい知ることができる。

第40表 縄文時代早期石器器種組成表

	砂岩	ホルンフェルス	溶結凝灰岩	粘板岩	千枚岩	西北九州産黒曜石	姫島産黒曜石	安山岩	ガラス質安山岩	頁岩	珪質頁岩	流紋岩	チャート	水晶	ノジュール	計
石鏃					1	45	1	19	2	1		5	625	3		702
異形石器								1				1	11			13
尖頭状石器													4			4
石錐													3			3
楔形石器													2			2
石核		8	1					1			2	13	30			55
石核か(船底)		2				1						5	121			129
打製石斧	2	1														3
スクレイパー	4							3		1			1			9
礫器	36	8			7			2								53
横刃形石器												1				1
半月形刃器								1								1
両面加工剥片								1				1				2
二次加工剥片		1										3	1			5
磨石	46	3	24													73
敲石	17	1	1													19
石棒											1					1
石錘類	13	1			1							1				16
磨製石斧											1					1
凹石	5			1												6
有孔石製品															1	1
台石	5		3													8
計	128	25	29	1	9	46	1	28	2	2	4	30	798	3	1	1107

今回の発掘調査によって、県北部の縄文時代早期の様相が部分的ではあるが明らかになり、今後の当該地域の歴史的解明の一助になる資料を提供できたと考える。

【参考文献・引用文献】

宮崎県教育委員会 1995「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」

金丸武司 2004「宮崎における縄文時代早期前半の土器群」『宮崎考古』第19号 宮崎考古学会

都城市教育委員会 2012「王子山遺跡」『都城市文化財調査報告書第107集』

写 真 图 版



調査区全景
(A区上空から)



調査区全景
(B区北北東から)



調査区全景
(C 西区東から)



調査区全景
(C 東区上空から)

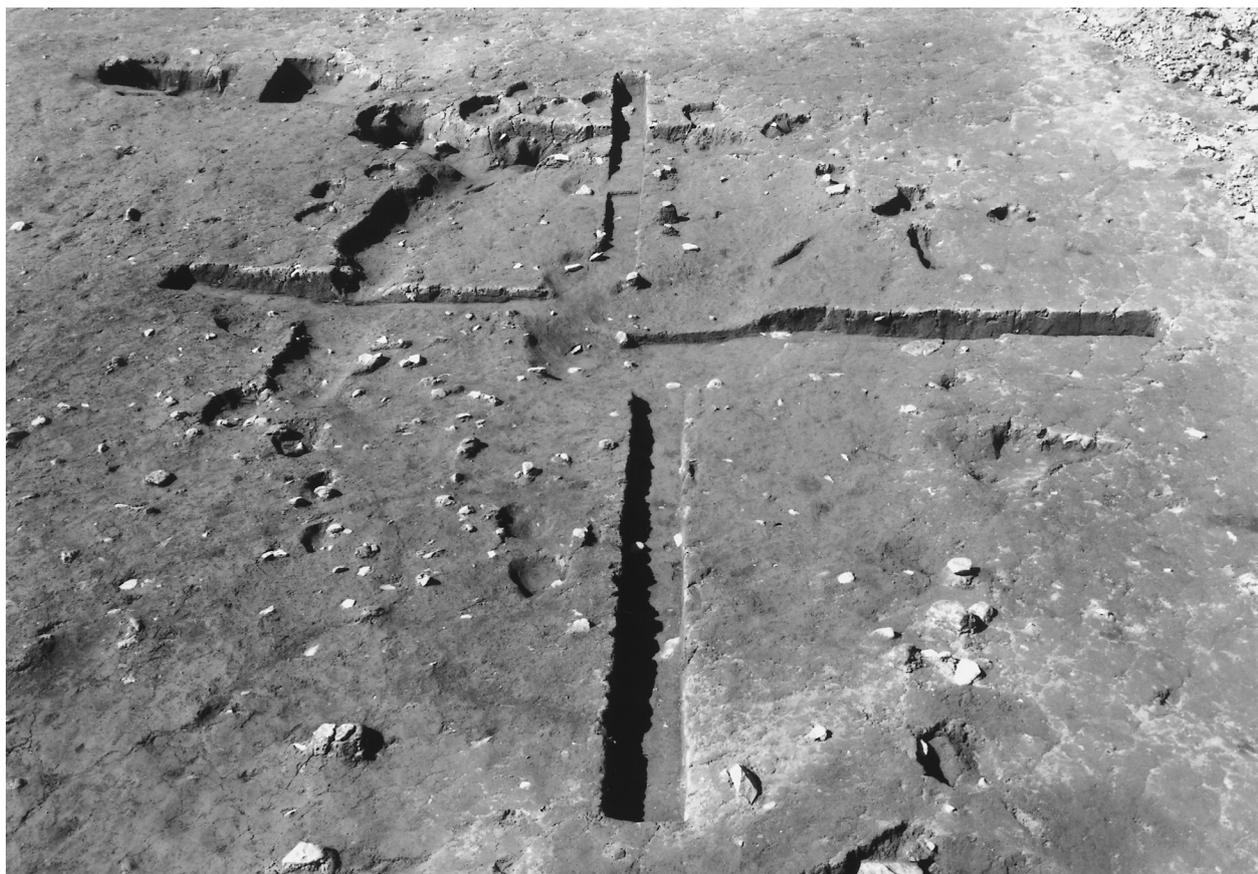


調査区全景
(D区上空から)



※合成写真

調査区全景 (上空から)



1号竖穴建物跡



1号竖穴建物跡 立地状況



2号豎穴建物跡



2号豎穴建物跡 立地状況



1号平地式建物跡



土層推積狀況 (A区北東壁)



1号集石遺構



3号集石遺構



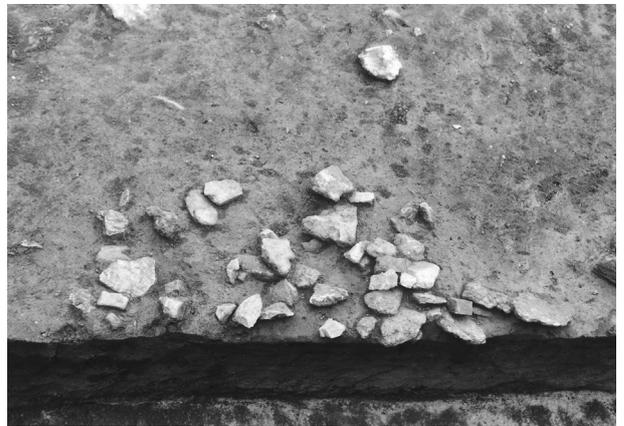
2号集石遺構



2号集石遺構 (配石)



4号集石遺構



5号集石遺構



6号集石遺構



6号集石遺構 (配石)



7号集石遺構



8号集石遺構



9号集石遺構



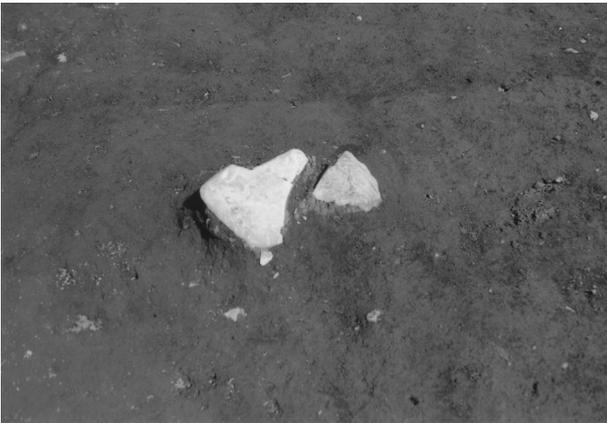
10号集石遺構



11号集石遺構



12・13号集石遺構（配石）



14号集石遺構



15号集石遺構（半截）



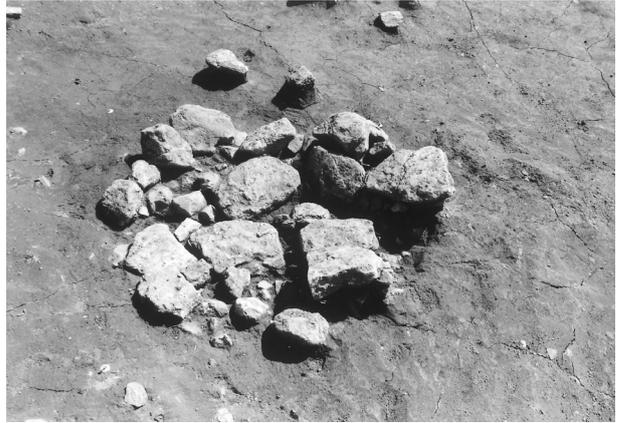
16号集石遺構（半截）



17号集石遺構



18号集石遺構



18号集石遺構（配石）



19号集石遺構



20号集石遺構



21号集石遺構



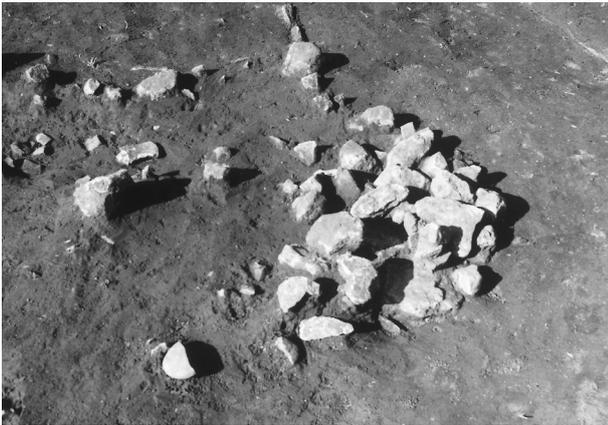
22号集石遺構



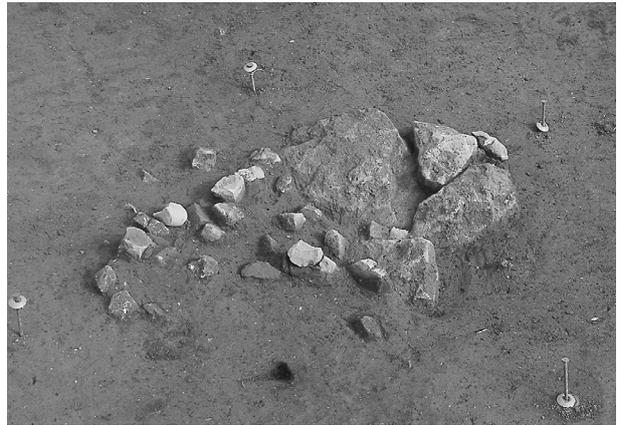
22号集石遺構 (半截)



22号集石遺構 (配石)



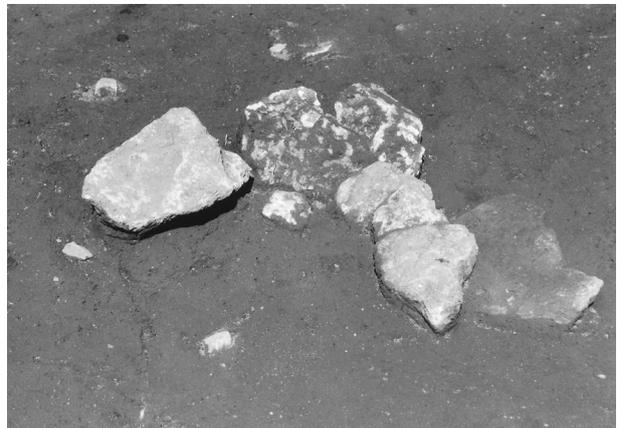
23号集石遺構



24号集石遺構



25号集石遺構



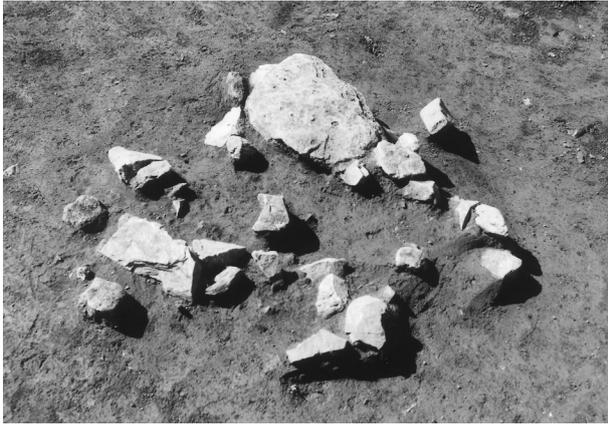
26号集石遺構



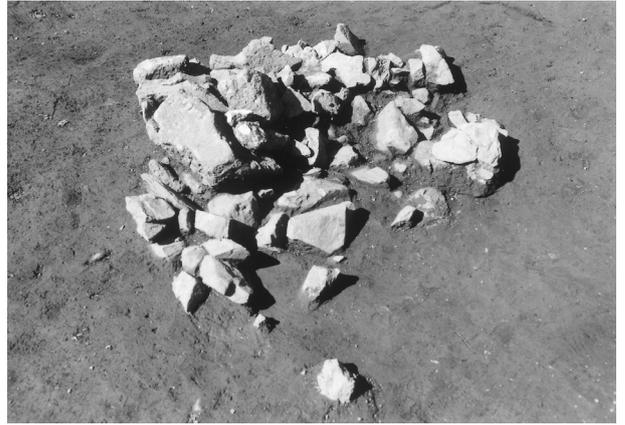
27号集石遺構



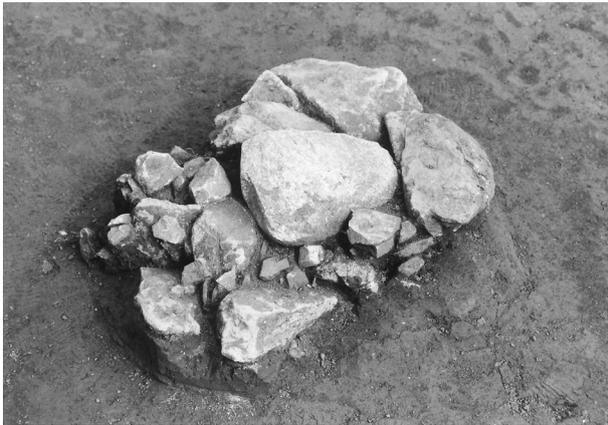
27号集石遺構 (下位)



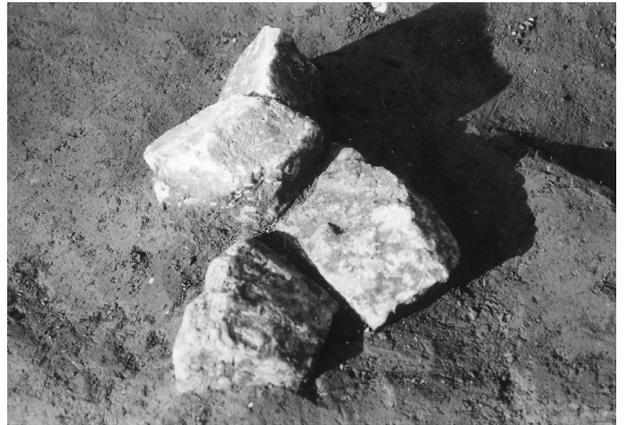
28号集石遺構



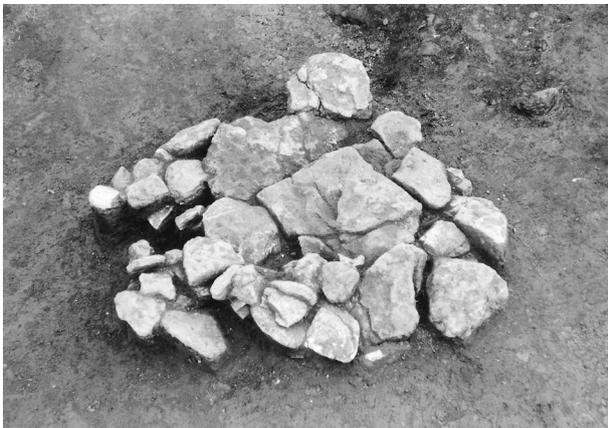
29号集石遺構



30号集石遺構



30号集石遺構 (配石)



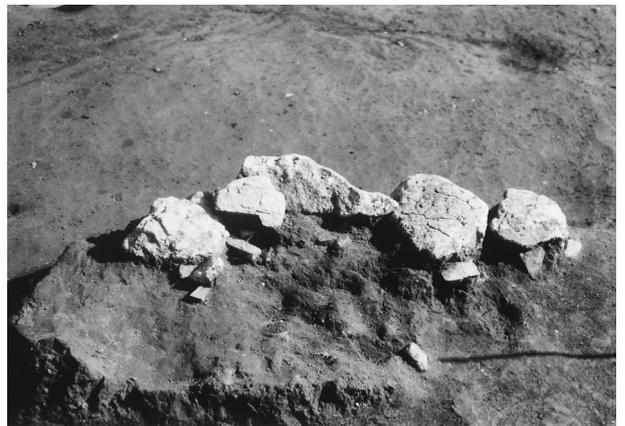
31号集石遺構



32号集石遺構



33・34号集石遺構



35号集石遺構 (配石)



36号集石遺構



37号集石遺構



38・39号集石遺構



40号集石遺構



41号集石遺構



41号集石遺構（配石）



42・43・44・45号集石遺構



42号集石遺構（配石）



46号集石遺構



46号集石遺構 (配石)



47号集石遺構



48号集石遺構



49号集石遺構



50号集石遺構



51号集石遺構



52・53号集石遺構



54号集石遺構



55号集石遺構



56・57号集石遺構



58号集石遺構



59号集石遺構



60号集石遺構



61号集石遺構



62号集石遺構



63・64号集石遺構



65・66号集石遺構



67号集石遺構



68号集石遺構



69号集石遺構



70・73号集石遺構



71号集石遺構



72号集石遺構



74号集石遺構



75号集石遺構



76号集石遺構



76号集石遺構 (完掘)



1号炉穴 (完掘)



2号炉穴 (完掘)



3号炉穴 (完掘)



4·5·6号炉穴 (完掘)



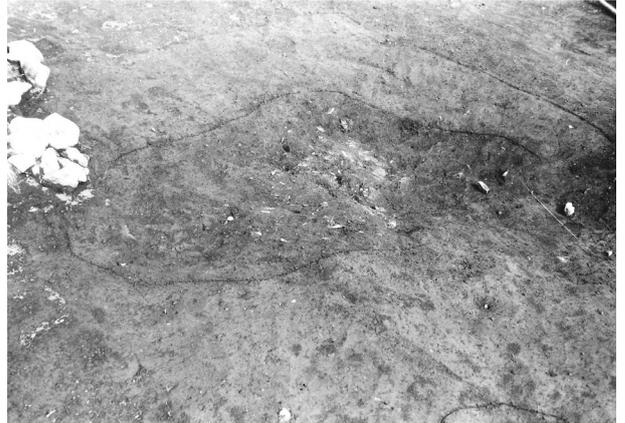
7号炉穴 (半截)



8·9·10号炉穴 (半截)



11号炉穴 (半截)



12号炉穴 (検出)



13·14·15·16·17号炉穴 (完掘)



18号炉穴 (完掘)



1·2号土坑 (完掘)



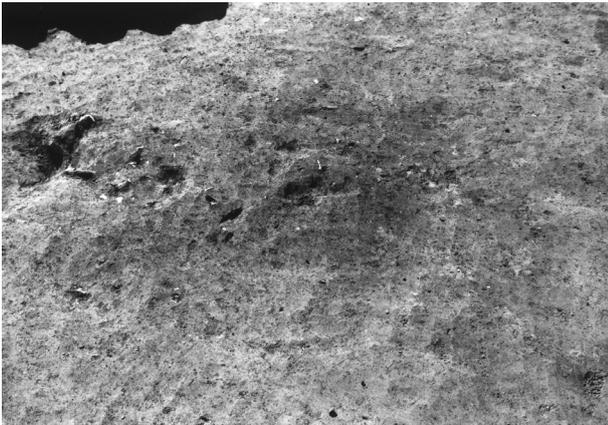
3号土坑 (完掘)



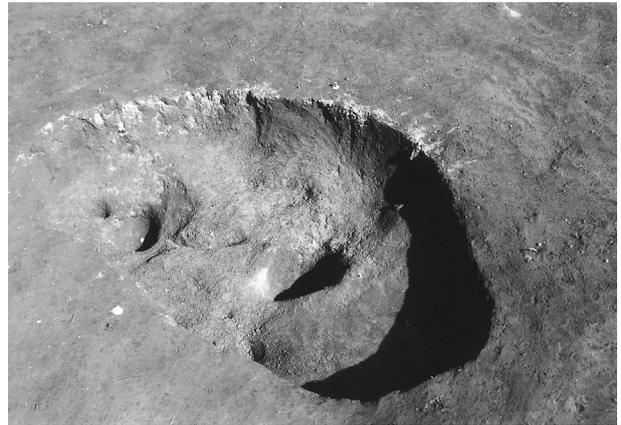
4号土坑 (断面有り)



5号土坑 (断面有り)



6号土坑 (検出)



7号土坑 (完掘)



12号土坑 (完掘)



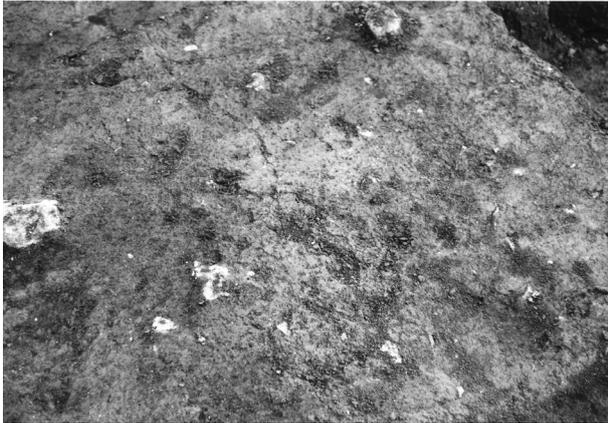
13号土坑 (完掘)



15号土坑 (完掘)



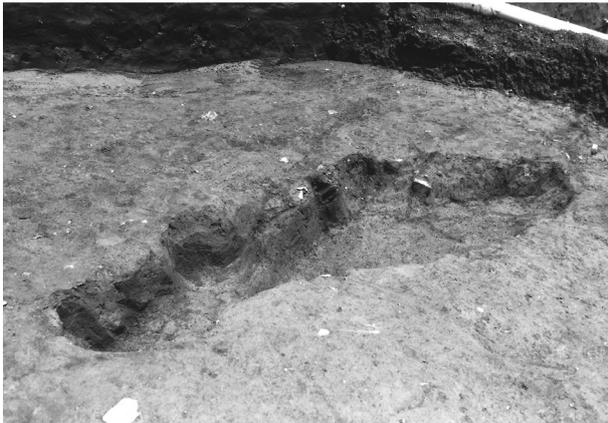
16号土坑 (半截)



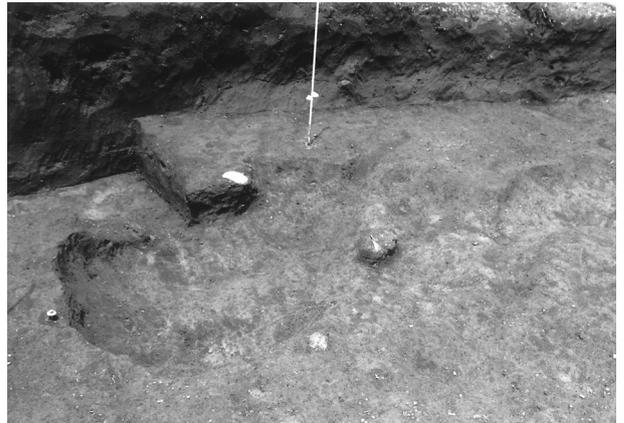
31号土坑 (検出)



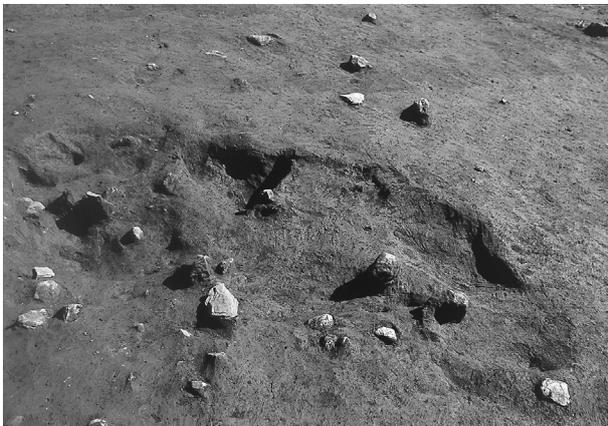
32号土坑 (半截)



36号土坑 (完掘)



37号土坑 (完掘)



38号土坑 (完掘)



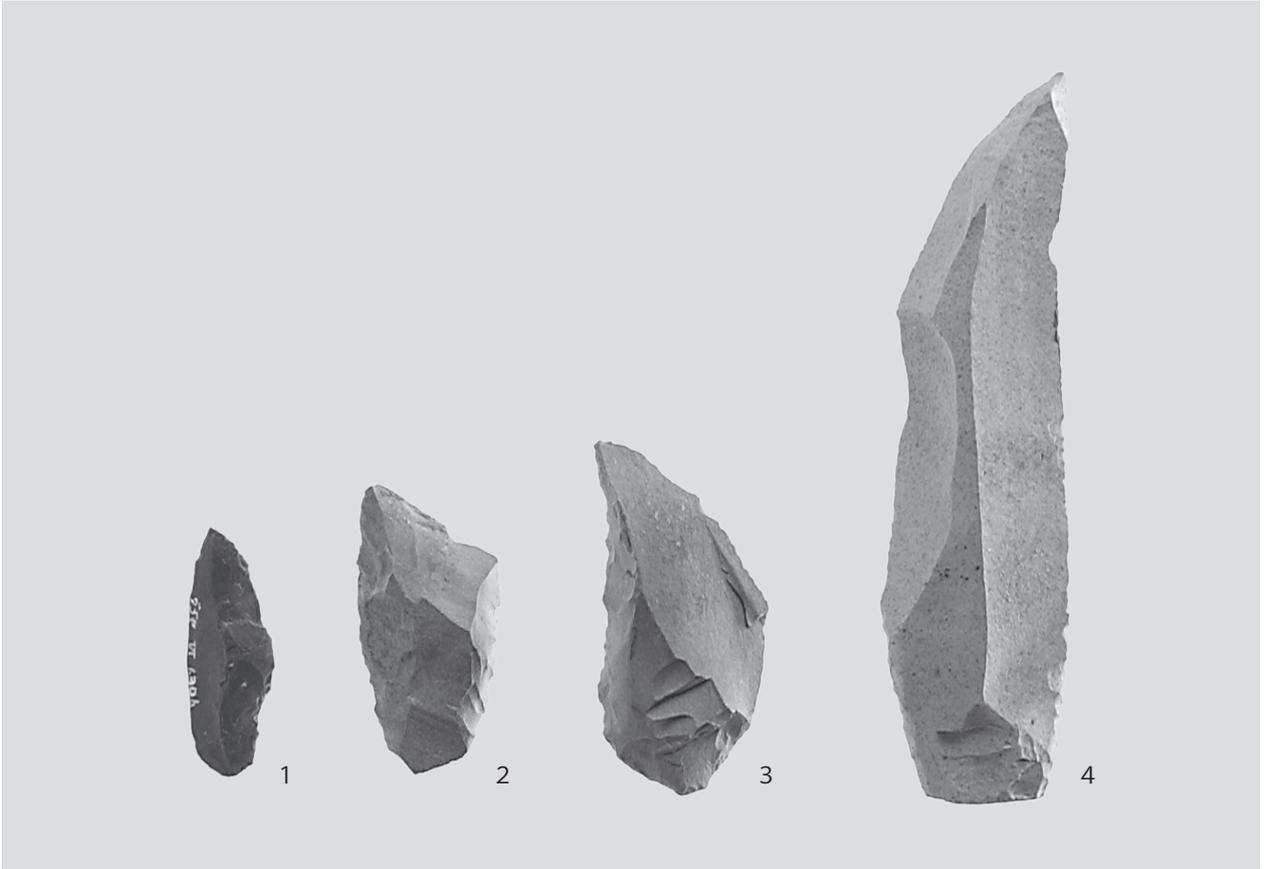
42号土坑 (半截)



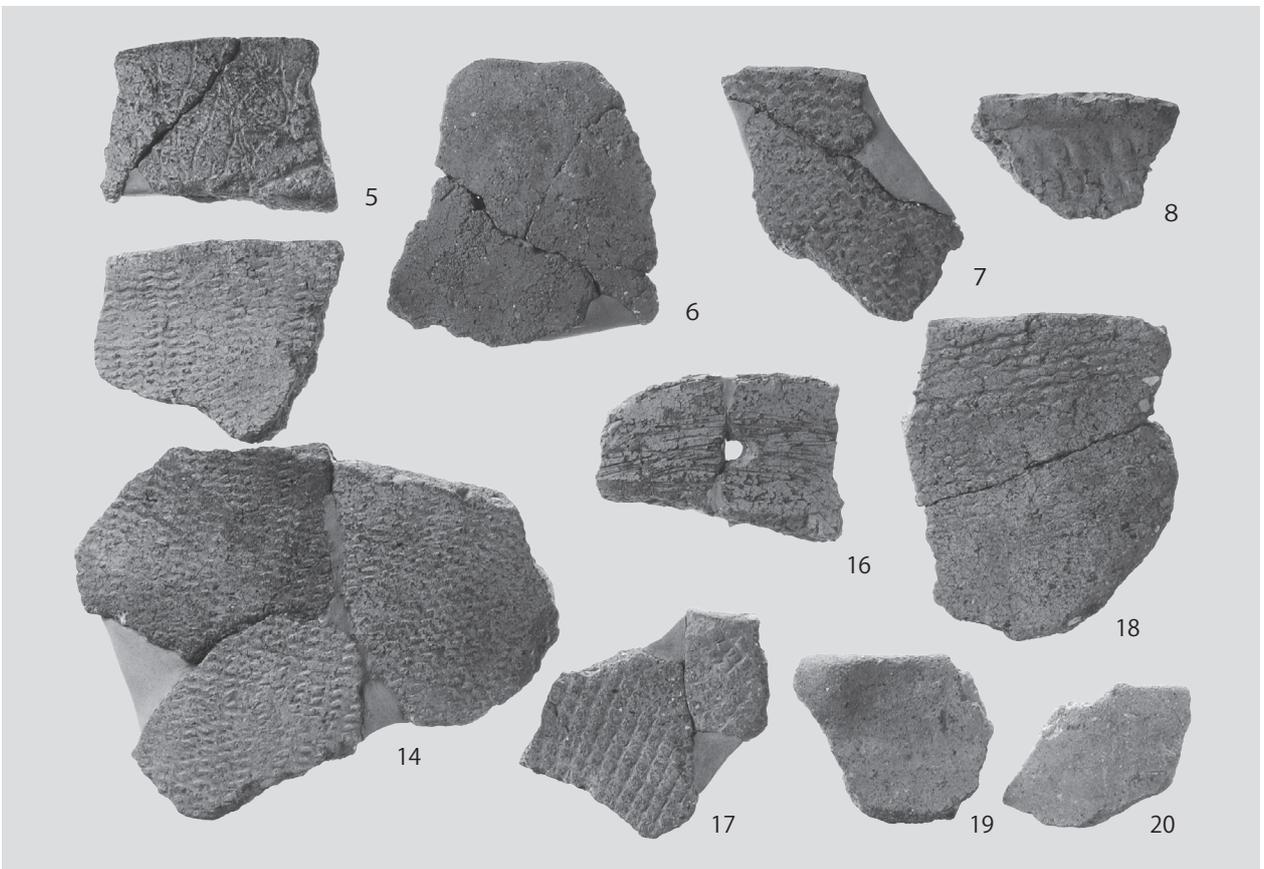
43号土坑 (半截)



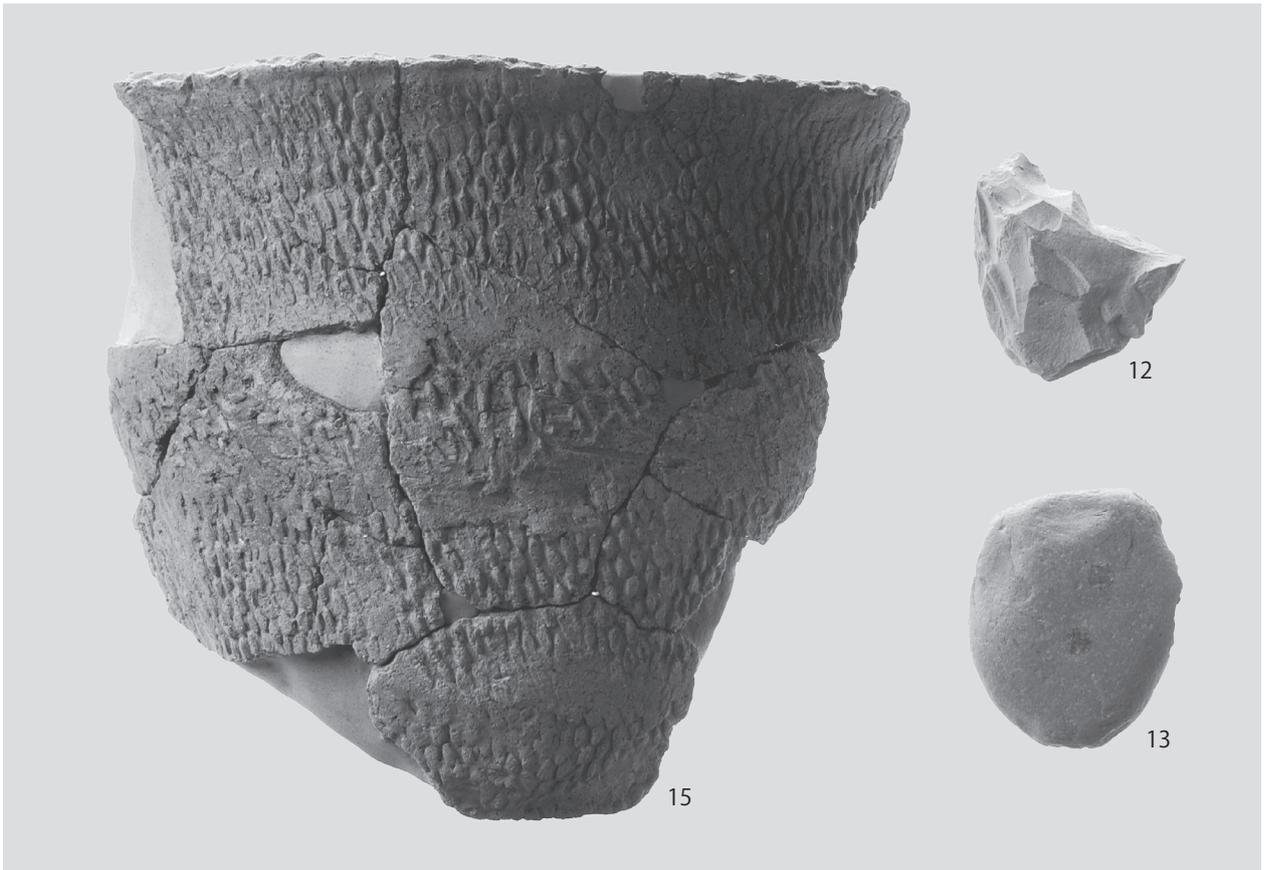
B区作業風景



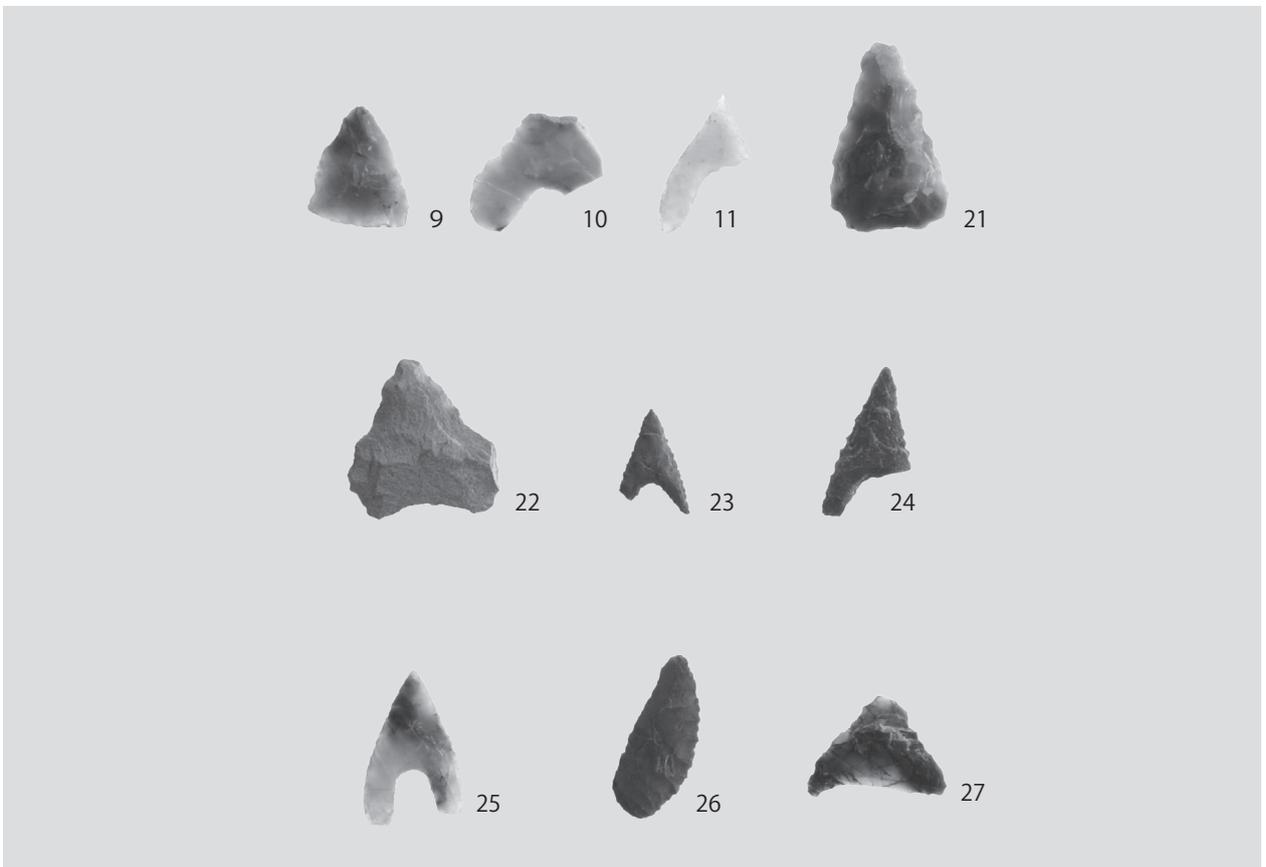
旧石器時代の遺物



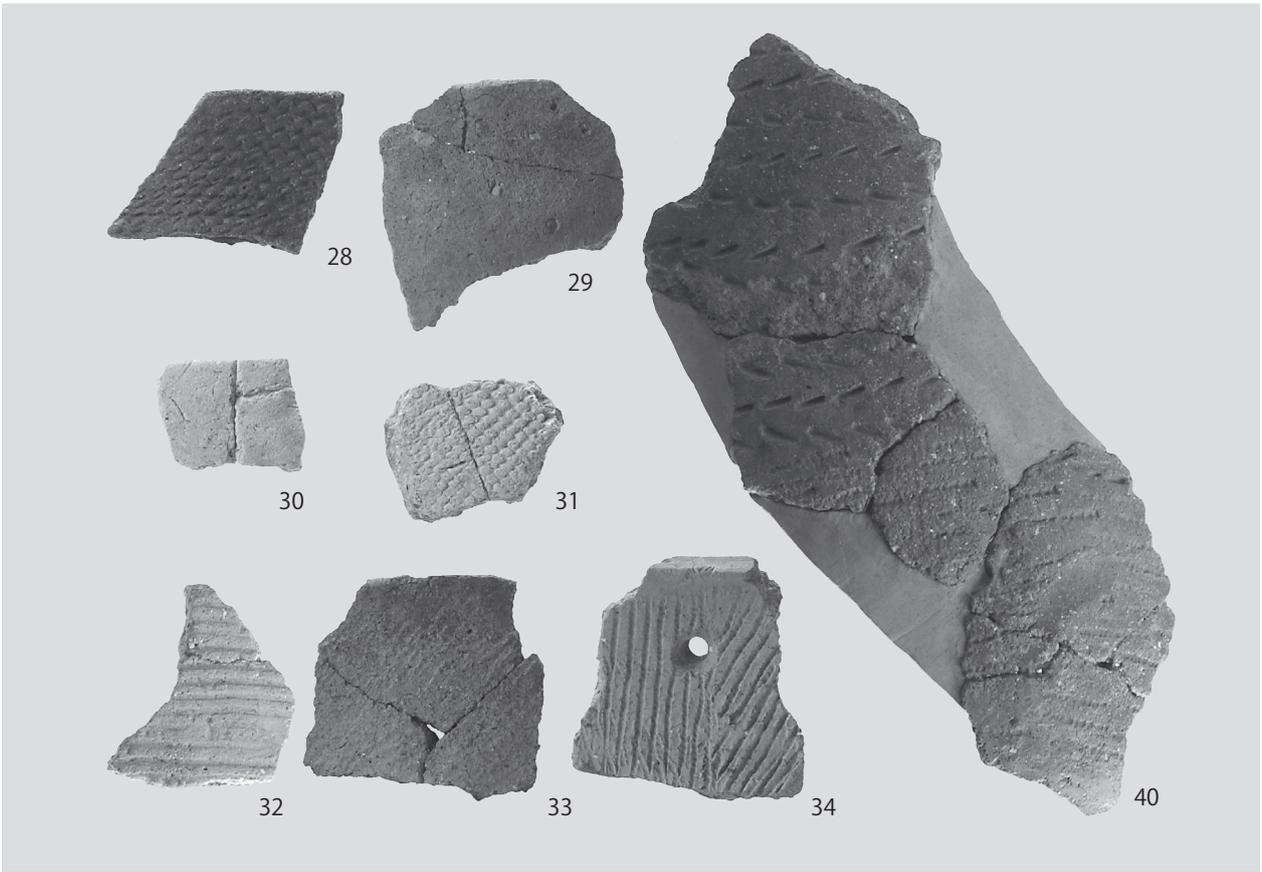
1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物(1)



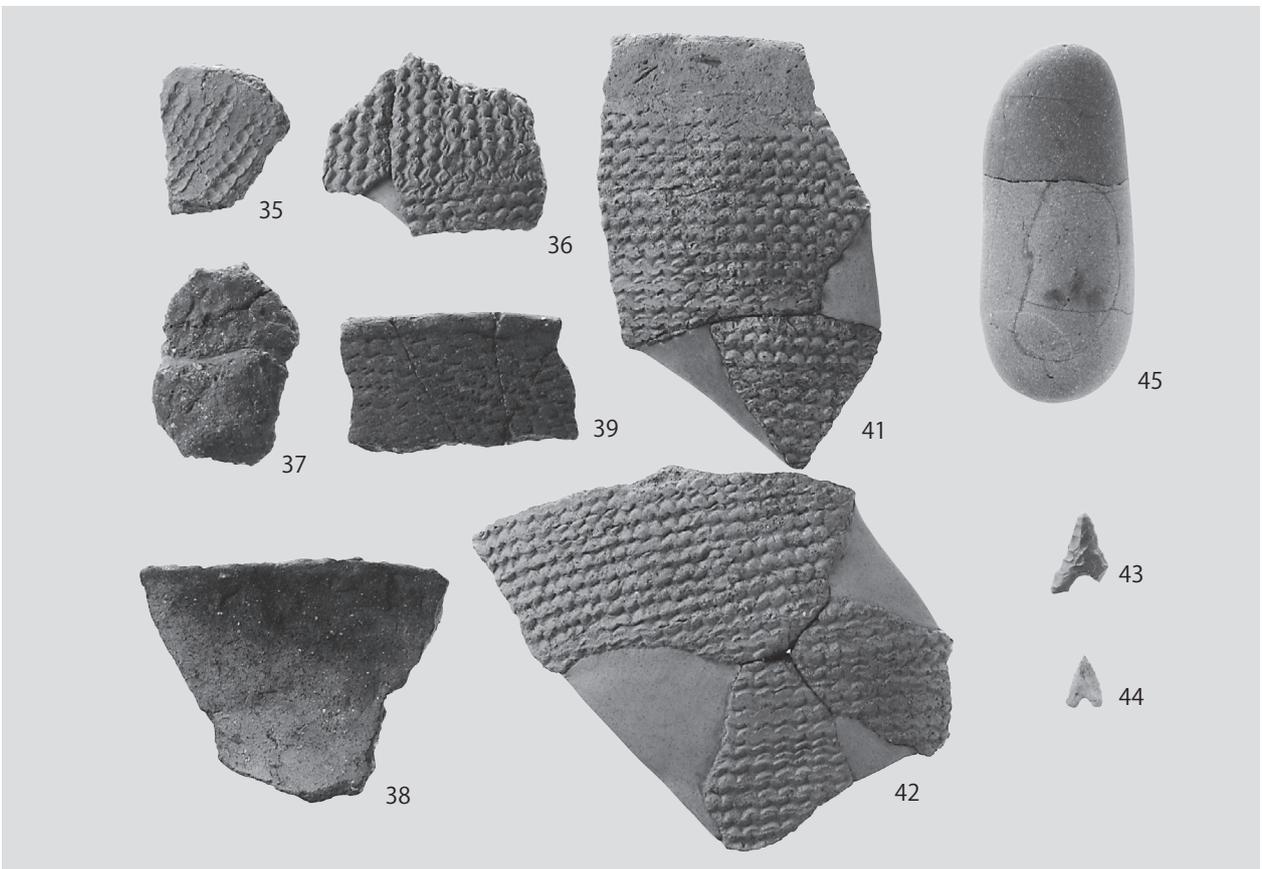
1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物(2)



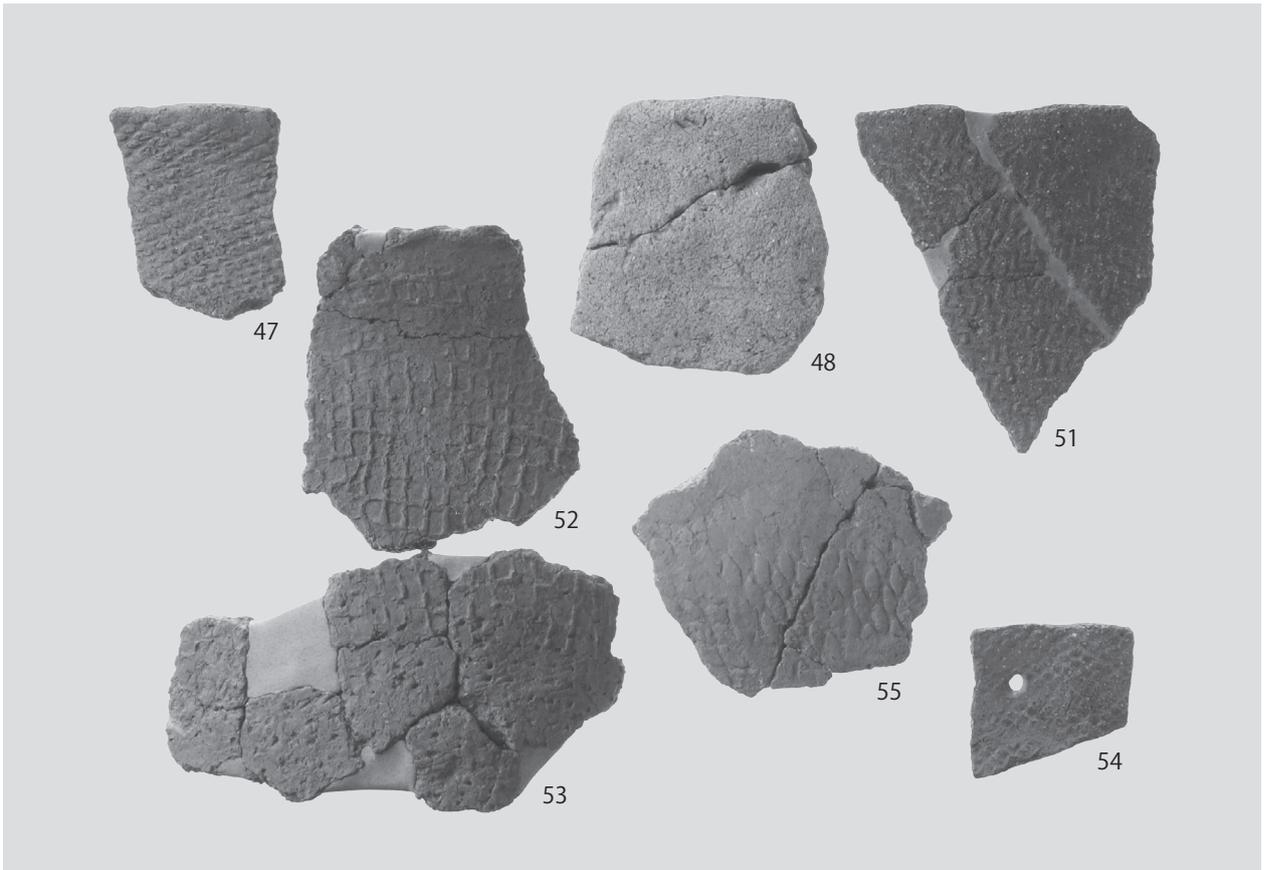
1・2号竪穴建物跡及び1号平地式建物跡出土遺物(3)



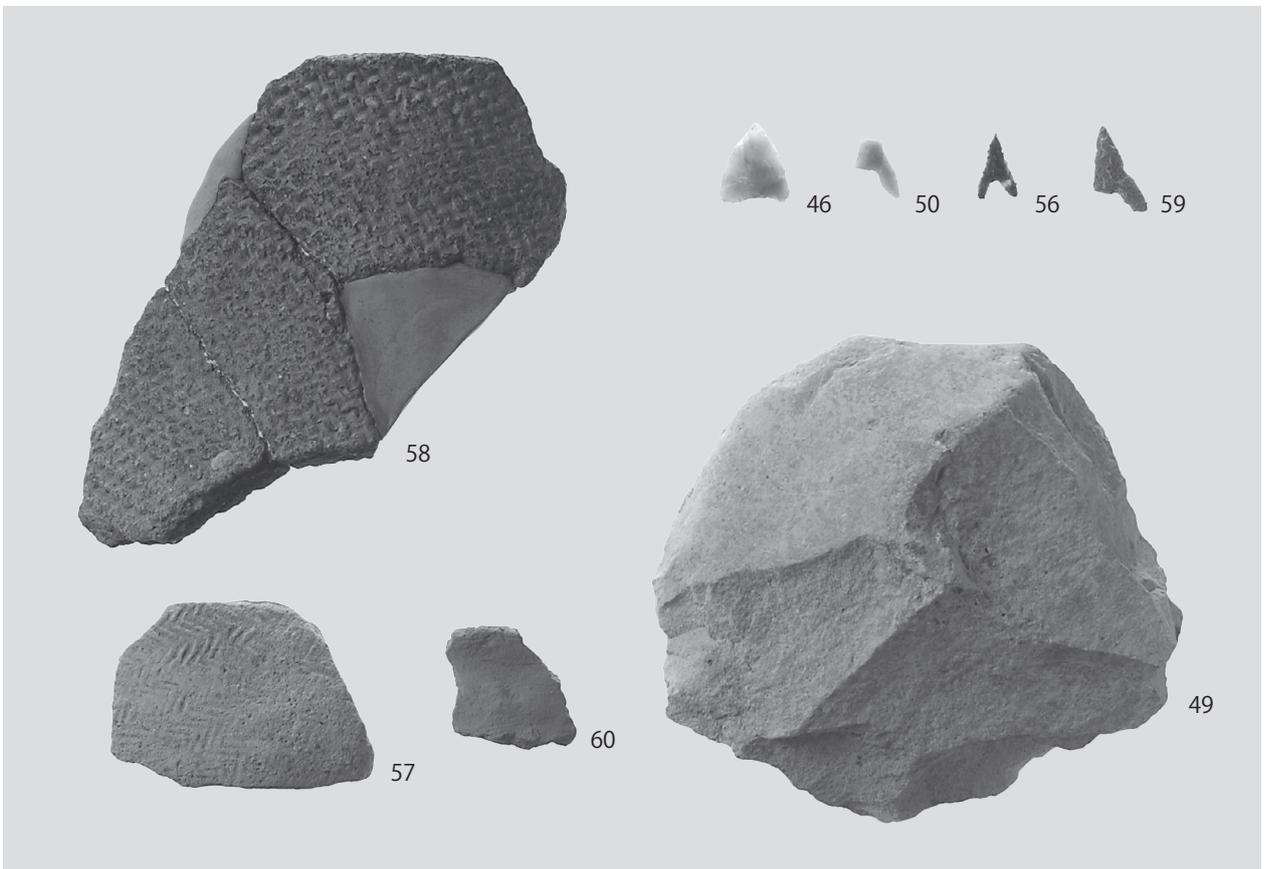
集石遺構出土遺物(1)



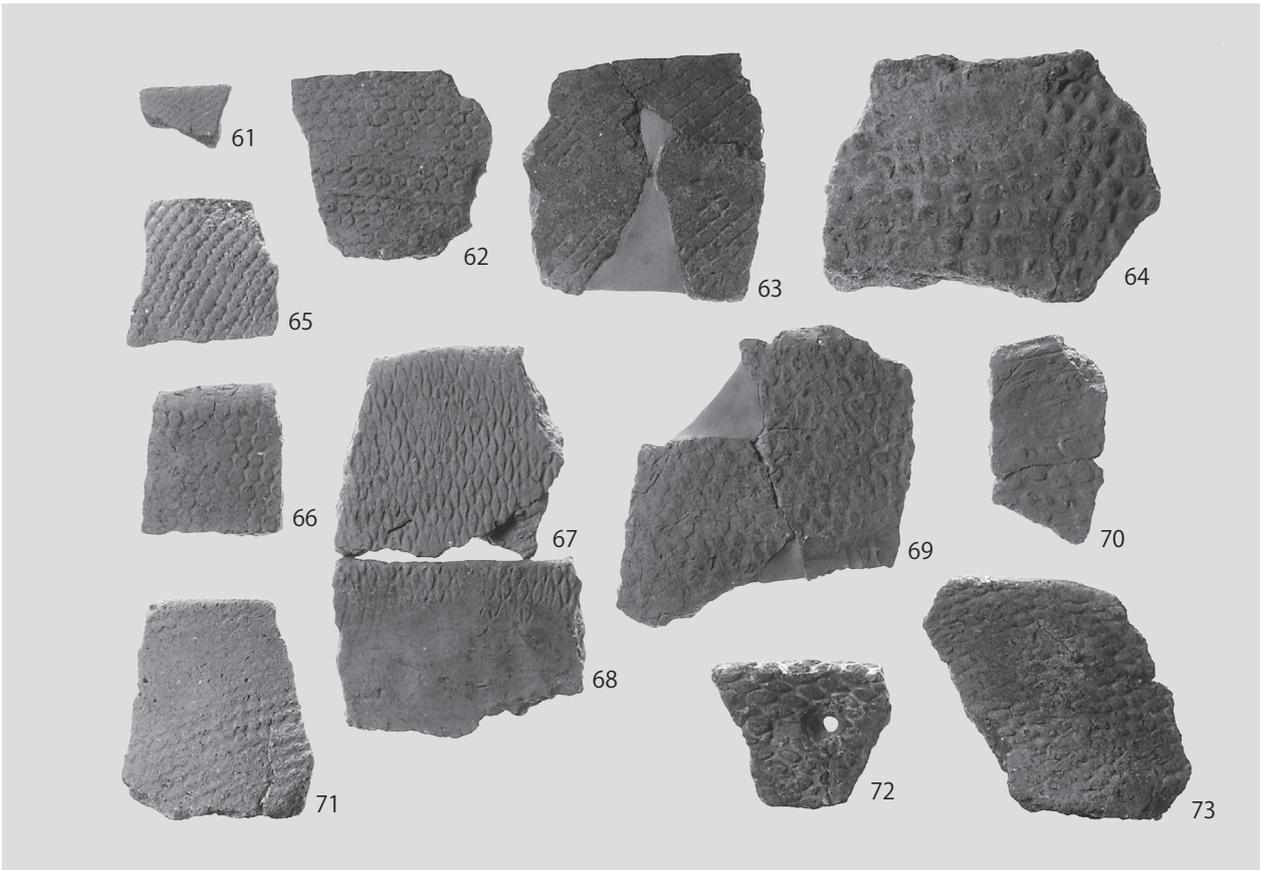
集石遺構出土遺物(2)



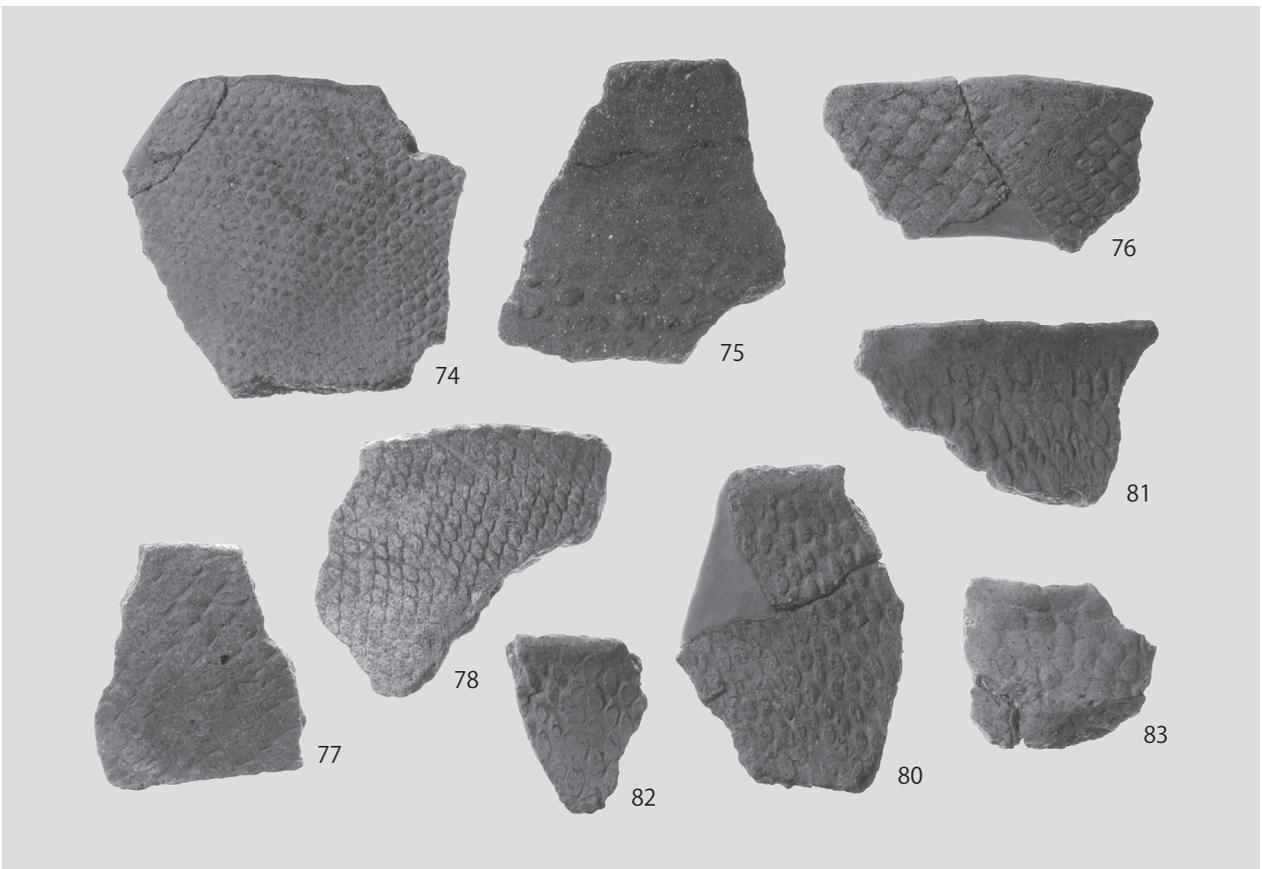
炉穴及び土坑出土遺物(1)



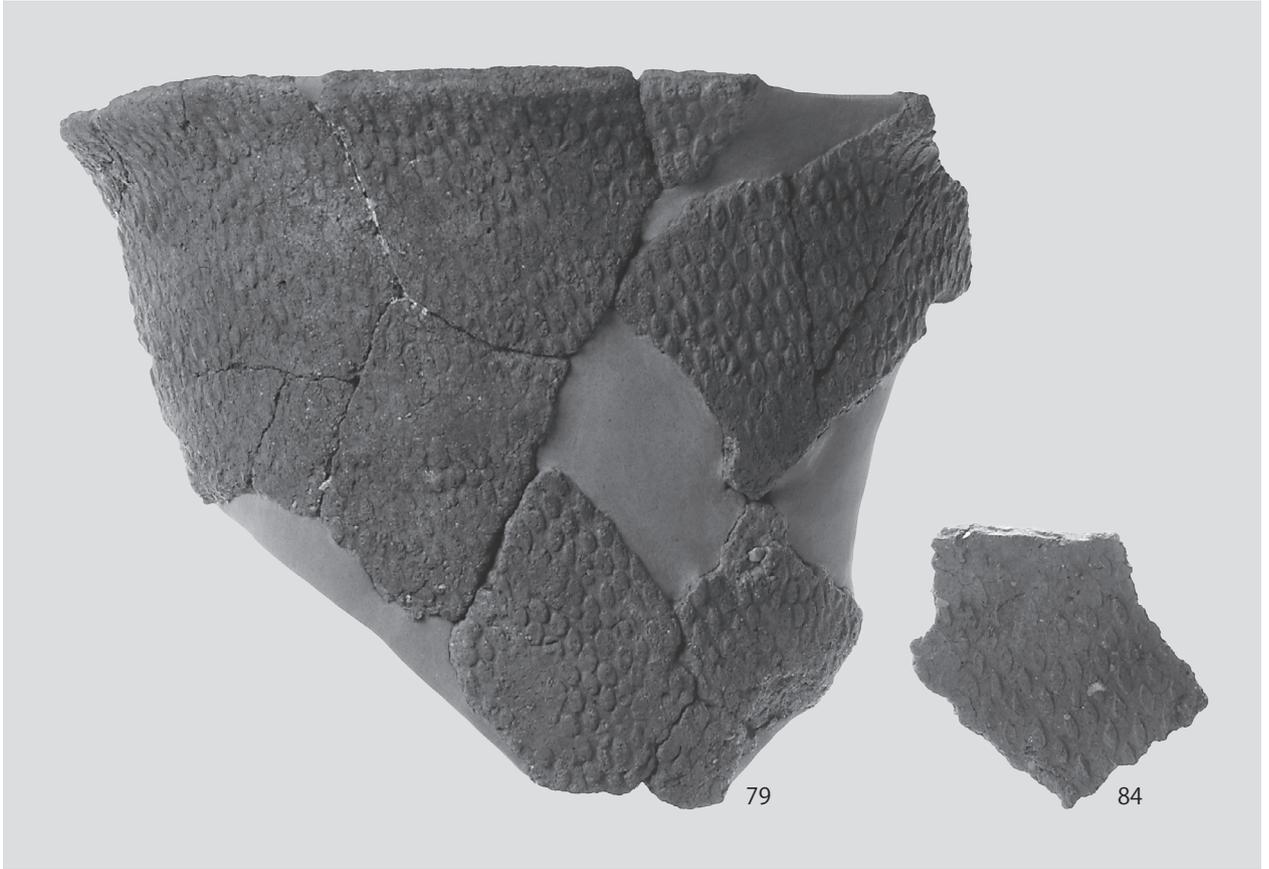
炉穴及び土坑出土遺物(2)



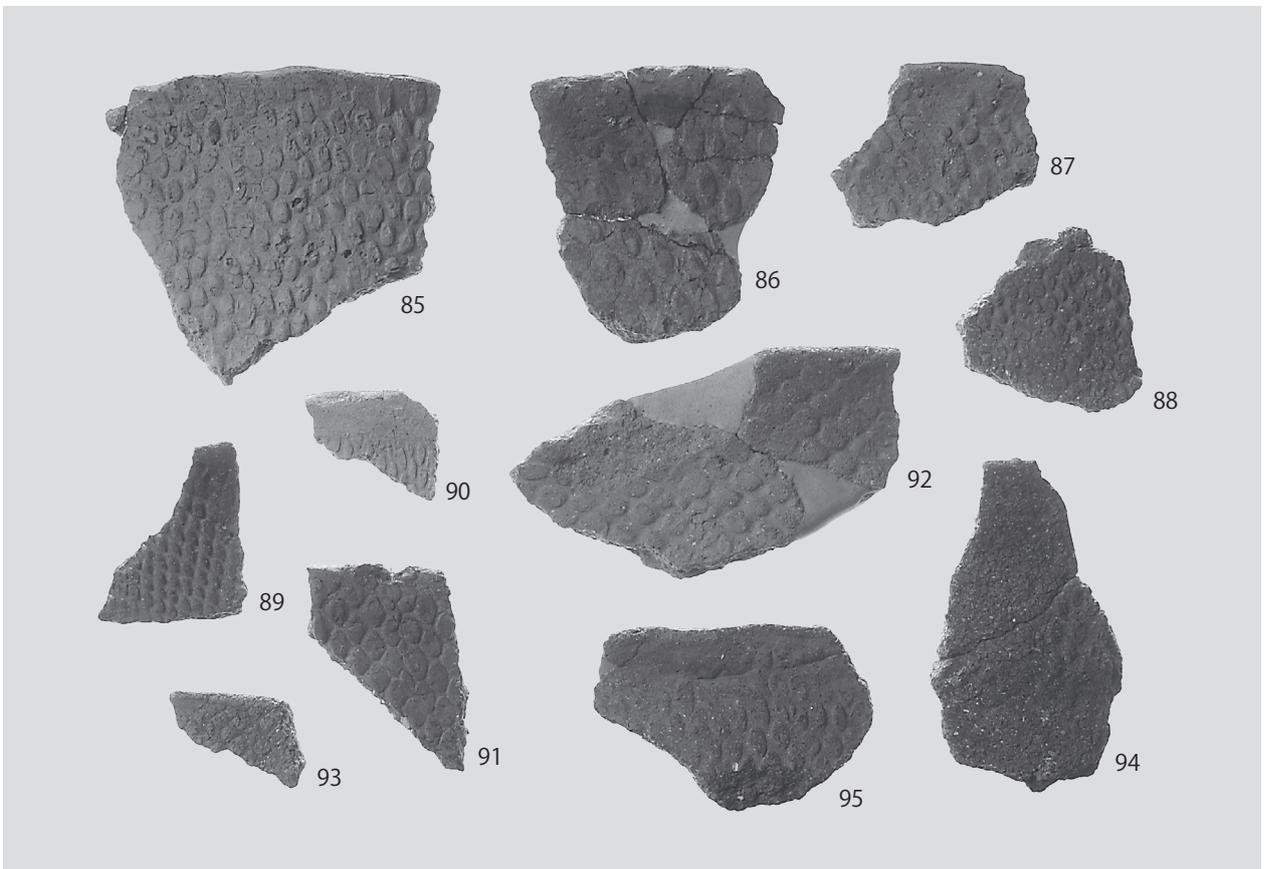
縄文時代早期土器(1)



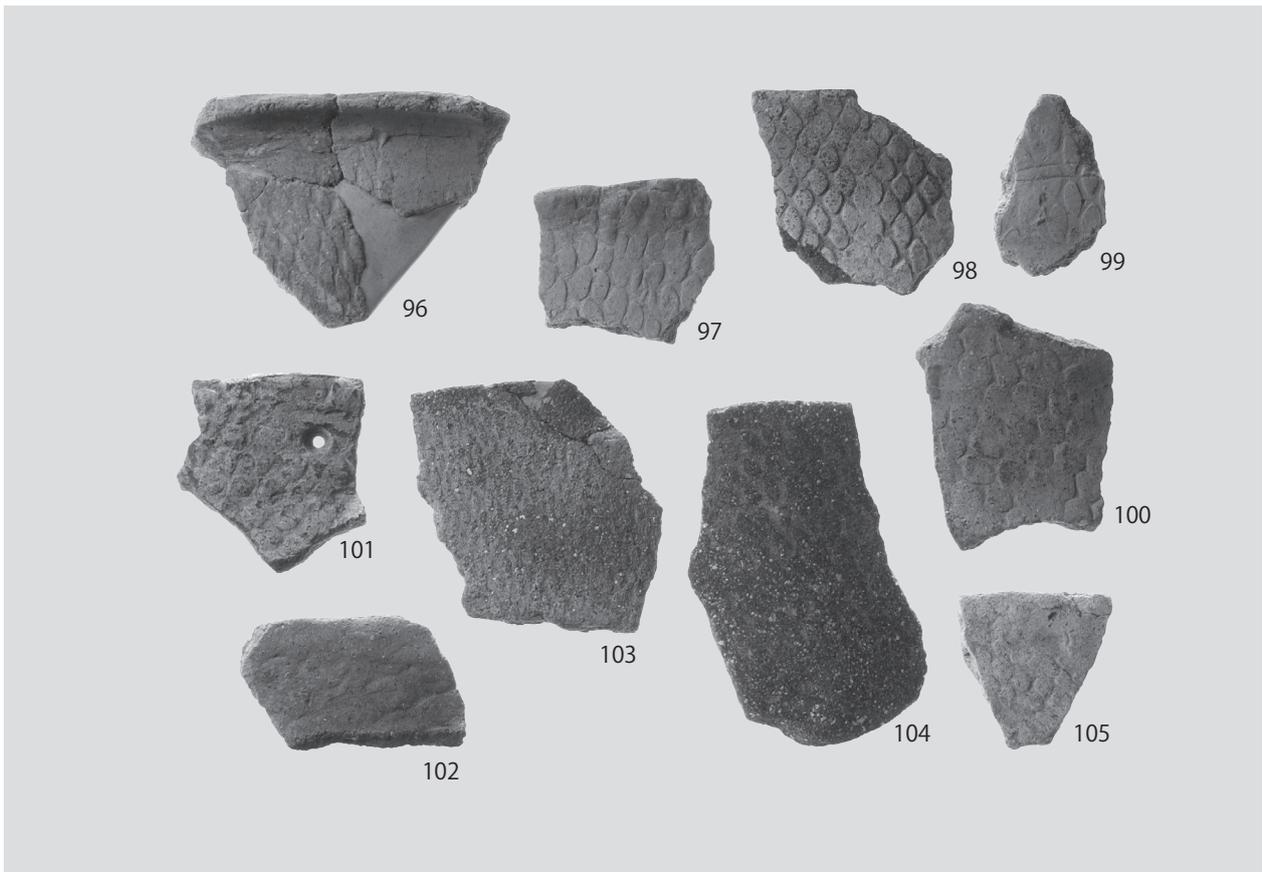
縄文時代早期土器(2)



縄文時代早期土器(3)



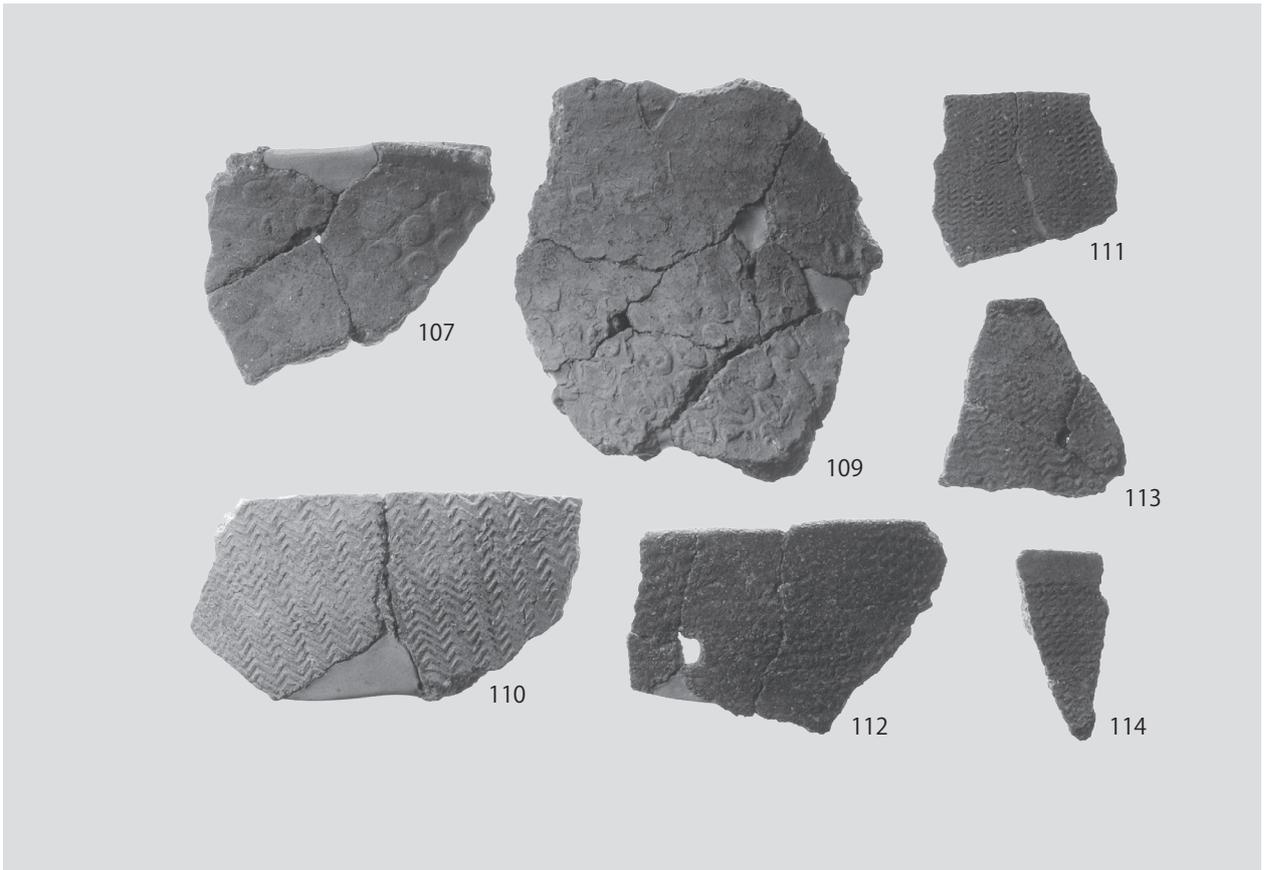
縄文時代早期土器(4)



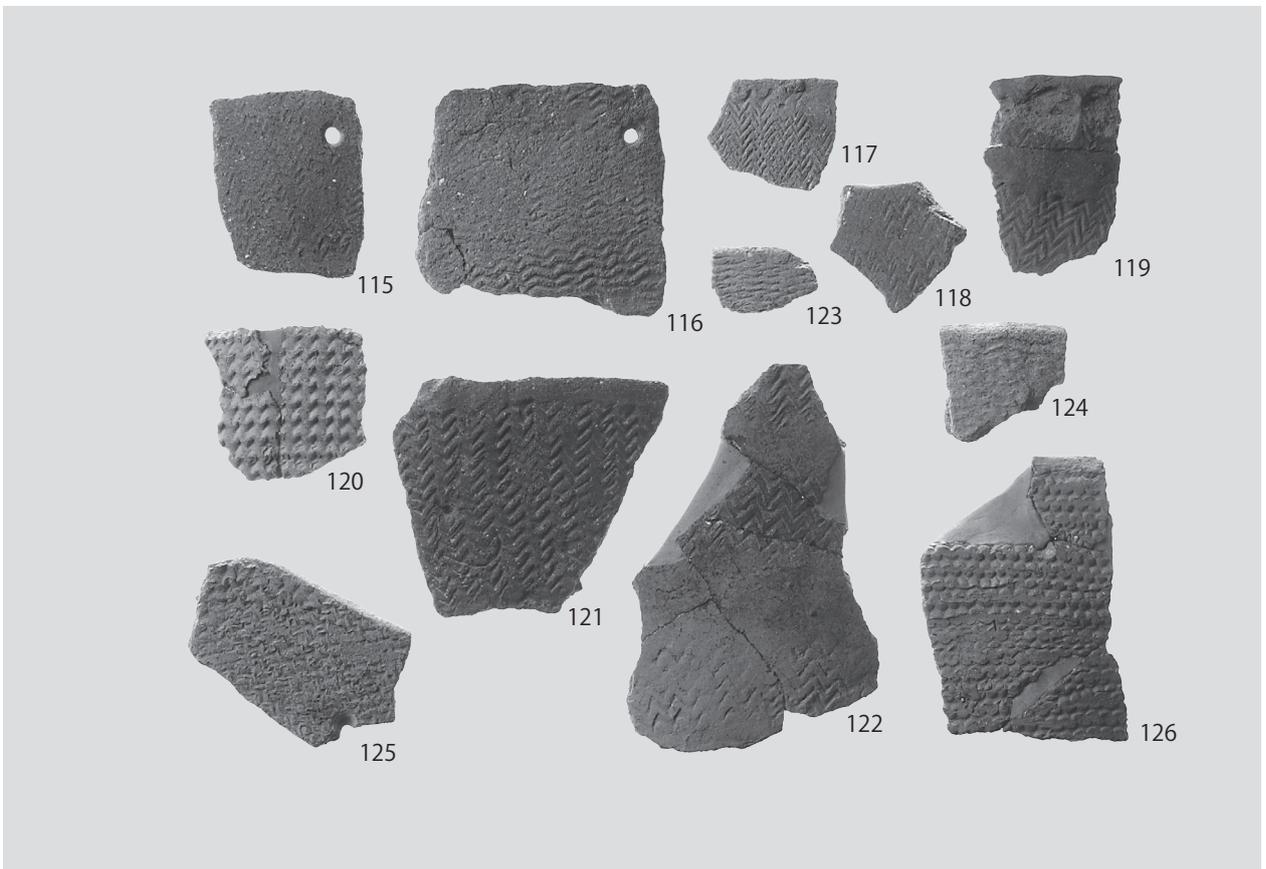
縄文時代早期土器(5)



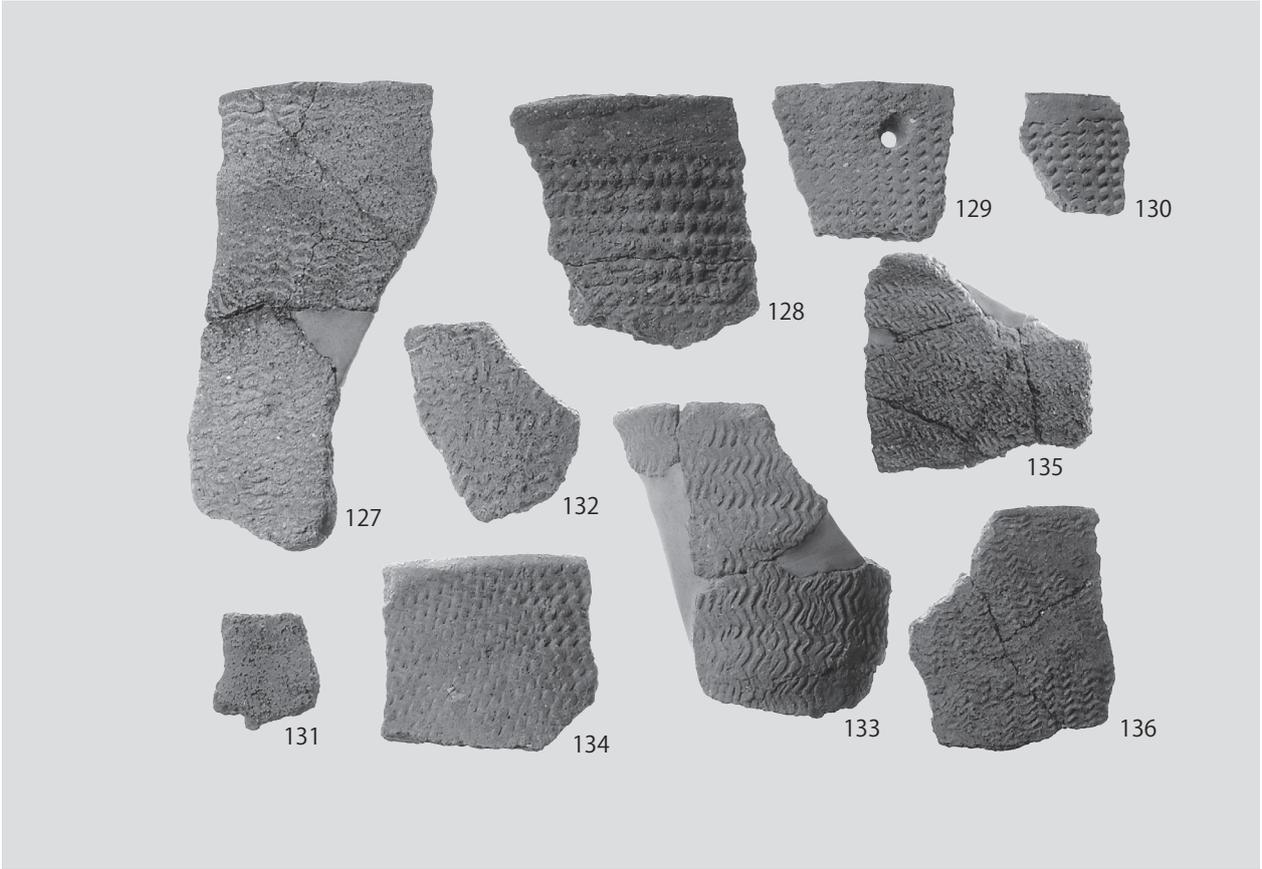
縄文時代早期土器(6)



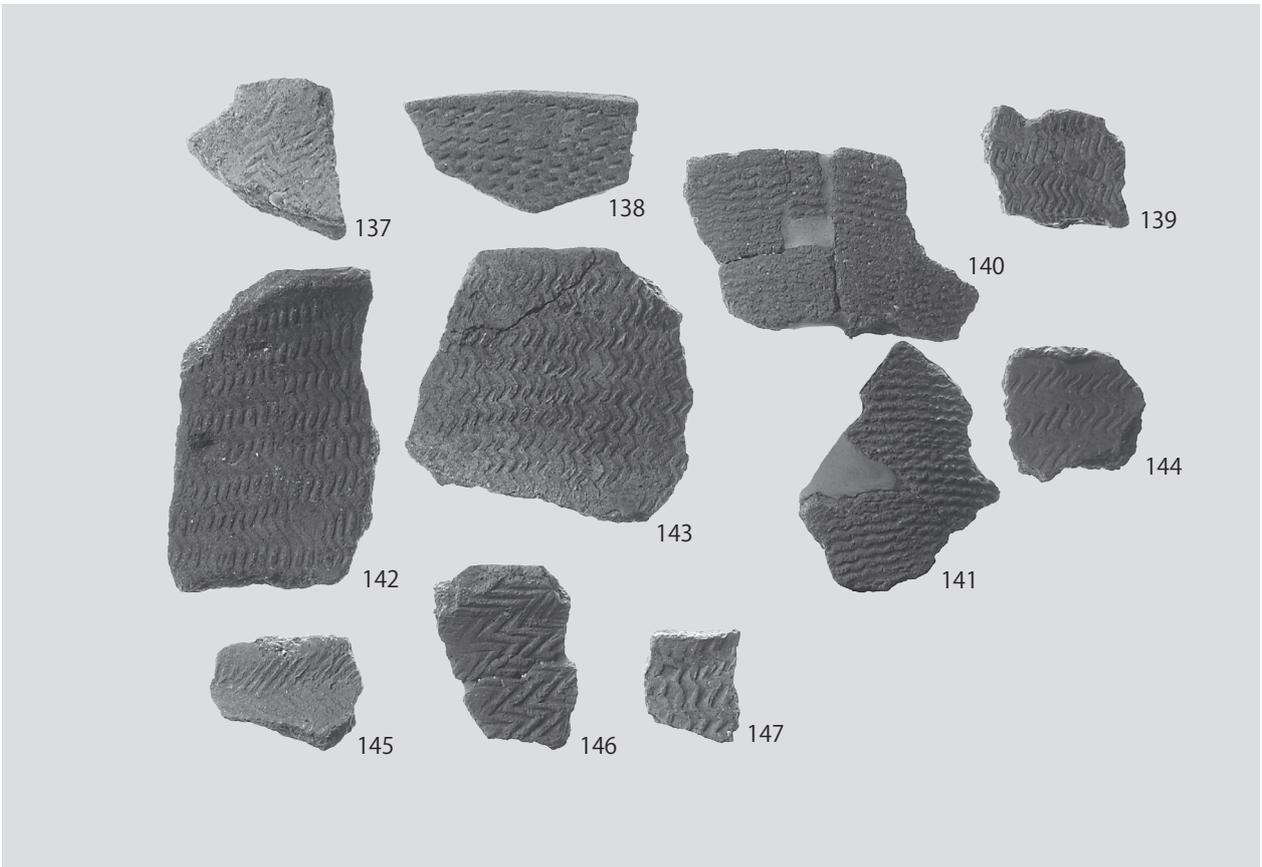
縄文時代早期土器(7)



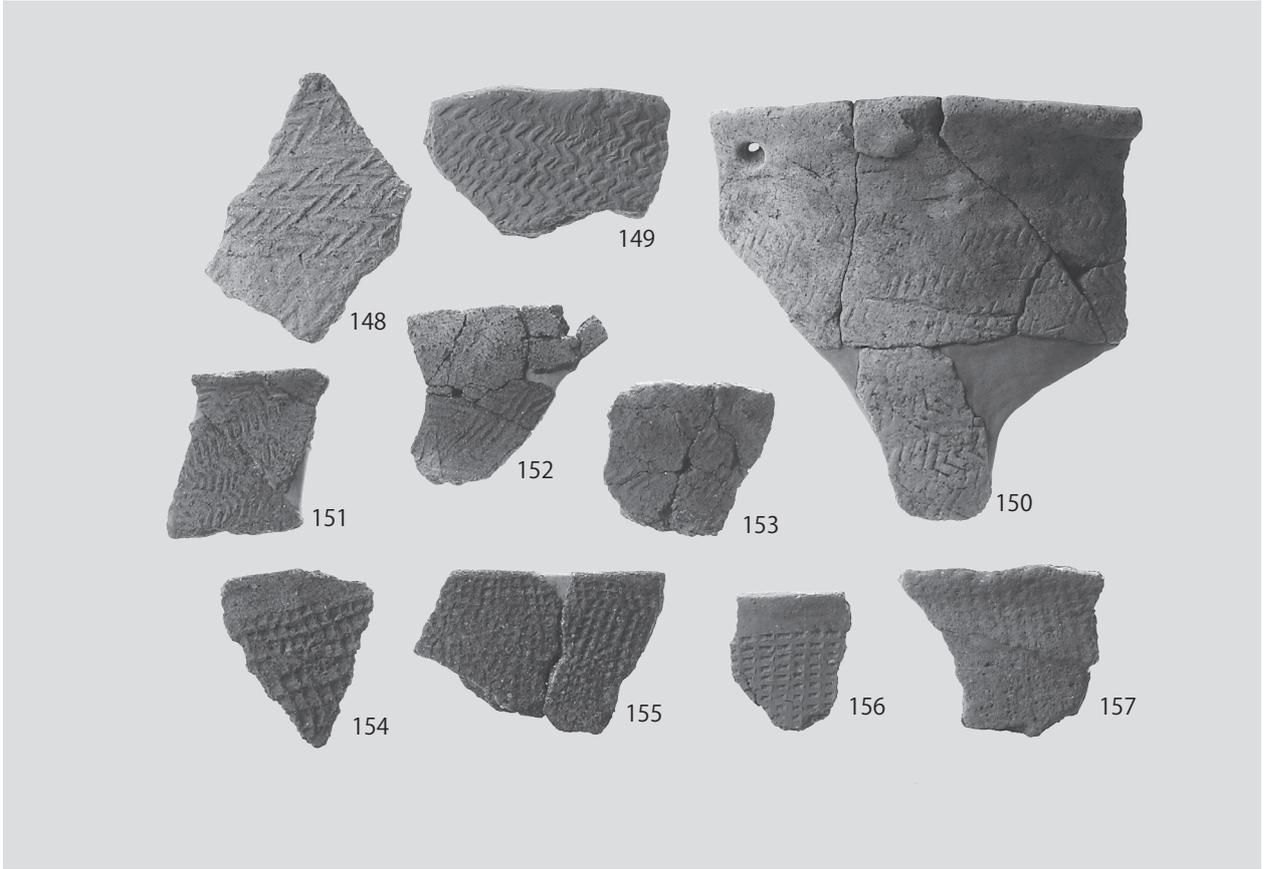
縄文時代早期土器(8)



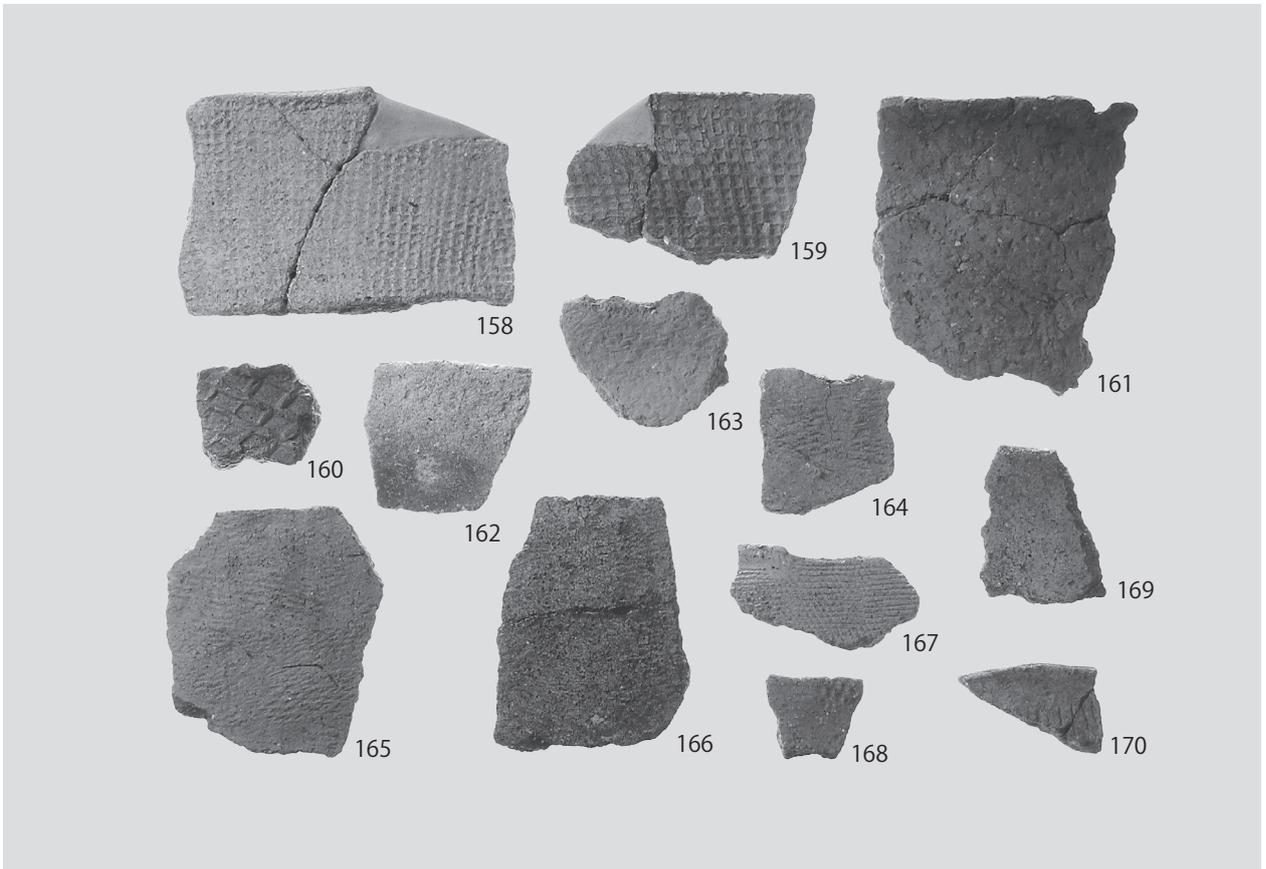
縄文時代早期土器(9)



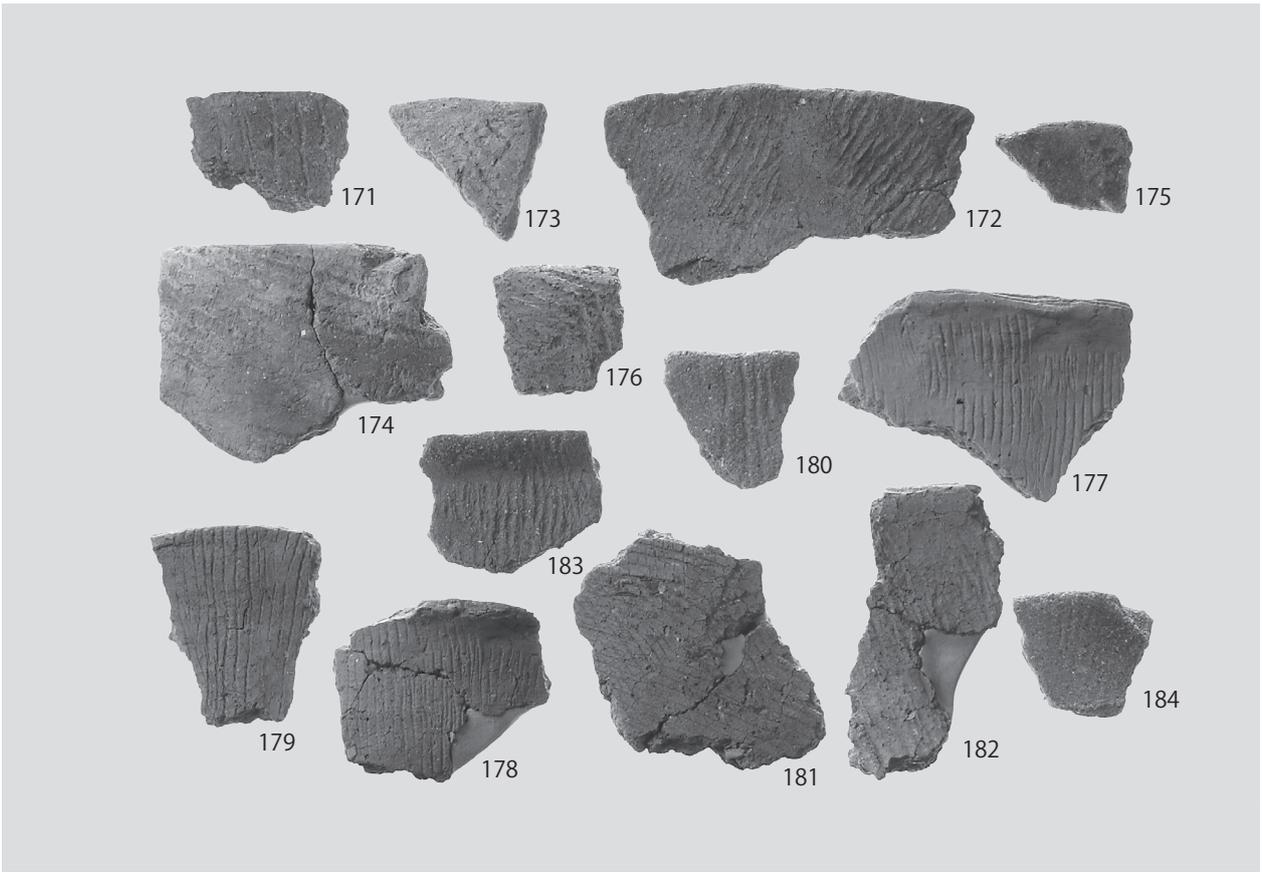
縄文時代早期土器(10)



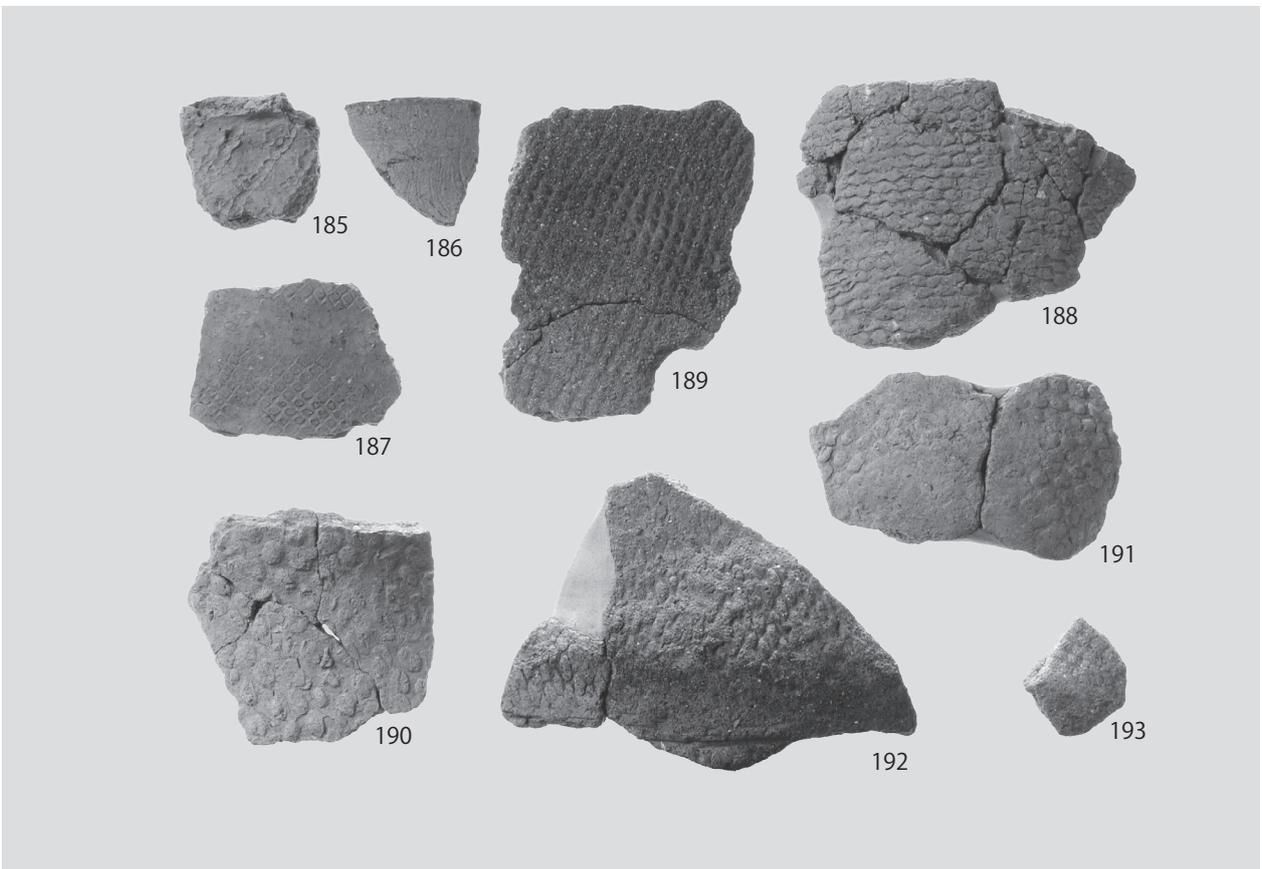
縄文時代早期土器(11)



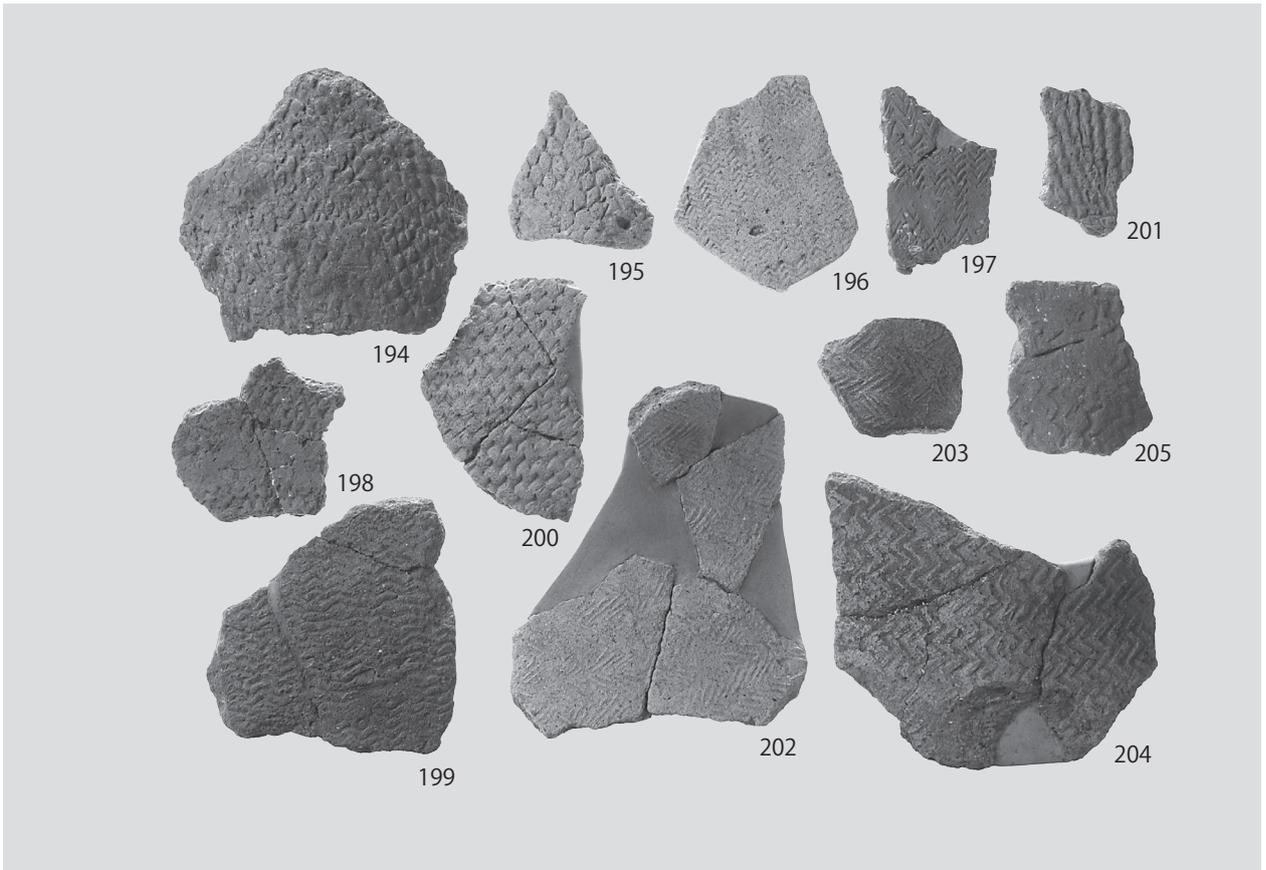
縄文時代早期土器(12)



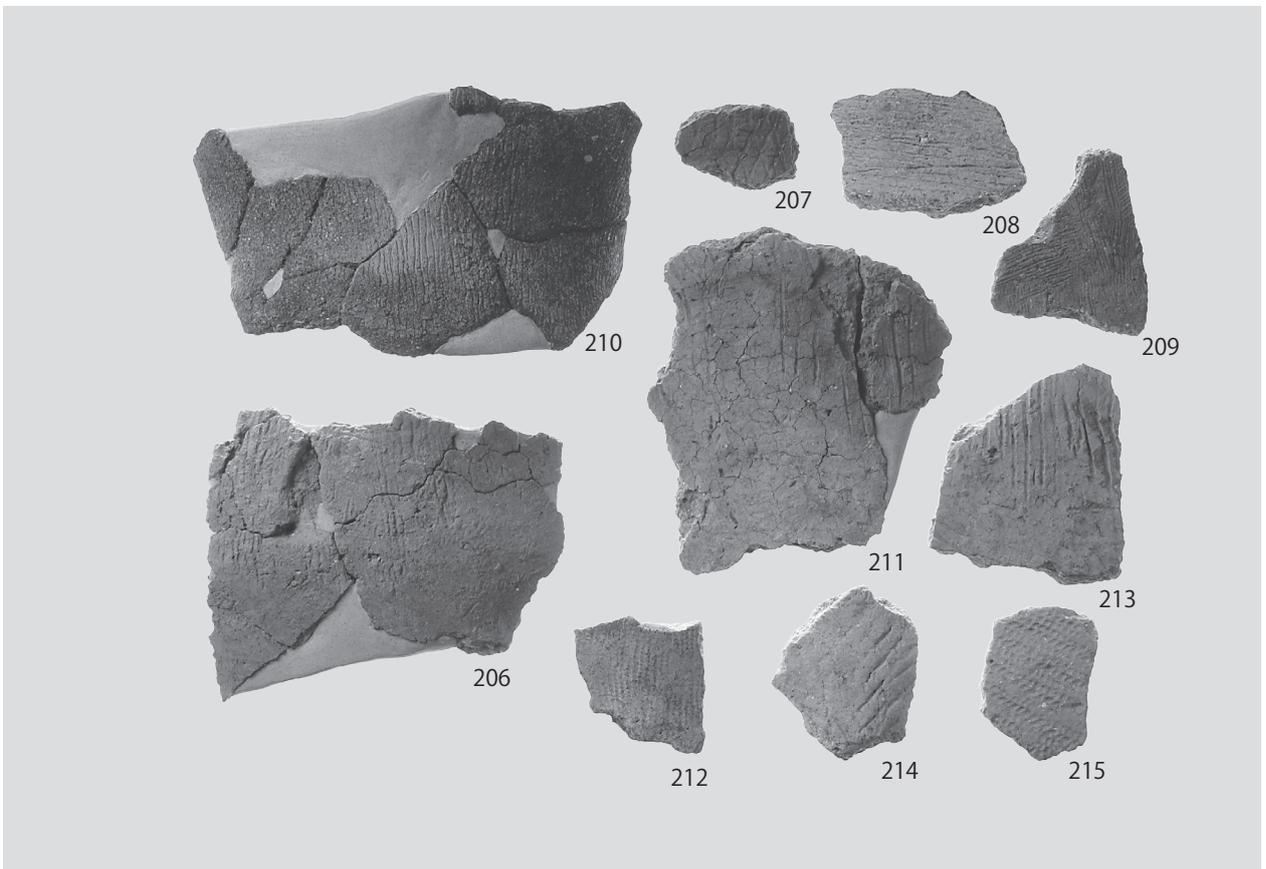
縄文時代早期土器(13)



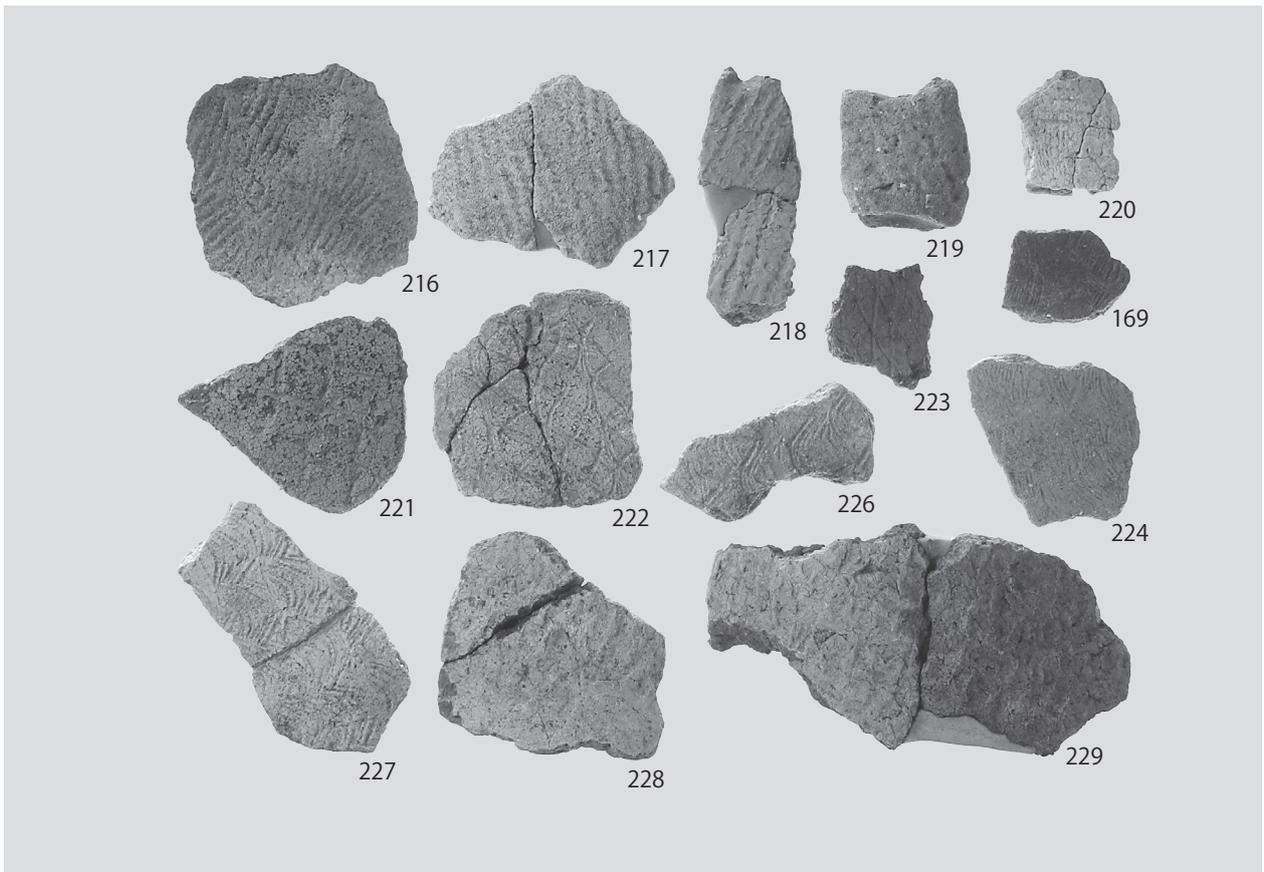
縄文時代早期土器(14)



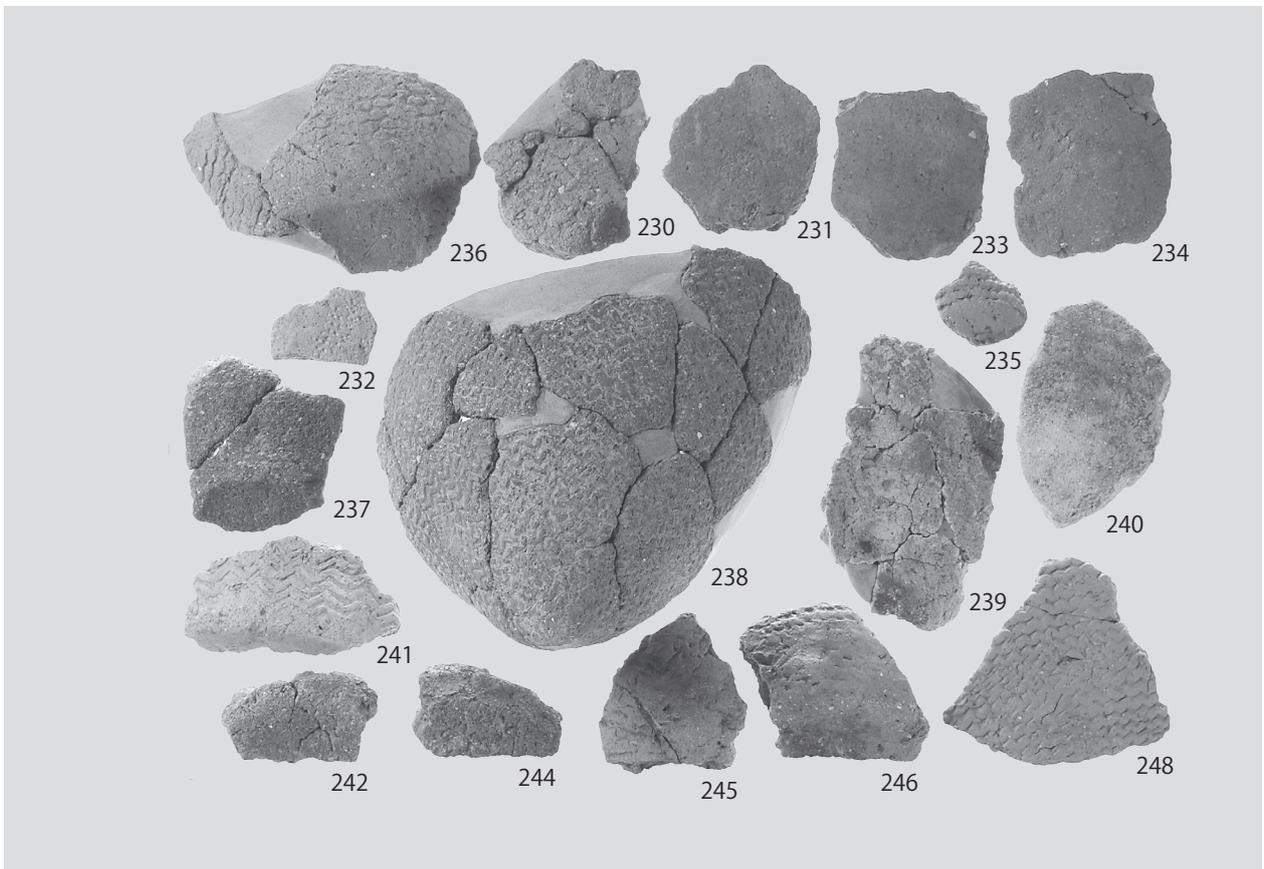
縄文時代早期土器(15)



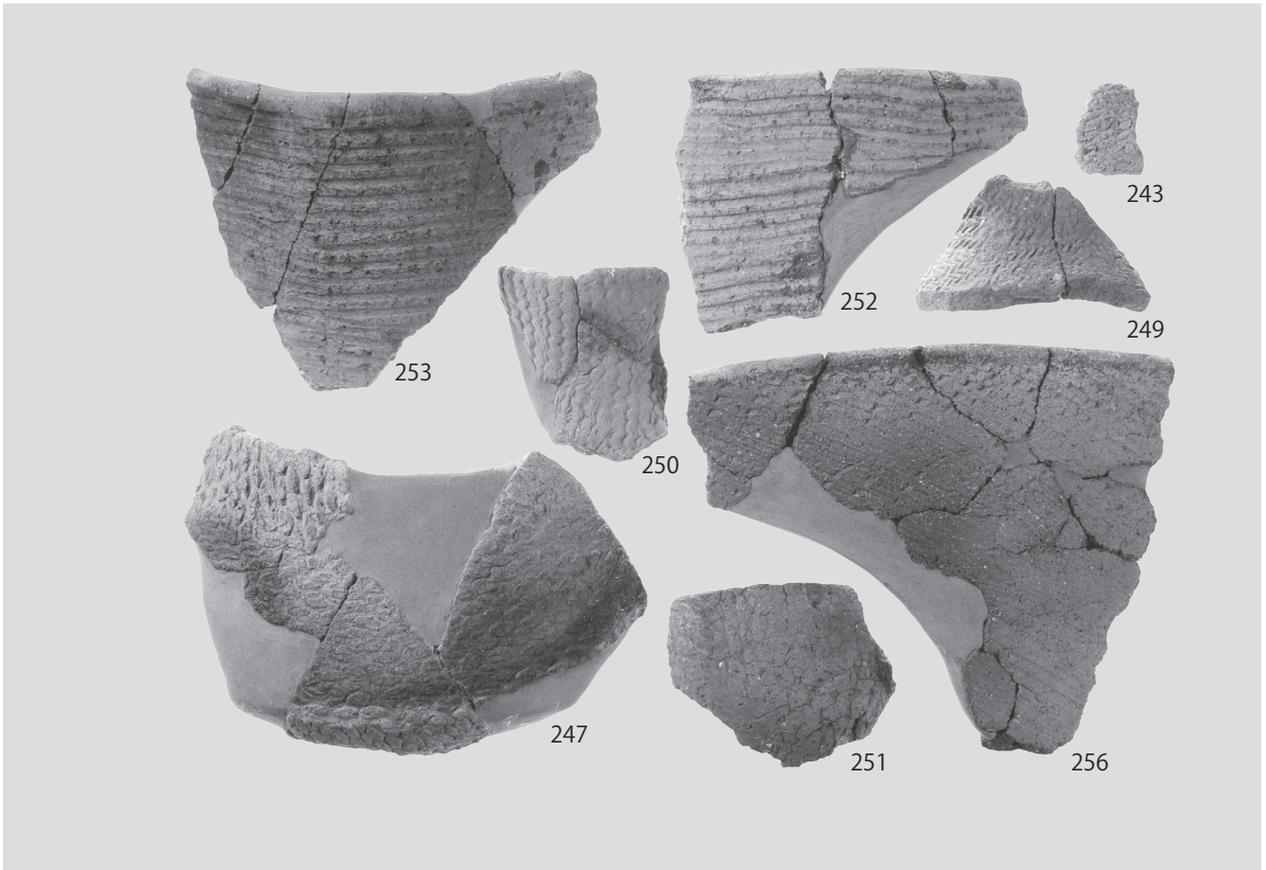
縄文時代早期土器(16)



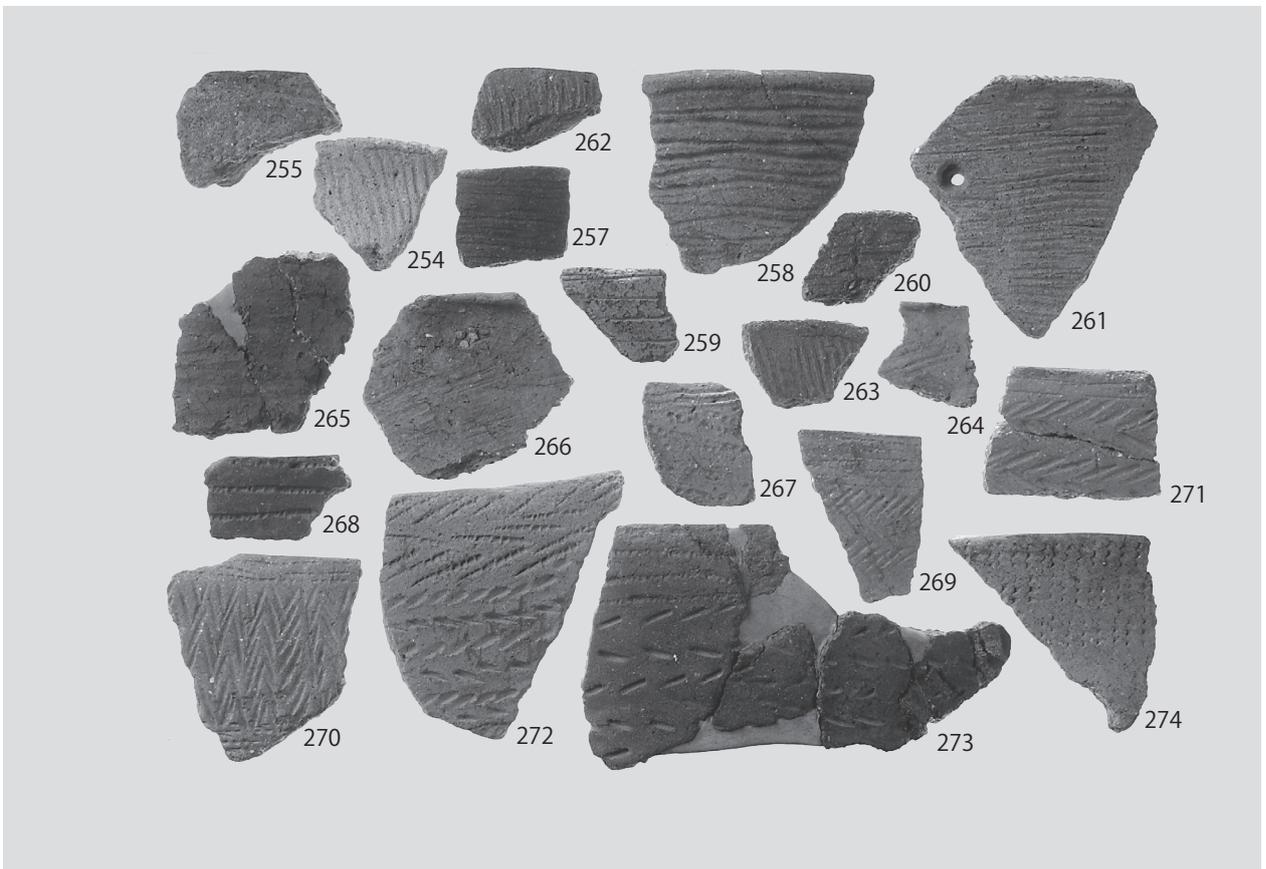
縄文時代早期土器(17)



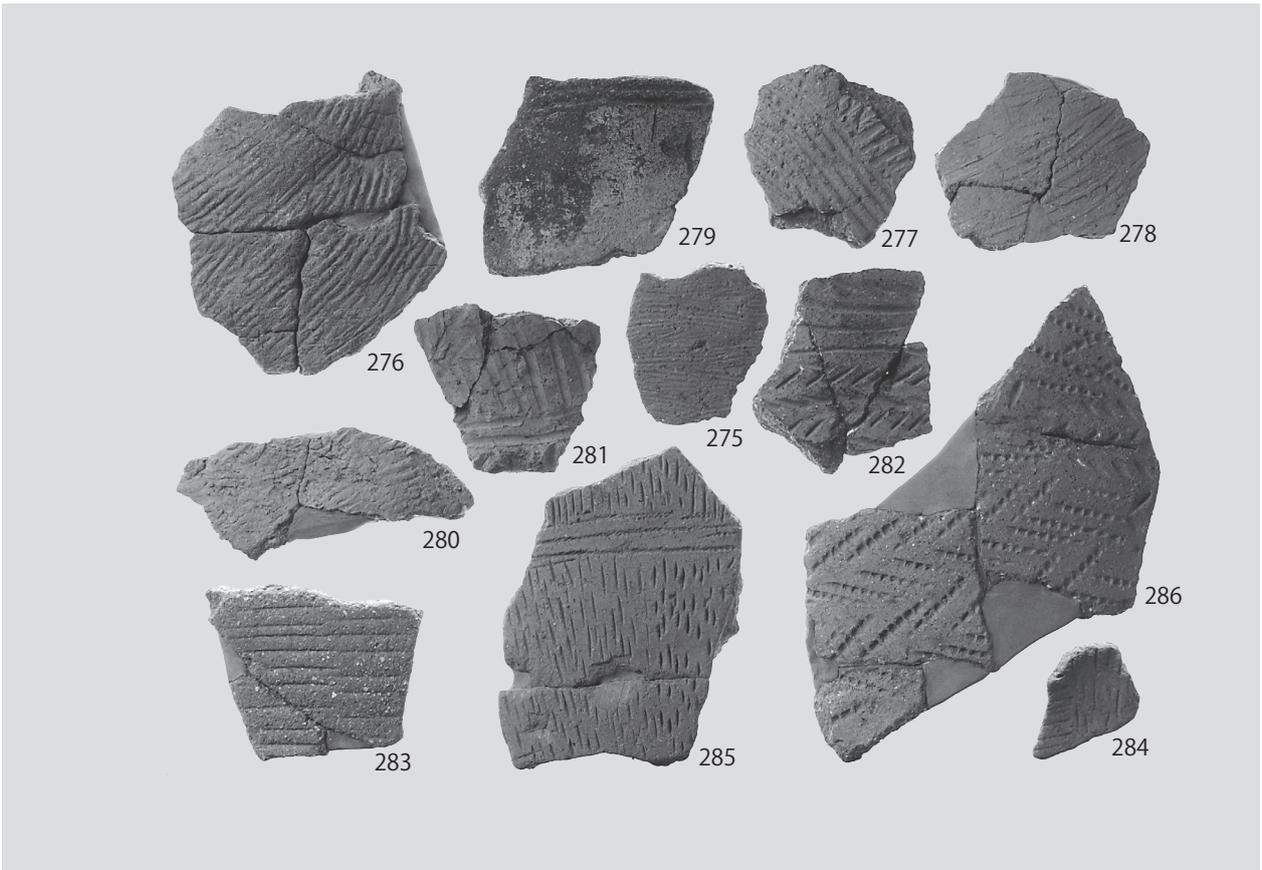
縄文時代早期土器(18)



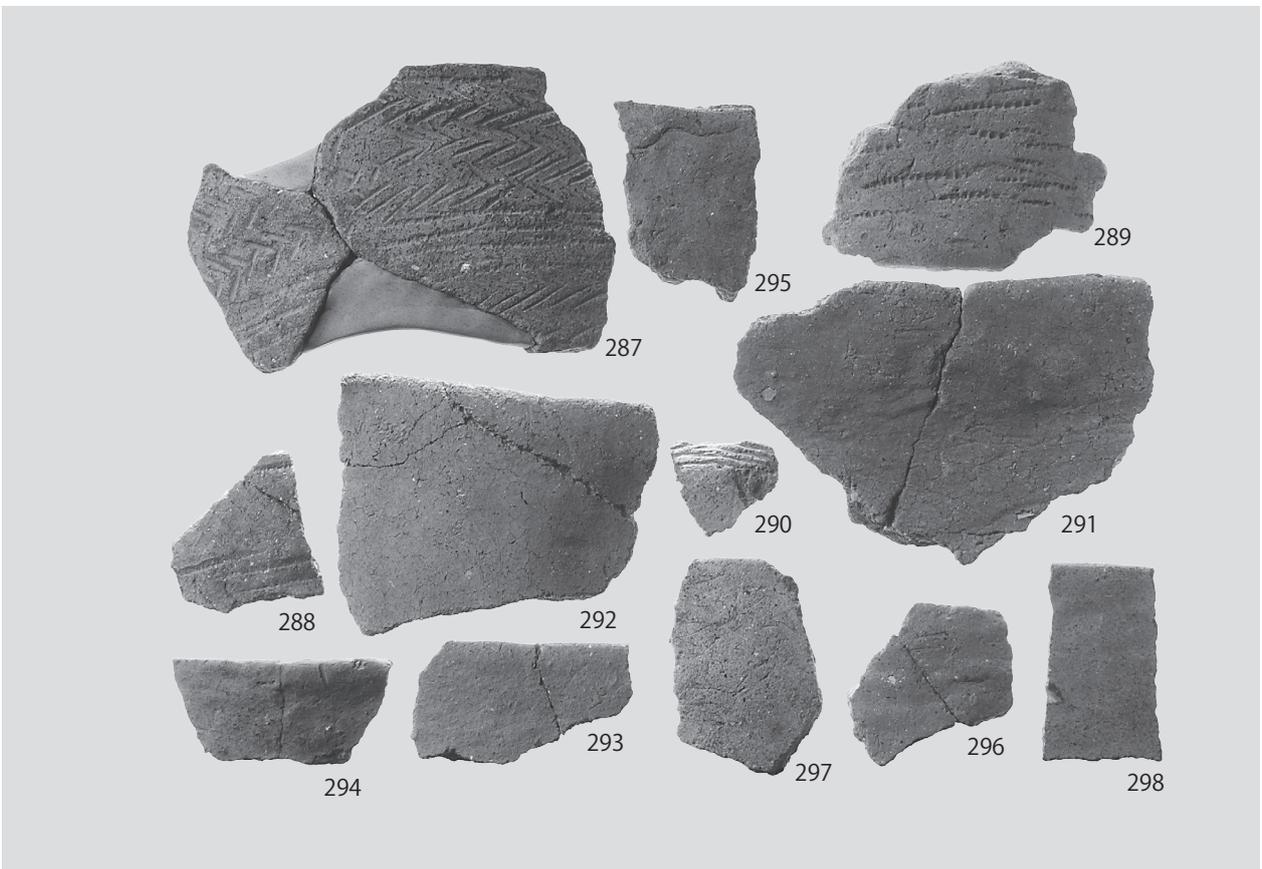
縄文時代早期土器(19)



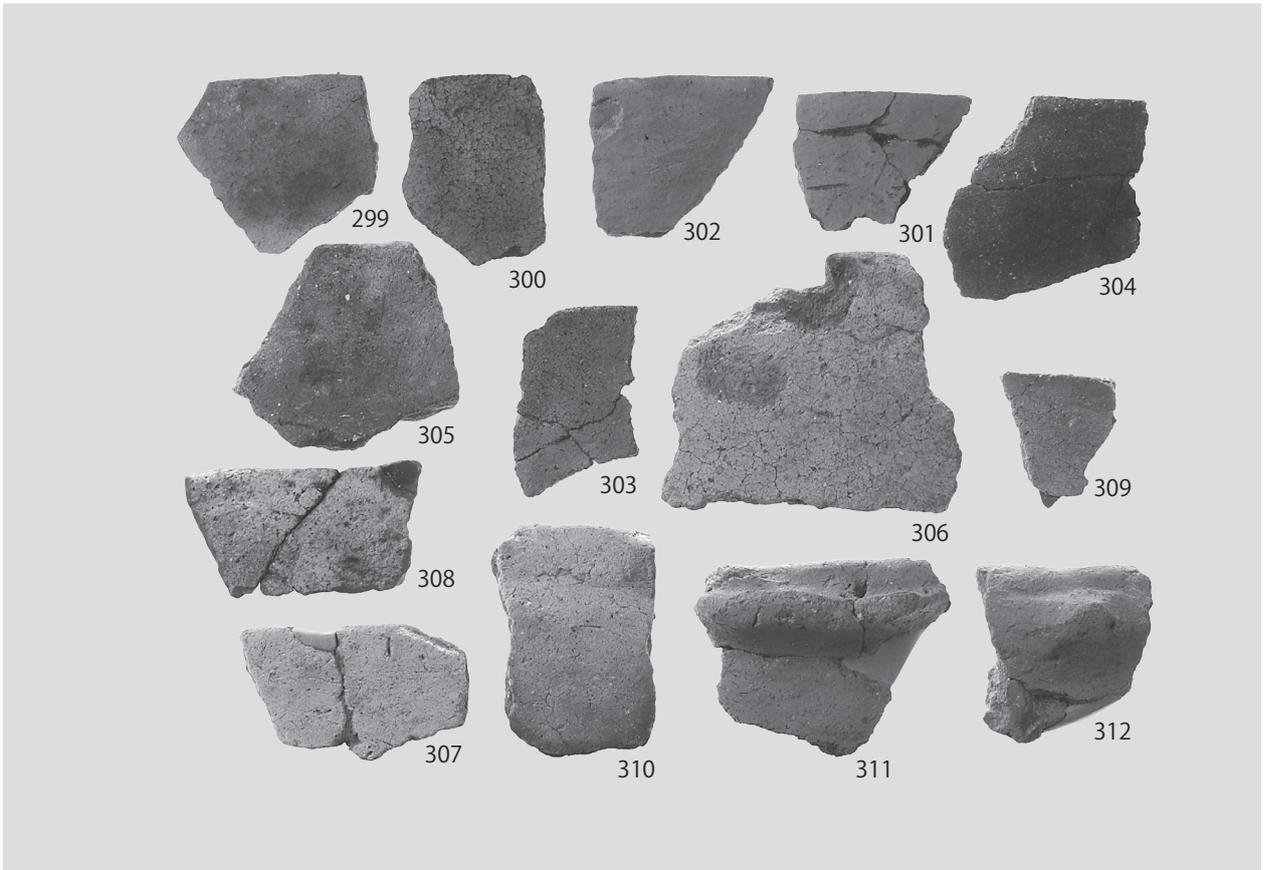
縄文時代早期土器(20)



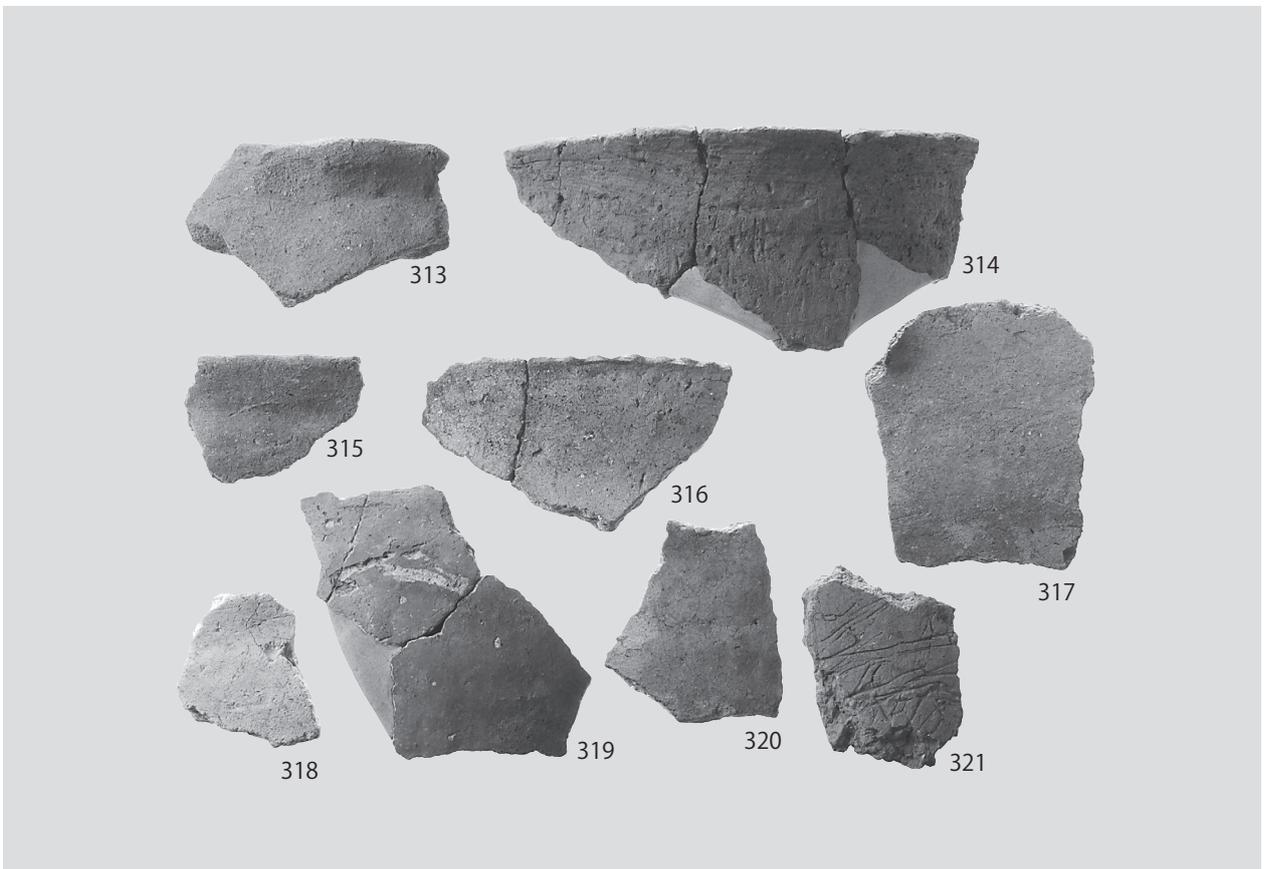
縄文時代早期土器(21)



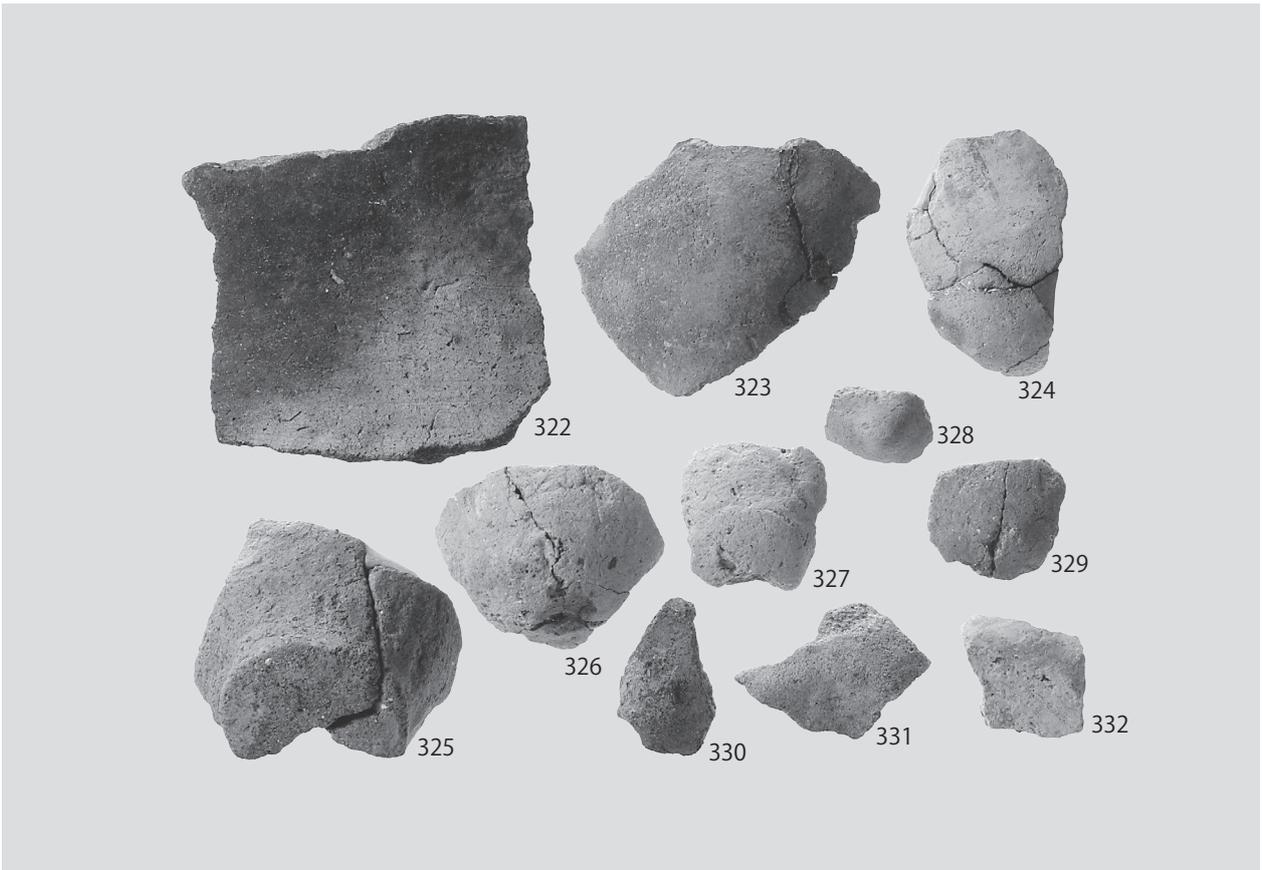
縄文時代早期土器(22)



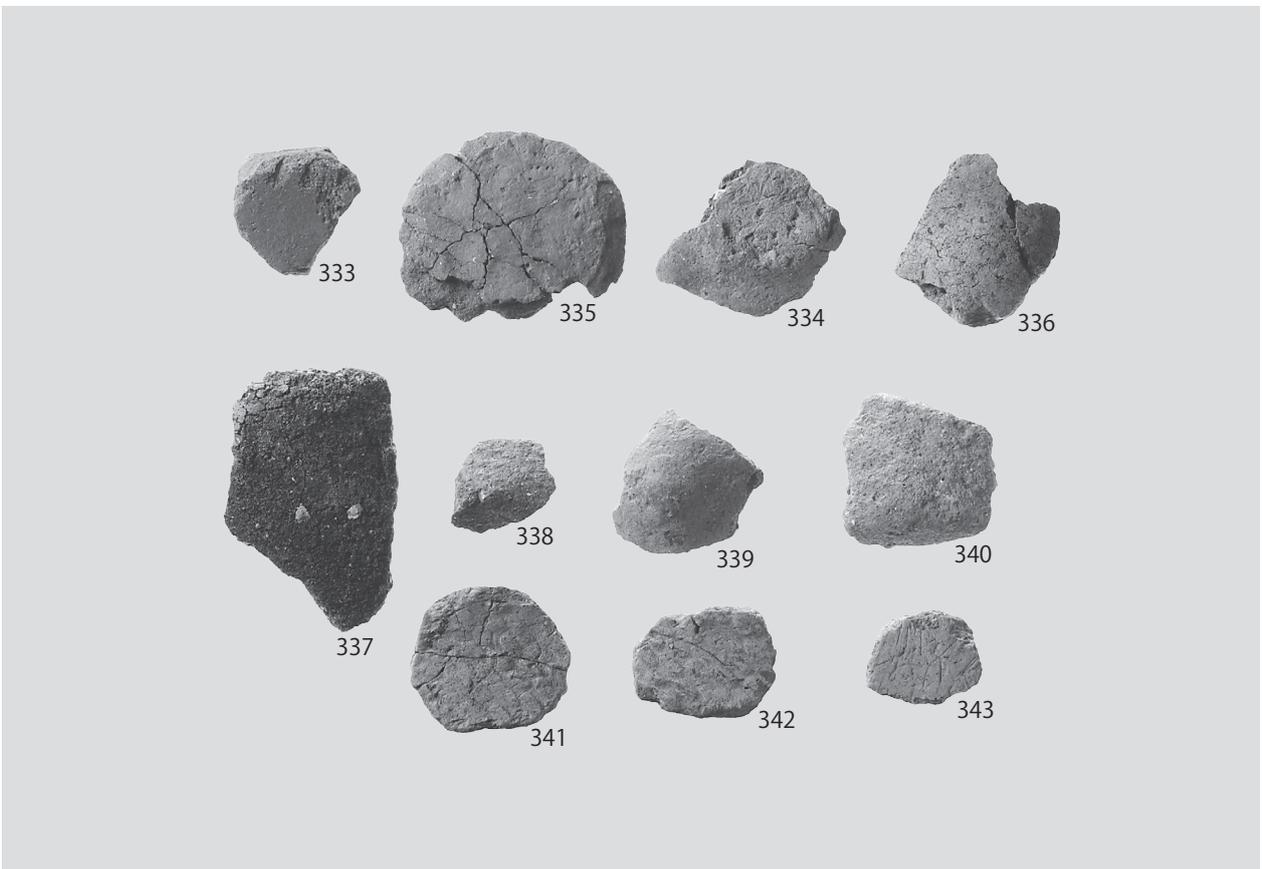
縄文時代早期土器(23)



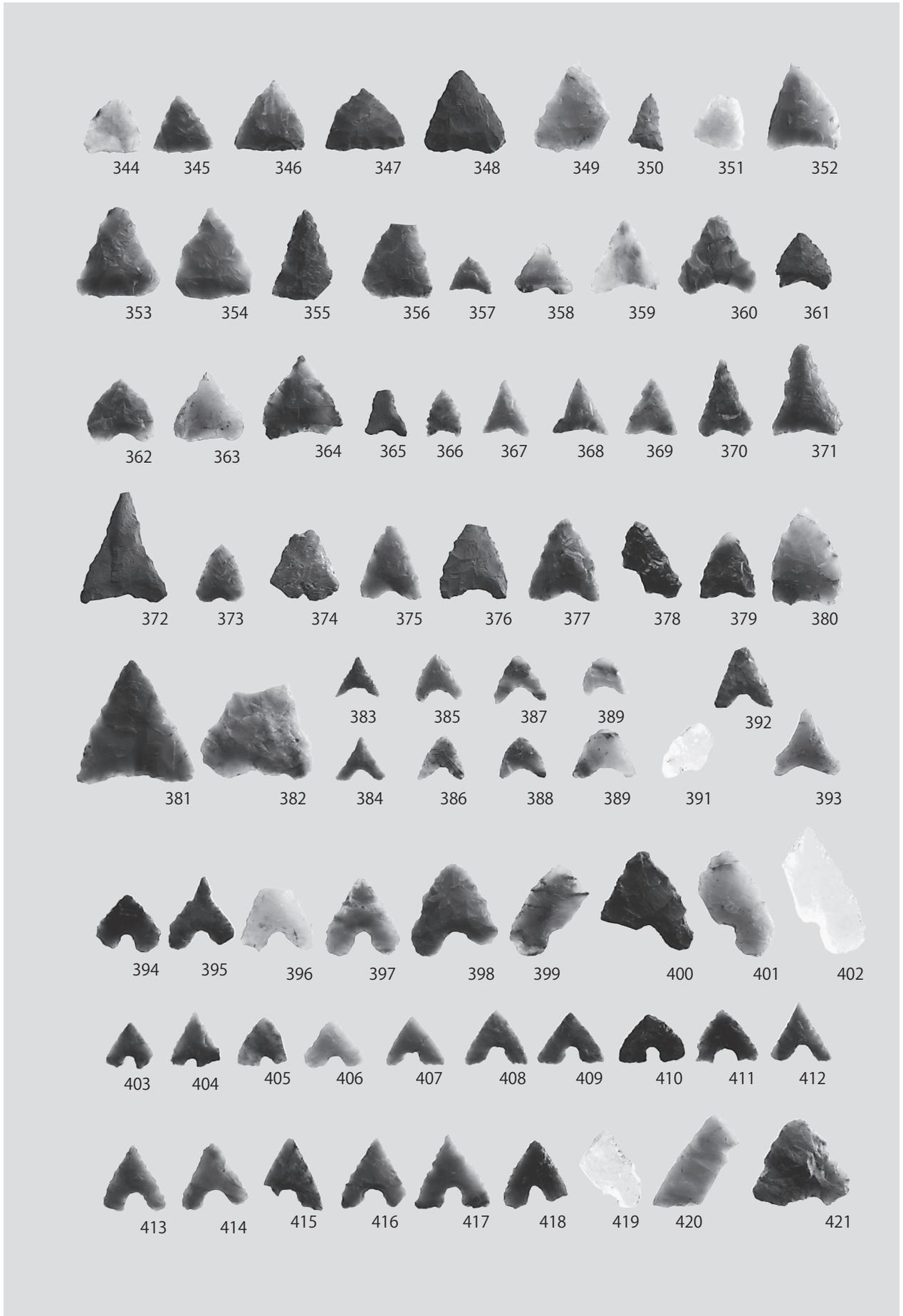
縄文時代早期土器(24)



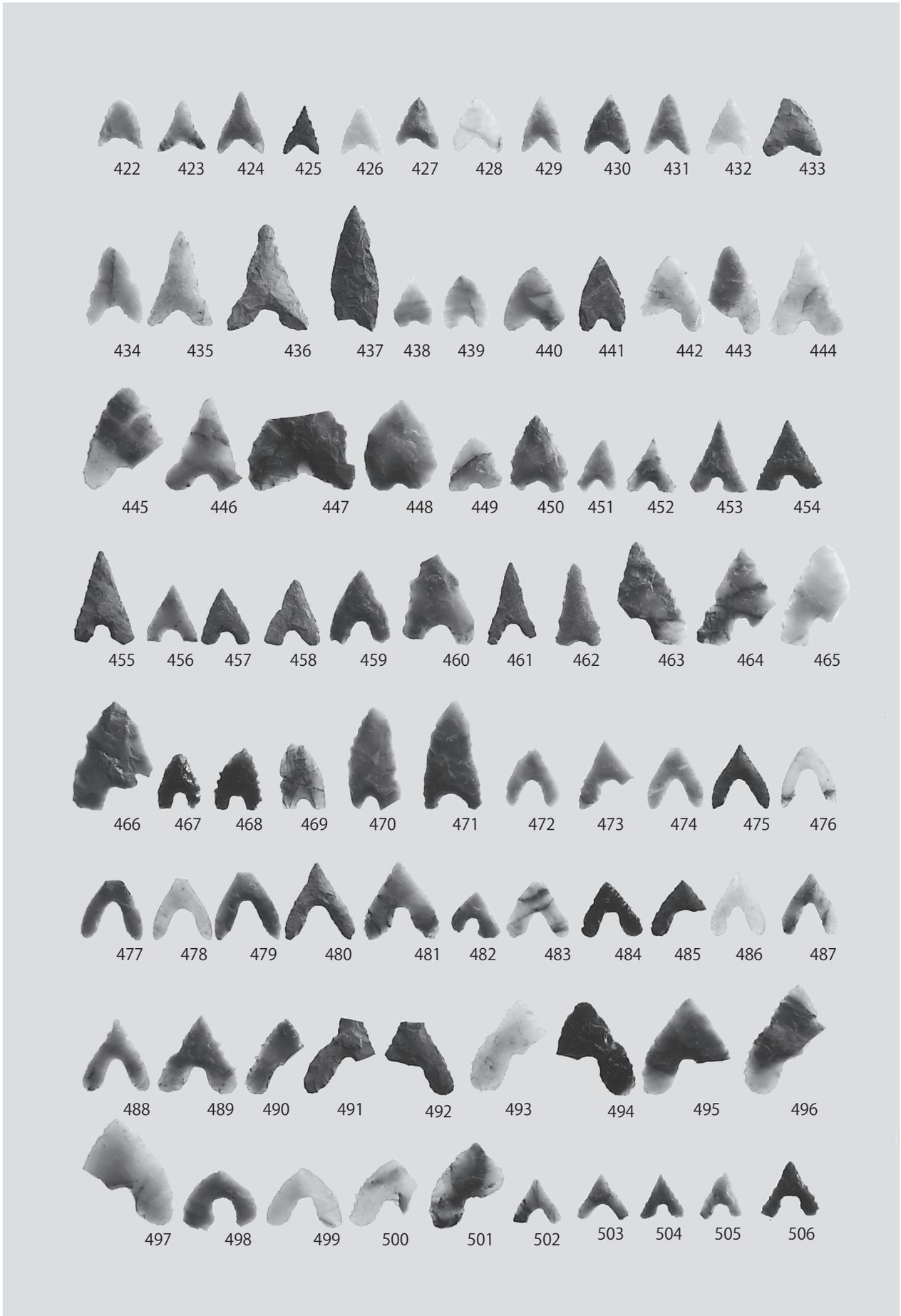
縄文時代早期土器(25)



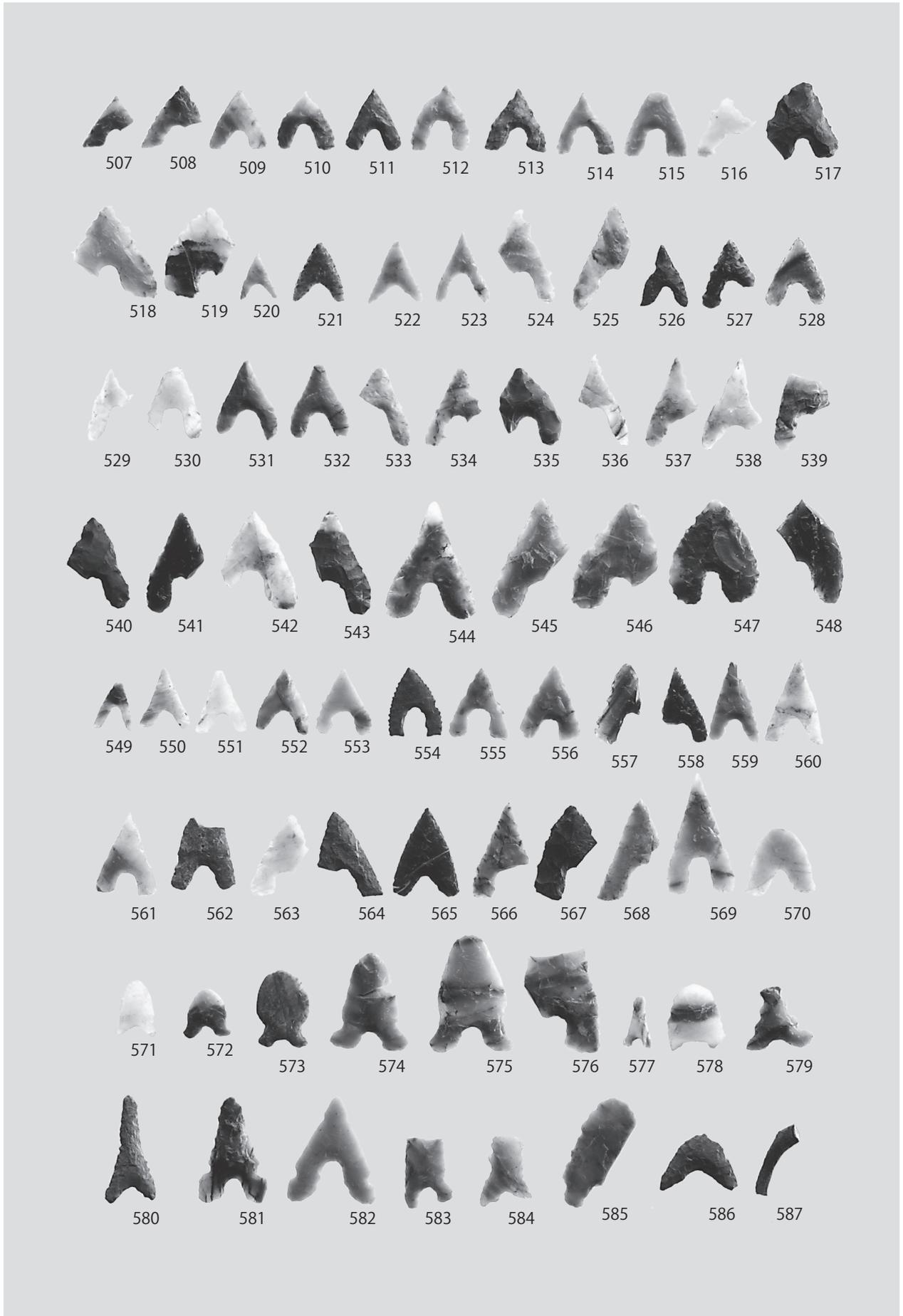
縄文時代早期土器(26)



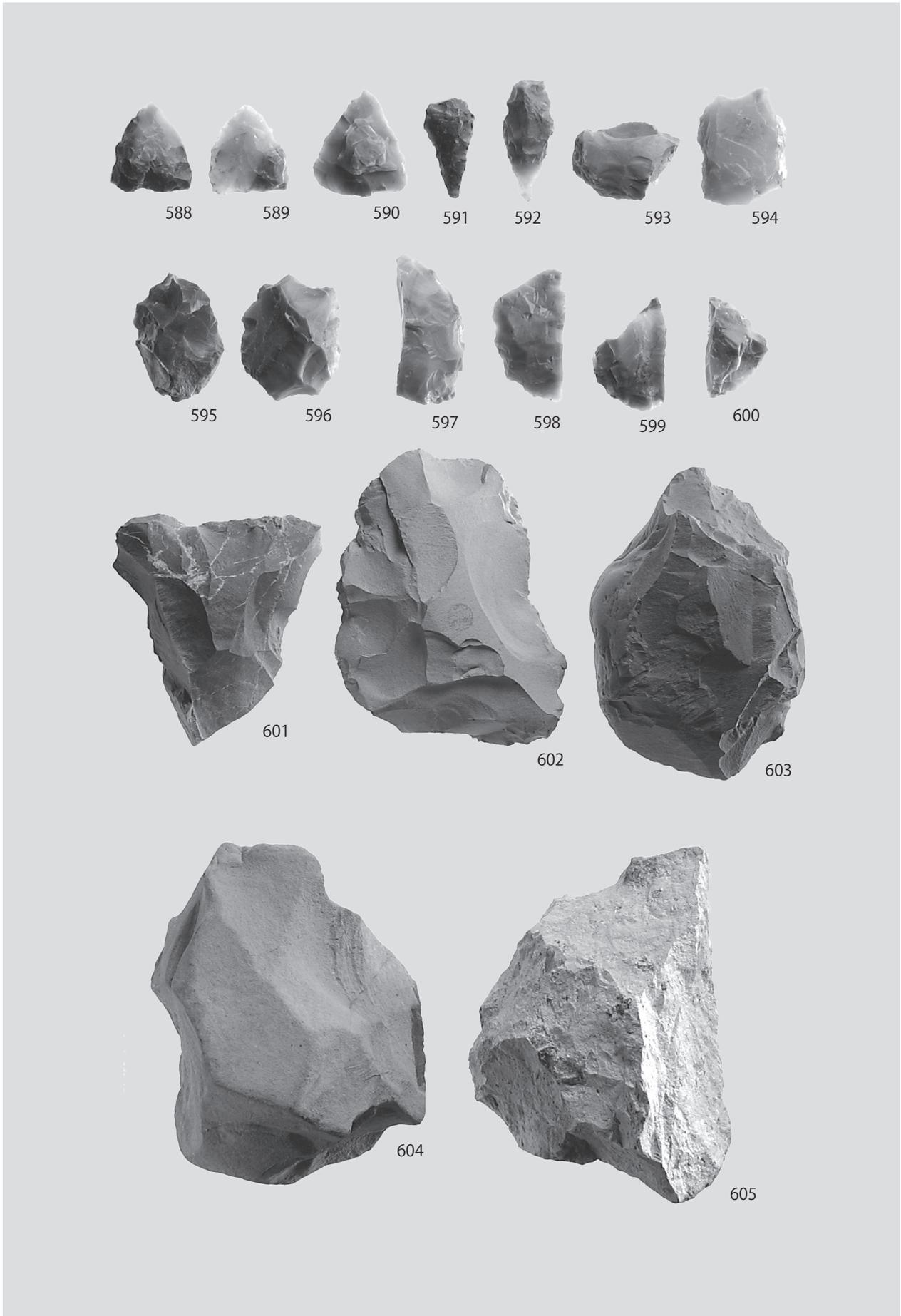
石鏃(1)



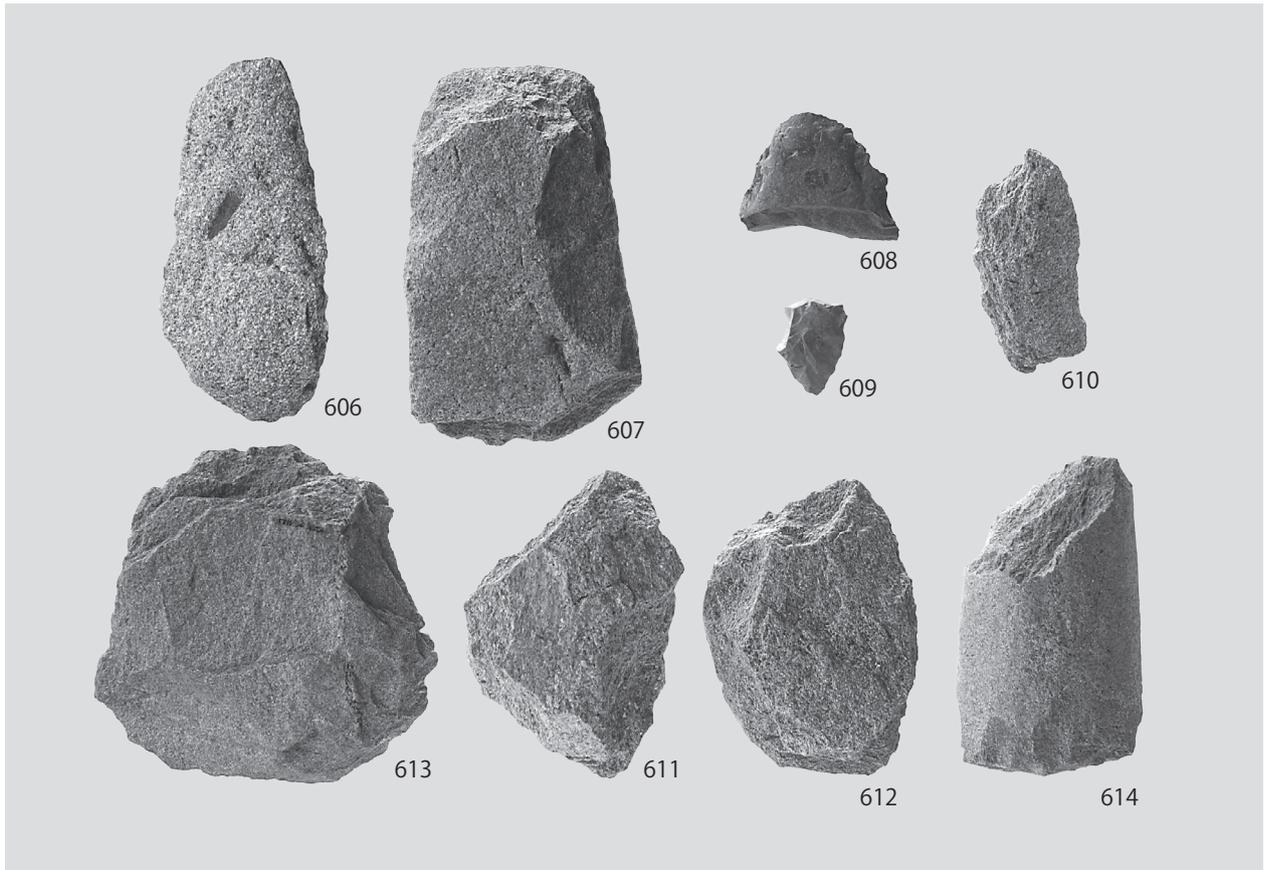
石鏃(2)



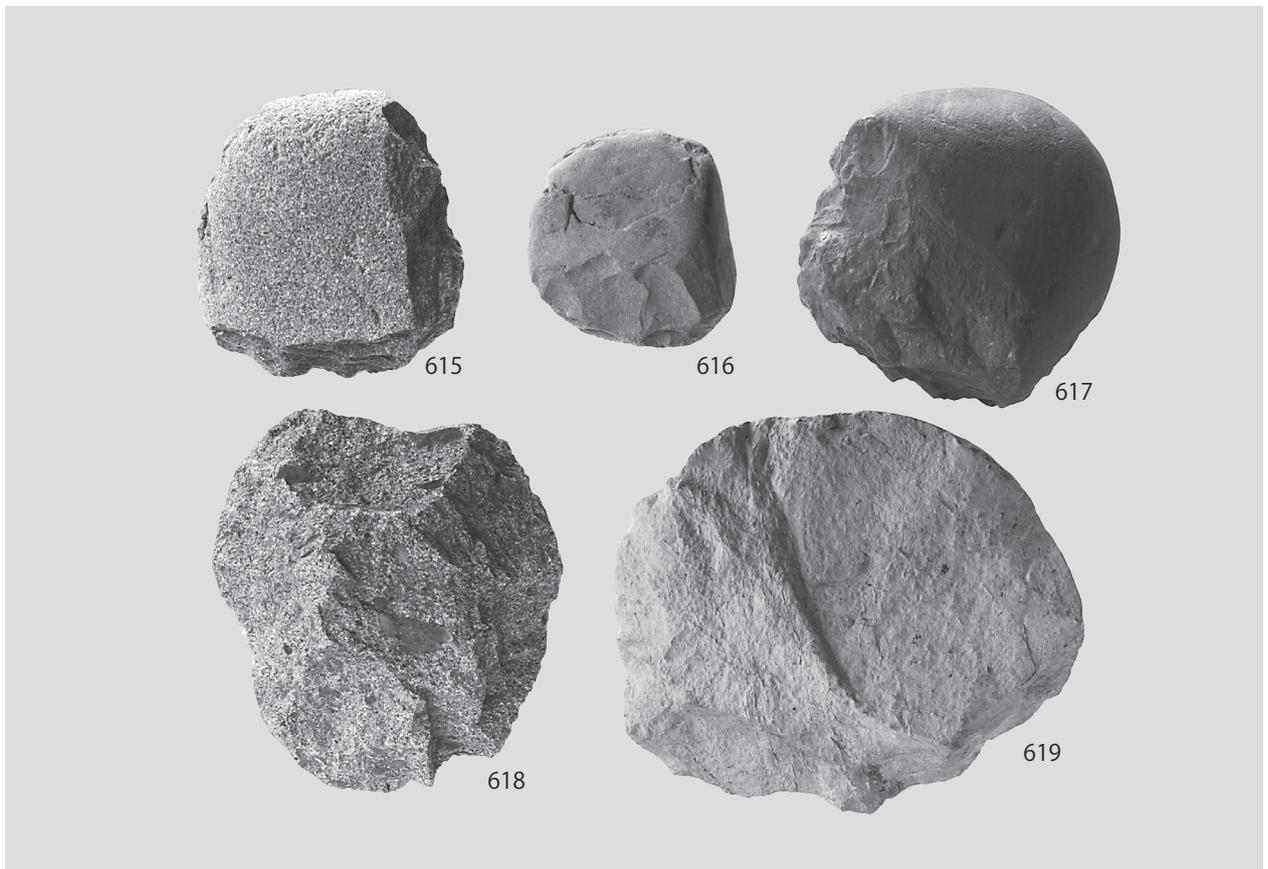
石鏃(3)・異形石器



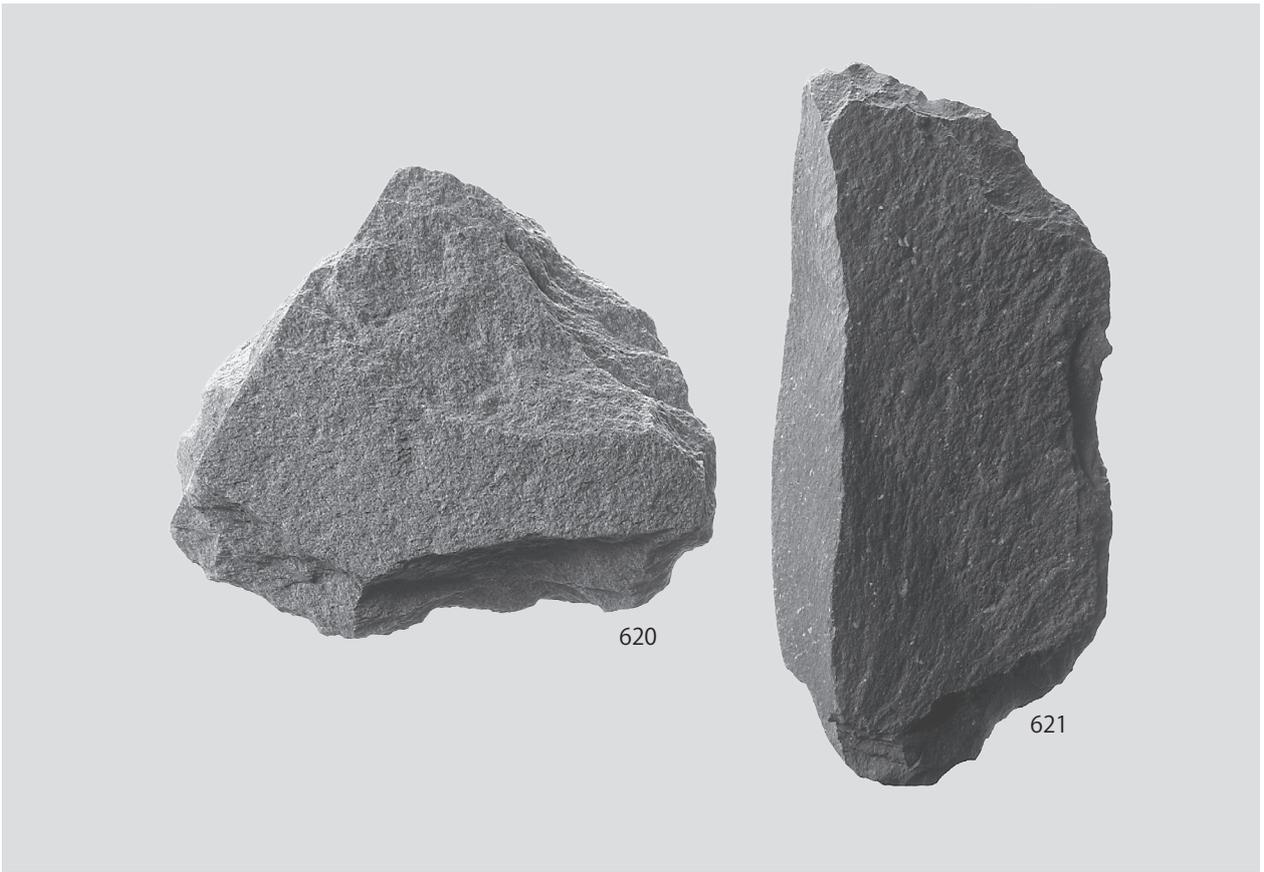
尖頭状石器・石錐・楔形石器・石核(1)



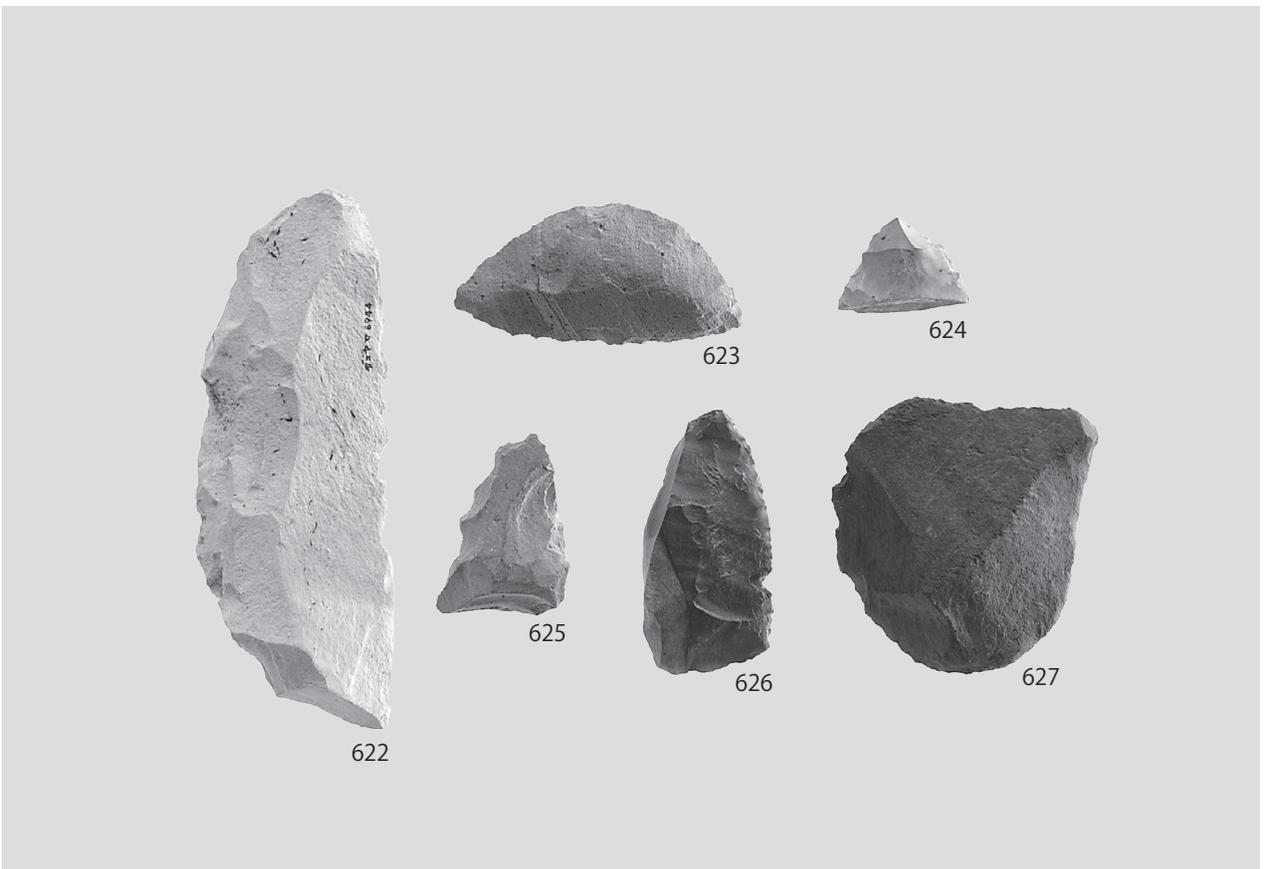
打製石斧・スクレイパー・礫器(1)



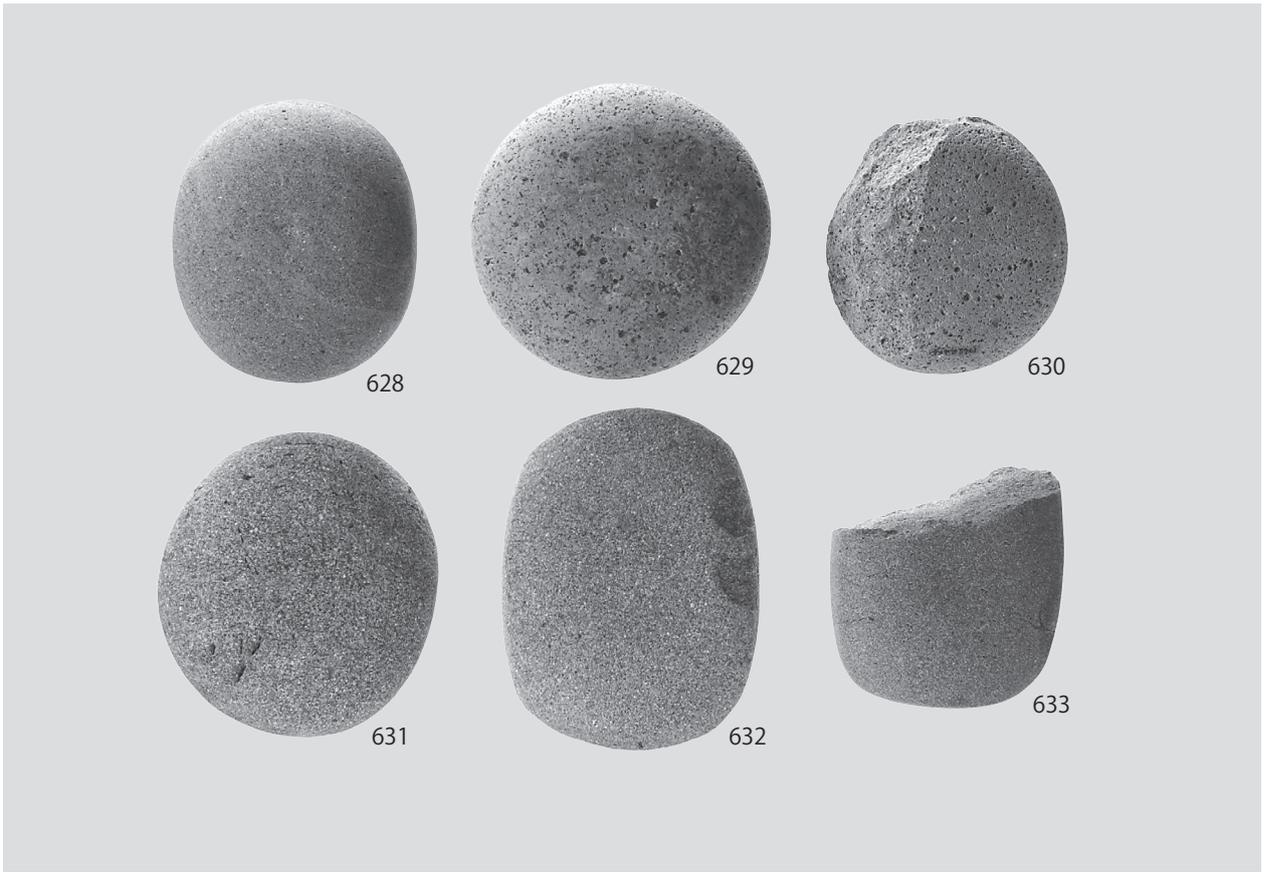
礫器(2)



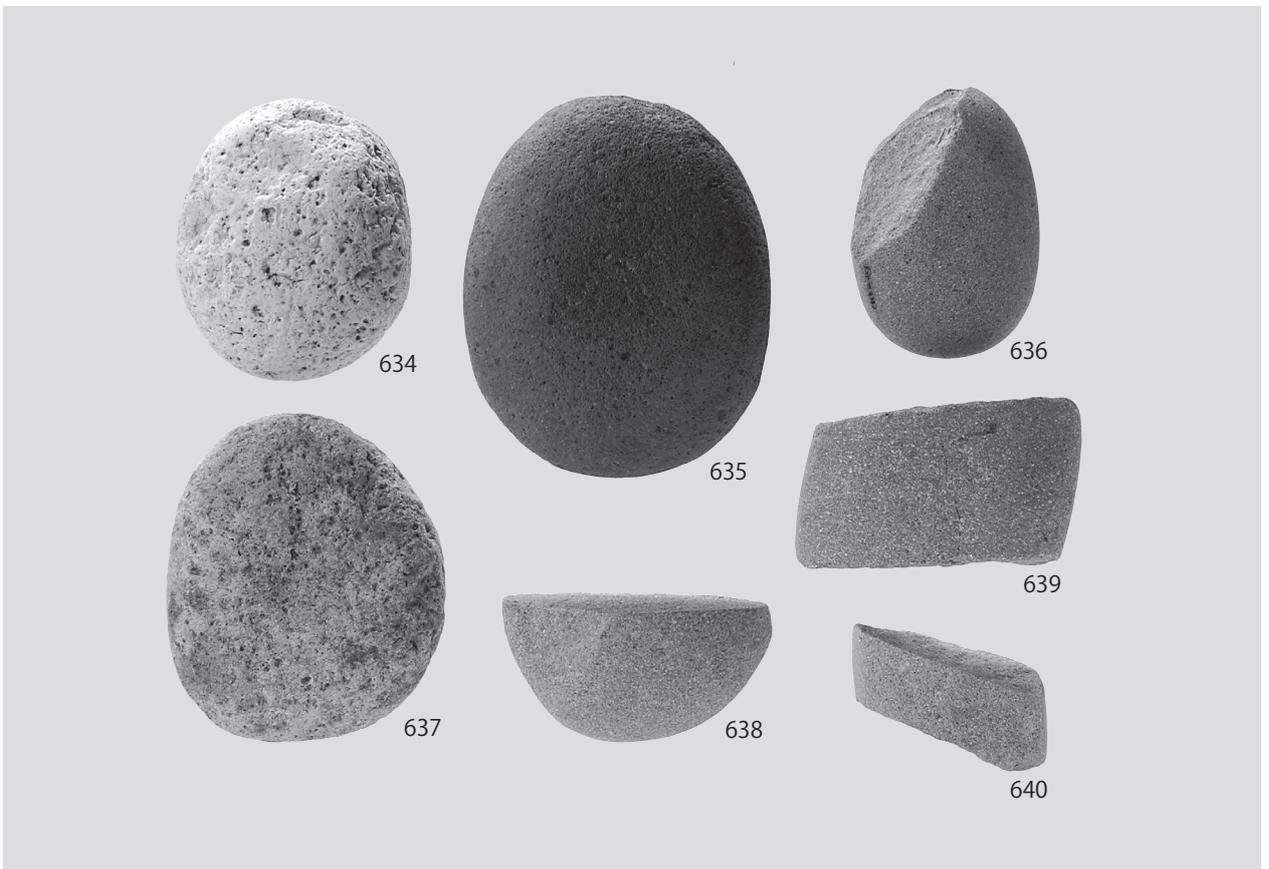
礫器(3)



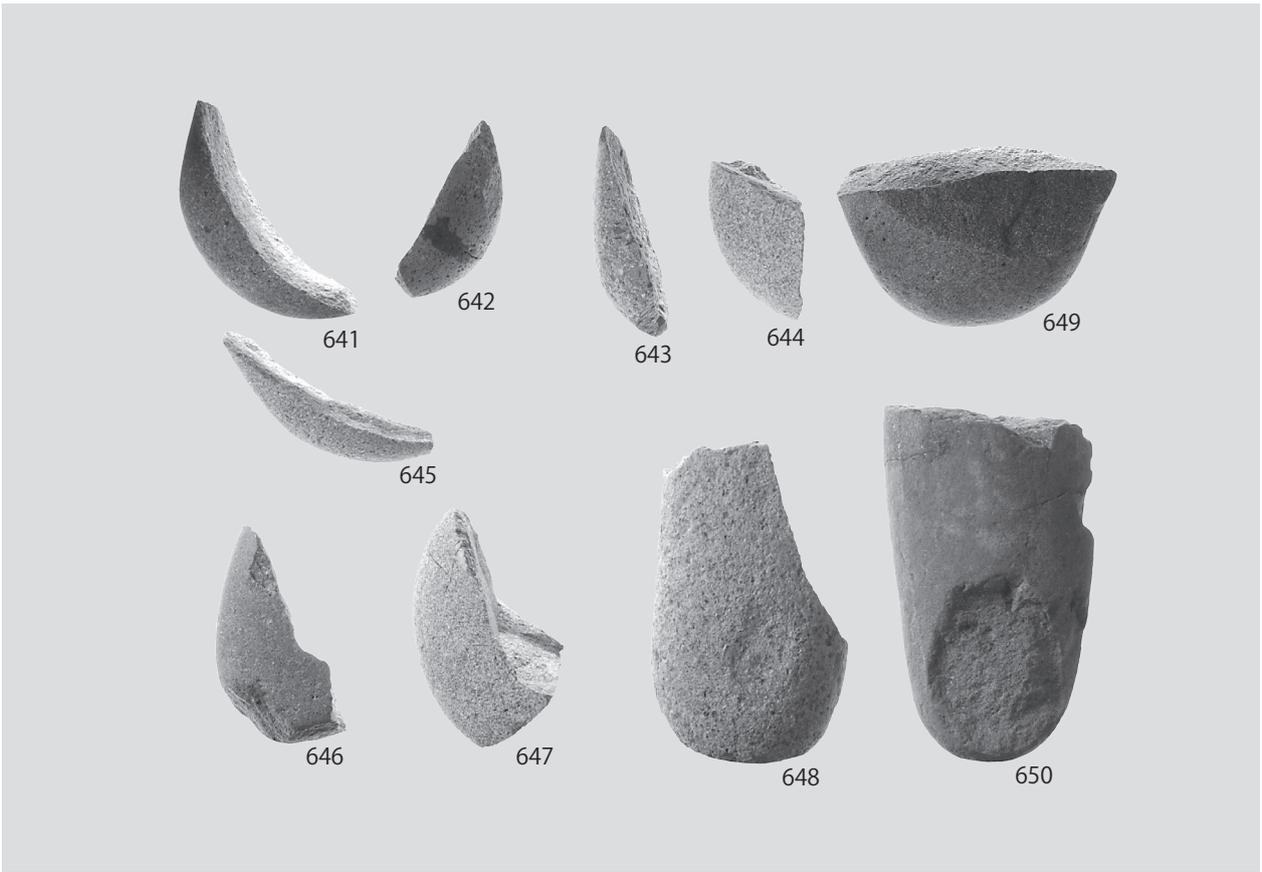
横刃形石器・半月形刃器・両面加工剥片・二次加工剥片



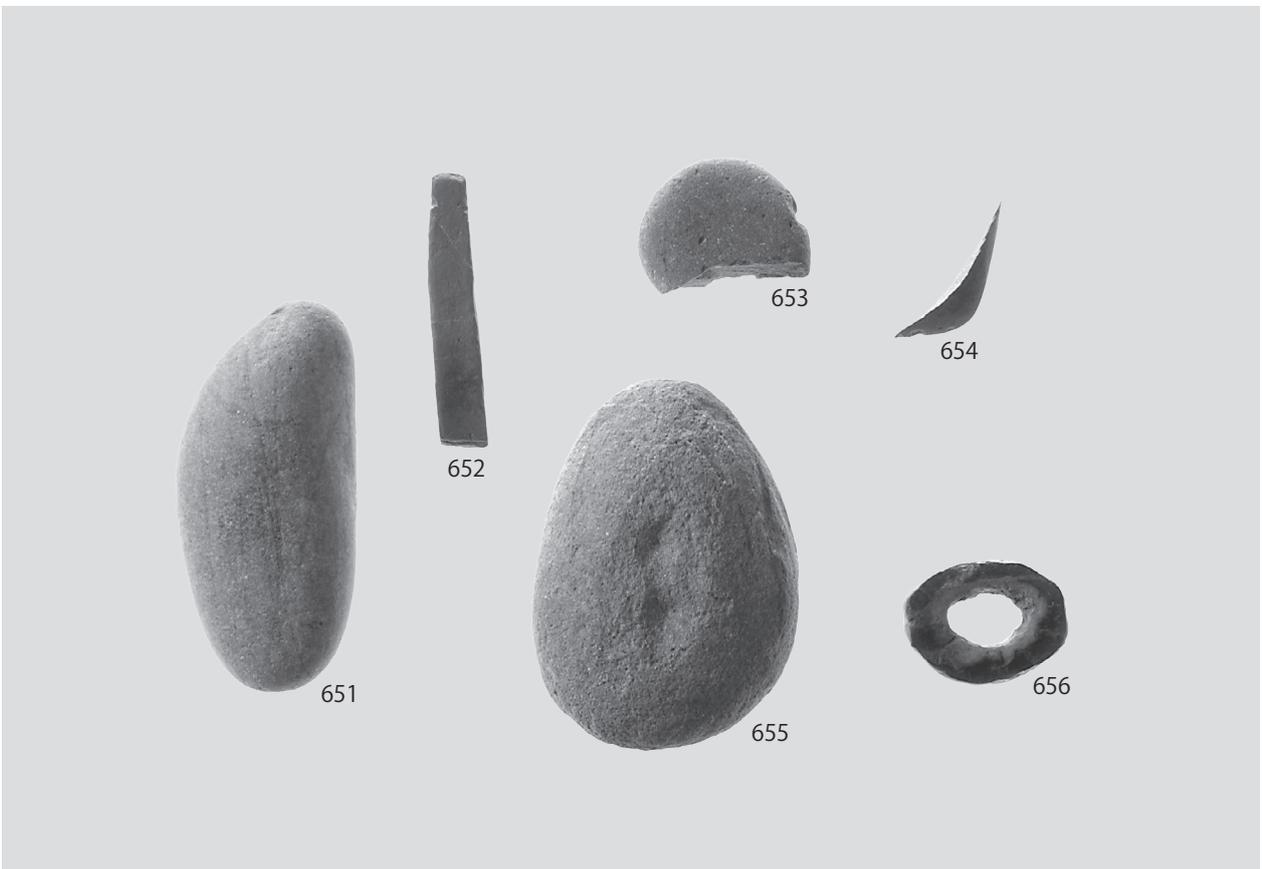
磨石(1)



磨石(2)



磨石(3)・敲石



石棒・石錘・磨製石斧・凹石・有孔石製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	だごやいせき							
書名	駄小屋遺跡							
副書名	一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)							
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第 233 集							
編著者名	野崎 一人							
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 880 - 0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985 - 36 - 1172							
発行年月日	2014 年 8 月 29 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だごやいせき 駄小屋遺跡	延岡市北方町 蔵田辰	45203	0030	32 度 35 分 5 秒 付近	131 度 30 分 50 秒 付近	20120510 ～ 20121219	4,500m ²	記録保存調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落	旧石器時代			ナイフ形石器				
	縄文時代早期	竪穴建物跡 2 軒 平地式建物跡 1 軒 集石遺構 76 基 炉穴 18 基 土坑 47 基		縄文土器、石鏃、石斧、 異形石器、石錐、磨石、 敲石等	縄文時代早期の竪穴建物跡、平 地式建物跡を検出 石鏃 7 0 2 点出土			
要約	駄小屋遺跡は、五ヶ瀬川中流域左岸の北東から南西に伸びる丘陵上に位置する。阿蘇 4 火砕 流堆積物が基盤であり標高約 110 m である。縄文時代早期を中心に住居跡や多数の集石遺構、 炉穴などの遺構が検出され、押型文系土器、貝殻文系・条痕文系土器や石鏃、石斧、石錐、敲石、 磨石、異形石器などの遺物が出土した。							

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第 233 集

駄小屋遺跡

一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)

2014 年 8 月

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地

TEL 0985(36)1172 FAX 0985(72)0660

印 刷 K・P クリエイションズ株式会社

〒 880-0803 宮崎市旭 1 丁目 6 - 25

TEL 0985(24)4155 FAX 0985(24)1512
